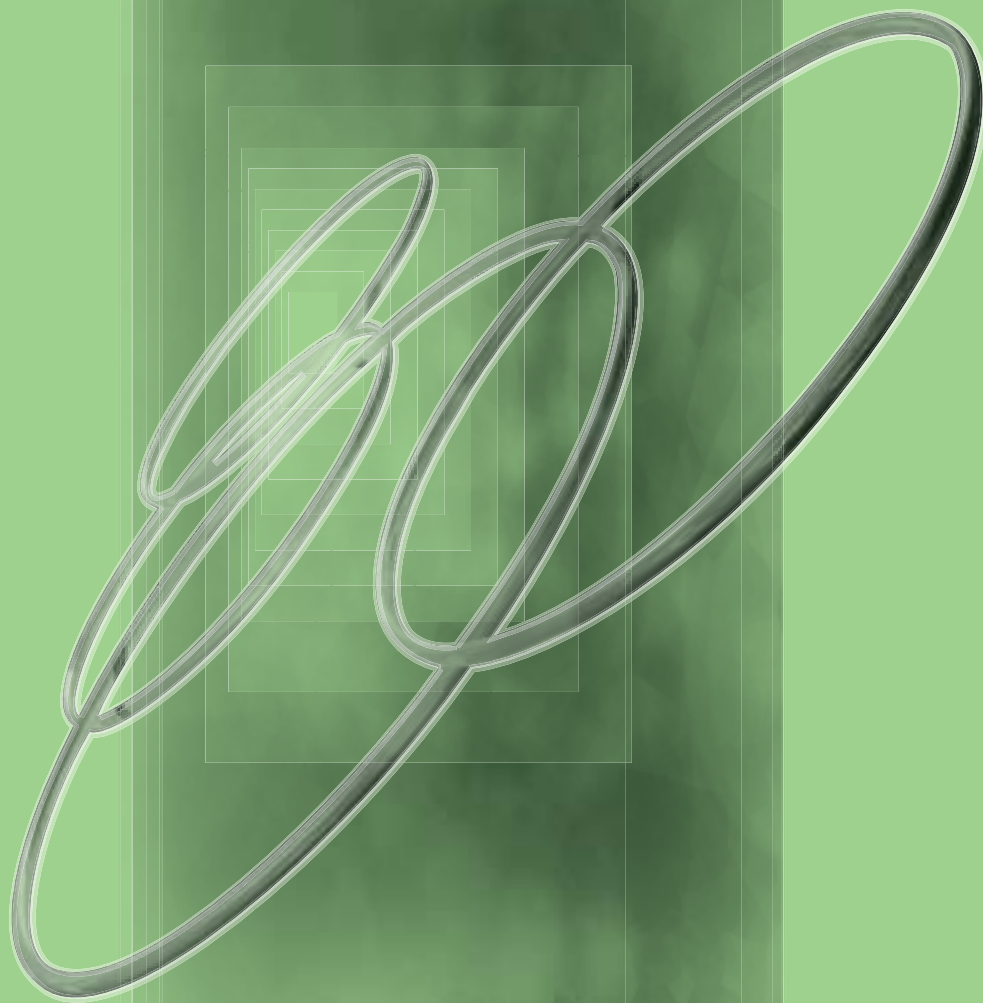


2007年度

シラバス

英語学科



英語学科 シラバス

【総合目次一覧】

◆ 【2006・2007年度】入学生用

授業科目表	Ⅰ－1～2
英語学科科目特性表	Ⅰ－3～4
授業科目表の見方	Ⅰ－5
授業科目目次	Ⅰ－6～14
外国語学部共通科目	…P.225以降に掲載

◆ 【2003～2005年度】入学生用

授業科目表	Ⅱ－1～2
英語学科科目特性表	Ⅱ－3～4
授業科目表の見方	Ⅱ－5
授業科目目次	Ⅱ－6～14
外国語学部共通科目	…P.225以降に掲載

◆ 【2002年度】入学生用

学則別表	Ⅲ－1
授業科目目次	Ⅲ－2～8
外国語学部共通科目	…全学共通授業科目のシラバスに掲載

◆ 【2001年度以前】入学生用

学則別表	Ⅳ－1
授業科目目次	Ⅳ－2～7
外国語学部共通科目	…全学共通授業科目のシラバスに掲載

◆ 外国語学部共通科目 ◆

【2003年度以降】入学生用…本冊子P. 225以降に掲載

【2002年度以前】入学生用…全学共通授業科目(全カリ)のシラバスに掲載

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

本シラバスは、2006年度～2007年度入学生・2003年度～2005年度入学生用の「英語学科」授業科目及び「外国語学部共通科目」と、2002年度入学生・2001年度以前入学生用の「英語学科」授業科目のシラバスです。各自の入学年度に従い、以下の点に注意し目次を確認してください。

*履修不可学科の表記

外：外国語学部	経：経済学部	法：法学部	養：国際教養学部
独：ドイツ語学科	済：経済学科	律：法律学科	
英：英語学科	営：経営学科	国：国際関係法学科	
仏：フランス語学科			
言：(外国語学部)言語文化学科			
言(*1):言語文化学科、スペイン語履修者			
言(*2):言語文化学科、中国語履修者			
全：英語学科以外すべての学科			

①適用年度	② 科目名	③ 担当者
④ 講義目的、講義概要	⑤ 授業計画	
⑥ テキスト、参考文献	⑦ 評価方法	

【春学期】

- *上段は、春学期科目です。
- ①②2006年度以降入学生用カリキュラムの科目名は上段、2003～2005年度入学生用カリキュラムの科目名は下段に表記しています。2002年度以前の入学生は、科目名が異なりますので、各自の目次で確認してください。
 - ③ 担当教員氏名
 - ④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。
 - ⑤ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとに講義するテーマが記載してあります。
 - ⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。
 - ⑦ 春学期完結科目は春学期終了時に成績評価が出ます。秋学期完結科目と通年科目は秋学期終了時に成績評価が出ます。

①適用年度	② 科目名	③ 担当者
④ 講義目的、講義概要	⑤ 授業計画	
⑥ テキスト、参考文献	⑦ 評価方法	

【秋学期】

*下段は、秋学期科目です。
各項目については、春学期と同一です。

- [注意]
- 1.定員
科目の中には定員制のものがあります。それぞれ適用年度の「授業時間割表」を参照してください。

英語学科授業科目表（2006年度以降入学者用）

【学科基礎科目】

科目群	部門	科目	単位	Aグループ		Bグループ		Cグループ	
				必修	選択	必修	選択	必修	選択
学科基礎科目	英語	英語学入門	2	2		2		2	
		英語圏の文学・文化入門	2	2		2		2	
		文化コミュニケーション入門	2	2		2		2	
		国際コミュニケーション入門	2	2		2		2	
		英語音声学	2	2		2		2	
		Lecture Workshop I	2	2		2		2	
		Lecture Workshop II	2	2		2		2	
		Comprehensive English I	2	2		2		2	
		Comprehensive English II	2	2		2		2	
		Comprehensive English III	1	1		1		1	
		Comprehensive English IV	1	1		1		1	
		Reading Strategies I	1	1		1		1	
		Reading Strategies II	1	1		1		1	
		Reading Strategies III	1	1		1		1	
		Reading Strategies IV	1	1		1		1	
		Writing Strategies	1					1	
		Paragraph Writing	1	1		1		1	
		Basic Essay Writing	1	1		1			*
		E-learning I	1	1		1		1	
		E-learning II	1	1		1		1	
Pronunciation Practice	1					1			
Introductory Grammar	1					1			
卒業に必要な単位数				28		28		30	*
				28		28		30	

備考

- (1) * の修得単位は、別表 I -2-2 の各コース選択科目に算入する。
 (2) A、B、C の各グループは、習熟度によりレベル分けをする。
 ○ 本表は、2006年度入学者から適用する。

英語学科授業科目表 (2006年度以降入学者用)

【学科共通科目・学科専門科目】

科目群	部門	科目	単位	言語コミュニケーション・コース			文学コミュニケーション・コース			異文化コミュニケーション・コース			国際コミュニケーション・コース			
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
学科共通科目	英語	英語専門講読 I	2	12			12			12			12			
		英語専門講読 II	2													
		Academic Writing	2													
		翻訳	2		4			4			4			4		
		College Grammar	2													
		Communicative English Discussion	2													
		Public Speaking I	2													
		Public Speaking II	2													
		Debate I	2													
		Debate II	2													
		通訳 I	2		4			4			4			4		
		通訳 II	2													
		英語ビジネス・コミュニケーション	2													
		英語ビジネス・コミュニケーション実務	2													
		メディア英語 I	2													
		メディア英語 II	2													
		シネマ英語	2													
		学科専門科目	言語コミュニケーション	英語学の世界	2	2										
				言語情報処理 I a	2											
				言語情報処理 I b	2											
言語情報処理 II a	2				4											
言語情報処理 II b	2															
英語発音教授法	2															
音声・音韻論a	2															
音声・音韻論b	2															
シンタクスa	2															
シンタクスb	2															
意味論a	2															
意味論b	2															
英語学特殊講義a	2															
英語学特殊講義b	2															
英語学文献研究a	2															
英語学文献研究b	2															
文学コミュニケーション	英語圏の文学・文化		2				2									
	英語圏の小説a		2													
	英語圏の小説b		2													
	英語圏の詩a		2													
	英語圏の詩b	2														
	英語圏の演劇a	2			18				20				20			
	英語圏の演劇b	2		(16)				18				(16)				
	英語圏の社会と思想a	2														
	英語圏の社会と思想b	2														
	英語圏の歴史a	2														
英語圏の歴史b	2															
英語圏のエリア・スタディーズa	2															
英語圏のエリア・スタディーズb	2															
英語圏の文学・文化特殊講義a	2															
英語圏の文学・文化特殊講義b	2															
英語圏の文学・文化文献研究a	2															
英語圏の文学・文化文献研究b	2															
異文化コミュニケーション	異文化間コミュニケーション論a	2							2			2				
	異文化間コミュニケーション論b	2							2			2				
	メディア・コミュニケーション論a	2														
	メディア・コミュニケーション論b	2														
	スピーチ・コミュニケーション論a	2														
	スピーチ・コミュニケーション論b	2														
	コミュニケーション論特殊講義a	2								8			4			
	コミュニケーション論特殊講義b	2														
	コミュニケーション論文献研究a	2														
	コミュニケーション論文献研究b	2														
国際コミュニケーション	グローバル社会論a	2							2			2				
	グローバル社会論b	2							2			2				
	英語圏の国際関係a	2														
	英語圏の国際関係b	2														
	国際開発論	2														
	国際協力論	2														
	国際交流論	2														
	国際ツーリズム論	2														
	国際NGO・ボランティア論	2														
	国際関係特殊講義a	2														
国際関係特殊講義b	2															
国際関係文献研究a	2															
国際関係文献研究b	2															
特別セミナー		2														
卒業論文		4														
外国語学部共通科目(別表 I-5)																
全学共通授業科目	全学総合科目	カテゴリー I		4			4			4			4			
		カテゴリー II			8			8			8			8		
		カテゴリー III			4			4			4			4		
		カテゴリー IV			4			4			4			4		
		カテゴリー V			4			4			4			4		
		英語以外の外国語科目*			8			8			8			8		
古典語科目																
演習		2	8			8			8			8				
卒業に必要な単位数				26	52	22(20)	26	52	22(20)	32	44	24(22)	32	44	24(22)	
				100(98)			100(98)			100(98)			100(98)			
卒業に必要な単位数の合計				128			128			128			128			

備考

(1) 卒業に必要な選択科目のうち16単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。

なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。

(2)*英語以外の外国語は、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語のうちいずれか一カ国語とし、1学年(1,2学期)に4単位、2学年(3,4学期)に4単位を履修するものとする。

(3)各コース選択科目の()内の数字は、「別表 I-2-1学科基礎科目」でCグループの場合の卒業要件単位数である。

○ 本表は、2006年度入学者から適用する。

英語学科科目特性表 (2006年度以降入学生用)

科目群	部門	科目名	単位	学期配当								受講制限	既修条件	重複履修				
				1	2	3	4	5	6	7	8							
英語	学科基礎科目	英語学入門	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×		
		英語圏の文学・文化入門	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		文化コミュニケーション入門	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		国際コミュニケーション入門	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		英語音声学	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		Lecture Workshops I	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		Lecture Workshops II	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		Comprehensive English I (Honors)	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	Aグループ	×	
		Comprehensive English II (Honors)	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	Aグループ	×	
		Comprehensive English I	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	B/Cグループ	×	
		Comprehensive English II	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	B/Cグループ	×	
		Comprehensive English III (Honors)	1		●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		Comprehensive English IV (Honors)	1			●	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		Comprehensive English III	1			●	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		Comprehensive English IV	1			●	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		Reading Strategies I (Honors)	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	Aグループ	×	
		Reading Strategies II (Honors)	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	Aグループ	×	
		Reading Strategies I	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	B/Cグループ	×	
		Reading Strategies II	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	B/Cグループ	×	
		Reading Strategies III (Honors)	1		●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		Reading Strategies IV (Honors)	1			●	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		Reading Strategies III	1			●	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		Reading Strategies IV	1			●	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		Writing Strategies [*]	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		Paragraph Writing [*]	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	2単位履修	×	
		Basic Essay Writing [*]	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		E-learning I	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		E-learning II	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		Pronunciation Practice	1	●											クラス指定		×	
		Introductory Grammar	1	●											クラス指定	Cグループ必修	×	
		英語	学科共通科目	英語専門講読 I	2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Comprehensive English I・II および Reading Strategies I・II	○
英語専門講読 II	2					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
Academic Writing	2					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Basic Essay Writing または中級レベル	○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
翻訳	2					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	中級レベル	○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
College Grammar	2					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Comprehensive English I・II および Reading Strategies I・II	○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
Communicative English	2					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Comprehensive English I・II および Reading Strategies I・II	○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
Discussion	2					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	中級レベル	○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
Public Speaking I	2					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	中級レベル	○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
Public Speaking II	2					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Public Speaking I	○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
Debate I	2					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	中級レベル	○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
Debate II	2					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Debate I	○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
通訳 I	2					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	中級レベル	○	同一学期内同一教員不可
通訳 II	2					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	通訳Iまたは上級レベル	○	同一学期内同一教員不可
英語ビジネス・コミュニケーション	2					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Comprehensive English I・II および Reading Strategies I・II	○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
英語ビジネス・コミュニケーション実務	2							○	○	○	○	○	○	○	○	英語ビジネス・コミュニケーションを既修または並行履修	○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
メディア英語 I	2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Comprehensive English I・II および Reading Strategies I・II	○	同一教員の場合は教員の許可を得ること		
メディア英語 II	2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	中級レベル	○	同一教員の場合は教員の許可を得ること		
シネマ英語	2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	中級レベル	○	同一教員の場合は教員の許可を得ること		

科目群	部門	科目名	単位	学期配当								受講制限	既修条件	重複履修		
				1	2	3	4	5	6	7	8					
言語コミュニケーション	英語学の世界	2			○	○	○	○	○	○				×		
	言語情報処理 I a	2			○		○		○			○		×		
	言語情報処理 I b	2			○		○		○			○		×		
	言語情報処理 II a	2			○		○		○			○		×		
	言語情報処理 II b	2			○		○		○			○		×		
	英語発音教授法	2			○	○	○	○	○	○		○		×		
	音声・音韻論 a	2			○		○		○					×		
	音声・音韻論 b	2			○		○		○					×		
	シNTAX a	2			○		○		○					×		
	シNTAX b	2			○		○		○					×		
	意味論 a	2			○		○		○					×		
	意味論 b	2			○		○		○					×		
	英語学特殊講義 a	2			○		○		○					○	同一教員の場合は教員の許可を得ること	
	英語学特殊講義 b	2			○		○		○					○	同一教員の場合は教員の許可を得ること	
	英語学文献研究 a	2							○		○			○		
	英語学文献研究 b	2							○		○			○		
	文学コミュニケーション	英語圏の文学・文化	2			○	○	○	○	○	○				×	
		英語圏の小説 a	2			○		○		○					○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
		英語圏の小説 b	2			○		○		○					○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
		英語圏の詩 a	2			○		○		○					○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
英語圏の詩 b		2			○		○		○					○	同一教員の場合は教員の許可を得ること	
英語圏の演劇 a		2			○		○		○					○	同一教員の場合は教員の許可を得ること	
英語圏の演劇 b		2			○		○		○					○	同一教員の場合は教員の許可を得ること	
英語圏の社会と思想 a		2			○		○		○					×		
英語圏の社会と思想 b		2			○		○		○					×		
英語圏の歴史 a		2			○		○		○					×		
英語圏の歴史 b		2			○		○		○					×		
英語圏のエリア・スタディーズ a		2			○		○		○					×		
英語圏のエリア・スタディーズ b		2			○		○		○					×		
英語圏の文学・文化特殊講義 a		2							○		○			○	同一教員の場合は教員の許可を得ること	
英語圏の文学・文化特殊講義 b		2							○		○			○	同一教員の場合は教員の許可を得ること	
異文化コミュニケーション		異文化間コミュニケーション論 a	2			○		○		○					×	
	異文化間コミュニケーション論 b	2			○		○		○					×		
	メディア・コミュニケーション論 a	2			○		○		○					×		
	メディア・コミュニケーション論 b	2			○		○		○					×		
	スピーチ・コミュニケーション論 a	2			○		○		○					×		
	スピーチ・コミュニケーション論 b	2			○		○		○					×		
	コミュニケーション論特殊講義 a	2							○		○			○	同一教員の場合は教員の許可を得ること	
	コミュニケーション論特殊講義 b	2							○		○			○	同一教員の場合は教員の許可を得ること	
	コミュニケーション論文献研究 a	2							○		○			○		
	コミュニケーション論文献研究 b	2							○		○			○		
国際コミュニケーション	グローバル社会論 a	2			○		○		○					×		
	グローバル社会論 b	2			○		○		○					×		
	英語圏の国際関係 a	2			○		○		○					×		
	英語圏の国際関係 b	2			○		○		○					×		
	国際開発論	2			○	○	○	○	○	○				×		
	国際協力論	2			○	○	○	○	○	○				×		
	国際交流論	2			○	○	○	○	○	○				×		
	国際ツーリズム論	2			○	○	○	○	○	○				×		
	国際NGO・ボランティア論	2			○	○	○	○	○	○				×		
	国際関係特殊講義 a	2			○		○		○					○	同一教員の場合は教員の許可を得ること	
	国際関係特殊講義 b	2			○		○		○					○	同一教員の場合は教員の許可を得ること	
	国際関係文献研究 a	2							○		○			○		
	国際関係文献研究 b	2							○		○			○		
	特別セミナー	2							○	○	○					
特別セミナー(CAEL)	2							○	○	○						
卒業論文	4									○						
外国語学部共通科目(別表 I-5)																
全学共通授業科目(別表 IV)																
演習	2							○	○	○					5・6・7・8学期で履修	

備考:

- 他学部・他学科の学生が「英語専門講義 I・II」を履修する場合は、履修条件はありません。自分の能力と科目のレベル等を考慮し、自己責任において履修してください。
- 学期配当欄の○印は履修できる学期を、●印は履修が望まれる学期を示しています。ただし、半期休学者などについては、配当が標準と異なる場合があります。
- 受講制限欄に○印のあるものは人数制限があります。【授業時間割表】で人数を確認してください。

英語レベル一覧表

レベル	TOEIC	TOEFL		
		PBT	CBT	iBT
上級	700	520	190	68
中級	600	480	157	54

授業科目表の見方(2006年度以降入学英語学科生用)

入学時のTOEICによりグループ分けされます。

単位数：その科目を修得した時に得られる数字。各学期ごとの上限計算や卒業のための計算等で必要です。

学部別表 I-2-1 学科基礎科目

科目	単位数	Aグループ		Bグループ		Cグループ	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
英語学入門	2	2	2	2	2	2	2
英語読解文・文化入門	2	2	2	2	2	2	2
文化コミュニケーション入門	2	2	2	2	2	2	2
国際コミュニケーション入門	2	2	2	2	2	2	2
英語発声	2	2	2	2	2	2	2
Lecture Workshop I	2	2	2	2	2	2	2
Lecture Workshop II	2	2	2	2	2	2	2
Comprehensive English I	2	2	2	2	2	2	2
Comprehensive English II	2	2	2	2	2	2	2
Comprehensive English III	1	1	1	1	1	1	1
Comprehensive English IV	1	1	1	1	1	1	1
Reading Strategies I	1	1	1	1	1	1	1
Reading Strategies II	1	1	1	1	1	1	1
Reading Strategies III	1	1	1	1	1	1	1
Reading Strategies IV	1	1	1	1	1	1	1
Writing Strategies	1	1	1	1	1	1	1
Paragraph Writing	1	1	1	1	1	1	1
Basic Essay Writing	1	1	1	1	1	1	1
E-learning I	1	1	1	1	1	1	1
E-learning II	1	1	1	1	1	1	1
Pronunciation Practice	1	1	1	1	1	1	1
Introduction Grammar	1	1	1	1	1	1	1
卒業に必要な単位数		28	28	28	28	30	*

Ⅲ・Ⅳは2年生で履修する

Ⅲ・Ⅳは2年生で履修する

Ⅲ・Ⅳ以外のすべての科目は1年生で履修する。すべて自動登録されます。

必修科目：必修のところに数字がある科目は必ずその科目の単位数を卒業までに修得しなければいけない。

コース選択は2年生の春学期履修登録期間中に申請書を提出し、決定する。(一度決めたら変更できない)コース決定用紙は履修相談会場で配付しています。

学部別表 I-2-2 学科共通科目・学科専門科目

科目	単位数	英語コミュニケーションコース		スピーチコミュニケーションコース		異文化コミュニケーションコース		国際コミュニケーションコース	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
英語専門講義 I	2	12		12		12		12	
英語専門講義 II	2		4		4		4		4
Academic Writing	2								
翻訳	2								
College Grammar	2								
Communicative English	2								
Discussion	2								
Public Speaking I	2								
Public Speaking II	2								
Debate I	2		4		4		4		4
Debate II	2								
選択 I	2								
選択 II	2								
英語ビジネス・コミュニケーション	2								
英語ビジネス・コミュニケーション実務	2								
メディア英語 I	2								
メディア英語 II	2								
シネマ英語	2								
英語学の世界	2								
英語情報処理 I a	2		4		4		4		4
英語情報処理 II a	2								
英語情報処理 II b	2								
英語発音教授法	2								
音声・音韻論	2								
発音・音韻論	2								
シンクワス	2								
シンクワスb	2								
意味論	2		16		16		16		16
意味論b	2								
英語学特許講義a	2								
英語学特許講義b	2								
英語学文庫研究a	2								
英語学文庫研究b	2								
英語学文化	2								
英語学文化b	2								
英語学文化研究a	2								
英語学文化研究b	2								
英語学文化研究c	2								
英語学文化研究d	2								
英語学文化研究e	2								
英語学文化研究f	2								
英語学文化研究g	2								
英語学文化研究h	2								
英語学文化研究i	2								
英語学文化研究j	2								
英語学文化研究k	2								
英語学文化研究l	2								
英語学文化研究m	2								
英語学文化研究n	2								
英語学文化研究o	2								
英語学文化研究p	2								
英語学文化研究q	2								
英語学文化研究r	2								
英語学文化研究s	2								
英語学文化研究t	2								
英語学文化研究u	2								
英語学文化研究v	2								
英語学文化研究w	2								
英語学文化研究x	2								
英語学文化研究y	2								
英語学文化研究z	2								
特別セミナー	2								
卒業に必要な単位数		28	52	28	52	32	44	32	44
卒業に必要な単位数の合計		100(98)	128	100(98)	128	100(98)	128	100(98)	128

選択必修科目：この範囲にある科目の中からその数字の単位数を修得する。(例: Debate I、II (2単位×2科目)の合計4単位修得)4単位以上修得した場合は選択の単位数に加算される。

卒業論文を除きすべての科目は半期完結科目

定員のある科目は春・秋学期履修登録時に抽選を行う

選択科目：矢印の範囲内から数字の単位数以上を修得する。(Cグループの場合は()内の数字の単位数でOK)

定員のある科目
①すべての学科共通科目
②専門科目の一部(詳しくは授業時間割表・シラバスで確認してください)

外国語学部共通科目：科目についてはシラバスの後半部分に掲載。(修得単位は選択に加算される)

履修制限
多くの科目に履修のための制限があります(学期配当・既修条件・重複の有無)
「履修の手引」または「シラバス」の <英語学科科目特性表>に掲載されています

全学共通授業科目(全カ)のシラバスから選んで登録する。第二外国語以外の多くの科目はオンラインによる登録・抽選。(詳しくは授業時間割表参照)

全カ、各カテゴリーの選択必修必要単位数の他にさらに4単位を修得しなければならない。4単位以上修得した場合は学科の選択に加算される。

卒業するまでには最低限128単位が必要



卒業・進級判定時に全カ力の科目が不足している場合のみ **教職課程科目を全カ力科目に読み替える**ことができます。読替可能単位数は20単位まで。ただし、**学科の選択に加算することはできません。**

英語学科授業科目（2006年度以降入学生用）

目 次

学科基礎科目

※以下の科目の時間割コードはすべて再履修用です。

新1年生は、すべて事前に登録してありますので、内容のみ参照してください。

※再履修者は『授業時間割表』の「学科基礎科目・第二外国語再履修方法」を必ず確認し、登録してください。

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
11095	春	Lecture Workshop I (A/Bグループ) (1組)	T. マーフィー/内田 恵美	月3	2	1	全	1
11282	春	Lecture Workshop I (A/Bグループ) (2組)	内田 恵美/T. マーフィー	月3	2	1	全	1
11281	春	Lecture Workshop I (A/Bグループ) (3組)	P. M. ホーネス/三吉 美加	月3	2	1	全	1
11283	春	Lecture Workshop I (A/Bグループ) (4組)	三吉 美加/P.M.ホーネス	月3	2	1	全	1
11286	春	Lecture Workshop I (Bグループ) (5組)	鈴木 真奈美/E.J.ナオウミ	火2	2	1	全	1
11284	春	Lecture Workshop I (Bグループ) (6組)	E. J. ナオウミ/鈴木 真奈美	火2	2	1	全	1
11096	春	Lecture Workshop I (Bグループ) (7組)	上野 直子/P.マッケビリー	火2	2	1	全	1
11285	春	Lecture Workshop I (Bグループ) (8組)	P. マッケビリー/上野 直子	火2	2	1	全	1
11289	春	Lecture Workshop I (Bグループ) (9組)	鈴木 真奈美/E.J.ナオウミ	火3	2	1	全	1
11288	春	Lecture Workshop I (Bグループ) (10組)	E. J. ナオウミ/鈴木 真奈美	火3	2	1	全	1
11097	春	Lecture Workshop I (Bグループ) (11組)	佐野 康子/D.ペーカー	火3	2	1	全	1
11287	春	Lecture Workshop I (Bグループ) (12組)	D. ペーカー/佐野 康子	火3	2	1	全	1
11098	春	Lecture Workshop I (Cグループ) (13組)	T. マーフィー/内田 恵美	月2	2	1	全	1
11293	春	Lecture Workshop I (Cグループ) (14組)	内田 恵美/T. マーフィー	月2	2	1	全	1
11292	春	Lecture Workshop I (Cグループ) (15組)	J. ウォールドマン/片山 亜紀	月2	2	1	全	1
11291	春	Lecture Workshop I (Cグループ) (16組)	片山 亜紀/J.ウォールドマン	月2	2	1	全	1
11294	秋	Lecture Workshop II (A/Bグループ) (1組)	P. M. ホーネス/三吉 美加	月3	2	1	全	1
11296	秋	Lecture Workshop II (A/Bグループ) (2組)	三吉 美加/P.M.ホーネス	月3	2	1	全	1
11099	秋	Lecture Workshop II (A/Bグループ) (3組)	T. マーフィー/内田 恵美	月3	2	1	全	1
11295	秋	Lecture Workshop II (A/Bグループ) (4組)	内田 恵美/T. マーフィー	月3	2	1	全	1
11100	秋	Lecture Workshop II (Bグループ) (5組)	上野 直子/P.マッケビリー	火2	2	1	全	1
11298	秋	Lecture Workshop II (Bグループ) (6組)	P. マッケビリー/上野 直子	火2	2	1	全	1
11299	秋	Lecture Workshop II (Bグループ) (7組)	鈴木 真奈美/E.J.ナオウミ	火2	2	1	全	1
11297	秋	Lecture Workshop II (Bグループ) (8組)	E. J. ナオウミ/鈴木 真奈美	火2	2	1	全	1
11101	秋	Lecture Workshop II (Bグループ) (9組)	佐野 康子/D.ペーカー	火3	2	1	全	1
11300	秋	Lecture Workshop II (Bグループ) (10組)	D. ペーカー/佐野 康子	火3	2	1	全	1
11302	秋	Lecture Workshop II (Bグループ) (11組)	鈴木 真奈美/E.J.ナオウミ	火3	2	1	全	1
11301	秋	Lecture Workshop II (Bグループ) (12組)	E. J. ナオウミ/鈴木 真奈美	火3	2	1	全	1
11304	秋	Lecture Workshop II (Cグループ) (13組)	J. ウォールドマン/片山 亜紀	月2	2	1	全	1
11303	秋	Lecture Workshop II (Cグループ) (14組)	片山 亜紀/J.ウォールドマン	月2	2	1	全	1
11102	秋	Lecture Workshop II (Cグループ) (15組)	T. マーフィー/内田 恵美	月2	2	1	全	1
11305	秋	Lecture Workshop II (Cグループ) (16組)	内田 恵美/T. マーフィー	月2	2	1	全	1
13454	秋	Comprehensive English I	K. ミーハン/D. ペーカー	月4/木5	2	1	全	2
12818	春	Comprehensive English II	L. K. ハーキンス	月1/金3	2	1	全	2
12715	春	Reading Strategies I	山中 章子	木5	1	1	全	3
12948	春	Reading Strategies I	福井 嘉彦	木1	1	1	全	3
12949	秋	Reading Strategies I	福井 嘉彦	木1	1	1	全	3
12777	春	Reading Strategies II	白鳥 正孝	木4	1	1	全	3
12716	秋	Reading Strategies II	山中 章子	木5	1	1	全	3
12950	春	Writing Strategies	川崎 潔	木1	1	1	全	4
12951	秋	Paragraph Writing	川崎 潔	木1	1	1	全	5
12816	春	Basic Essay Writing	L. K. ハーキンス	月3	1	1	全	6
12817	秋	Basic Essay Writing	J. A. グレイ	月5	1	1	全	6
11244	春	E-learning I (Aグループ)	木村 恵	木5	1	1	全	7
11242	春	E-learning I (B/Cグループ)	安井 美代子	水3	1	1	全	8
11245	秋	E-learning II (Aグループ)	木村 恵	木5	1	1	全	7
11243	秋	E-learning II (B/Cグループ)	安井 美代子	水3	1	1	全	8

11103	春	Pronunciation Practice	大西 雅行	火2	1	1	全	9
11105	春	Pronunciation Practice	青柳 真紀子	火2	1	1	全	9
11104	秋	Pronunciation Practice	大西 雅行	火2	1	1	全	9
11106	秋	Pronunciation Practice	青柳 真紀子	火2	1	1	全	9
11109	春	Introductory Grammar	安井 美代子	木3	1	1	全	10
11107	春	Introductory Grammar	山田 修	月4	1	1	全	10
11110	秋	Introductory Grammar	安井 美代子	木3	1	1	全	10
11108	秋	Introductory Grammar	山田 修	月4	1	1	全	10
11091	春	英語音声学	青柳 真紀子	火1	2	1		11
11093	春	英語音声学	大西 雅行	木1	2	1		12
11092	秋	英語音声学	青柳 真紀子	火1	2	1		11
11094	秋	英語音声学	大西 雅行	木1	2	1		12
11077	春	英語学入門	鈴木 英一	木4	2	1		13
11076	春	英語学入門	安井 美代子	木1	2	1		14
11079	秋	英語学入門	鈴木 英一	木4	2	1		13
11078	秋	英語学入門	安井 美代子	木1	2	1		14
11082	春	英語圏の文学・文化入門	上野/片山/高橋/前沢	木4	2	1		16
11080	春	英語圏の文学・文化入門	上野/片山/高橋/前沢	木5	2	1		16
11083	秋	英語圏の文学・文化入門	上野/片山/高橋/前沢	木4	2	1		16
11081	秋	英語圏の文学・文化入門	上野/片山/高橋/前沢	木5	2	1		16
11086	春	文化コミュニケーション入門	板場 良久	水2	2	1		18
11084	春	文化コミュニケーション入門	柿田 秀樹	水2	2	1		19
11087	秋	文化コミュニケーション入門	板場 良久	水2	2	1		18
11085	秋	文化コミュニケーション入門	柿田 秀樹	水2	2	1		19
11088	春	国際コミュニケーション入門	佐野 康子	水2	2	1	言・養	21
11089	春	国際コミュニケーション入門	永野 隆行	水2	2	1	言・養	22
11403	秋	国際コミュニケーション入門	佐野 康子	水2	2	1	言・養	21
11090	秋	国際コミュニケーション入門	永野 隆行	水2	2	1	言・養	22

※以下の科目は2006年度入学の2年生(3・4学期生)受講指定科目です。

※事前抽選を行いますので、『授業時間割表』で登録方法を必ず確認してください。

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (HONORS)	N. H. ジョスト	月1	1	2	全	28
	春	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (HONORS)	T. ヒル	火3	1	2	全	29
	春	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ (HONORS)	W. J. ベンフィールド	木2	1	2	全	30
	春	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ	D. ブラドリー	火3	1	2	全	31
	春	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ	D. マツキャン	木1	1	2	全	32
	春	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ	L. K. ハーキンス	金1	1	2	全	33
	春	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ	M. ダーリン	木4	1	2	全	34
	春	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ	N. ハミルトン	火1	1	2	全	35
	春	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ	P. アップス	水3	1	2	全	36
	春	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ	P. アップス	火1	1	2	全	36
	春	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ	R. J. パロウズ	火1	1	2	全	37
	春	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ	R. ダラム	木2	1	2	全	38
	春	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ	R. ダラム	火1	1	2	全	38
	春	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ	T. J. フォトス	水3	1	2	全	39
	春	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ	T. ヒル	火1	1	2	全	40
	春	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ	T. マーフィー	火1	1	2	全	41
	春	Comprehensive English Ⅲ・Ⅳ	W. J. ベンフィールド	木1	1	2	全	42
	春	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ (HONORS)	E. カーニィ	水2	1	2	全	43
	春	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ (HONORS)	N. H. ジョスト	水2	1	2	全	44
	春	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ (HONORS)	T. ヒル	水2	1	2	全	45
	春	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ	片山 亜紀	水2	1	2	全	46
	春	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ	工藤 和宏	水2	1	2	全	47
	春	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ	児嶋 一男	水2	1	2	全	48
	春	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ	小早川 暁	水2	1	2	全	49
	春	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ	佐藤 唯行	水2	1	2	全	50

春	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ	佐藤 勉	水2	1	2	全	51
春	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ	島田 啓一	水2	1	2	全	52
春	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ	清水 由理子	水2	1	2	全	53
春	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ	白鳥 正孝	水2	1	2	全	54
春	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ	鈴木 英一	水2	1	2	全	55
春	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ	鍋倉 健悦	水2	1	2	全	56
春	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ	福井 嘉彦	水2	1	2	全	57
春	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ	藤田 永祐	水2	1	2	全	58
春	Reading Strategies Ⅲ・Ⅳ	前沢 浩子	水2	1	2	全	59

学科共通科目

◆学科共通科目 履修登録時の注意事項◆

①学科共通科目は、春秋別々に履修登録が必要です。すべての科目が抽選となりますので、必ず抽選日程を確認し、オンライン登録を行ってください。

②ただし、次の科目はⅠ・Ⅱセットで履修となります。

「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」、「DebateⅠ・Ⅱ」、「Public SpeakingⅠ・Ⅱ」

上記の科目は、春学期に登録が必要です。秋学期からは登録できません。

秋学期に「Ⅱ」の削除は可能ですが、学習効果が下がりますので、十分検討して応募してください。

③科目によって、既修条件、あるいは一定レベルのTOEIC・TOEFLのスコアを取得していることが条件のものがあります。『シラバス』巻頭の「科目特性表」を参照してください。

レベルはTOEIC®・TOEFL®のスコアによって次の2つのレベルにきめられています。

上級・・・TOEIC®700点以上・TOEFL® PBT 520点、CBT 190点、iBT68点以上を取得している者

中級・・・TOEIC®600点以上・TOEFL® PBT480点、CBT 157点、iBT54点以上を取得している者

*レベルが既修条件となっている科目を履修する場合、学内で受験したTOEICスコアが条件を満たしていれば手続きなしで登録可能です。

*学外で受験したTOEICスコアを利用したい場合は、スコアを証明する書類のコピーを教務課外国語学部担当係まで提出してください。

「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」(Ⅰ・Ⅱセット履修)

【既修条件】Comprehensive EnglishⅠ・ⅡおよびReading StrategiesⅠ・Ⅱを修得済

【定員】30名

時間割コード	開講期	科目名(副題)	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	春秋	Language, Culture and Communication	C. B. 池口	火2	2	2		60
	春秋	Literary fiction and documentary studies	E. カーニィ	水1	2	2		61
	春	Education & Culture	J. J. ダゲン	木2/木3	2	2		62
	春秋	Canadian Culture and Society	K. ミーハン	月1	2	2		63
	春秋	James Joyce	M. フッド	水3	2	2		64
	春秋	Education	N. H. ジョスト	水1	2	2		65
	春秋	Pragmatics	T. ヒル	月3	2	2		66
	春秋	Exploring Learning	T. マーフィー	月4	2	2		67
	春秋	音声知覚のしくみと発達入門	青柳 真紀子	火3	2	2		68
	春	Exploring Language Teaching	浅岡 千利世	火3/火4	2	2		69
	春秋	米国の東アジア政策	阿部 純一	土2	2	2		70
	春秋	異文化コミュニケーション論	石井 敏	金1	2	2		71
	春秋	文化とコミュニケーション	石井 敏	金2	2	2		72

春秋	アメリカのナショナリズムを読み解く:理論編	板場 良久	火3	2	2	73
春秋	大西洋世界とブラックディアスポラ	上野 直子	火4	2	2	74
春秋	Allen Ginsberg精読	遠藤 朋之	金2	2	2	75
春秋	ディズニー・アニメの歴史をたどる	大木 理恵子	火3	2	2	76
春秋	ことばと音声のしくみ	大西 雅行	木2	2	2	77
春秋	アメリカ黒人の歴史	岡田 誠一	月4	2	2	78
春秋	映画批評	柿田 秀樹	火5	2	2	79
春秋	アメリカ文学: John Steinbeckの作品を読む	金谷 優子	金4	2	2	80
秋	アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係	金子 芳樹	月4/月5	2	2	81
春秋	『ヨブ記』をRevised Versionで読む	川崎 潔	木2	2	2	82
春秋	SLA実証研究論文	木村 恵	金3	2	2	83
春秋	コミュニケーションと文化	工藤 和宏	月3	2	2	84
春秋	オーストラリアの詩	国見 晃子	火3	2	2	85
春秋	英語圏の現代演劇	児嶋 一男	火2	2	2	86
春秋	文法と認知	小早川 暁	火3	2	2	87
春秋	英国ユダヤ人史	佐藤 唯行	木4	2	2	88
春秋	物語を楽しむ	佐藤 勉	金3	2	2	89
春秋	現代国際関係論	佐野 康子	木3	2	2	90
春秋	アメリカ小説	島田 啓一	金3	2	2	91
春秋	イギリス児童文学	白鳥 正孝	月3	2	2	92
春秋	各種英文ビジネス文書の読み方と実務	杉山 晴信	金3	2	2	93
春秋	生成文法理論への誘い	鈴木 英一	水1	2	2	94
春秋	異文化理解の視点	瀬戸 千尋	火3	2	2	95
春秋	20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人	高田 宣子	火4	2	2	96
春秋	グローバル社会論ー世界のトレンドを読むー	竹田 いさみ	火2	2	2	97
春秋	現代国際関係論	永野 隆行	月4	2	2	98
春秋	インタビューやニュースのスク립トを読む	鍋倉 健悦	月4	2	2	99
春秋	動詞の文法	府川 謹也	火1	2	2	100
春秋	キリスト教への理解	福井 嘉彦	火3	2	2	101
春秋	現代の親しみやすいエッセイ	藤田 永祐	木1	2	2	102
春秋	シェイクスピア	前沢 浩子	木3	2	2	103
春 秋	言語・非言語とコミュニケーション	町田 喜義	木3 火1	2	2	104
春秋	生成文法の基礎	水口 学	月2	2	2	105
春秋	黒人表現文化	三吉 美加	水3	2	2	106
春秋	告白詩を読む	山中 章子	木4	2	2	107

「Academic Writing」

【既修条件】Basic Essay Writing または中級レベル

【定員】28名

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
12864	春	Academic Writing	D. L. ブランケン	金3	2	2		111
12866	春	Academic Writing	E. カーニ	火1	2	2		112
12868	春	Academic Writing	J. A. グレイ	水3	2	2		113
12873	春	Academic Writing	J. J. ダゲン	水2	2	2		114
12870	春	Academic Writing	J. ウォールドマン	木2	2	2		115
12872	春	Academic Writing	K. ミーハン	月4	2	2		116
12874	春	Academic Writing	M. ダーリン	月5	2	2		118
12876	春	Academic Writing	M. フッド	水4	2	2		119
12878	春	Academic Writing	T. J. フォトス	水2	2	2		120
12880	春	Academic Writing	W. J. ベンフィールド	水3	2	2		121
12867	秋	Academic Writing	E. カーニ	火1	2	2		112
12869	秋	Academic Writing	J. A. グレイ	水3	2	2		113
12871	秋	Academic Writing	J. ウォールドマン	木2	2	2		115
12865	秋	Academic Writing	L. K. ハーキンス	月3	2	2		117
12875	秋	Academic Writing	M. ダーリン	月5	2	2		118
12877	秋	Academic Writing	M. フッド	水4	2	2		119
12879	秋	Academic Writing	T. J. フォトス	水2	2	2		120
12881	秋	Academic Writing	W. J. ベンフィールド	水3	2	2		121

「翻訳」

【既修条件】中級レベル

【定員】25名

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
12882	春	翻訳	遠藤 朋之	木2	2	2		122
13604	春	翻訳	柴田 耕太郎	火4	2	2		124
12884	春	翻訳	高田 宣子	火5	2	2		125
12888	春	翻訳	藤田 永祐	木2	2	2		126
12886	春	翻訳	前沢 浩子	月2	2	2		127
12883	秋	翻訳	遠藤 朋之	木2	2	2		122
12887	秋	翻訳	片山 亜紀	火3	2	2		123
13605	秋	翻訳	柴田 耕太郎	火4	2	2		124
12885	秋	翻訳	高田 宣子	火5	2	2		125
12889	秋	翻訳	藤田 永祐	木2	2	2		126

「College Grammar」

【既修条件】Comprehensive English I・II、およびReading Strategies I・II

【定員】32名

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
12902	春	College Grammar	小早川 暁	金3	2	2		128
12900	春	College Grammar	鈴木 英一	火3	2	2		129
12892	春	College Grammar	府川 謹也	水1	2	2		130
12890	春	College Grammar	藤田 永祐	金2	2	2		131
12896	春	College Grammar	本田 謙介	月2	2	2		132
12894	春	College Grammar	水口 学	月1	2	2		133
12898	春	College Grammar	毛利 秀高	木3	2	2		134
12903	秋	College Grammar	小早川 暁	金3	2	2		128
12901	秋	College Grammar	鈴木 英一	火3	2	2		129
12893	秋	College Grammar	府川 謹也	水1	2	2		130
12891	秋	College Grammar	藤田 永祐	金2	2	2		131
12897	秋	College Grammar	本田 謙介	月2	2	2		132
12895	秋	College Grammar	水口 学	月1	2	2		133
12899	秋	College Grammar	毛利 秀高	木3	2	2		134

「Communicative English」

【既修条件】Comprehensive English I・II、およびReading Strategies I・II

【定員】25名

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
12839	春	Communicative English	C. B. 池口	火4	2	2		137
12841	春	Communicative English	D. L. ブランケン	水2	2	2		138
12843	春	Communicative English	D. ベーカー	木5	2	2		140
12845	春	Communicative English	D. マツキャン	木2	2	2		141
12848	春	Communicative English	K. ミーハン	金4	2	2		142
12852	春	Communicative English	M. フッド	水2	2	2		144
12856	春	Communicative English	N. ハミルトン	月1	2	2		145
12854	春	Communicative English	N. ハミルトン	火2	2	2		145
12862	春	Communicative English	P. アップス	水2	2	2		146
12858	春	Communicative English	P. M. ホーネス	月1	2	2		147
12860	春	Communicative English	T. J. フォトス	水4	2	2		148
12840	秋	Communicative English	C. B. 池口	火4	2	2		137
12842	秋	Communicative English	D. L. ブランケン	水2	2	2		138
12844	秋	Communicative English	D. L. ブランケン	金3	2	2		139
12846	秋	Communicative English	D. マツキャン	木2	2	2		141
12849	秋	Communicative English	K. ミーハン	金4	2	2		142
12851	秋	Communicative English	L. K. ハーキンス	金3	2	2		143

12850	秋	Communicative English	L. K. ハーキンス	月1	2	2	143
12853	秋	Communicative English	M. フッド	水2	2	2	144
12855	秋	Communicative English	N. ハミルトン	火2	2	2	145
12857	秋	Communicative English	N. ハミルトン	月1	2	2	145
12863	秋	Communicative English	P. アップス	水2	2	2	146
12859	秋	Communicative English	P. M. ホーネス	月1	2	2	147
12861	秋	Communicative English	T. J. フォトス	水4	2	2	148

「Discussion」

【既修条件】中級レベル

【定員】20名

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
12908	春	Discussion	D. L. ブランケン	水3	2	2		149
12904	春	Discussion	N. H. ジョスト	月3	2	2		150
12906	春	Discussion	R. J. バロウズ	火2	2	2		151
12910	春	Discussion	W. J. ベンフィールド	水1	2	2		152
12909	秋	Discussion	D. L. ブランケン	水3	2	2		149
12905	秋	Discussion	N. H. ジョスト	月3	2	2		150
12907	秋	Discussion	R. J. バロウズ	火2	2	2		151
12911	秋	Discussion	W. J. ベンフィールド	水1	2	2		152

「Public Speaking I・II」(I・IIセット履修)

【既修条件】中級レベル(Public Speaking IIはPublic Speaking I)

【定員】25名

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
12924	春秋	Public Speaking I・II	A. R. ファルヴォ	金1	2	2		153
12922	春秋	Public Speaking I・II	P. マッケビリー	金2	2	2		154
12926	春秋	Public Speaking I・II	門倉 弘枝	金4	2	2		155

「Debate I・II」(I・IIセット履修)

【既修条件】中級レベル(Debate IはDebate II)

【定員】25名

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
12928	春秋	Debate I・II	P. M. ホーネス	月2	2	2		157
12930	春秋	Debate I・II	R. J. バロウズ	火3	2	2		158
12932	春秋	Debate I・II	柿田 秀樹	火4	2	2		159

「通訳 I」

【既修条件】中級レベル

【定員】25名

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	春	通訳 I	原口 友子	月2	2	2		161
	春	通訳 I	原口 友子	月4	2	2		161
	秋	通訳 I	原口 友子	月2	2	2		161
	秋	通訳 I	原口 友子	月4	2	2		161

「通訳 II」

【既修条件】通訳 I または 上級レベル

【定員】25名

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	春	通訳 II	原口 友子	月3	2	2		162
	秋	通訳 II	原口 友子	月3	2	2		162

「英語ビジネス・コミュニケーション」

【既修条件】Comprehensive English I・II、およびReading Strategies I・II

【定員】50名

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
12912	春	英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	金3	2	2		163
12918	春	英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	木3	2	2		164
12920	春	英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	木4	2	2		165
12914	春	英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	月1	2	2		166
12916	春	英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	月2	2	2		166
12913	秋	英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	金3	2	2		163
12919	秋	英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	木3	2	2		164
12921	秋	英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	木4	2	2		165
12915	秋	英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	月1	2	2		166
12917	秋	英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	月2	2	2		166

「メディア英語Ⅰ」

【既修条件】Comprehensive English I・II、およびReading Strategies I・II

【定員】40名

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
13078	春	メディア英語Ⅰ	W. J. ベンフィールド	水2	2	2		168
13074	春	メディア英語Ⅰ	海老沢 達郎	火4	2	2		169
13068	春	メディア英語Ⅰ	岡田 誠一	月2	2	2		170
13070	春	メディア英語Ⅰ	岡田 誠一	木4	2	2		170
13076	春	メディア英語Ⅰ	門倉 弘枝	金5	2	2		171
13072	春	メディア英語Ⅰ	金子 節也	月4	2	2		172
13079	秋	メディア英語Ⅰ	W. J. ベンフィールド	水2	2	2		168
13075	秋	メディア英語Ⅰ	海老沢 達郎	火4	2	2		169
13069	秋	メディア英語Ⅰ	岡田 誠一	月2	2	2		170
13071	秋	メディア英語Ⅰ	岡田 誠一	木4	2	2		170
13077	秋	メディア英語Ⅰ	門倉 弘枝	金5	2	2		171
13073	秋	メディア英語Ⅰ	金子 節也	月4	2	2		172

「メディア英語Ⅱ」

【既修条件】中級レベル

【定員】40名

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
13066	春	メディア英語Ⅱ	A. R. ファルヴォ	月1	2	2		173
13080	春	メディア英語Ⅱ	遠藤 朋之	木3	2	2		174
13067	秋	メディア英語Ⅱ	A. R. ファルヴォ	月1	2	2		173
13081	秋	メディア英語Ⅱ	遠藤 朋之	木3	2	2		174

「シネマ英語」

【既修条件】中級レベル

【定員】35名

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
12938	春	シネマ英語	岡田 誠一	木3	2	2		175
12940	春	シネマ英語	高橋 雄一郎	火4	2	2		176
12939	秋	シネマ英語	岡田 誠一	木3	2	2		175
12941	秋	シネマ英語	高橋 雄一郎	火4	2	2		176

学科専門科目

※a,bセットで履修する必要はありません。

◆「言語コミュニケーション」部門◆

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
12946	春	英語学の世界	府川 謹也	金1	2	2		182
12947	秋	英語学の世界	府川 謹也	金1	2	2		182
11543	春	言語情報処理 I a(定員50名)	木村 恵	木4	2	2		183
01509	春	言語情報処理 I a(定員50名)	吉成 雄一郎	金2	2	2		184
11544	秋	言語情報処理 I b(定員50名)	木村 恵	木4	2	2		183
01510	秋	言語情報処理 I b(定員50名)	吉成 雄一郎	金2	2	2		184
01541	春	言語情報処理 II a(定員40名)	吉成 雄一郎	金1	2	2		185
01542	秋	言語情報処理 II b(定員40名)	吉成 雄一郎	金1	2	2		185
	春	英語発音教授法(定員25名)	清水 由理子	月3	2	2		186
	秋	英語発音教授法(定員25名)	清水 由理子	月3	2	2		186
12952	春	シンタクスa	安井 美代子	木2	2	2		187
12953	秋	シンタクスb	安井 美代子	木2	2	2		187
00790	春	意味論a	府川 謹也	金3	2	2		188
00791	秋	意味論b	府川 謹也	金3	2	2		188
00799	春	音声・音韻論a	大西 雅行	火1	2	2		189
00800	秋	音声・音韻論b	大西 雅行	火1	2	2		189
01149	春	英語学特殊講義a	小早川 暁	金4	2	2		191
01150	秋	英語学特殊講義b	小早川 暁	金4	2	2		191

◆「文学コミュニケーション」部門◆

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
12838	春	英語圏の文学・文化	高橋 雄一郎	火3	2	2		193
10274	春	英語圏の小説 a(定員100名)	藤田 永祐	金3	2	2	全	194
09060	秋	英語圏の小説 b(定員100名)	片山 亜紀	木3	2	2	全	194
08205	春	英語圏の詩 a(定員100名)	白鳥 正孝	月4	2	2	全	195
08206	秋	英語圏の詩 b(定員100名)	白鳥 正孝	月4	2	2	全	195
08207	春	英語圏の演劇 a(定員100名)	児嶋 一男	月3	2	2	全	196
08208	秋	英語圏の演劇 b(定員100名)	児嶋 一男	月3	2	2	全	196
08209	春	英語圏の社会と思想 a(定員100名)	福井 嘉彦	火2	2	2	全	197
08210	秋	英語圏の社会と思想 b(定員100名)	福井 嘉彦	火2	2	2	全	197
08211	春	英語圏の歴史 a	佐藤 唯行	木2	2	2		198
08212	秋	英語圏の歴史 b	佐藤 唯行	木2	2	2		198
08213	春	英語圏のエリア・スタディーズ a(定員200名)	前沢 浩子	水3	2	2		199
08214	秋	英語圏のエリア・スタディーズ b(定員200名)	前沢 浩子	水3	2	2		199

◆「異文化コミュニケーション」部門◆

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
01434	春	異文化間コミュニケーション論a	工藤 和宏	月5	2	2	言・養	204
01238	春	異文化間コミュニケーション論a	鍋倉 健悦	月5	2	2	言・養	205
01435	秋	異文化間コミュニケーション論b	工藤 和宏	月5	2	2	言・養	204
01239	秋	異文化間コミュニケーション論b	鍋倉 健悦	月5	2	2	言・養	205
12954	春	メディア・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	木3	2	2	言・養	206
12955	秋	メディア・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	木3	2	2	言・養	206
01108	春	スピーチ・コミュニケーション論a	板場 良久	月2	2	2		207
00977	春	スピーチ・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	火3	2	2		208
01169	秋	スピーチ・コミュニケーション論b	板場 良久	月2	2	2		207
00978	秋	スピーチ・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	火3	2	2		208

◆「国際コミュニケーション」部門◆

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
12956	春	グローバル社会論a	竹田 いさみ	月3	2	2		211
12958	春	グローバル社会論a	永野 隆行	月3	2	2		212
12957	秋	グローバル社会論b	竹田 いさみ	月3	2	2		212
12959	秋	グローバル社会論b	金子 芳樹	月3	2	2		211
12960	春	英語圏の国際関係a	永野 隆行	月2	2	2	法	213
12961	秋	英語圏の国際関係b	永野 隆行	月2	2	2	法	213
12962	秋	国際開発論	金子 芳樹	水1	2	2		214
12963	春	国際協力論	竹田 いさみ	火3	2	2		214
13544	春	国際交流論	小松 諄悦	金2	2	2		215
12837	秋	国際ツーリズム論	千葉 隆一	水3	2	2		216
12779	春	国際NGO・ボランティア論	石川 幸子	木2	2	2		217
13708	春	国際関係特殊講義a	遠藤 充信	金4	2	2		218
13588	秋	国際関係特殊講義b	石川 幸子	木2	2	2		219
13709	秋	国際関係特殊講義b	遠藤 充信	金4	2	2		218
13587	秋	国際関係特殊講義b	金子 芳樹	火2	2	2		220
13589	秋	国際関係特殊講義b	小松 諄悦	金2	2	2		221
12964	秋	国際関係特殊講義b	竹田 いさみ	火3	2	2		222

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
10222	春	特別セミナー(CAEL)(定員52名)	高木 亜希子	水3	2	2		224
10223	秋	特別セミナー(CAEL)(定員52名)	高木 亜希子	水3	2	2		224

◆「外国語学部共通科目」は「英語学科授業科目」のあとに掲載しています(目次含む)。

授業科目表(2003～2005年度入学者用)

科目群	部門	科目	単位	言語コミュニケーション・コース			文学コミュニケーション・コース			異文化コミュニケーション・コース			国際コミュニケーション・コース						
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択				
学科基礎科目		Speech Communication a	1																
		Speech Communication b	1		2			2				2						2	
		Advanced Speech Communication a	1																
		Advanced Speech Communication b	1																
		英語ライティング・ストラテジーズa	1																
		英語ライティング・ストラテジーズb	1		2			2				2							2
		英語パラグラフ・ライティングa	1																
		英語パラグラフ・ライティングb	1																
		英語リーディング・ストラテジーズa	1																
		英語リーディング・ストラテジーズb	1		2			2				2							2
		Reading Comprehension a	1																
		Reading Comprehension b	1																
		Honors English 1 a	1																
		Honors English 1 b	1																
		Honors English 2 a	1																
		Honors English 2 b	1																
		英語専門講読入門a	1																
		英語専門講読入門b	1																
		英語学概論a	2		2			2				2							2
		英語学概論b	2		2			2				2							2
		英語圏の文学・文化概論a	2		2			2				2							2
		英語圏の文学・文化概論b	2		2			2				2							2
		文化コミュニケーション概論a	2		2			2				2							2
		文化コミュニケーション概論b	2		2			2				2							2
		国際コミュニケーション概論a	2		2			2				2							2
		国際コミュニケーション概論b	2		2			2				2							2
		英語音声学	2		2			2				2							2
		スピーチ・クリニック	2																
ベーシック・カレッジ・グラマー	2																		
学科共通科目	英語	英語専門講読a	2	12			12				12				12				
		英語専門講読b	2																
		英作文a	2																
		英作文b	2																
		英語エッセイ・ライティングa	2																
		英語エッセイ・ライティングb	2		4			4				4						4	
		翻訳a	2																
		翻訳b	2																
		カレッジ・グラマーa	2																
		カレッジ・グラマーb	2																
		Communicative English I a	2																
		Communicative English I b	2																
		Communicative English II a	2																
		Communicative English II b	2																
		Discussion a	2																
		Discussion b	2																
		Public Speaking I a	2																
		Public Speaking I b	2																
		Public Speaking II a	2																
		Public Speaking II b	2		4			4				4						4	
		Debate I a	2																
		Debate I b	2																
		Debate II a	2																
		Debate II b	2																
		通訳 I a	2																
		通訳 I b	2																
		通訳 II a	2																
		通訳 II b	2																
		英語ビジネス・コミュニケーション I a	2																
		英語ビジネス・コミュニケーション I b	2																
		英語ビジネス・コミュニケーション II a	2																
		英語ビジネス・コミュニケーション II b	2																
		メディア英語 I a	2																
		メディア英語 I b	2																
		メディア英語 II a	2																
		メディア英語 II b	2																
		シネマ英語a	2																
		シネマ英語b	2																

学科専門科目	言語コミュニケーション	言語情報処理 I a	2	4	16	20	20	20	20					
		言語情報処理 I b	2											
		言語情報処理 II a	2											
		言語情報処理 II b	2											
		統語論 a	2											
		統語論 b	2											
		意味論 a	2											
		意味論 b	2											
		音声・音韻論 a	2											
		音声・音韻論 b	2											
		英語史 a	2											
		英語史 b	2											
		英語学特殊講義 a	2											
		英語学特殊講義 b	2											
		英語学文献研究 a	2											
		英語学文献研究 b	2											
	文学コミュニケーション	英語圏の小説 a	2	16	20	20	20	20						
		英語圏の小説 b	2											
		英語圏の詩 a	2											
		英語圏の詩 b	2											
		英語圏の演劇 a	2											
		英語圏の演劇 b	2											
		英語圏の社会と思想 a	2											
		英語圏の社会と思想 b	2											
		英語圏の歴史 a	2											
		英語圏の歴史 b	2											
		英語圏のエリア・スタディーズ a	2											
		英語圏のエリア・スタディーズ b	2											
		英語圏の文学・文化特殊講義 a	2											
		英語圏の文学・文化特殊講義 b	2											
	英語圏の文学・文化文献研究 a	2												
	英語圏の文学・文化文献研究 b	2												
	異文化コミュニケーション	異文化間コミュニケーション論 a	2	4	20	20	20	20						
		異文化間コミュニケーション論 b	2											
		マス・コミュニケーション論 a	2											
		マス・コミュニケーション論 b	2											
		スピーチ・コミュニケーション論 a	2											
		スピーチ・コミュニケーション論 b	2											
		コミュニケーション論特殊講義 a	2											
		コミュニケーション論特殊講義 b	2											
		コミュニケーション論文献研究 a	2											
		コミュニケーション論文献研究 b	2											
	国際コミュニケーション	国際社会論 a	2	4	20	20	20	20						
		国際社会論 b	2											
国際関係史 a		2												
国際関係史 b		2												
国際開発協力論 a		2												
国際開発協力論 b		2												
国際関係論特殊講義 a		2												
国際関係論特殊講義 b		2												
国際関係論文献研究 a		2												
国際関係論文献研究 b		2												
特別セミナー	2													
卒業論文	4													
外国語学部共通科目(別表 I-5)														
目(別表 IV)	全学総合科目 外国語科目	カテゴリー I	4	4	4	4	4	4	4					
		カテゴリー II	8											
		カテゴリー III	4											
		カテゴリー IV	4											
		カテゴリー V	4											
英語以外の外国語科目 *	8													
古典語科目														
演習 a	2	4		4		4		4						
演習 b	2	4		4		4		4						
卒業に必要な単位数			44	64	20	44	60	24	52	24	52	24		
			128			128			128			128		

備考

(1) 卒業に必要な選択科目のうち16単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。

なお、教職課程授業科目の単位について別に定める。

(2) * 英語以外の外国語は、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語のうちいずれか一カ国語とし、1学年に4単位、2学年に4単位を履修するものとする。

○ 本表は、2003年度入学者から適用する。

* 2005年度入学生は英語史 a, b の科目は履修登録できません。

英語学科科目特性表 (2003~2005年度入学生用)

科目群	部門	科目名	単位	学期配当								受講制限	既修条件	重複履修			
				1	2	3	4	5	6	7	8			×	○		
学 科 基 礎 科 目	英	Speech Communication a	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	どちらかを履修	×		
		Speech Communication b	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×		
		Advanced Speech Communication a	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×		
		Advanced Speech Communication b	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×		
		英語ライティング・ストラテジーズa	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	どちらかを履修	×	
		英語ライティング・ストラテジーズb	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		英語パラグラフ・ライティングa	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		英語パラグラフ・ライティングb	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		英語リーディング・ストラテジーズa	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	どちらかを履修	×	
		英語リーディング・ストラテジーズb	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		Reading Comprehension a	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		Reading Comprehension b	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		Honors English 1a	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	どちらかを履修	×	
		Honors English 1b	1	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		Honors English 2a	1	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		Honors English 2b	1	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定		×	
		英語専門講読入門a	1	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	どちらかを履修	×	
		英語専門講読入門b	1	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○		×	
		英語学概論a	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	×		
		英語学概論b	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	×		
英語圏の文学・文化概論a	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	×				
英語圏の文学・文化概論b	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	×				
文化コミュニケーション概論a	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	×				
文化コミュニケーション概論b	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	×				
国際コミュニケーション概論a	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	×				
国際コミュニケーション概論b	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	×				
英語音声学	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定	×	再履修する場合は、2学期連続して履修登録することはできない。			
スピーチ・クリニック	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	・受講者指定 ただし、3学期以上は指定されたコマのみ重複履修可			
ベーシック・カレッジ・グラマー	2	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	・受講者指定			
英語専門講読a	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	英語リーディング・ストラテジーズ a, bおよび Reading Comprehension a, b または Honors English 1a, b	○	・3・4学期は4単位 ・5・6学期は8単位 ・7・8学期は前学期までに修得した単位が0~2単位の場合→16単位 4~6単位の場合→12単位 8~12単位の場合→8単位まで履修可		
英語専門講読b	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	英語リーディング・ストラテジーズa, bまたはCレベル	○	同一学期内同一教員不可		
英作文a	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	英語ライティング・ストラテジーズa, bまたはCレベル	○	2科目まで 同一学期内同一教員不可		
英作文b	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	英語ライティング・ストラテジーズa, bまたはBレベル	○	2科目まで 同一学期内同一教員不可		
英語エッセイ・ライティングa	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	英語パラグラフ・ライティングa, b, 英作文a, bまたはBレベル	○	同一学期内同一教員不可		
英語エッセイ・ライティングb	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	英語パラグラフ・ライティングa, b, 英作文a, bまたはBレベル	○	同一学期内同一教員不可		
翻訳a	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	英語リーディング・ストラテジーズa, b および Reading Comprehension a, b または Honors English 1a, b, またはCレベル	○	2科目まで 同一学期内同一教員不可		
翻訳b	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	英語リーディング・ストラテジーズa, b および Reading Comprehension a, b または Honors English 1a, b, またはCレベル	○	2科目まで 同一学期内同一教員不可		
カレッジ・グラマーa	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	英語リーディング・ストラテジーズa, b および Reading Comprehension a, b または Honors English 1a, b, またはCレベル	○	2科目まで 同一学期内同一教員不可		
カレッジ・グラマーb	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	英語リーディング・ストラテジーズa, b および Reading Comprehension a, b または Honors English 1a, b, またはCレベル	○	2科目まで 同一学期内同一教員不可		
Communicative English Ia	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Speech Communication a, b またはCレベル	○	2科目まで ・3学期は1科目まで履修可 ・IIと併せて同一学期内同一教員不可		
Communicative English Ib	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Speech Communication a, b またはCレベル	○	2科目まで ・4学期は1科目まで履修可 ・IIと併せて同一学期内同一教員不可		
Communicative English IIa	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Speech Communication a, b またはCレベル	○	1と併せて同一学期内同一教員不可		
Communicative English IIb	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Speech Communication a, b またはCレベル	○	1と併せて同一学期内同一教員不可		
Discussion a	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Advanced Speech Communication, Communicative English Ia, b またはBレベル	○			
Discussion b	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Advanced Speech Communication, Communicative English Ia, b またはBレベル	○			
Public Speaking Ia	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Advanced Speech Communication a, b, Communicative English Ia, b またはAレベル	○	2科目まで		
Public Speaking Ib	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Advanced Speech Communication a, b, Communicative English Ia, b またはAレベル	○	2科目まで		
Public Speaking IIa	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Advanced Speech Communication a, b, Communicative English Ia, b またはAレベル	○			
Public Speaking IIb	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Advanced Speech Communication a, b, Communicative English Ia, b またはAレベル	○			
Debate Ia	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Advanced Speech Communication a, b, Communicative English Ia, b またはBレベル	○	2科目まで		
Debate Ib	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Advanced Speech Communication a, b, Communicative English Ia, b またはBレベル	○	2科目まで		
Debate IIa	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Advanced Speech Communication a, b, Communicative English Ia, b またはAレベル	○			
Debate IIb	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Advanced Speech Communication a, b, Communicative English Ia, b またはAレベル	○			
通訳Ia	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Advanced Speech Communication a, b, Communicative English Ia, b またはBレベル	○	2科目まで		
通訳Ib	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Advanced Speech Communication a, b, Communicative English Ia, b またはBレベル	○	2科目まで		
通訳IIa	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	通訳IまたはAレベル	○	同一学期内同一教員不可		
通訳IIb	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	通訳IまたはAレベル	○	同一学期内同一教員不可		

科目群	部門	科目名	単位	学期配当								受講制限	既修条件	重複履修		
				1	2	3	4	5	6	7	8					
学 科 共 通 科 目	英 語	英語ビジネス・コミュニケーションIa	2			○		○		○		○	英語リーディング・ストラテジーズa, b および Reading Comprehension a, b または Honors English 1a, b, またはCレベル	2科目まで	同一学期内同一教員不可	
		英語ビジネス・コミュニケーションIb	2			○		○		○		○	英語リーディング・ストラテジーズa, b および Reading Comprehension a, b または Honors English 1a, b, またはCレベル	2科目まで	同一学期内同一教員不可	
		英語ビジネス・コミュニケーションIIa	2			○		○		○		○	英語リーディング・ストラテジーズa, b および Reading Comprehension a, b または Honors English 1a, b, またはBレベル	○	同一学期内同一教員不可	
		英語ビジネス・コミュニケーションIIb	2			○		○		○		○	英語リーディング・ストラテジーズa, b および Reading Comprehension a, b または Honors English 1a, b, またはBレベル	○	同一学期内同一教員不可	
		メディア英語Ia	2			○		○		○		○	英語リーディング・ストラテジーズa, b および Reading Comprehension a, b または Honors English 1a, b, またはCレベル	2科目まで	同一学期内同一教員不可	
		メディア英語Ib	2			○		○		○		○	英語リーディング・ストラテジーズa, b および Reading Comprehension a, b または Honors English 1a, b, またはCレベル	2科目まで	同一学期内同一教員不可	
		メディア英語IIa	2			○		○		○		○	英語リーディング・ストラテジーズa, b および Reading Comprehension a, b または Honors English 1a, b, またはBレベル	○	同一学期内同一教員不可	
		メディア英語IIb	2			○		○		○		○	英語リーディング・ストラテジーズa, b および Reading Comprehension a, b または Honors English 1a, b, またはBレベル	○	同一学期内同一教員不可	
		シネマ英語a	2			○		○		○		○	英語リーディング・ストラテジーズa, b および Reading Comprehension a, b または Honors English 1a, b, またはBレベル	○		
		シネマ英語b	2			○		○		○		○	英語リーディング・ストラテジーズa, b および Reading Comprehension a, b または Honors English 1a, b, またはBレベル	○		
		言語情報処理Ia	2			○		○		○		○			×	
		言語情報処理Ib	2			○		○		○		○			×	
		言語情報処理IIa	2			○		○		○		○			×	
		言語情報処理IIb	2			○		○		○		○			×	
学 科 専 門 科 目	言 語 コ ミュ ニ ケー ション	統語論a	2			○		○		○				×		
		統語論b	2			○		○		○				×		
		意味論a	2			○		○		○				×		
		意味論b	2			○		○		○				×		
		音声・音韻論a	2			○		○		○				×		
		音声・音韻論b	2			○		○		○				×		
		英語史a	2			○		○		○				×		
		英語史b	2			○		○		○				×		
		英語学特殊講義a	2			○		○		○				○	同一教員の場合は教員の許可を得ること	
		英語学特殊講義b	2			○		○		○				○	同一教員の場合は教員の許可を得ること	
		英語学文献研究a	2			○		○		○		○		○		
		英語学文献研究b	2			○		○		○		○		○		
		英語圏の小説a	2			○		○		○				○	同一教員の場合は教員の許可を得ること	
		英語圏の小説b	2			○		○		○				○	同一教員の場合は教員の許可を得ること	
		英語圏の詩a	2			○		○		○				○	同一教員の場合は教員の許可を得ること	
		英語圏の詩b	2			○		○		○				○	同一教員の場合は教員の許可を得ること	
	英語圏の演劇a	2			○		○		○				○	同一教員の場合は教員の許可を得ること		
	英語圏の演劇b	2			○		○		○				○	同一教員の場合は教員の許可を得ること		
	英語圏の社会と思想a	2			○		○		○				×			
	英語圏の社会と思想b	2			○		○		○				×			
	英語圏の歴史a	2			○		○		○				×			
	英語圏の歴史b	2			○		○		○				×			
	英語圏のエリア・スタディーズa	2			○		○		○				×			
	英語圏のエリア・スタディーズb	2			○		○		○				×			
	英語圏の文学・文化特殊講義a	2			○		○		○				○	同一教員の場合は教員の許可を得ること		
	英語圏の文学・文化特殊講義b	2			○		○		○				○	同一教員の場合は教員の許可を得ること		
	英語圏の文学・文化文献研究a	2			○		○		○		○		○			
	英語圏の文学・文化文献研究b	2			○		○		○		○		○			
	異 文 化 コ ミュ ニ ケー ション	異文化間コミュニケーション論a	2			○		○		○				×		
		異文化間コミュニケーション論b	2			○		○		○				×		
		マス・コミュニケーション論a	2			○		○		○				×		
		マス・コミュニケーション論b	2			○		○		○				×		
スピーチ・コミュニケーション論a		2			○		○		○				×			
スピーチ・コミュニケーション論b		2			○		○		○				×			
コミュニケーション論特殊講義a		2			○		○		○				○	同一教員の場合は教員の許可を得ること		
コミュニケーション論特殊講義b		2			○		○		○				○	同一教員の場合は教員の許可を得ること		
コミュニケーション論文献研究a		2			○		○		○		○		○			
コミュニケーション論文献研究b		2			○		○		○		○		○			
国 際 コ ミュ ニ ケー ション		国際社会論a	2			○		○		○				×		
		国際社会論b	2			○		○		○				×		
		国際関係史a	2			○		○		○				×		
		国際関係史b	2			○		○		○				×		
		国際開発協力論a	2			○		○		○				×		
		国際開発協力論b	2			○		○		○				×		
	国際関係論特殊講義a	2			○		○		○				○	同一教員の場合は教員の許可を得ること		
	国際関係論特殊講義b	2			○		○		○				○	同一教員の場合は教員の許可を得ること		
	国際関係論文献研究a	2			○		○		○		○		○			
	国際関係論文献研究b	2			○		○		○		○		○			
特別セミナー	2			○		○		○				×				
特別セミナー (CAEL)	2			○		○		○				×				
卒業論文	4															
演習a	2					○		○					5・7学期で履修			
演習b	2					○		○					6・8学期で履修			

*他学部・他学科の学生が「英語専門講義a,b」を履修する場合は、履修条件はありません。

自分の能力と科目のレベル等を考慮し自己の責任において、履修してください。

*学期配当欄の○印は履修できる学期を、●印は履修が望まれる学期を示しています。

ただし、半期休学者などについては、配当が標準と異なる場合があります。

*受講制限欄に◎印のあるものは人数制限があります。「授業時間割表」で人数を確認してください。

英語 レベル一覧表

レベル	TOEIC	TOEFL		
		PBT	CBT	iBT
A	700	520	190	68
B	600	480	157	54
C	500	440	123	41

英語学科授業科目(2003年度～2005年度入学生用)

目 次

学科基礎科目

※以下の科目の時間割コードはすべて再履修用です。

※再履修者は『授業時間割表』の「学科基礎科目・第二外国語再履修方法」を必ず確認し、登録してください。

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
11505	春	SPEECH COMMUNICATION a	R. M. ペイン	金2	1	1	全	23
11506	秋	SPEECH COMMUNICATION b	R. M. ペイン	金2	1	1	全	23
11512	春	英語ライティング・ストラテジーズ a	川崎 潔	木1	1	1	全	24
11513	秋	英語ライティング・ストラテジーズ b	川崎 潔	木1	1	1	全	24
11515	春	英語リーディング・ストラテジーズ a	山中 章子	木5	1	1	全	25
11522	春	英語リーディング・ストラテジーズ a	福井 嘉彦	木1	1	1	全	25
11523	秋	英語リーディング・ストラテジーズ a	福井 嘉彦	木1	1	1	全	25
13452	春	英語リーディング・ストラテジーズ b	白鳥 正孝	木4	1	1	全	25
11516	秋	英語リーディング・ストラテジーズ b	山中 章子	木5	1	1	全	25
11502	春	READING COMPREHENSION a	J. A. グレイ	水5	1	1	全	26
11503	秋	READING COMPREHENSION b	J. A. グレイ	水5	1	1	全	26
12121	春	英語専門講読入門 a	佐野 康子	火2	1	2	全	27
12122	秋	英語専門講読入門 b	佐野 康子	火2	1	2	全	27
11564	春	英語学概論 a	鈴木 英一	木4	2	1		13
11563	春	英語学概論 a	安井 美代子	木1	2	1		14
11276	春	英語学概論 b	府川 謹也	金1	2	1		15
11566	秋	英語学概論 a	鈴木 英一	木4	2	1		13
11565	秋	英語学概論 a	安井 美代子	木1	2	1		14
11275	秋	英語学概論 b	府川 謹也	金1	2	1		15
11575	春	英語圏の文学・文化概論 a	上野 直子	木4	2	1		16
11573	春	英語圏の文学・文化概論 a	上野 直子	木5	2	1		16
11576	秋	英語圏の文学・文化概論 a	上野 直子	木4	2	1		16
11574	秋	英語圏の文学・文化概論 a	上野 直子	木5	2	1		16
11270	秋	英語圏の文学・文化概論 b	藤田 永祐	金3	2	1		17
11581	春	文化コミュニケーション概論 a	板場 良久	水2	2	1		18
11579	春	文化コミュニケーション概論 a	柿田 秀樹	水2	2	1		19
08772	春	文化コミュニケーション概論 b	工藤 和宏	月4	2	1		20
11583	秋	文化コミュニケーション概論 a	板場 良久	水2	2	1		18
11582	秋	文化コミュニケーション概論 a	柿田 秀樹	水2	2	1		19
11255	秋	文化コミュニケーション概論 b	工藤 和宏	月4	2	1		20
11585	春	国際コミュニケーション概論 a(a,bは担当者を変えて履修)	佐野 康子	水2	2	1	言	21
11584	春	国際コミュニケーション概論 a(a,bは担当者を変えて履修)	永野 隆行	水2	2	1	言	22
11580	秋	国際コミュニケーション概論 b(a,bは担当者を変えて履修)	佐野 康子	水2	2	1	言	21
11586	秋	国際コミュニケーション概論 b(a,bは担当者を変えて履修)	永野 隆行	水2	2	1	言	22
11091	春	英語音声学	青柳 真紀子	火1	2	1		11
11093	春	英語音声学	大西 雅行	木1	2	1		12
11092	秋	英語音声学	青柳 真紀子	火1	2	1		11
11094	秋	英語音声学	大西 雅行	木1	2	1		12
	春	スピーチ・クリニック(定員25名)	清水 由理子	月3	2	1		186
	秋	スピーチ・クリニック(定員25名)	清水 由理子	月3	2	1		186

学科共通科目

◆学科共通科目 履修登録時の注意事項◆

①学科共通科目は、春秋別々に履修登録が必要です。すべての科目が抽選となりますので、必ず抽選日程を確認し、オンライン登録を行ってください。

②ただし、次の科目は a・b セットで履修となります。

「英語専門講読 a・b」、「Debate a・b」、「Public Speaking a・b」

上記の科目は、春学期に登録が必要です。秋学期からは登録できません。

秋学期にb科目の削除は可能ですが、学習効果が下がりますので、十分検討して応募してください。

③科目によって、既修条件、あるいは一定レベルのTOEIC・TOEFLのスコアを取得していることが条件のものがああります。『シラバス』の「科目特性表」を参照してください。

レベルはTOEIC®・TOEFL®のスコアによって次の3つのレベルにきめられています。

レベルA・・・TOEIC®700点以上・TOEFL® PBT 520点、CBT 190点、iBT68点以上を取得している者

レベルB・・・TOEIC®600点以上・TOEFL® PBT 480点、CBT 157点、iBT54点以上を取得している者

レベルC・・・TOEIC®500点以上・TOEFL® PBT 440点、CBT 123点、iBT41点以上を取得している者

*レベルが既修条件となっている科目を履修する場合、学内で受験したTOEICスコアが条件を満たしていれば手続きなしで登録可能です。

*学外で受験したTOEICスコアを利用したい場合は、スコアを証明する書類のコピーを教務課外国語学部担当係まで提出してください。

「英語専門講読 a,b」 (a, bセット履修)

【既修条件】英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,b
またはHONORS ENGLISH 1 a,bを修得していること

【定員30名】

時間割 コード	開講 区分	科目名(副題)	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
春秋	Language, Culture and Communication	C. B. 池口	火2	2	2	60		
春秋	Literary fiction and documentary studies	E. カーニイ	水1	2	2	61		
春	Education & Culture	J. J. ダゲン	木2/木3	2	2	62		
春秋	Canadian Culture and Society	K. ミーハン	月1	2	2	63		
春秋	James Joyce	M. フッド	水3	2	2	64		
春秋	Education	N. H. ジョスト	水1	2	2	65		
春秋	Pragmatics	T. ヒル	月3	2	2	66		
春秋	Exploring Learning	T. マーフィー	月4	2	2	67		
春秋	音声知覚のしくみと発達入門	青柳 真紀子	火3	2	2	68		
春	Exploring Language Teaching	浅岡 千利世	火3/火4	2	2	69		
春秋	米国の東アジア政策	阿部 純一	土2	2	2	70		
春秋	異文化コミュニケーション論	石井 敏	金1	2	2	71		
春秋	文化とコミュニケーション	石井 敏	金2	2	2	72		
春秋	アメリカのナショナリズムを読み解く:理論編	板場 良久	火3	2	2	73		
春秋	大西洋世界とブラックディアスポラ	上野 直子	火4	2	2	74		
春秋	Allen Ginsberg精読	遠藤 朋之	金2	2	2	75		
春秋	ディズニー・アニメの歴史をたどる	大木 理恵子	火3	2	2	76		
春秋	ことばと音声のしくみ	大西 雅行	木2	2	2	77		
春秋	アメリカ黒人の歴史	岡田 誠一	月4	2	2	78		
春秋	映画批評	柿田 秀樹	火5	2	2	79		
春秋	アメリカ文学: John Steinbeckの作品を読む	金谷 優子	金4	2	2	80		
秋	アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係	金子 芳樹	月4/月5	2	2	81		
春秋	『ヨブ記』をRevised Versionで読む	川崎 潔	木2	2	2	82		
春秋	SLA実証研究論文	木村 恵	金3	2	2	83		

春秋	コミュニケーションと文化	工藤 和宏	月3	2	2	84
春秋	オーストラリアの詩	国見 晃子	火3	2	2	85
春秋	英語圏の現代演劇	児嶋 一男	火2	2	2	86
春秋	文法と認知	小早川 暁	火3	2	2	87
春秋	英国ユダヤ人史	佐藤 唯行	木4	2	2	88
春秋	物語を楽しむ	佐藤 勉	金3	2	2	89
春秋	現代国際関係論	佐野 康子	木3	2	2	90
春秋	アメリカ小説	島田 啓一	金3	2	2	91
春秋	イギリス児童文学	白鳥 正孝	月3	2	2	92
春秋	各種英文ビジネス文書の読み方と実務	杉山 晴信	金3	2	2	93
春秋	生成文法理論への誘い	鈴木 英一	水1	2	2	94
春秋	異文化理解の視点	瀬戸 千尋	火3	2	2	95
春秋	20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人	高田 宣子	火4	2	2	96
春秋	グローバル社会論－世界のトレンドを読む－	竹田 いさみ	火2	2	2	97
春秋	現代国際関係論	永野 隆行	月4	2	2	98
春秋	インタビューやニュースのスク립トを読む	鍋倉 健悦	月4	2	2	99
春秋	動詞の文法	府川 謹也	火1	2	2	100
春秋	キリスト教への理解	福井 嘉彦	火3	2	2	101
春秋	現代の親しみやすいエッセイ	藤田 永祐	木1	2	2	102
春秋	シェイクスピア	前沢 浩子	木3	2	2	103
春秋	言語・非言語とコミュニケーション	町田 喜義	木3 火1	2	2	104
春秋	生成文法の基礎	水口 学	月2	2	2	105
春秋	黒人表現文化	三吉 美加	水3	2	2	106
春秋	告白詩を読む	山中 章子	木4	2	2	107

「英作文 a,b」

【既修条件】英語ライティング・ストラテジー a,b、またはレベルCを修得していること。

【定員】28名 ※英語パラグラフ・ライティング a,bの修得者は履修できません。

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08225	春	英作文 a	金子 節也	月3	2	2		108
08229	春	英作文 a	中村 燦	火3	2	2		109
08227	春	英作文 a	福井 嘉彦	水1	2	2		110
08226	秋	英作文 b	金子 節也	月3	2	2		108
08230	秋	英作文 b	中村 燦	火3	2	2		109
08228	秋	英作文 b	福井 嘉彦	水1	2	2		110

「英語エッセイ・ライティング a,b」

【既修条件】英語パラグラフ・ライティング a,b、または英作文 a,b、またはレベルBを修得していること。

【定員】28名

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08270	春	英語エッセイ・ライティング a	D. L. ブランケン	金3	2	2		111
08256	春	英語エッセイ・ライティング a	E. カーニィ	火1	2	2		112
08268	春	英語エッセイ・ライティング a	J. A. グレイ	水3	2	2		113
08260	春	英語エッセイ・ライティング a	J. ウォールドマン	木2	2	2		115
08272	春	英語エッセイ・ライティング a	K. ミーハン	月4	2	2		116
08262	春	英語エッセイ・ライティング a	M. ダーリン	月5	2	2		118
08266	春	英語エッセイ・ライティング a	M. フッド	水4	2	2		119
08264	春	英語エッセイ・ライティング a	T. J. フォトス	水2	2	2		120
08258	春	英語エッセイ・ライティング a	W. J. ベンフィールド	水3	2	2		121
08273	春	英語エッセイ・ライティング b	J. J. ダゲン	水2	2	2		114
08257	秋	英語エッセイ・ライティング b	E. カーニィ	火1	2	2		112
08269	秋	英語エッセイ・ライティング b	J. A. グレイ	水3	2	2		113
08261	秋	英語エッセイ・ライティング b	J. ウォールドマン	木2	2	2		115
08271	秋	英語エッセイ・ライティング b	L. K. ハーキンス	月3	2	2		117
08263	秋	英語エッセイ・ライティング b	M. ダーリン	月5	2	2		118
08267	秋	英語エッセイ・ライティング b	M. フッド	水4	2	2		119
08265	秋	英語エッセイ・ライティング b	T. J. フォトス	水2	2	2		120
08259	秋	英語エッセイ・ライティング b	W. J. ベンフィールド	水3	2	2		121

「翻訳a,b」

【既修条件】英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,b
またはHONORS ENGLISH 1 a,b、またはレベルCを修得していること

【定員】25名

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08274	春	翻訳 a	遠藤 朋之	木2	2	2		122
13603	春	翻訳 a	柴田 耕太郎	火4	2	2		124
08280	春	翻訳 a	高田 宣子	火5	2	2		125
08278	春	翻訳 a	藤田 永祐	木2	2	2		126
08276	春	翻訳 a	前沢 浩子	月2	2	2		127
08275	秋	翻訳 b	遠藤 朋之	木2	2	2		122
08277	秋	翻訳 b	片山 亜紀	火3	2	2		123
13606	秋	翻訳 b	柴田 耕太郎	火4	2	2		124
08281	秋	翻訳 b	高田 宣子	火5	2	2		125
08279	秋	翻訳 b	藤田 永祐	木2	2	2		126

「カレッジ・グラマー a,b」

【既修条件】英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,b
またはHONORS ENGLISH 1 a,b、またはレベルCを修得していること

【定員】32名

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
12830	春	カレッジ・グラマー a	小早川 暁	金3	2	2		128
11528	春	カレッジ・グラマー a	鈴木 英一	火3	2	2		129
11396	春	カレッジ・グラマー a	府川 謹也	水1	2	2		130
12826	春	カレッジ・グラマー a	藤田 永祐	金2	2	2		131
11398	春	カレッジ・グラマー a	本田 謙介	月2	2	2		132
12775	春	カレッジ・グラマー a	水口 学	月1	2	2		133
11525	春	カレッジ・グラマー a	毛利 秀高	木3	2	2		134
12831	秋	カレッジ・グラマー b	小早川 暁	金3	2	2		128
11529	秋	カレッジ・グラマー b	鈴木 英一	火3	2	2		129
11397	秋	カレッジ・グラマー b	府川 謹也	水1	2	2		130
12827	秋	カレッジ・グラマー b	藤田 永祐	金2	2	2		131
11399	秋	カレッジ・グラマー b	本田 謙介	月2	2	2		132
12776	秋	カレッジ・グラマー b	水口 学	月1	2	2		133
11526	秋	カレッジ・グラマー b	毛利 秀高	木3	2	2		134

「COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b」

【既修条件】SPEECH COMMUNICATION a,b またはレベルCを修得していること。

【定員】28名

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08296	春	COMMUNICATIVE ENGLISH I a	E. J. ナオウミ	火1	2	2		135
08290	春	COMMUNICATIVE ENGLISH I a	T. ヒル	火2	2	2		136
08297	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I b	E. J. ナオウミ	火1	2	2		135
08291	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I b	T. ヒル	火2	2	2		136

「COMMUNICATIVE ENGLISH II a,b」

【既修条件】ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b
またはレベルBを修得していること。

【定員】25名

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08326	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	C. B. 池口	火4	2	2		137
08328	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	D. L. ブランケン	水2	2	2		138
08342	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	D. ベーカー	木5	2	2		140
08803	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	D. マッキャン	木2	2	2		141

08352	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	K. ミーハン	金4	2	2	142
08346	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	M. フッド	水2	2	2	144
08332	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	N. ハミルトン	月1	2	2	145
08338	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	N. ハミルトン	火2	2	2	145
08350	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	P. アップス	水2	2	2	146
08354	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	P. M. ホーネス	月1	2	2	147
08334	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	T. J. フォトス	水4	2	2	148
08327	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	C. B. 池口	火4	2	2	137
08343	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	D. L. ブランケン	金3	2	2	138
08329	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	D. L. ブランケン	水2	2	2	139
08805	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	D. マッキヤン	木2	2	2	141
08353	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	K. ミーハン	金4	2	2	142
08344	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	L. K. ハーキンス	月1	2	2	143
08345	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	L. K. ハーキンス	金3	2	2	143
08347	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	M. フッド	水2	2	2	144
08333	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	N. ハミルトン	月1	2	2	145
08339	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	N. ハミルトン	火2	2	2	145
08351	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	P. アップス	水2	2	2	146
08355	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	P. M. ホーネス	月1	2	2	147
08335	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	T. J. フォトス	水4	2	2	148

「DISCUSSION a,b」

【既修条件】ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b
またはレベルBを修得していること。

【定員】20名

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08358	春	DISCUSSION a	D. L. ブランケン	水3	2	2		149
08356	春	DISCUSSION a	N. H. ジョスト	月3	2	2		150
11509	春	DISCUSSION a	R. J. バロウズ	火2	2	2		151
08360	春	DISCUSSION a	W. J. ベンフィールド	水1	2	2		152
08359	秋	DISCUSSION b	D. L. ブランケン	水3	2	2		149
08357	秋	DISCUSSION b	N. H. ジョスト	月3	2	2		150
11510	秋	DISCUSSION b	R. J. バロウズ	火2	2	2		151
08361	秋	DISCUSSION b	W. J. ベンフィールド	水1	2	2		152

「PUBLIC SPEAKING I a,b」(a,bセット履修)

【既修条件】ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b
またはレベルBを修得していること。

【定員】25名

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01388	春秋	PUBLIC SPEAKING I a,b	A. R. ファルヴォ	金1	2	1		153
01337	春秋	PUBLIC SPEAKING I a,b	P. マッケビリー	金2	2	1		154
00703	春秋	PUBLIC SPEAKING I a,b	門倉 弘枝	金4	2	1		155

「PUBLIC SPEAKING II a,b」(a,bセット履修)

【既修条件】ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b
またはレベルAを修得していること。

【定員】25名

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
07281	春秋	PUBLIC SPEAKING II a,b	E. カーニイ	月1	2	2		156

「DEBATE I a,b」(a,bセット履修)

【既修条件】ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b
またはレベルBを修得していること。

【定員】25名

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
00876	春秋	DEBATE I a,b	P. M. ホーネス	月2	2	1		157
11213	春秋	DEBATE I a,b	R. J. パロウズ	火3	2	1		158
01134	春秋	DEBATE I a,b	柿田 秀樹	火4	2	1		159

「DEBATE II a,b」(a,bセット履修)

【既修条件】ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b
またはレベルAを修得していること。

【定員】25名

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08808	春秋	DEBATE II a,b	N. H. ジョスト	火2	2	2		160

「通訳 I a,b」

【既修条件】ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b
またはレベルBを修得していること。

【定員】25名

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	通訳 I a	原口 友子	月4	2	1		161
	春	通訳 I a	原口 友子	月2	2	1		161
	秋	通訳 I b	原口 友子	月4	2	1		161
	秋	通訳 I b	原口 友子	月2	2	1		161

「通訳 II a,b」

【既修条件】通訳 I a,bまたはレベルAを修得していること。

【定員】25名

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	通訳 II a	原口 友子	月3	2	2		162
	秋	通訳 II b	原口 友子	月3	2	2		162

「英語ビジネス・コミュニケーション I a,b」

【既修条件】英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,b
またはHONORS ENGLISH 1 a,b、またはレベルCを修得していること

【定員】50名

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08366	春	英語ビジネス・コミュニケーション I a	海老沢 達郎	金3	2	2		163
08370	春	英語ビジネス・コミュニケーション I a	杉山 晴信	木3	2	2		164
08368	春	英語ビジネス・コミュニケーション I a	杉山 晴信	木4	2	2		165
08372	春	英語ビジネス・コミュニケーション I a	信 達郎	月1	2	2		166
08374	春	英語ビジネス・コミュニケーション I a	信 達郎	月2	2	2		166
08367	秋	英語ビジネス・コミュニケーション I b	海老沢 達郎	金3	2	2		163
08371	秋	英語ビジネス・コミュニケーション I b	杉山 晴信	木3	2	2		164
08369	秋	英語ビジネス・コミュニケーション I b	杉山 晴信	木4	2	2		165
08373	秋	英語ビジネス・コミュニケーション I b	信 達郎	月1	2	2		166
08375	秋	英語ビジネス・コミュニケーション I b	信 達郎	月2	2	2		166

「英語ビジネス・コミュニケーション II a,b」

【既修条件】英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,b
またはHONORS ENGLISH 1 a,b、またはレベルBを修得していること

【定員】45名

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08376	春	英語ビジネス・コミュニケーション II a	杉山 晴信	水2	2	2		167
08377	秋	英語ビジネス・コミュニケーション II b	杉山 晴信	水2	2	2		167

「メディア英語 I a,b」

【既修条件】英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,b
またはHONORS ENGLISH 1 a,b、またはレベルCを修得していること

【定員】40名

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08384	春	メディア英語 I a	W. J. ベンフィールド	水2	2	2		168
09087	春	メディア英語 I a	海老沢 達郎	火4	2	2		169
08390	春	メディア英語 I a	岡田 誠一	木4	2	2		170
08388	春	メディア英語 I a	岡田 誠一	月2	2	2		170
11552	春	メディア英語 I a	門倉 弘枝	金5	2	2		171
08382	春	メディア英語 I a	金子 節也	月4	2	2		172
08385	秋	メディア英語 I b	W. J. ベンフィールド	水2	2	2		168
09088	秋	メディア英語 I b	海老沢 達郎	火4	2	2		169
08391	秋	メディア英語 I b	岡田 誠一	木4	2	2		170
08389	秋	メディア英語 I b	岡田 誠一	月2	2	2		170
11553	秋	メディア英語 I b	門倉 弘枝	金5	2	2		171
08383	秋	メディア英語 I b	金子 節也	月4	2	2		172

「メディア英語 II a,b」

【既修条件】英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,b
またはHONORS ENGLISH 1 a,b、またはレベルBを修得していること

【定員】40名

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08394	春	メディア英語 II a	A. R. ファルヴォ	月1	2	2		173
08392	春	メディア英語 II a	遠藤 朋之	木3	2	2		174
08395	秋	メディア英語 II b	A. R. ファルヴォ	月1	2	2		173
08393	秋	メディア英語 II b	遠藤 朋之	木3	2	2		174

「シネマ英語 a,b」

【既修条件】英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,b
またはHONORS ENGLISH 1 a,b、またはレベルBを修得していること

【定員】35名

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08400	春	シネマ英語 a	岡田 誠一	木3	2	2		175
12717	春	シネマ英語 a	高橋 雄一郎	火4	2	2		176
08401	秋	シネマ英語 b	岡田 誠一	木3	2	2		175
08399	秋	シネマ英語 b	高橋 雄一郎	火4	2	2		176

学科専門科目

※a・bセットで履修する必要はありません。

◆言語コミュニケーション部門◆

時間割コード	開講区分	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
11543	春	言語情報処理 I a(定員50名)	木村 恵	木4	2	2		183
01509	春	言語情報処理 I a(定員50名)	吉成 雄一郎	金2	2	2		184
11544	秋	言語情報処理 I b(定員50名)	木村 恵	木4	2	2		183
01510	秋	言語情報処理 I b(定員50名)	吉成 雄一郎	金2	2	2		184
01541	春	言語情報処理 II a(定員45名)	吉成 雄一郎	金1	2	2		185
01542	秋	言語情報処理 II b(定員45名)	吉成 雄一郎	金1	2	2		185
01347	春	統語論a	安井 美代子	木2	2	2		187
01348	秋	統語論b	安井 美代子	木2	2	2		187
00790	春	意味論a	府川 謹也	金3	2	2		188
00791	秋	意味論b	府川 謹也	金3	2	2		188
00799	春	音声・音韻論a	大西 雅行	火1	2	2		189
00800	秋	音声・音韻論b	大西 雅行	火1	2	2		189
09829	春	英語史a(2005年度以降入学生は履修できません。)	毛利 秀高	木4	2	2		190
09830	秋	英語史b(2005年度以降入学生は履修できません。)	毛利 秀高	木4	2	2		190
01149	春	英語学特殊講義a	小早川 暁	金4	2	2		191
01150	秋	英語学特殊講義b	小早川 暁	金4	2	2		191
08784	春	英語学文献研究a(定員25名)	鈴木 英一	木5	2	3		192
08785	秋	英語学文献研究b(定員25名)	鈴木 英一	木5	2	3		192

◆文学コミュニケーション部門◆

時間割コード	開講区分	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
10274	春	英語圏の小説 a(定員100名)	藤田 永祐	金3	2	2		194
09060	秋	英語圏の小説 b(定員100名)	片山 亜紀	木3	2	2		194
08205	春	英語圏の詩 a(定員100名)	白鳥 正孝	月4	2	2		195
08206	秋	英語圏の詩 b(定員100名)	白鳥 正孝	月4	2	2		195
08207	春	英語圏の演劇 a(定員100名)	児嶋 一男	月3	2	2		196
08208	秋	英語圏の演劇 b(定員100名)	児嶋 一男	月3	2	2		196
08209	春	英語圏の社会と思想 a(定員100名)	福井 嘉彦	火2	2	2		197
08210	秋	英語圏の社会と思想 b(定員100名)	福井 嘉彦	火2	2	2		197
08211	春	英語圏の歴史 a	佐藤 唯行	木2	2	2		198
08212	秋	英語圏の歴史 b	佐藤 唯行	木2	2	2		198
08213	春	英語圏のエリア・スタディーズ a(定員200名)	前沢 浩子	水3	2	2		199
08214	秋	英語圏のエリア・スタディーズ b(定員200名)	前沢 浩子	水3	2	2		199
10657	春	英語圏の文学・文化特殊講義 a	上野 直子	月3	2	3		200
13704	春	英語圏の文学・文化特殊講義 a	遠藤 充信	金3	2	3		201
12718	春	英語圏の文学・文化特殊講義 a	高橋 雄一郎	水2	2	3		202
13703	秋	英語圏の文学・文化特殊講義 b	遠藤 充信	金3	2	3		201
11271	秋	英語圏の文学・文化特殊講義 b	高橋 雄一郎	水2	2	3		202
11539	秋	英語圏の文学・文化特殊講義 b	前沢 浩子	月2	2	3		200
10243	秋	英語圏の文学・文化文献研究 b(定員25名)	高橋 雄一郎	火3	2	3		203

◆異文化コミュニケーション部門◆

時間割コード	開講区分	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
01434	春	異文化間コミュニケーション論a(a,bは担当者を変えて履修)	工藤 和宏	月5	2	2	言	204
01238	春	異文化間コミュニケーション論a(a,bは担当者を変えて履修)	鍋倉 健悦	月5	2	2	言	205
01435	秋	異文化間コミュニケーション論b(a,bは担当者を変えて履修)	工藤 和宏	月5	2	2	言	204
01239	秋	異文化間コミュニケーション論b(a,bは担当者を変えて履修)	鍋倉 健悦	月5	2	2	言	205
01393	春	マス・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	木3	2	2	言	206
01394	秋	マス・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	木3	2	2	言	206
01108	春	スピーチ・コミュニケーション論a	板場 良久	月2	2	2		207
00977	春	スピーチ・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	火3	2	2		208

01169	秋	スピーチ・コミュニケーション論b	板場 良久	月2	2	2		207
00978	秋	スピーチ・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	火3	2	2		208
01360	春	コミュニケーション論特殊講義a	佐々木 輝美	木3	2	3		209
01361	秋	コミュニケーション論特殊講義b	佐々木 輝美	木3	2	3		209
00975	春	コミュニケーション論文献研究a(定員25名)	町田 喜義	火2	2	3		210
01511	秋	コミュニケーション論文献研究b(定員25名)	町田 喜義	火2	2	3		210

◆国際コミュニケーション部門◆

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08215	春	国際社会論 a (a,bは担当者を変えて履修すること)	竹田 いさみ	月3	2	2		211
08217	春	国際社会論 a (a,bは担当者を変えて履修すること)	永野 隆行	月3	2	2		212
08218	秋	国際社会論 b (a,bは担当者を変えて履修すること)	竹田 いさみ	月3	2	2		212
08216	秋	国際社会論 b (a,bは担当者を変えて履修すること)	金子 芳樹	月3	2	2		211
00743	春	国際関係史a	永野 隆行	月2	2	2	法	213
00732	秋	国際関係史b	永野 隆行	月2	2	2	法	213
00945	秋	国際開発協力論a	金子 芳樹	水1	2	2		214
00917	春	国際開発協力論b	竹田 いさみ	火3	2	2		214
13706	春	国際関係論特殊講義a	遠藤 充信	金4	2	2		218
12778	秋	国際関係論特殊講義b	石川 幸子	木2	2	2		219
13705	秋	国際関係論特殊講義b	遠藤 充信	金4	2	2		218
01501	秋	国際関係論特殊講義b	金子 芳樹	火2	2	2		220
13590	秋	国際関係論特殊講義b	小松 諄悦	金2	2	2		221
01502	秋	国際関係論特殊講義b	竹田 いさみ	火3	2	2		222
00935	春	国際関係論文献研究a	竹田 いさみ	火1	2	3		223
00961	秋	国際関係論文献研究b	竹田 いさみ	火1	2	3		223

時間割 コード	開講 区分	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
10222	春	特別セミナー(CAEL)(定員52名)	高木 亜希子	水3	2	2		224
10223	秋	特別セミナー(CAEL)(定員52名)	高木 亜希子	水3	2	2		224

◆「外国語学部共通科目」は「英語学科授業科目」のあとに掲載しています(目次含む)。

英語学科授業科目（2002年度入学生用）

※開講期が通年で曜時が2つある場合は、春学期／秋学期の記載です。

目次

学科基礎科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
11524	通年	英語リーディング・ストラテジーズ	白鳥 正孝／福井 嘉彦	木4／木1	2	1	全	25
13608	春	英語リーディング・ストラテジーズ	福井 嘉彦／白鳥 正孝	木1／木4	2	1	全	25
11517	通年	英語リーディング・ストラテジーズ	山中 章子	木5	2	1	全	25
11504	通年	READING COMPREHENSION	J. A. グレイ	水5	2	1	全	26
12123	通年	英語専門講読入門	佐野 康子	火2	2	2	全	27
11507	通年	SPEECHCOMMUNICATION	R. M. ペイン	金2	2	1	全	23
11514	通年	英語ライティング・ストラテジーズ	川崎 潔	木1	2	1	全	24
11567	通年	英語学概論	鈴木 英一／安井 美代子	木4／木1	4	1		13・14
11570	通年	英語学概論	府川 謹也／鈴木 英一	金1／木4	4	1		13・15
11569	通年	英語学概論	安井 美代子／府川 謹也	木1／金1	4	1		14・15
11571	通年	英語学概論	鈴木 英一／府川 謹也	木4／金1	4	1		13・15
11572	通年	英語学概論	府川 謹也／安井 美代子	金1／木1	4	1		14・15
11568	通年	英語学概論	安井 美代子／鈴木 英一	木1／木4	4	1		13・14
11578	通年	英米文学概論	上野 直子／藤田 永祐	木5／金3	4	1		16・17
11577	通年	英米文学概論	上野 直子／藤田 永祐	木4／金3	4	1		16・17
11588	通年	国際コミュニケーション概論	工藤 和宏／永野 隆行	月4／水2	4	1	言	20・22
11589	通年	国際コミュニケーション概論	永野 隆行／工藤 和宏	水2／月4	4	1	言	20・22
12104	通年	国際コミュニケーション概論	柿田 秀樹／永野 隆行	水2	4	1	言	19・22
12105	通年	国際コミュニケーション概論	永野 隆行／柿田 秀樹	水2	4	1	言	19・22
11091	春	英語音声学	青柳 真紀子	火1	2	1		11
11092	秋	英語音声学	青柳 真紀子	火1	2	1		11
11093	春	英語音声学	大西 雅行	木1	2	1		12
11094	秋	英語音声学	大西 雅行	木1	2	1		12
	春	スピーチ・クリニック(定員25名)	清水 由理子	月3	2	2		186
	秋	スピーチ・クリニック(定員25名)	清水 由理子	月3	2	2		186

学科共通科目

レベルはTOEIC®・TOEFL®のスコアによって次の3つのレベルにきめられています。

レベルA・・・TOEIC®700点以上・TOEFL® PBT 520点、CBT 190点、iBT68点以上を取得している者

レベルB・・・TOEIC®600点以上・TOEFL® PBT 480点、CBT 157点、iBT54点以上を取得している者

レベルC・・・TOEIC®500点以上・TOEFL® PBT 440点、CBT 123点、iBT41点以上を取得している者

*レベルが既修条件となっている科目を履修する場合、学内で受験したTOEICスコアが条件を満たしていれば手続きなしで登録可能です。

*学外で受験したTOEICスコアを利用したい場合は、スコアを証明する書類のコピーを教務課外国語学部担当係まで提出してください。

英語専門講読

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびReading ComprehensionまたはHonors English 1を修得していること

[定員30名]

時間割 コード	開講期	科目名(副題)	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	Language, Culture and Communication	C. B. 池口	火2	4	2		60
	通年	Literary fiction and documentary studies	E. カーニィ	水1	4	2		61
	春	Education & Culture	J. J. ダゲン	木2／木3	4	2		62

通年	Canadian Culture and Society	K. ミーハン	月1	4	2	63
通年	James Joyce	M. フッド	水3	4	2	64
通年	Education	N. H. ジョスト	水1	4	2	65
通年	Pragmatics	T. ヒル	月3	4	2	66
通年	Exploring Learning	T. マーフィー	月4	4	2	67
通年	音声知覚のしくみと発達入門	青柳 真紀子	火3	4	2	68
春	Exploring Language Teaching	浅岡 千利世	火3/火4	4	2	69
通年	米国の東アジア政策	阿部 純一	土2	4	2	70
通年	異文化コミュニケーション論	石井 敏	金1	4	2	71
通年	文化とコミュニケーション	石井 敏	金2	4	2	72
通年	アメリカのナショナリズムを読み解く:理論編	板場 良久	火3	4	2	73
通年	大西洋世界とブラックディアスポラ	上野 直子	火4	4	2	74
通年	Allen Ginsberg精読	遠藤 朋之	金2	4	2	75
通年	ディズニー・アニメの歴史をたどる	大木 理恵子	火3	4	2	76
通年	ことばと音声のしくみ	大西 雅行	木2	4	2	77
通年	アメリカ黒人の歴史	岡田 誠一	月4	4	2	78
通年	映画批評	柿田 秀樹	火5	4	2	79
通年	アメリカ文学: John Steinbeckの作品を読む	金谷 優子	金4	4	2	80
秋	アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係	金子 芳樹	月4/月5	4	2	81
通年	『ヨブ記』をRevised Versionで読む	川崎 潔	木2	4	2	82
通年	SLA実証研究論文	木村 恵	金3	4	2	83
通年	コミュニケーションと文化	工藤 和宏	月3	4	2	84
通年	オーストラリアの詩	国見 晃子	火3	4	2	85
通年	英語圏の現代演劇	児嶋 一男	火2	4	2	86
通年	文法と認知	小早川 暁	火3	4	2	87
通年	英国ユダヤ人史	佐藤 唯行	木4	4	2	88
通年	物語を楽しむ	佐藤 勉	金3	4	2	89
通年	現代国際関係論	佐野 康子	木3	4	2	90
通年	アメリカ小説	島田 啓一	金3	4	2	91
通年	イギリス児童文学	白鳥 正孝	月3	4	2	92
通年	各種英文ビジネス文書の読み方と実務	杉山 晴信	金3	4	2	93
通年	生成文法理論への誘い	鈴木 英一	水1	4	2	94
通年	異文化理解の視点	瀬戸 千尋	火3	4	2	95
通年	20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人	高田 宣子	火4	4	2	96
通年	グローバル社会論－世界のトレンドを読む－	竹田 いさみ	火2	4	2	97
通年	現代国際関係論	永野 隆行	月4	4	2	98
通年	インタビューやニュースのスク립トを読む	鍋倉 健悦	月4	4	2	99
通年	動詞の文法	府川 謹也	火1	4	2	100
通年	キリスト教への理解	福井 嘉彦	火3	4	2	101
通年	現代の親しみやすいエッセイ	藤田 永祐	木1	4	2	102
通年	シェイクスピア	前沢 浩子	木3	4	2	103
通年	言語・非言語とコミュニケーション	町田 喜義	木3/火1	4	2	104
通年	生成文法の基礎	水口 学	月2	4	2	105
通年	黒人表現文化	三吉 美加	水3	4	2	106
通年	告白詩を読む	山中 章子	木4	4	2	107

英作文

[既修条件]英語ライティング・ストラテジーズ またはレベルCを修得していること
[定員28名] ※英語パラグラフ・ライティングの修得者は履修できません。

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
00821	通年	英作文	金子 節也	月3	4	2		108
01142	通年	英作文	中村 粲	火3	4	2		109
01249	通年	英作文	福井 嘉彦	水1	4	2		110

英語エッセイ・ライティング

[既修条件]英語パラグラフ・ライティング、英作文またはレベルBを修得していること
[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
00788	通年	英語エッセイ・ライティング	D. L. ブランケン/L. K. ハーキンス	金3/月3	4	2		111-117
00721	通年	英語エッセイ・ライティング	E. カーニ	火1	4	2		112

01160	通年	英語エッセイ・ライティング	J. A. グレイ	水3	4	2	113
01074	春	英語エッセイ・ライティング	K. ミーハン/J. J. ダゲン	月4/水2	4	2	114・116
01144	通年	英語エッセイ・ライティング	J. ウォールドマン	木2	4	2	115
00720	通年	英語エッセイ・ライティング	M. ダーリン	月5	4	2	118
01089	通年	英語エッセイ・ライティング	M. フッド	水4	4	2	119
01075	通年	英語エッセイ・ライティング	T. J. フォトス	水2	4	2	120
01508	通年	英語エッセイ・ライティング	W. J. ベンフィールド	水3	4	2	121

英日翻訳

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSIONまたはHONORS ENGLISH 1またはレベルCを修得していること

[定員25名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
01188	通年	英日翻訳	遠藤 朋之	木2	4	2		122
01111	通年	英日翻訳	前沢 浩子/片山 亜紀	月2/火3	4	2		123・127
13601	通年	英日翻訳	柴田 耕太郎	火4	4	2		124
01514	通年	英日翻訳	高田 宣子	火5	4	2		125
10277	通年	英日翻訳	藤田 永祐	木2	4	2		126

カレッジ・グラマー

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSIONまたはHONORS ENGLISH 1またはレベルCを修得していること

[定員32名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
12833	通年	カレッジ・グラマー	小早川 暁	金3	4	2		128
11530	通年	カレッジ・グラマー	鈴木 英一	火3	4	2		129
11395	通年	カレッジ・グラマー	府川 謹也	水1	4	2		130
12829	通年	カレッジ・グラマー	藤田 永祐	金2	4	2		131
11400	通年	カレッジ・グラマー	本田 謙介	月2	4	2		132
12774	通年	カレッジ・グラマー	水口 学	月1	4	2		133
11527	通年	カレッジ・グラマー	毛利 秀高	木3	4	2		134

COMMUNICATIVE ENGLISH I

[既修条件]SPEECH COMMUNICATIONまたはレベルCを修得していること

[定員28名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
01140	通年	CommunicativeEngl. I	E. J. ナオウミ	火1	4	2		135
00957	通年	CommunicativeEngl. I	T. ヒル	火2	4	2		136

COMMUNICATIVE ENGLISH II

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
00992	通年	CommunicativeEngl. II	C. B. 池口	火4	4	2		137
01219	通年	CommunicativeEngl. II	D. ペーカー/D. L. ブランケン	木5/金3	4	2		138・140
00928	通年	CommunicativeEngl. II	D. L. ブランケン	水2	4	2		139
08801	通年	CommunicativeEngl. II	D. マツキャン	木2	4	2		141
01145	通年	CommunicativeEngl. II	K. ミーハン	金4	4	2		142
01453	通年	CommunicativeEngl. II	M. フッド	水2	4	2		144
00787	通年	CommunicativeEngl. II	N. ハミルトン	火2	4	2		145
00737	通年	CommunicativeEngl. II	N. ハミルトン	月1	4	2		145
01465	通年	CommunicativeEngl. II	P. アップス	水2	4	2		146
01332	通年	CommunicativeEngl. II	P. M. ホーネス	月1	4	2		147
00742	通年	CommunicativeEngl. II	T. J. フォトス	水4	4	2		148

DISCUSSION

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルBを修得していること

[定員20名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
00789	通年	Discussion	D. L. ブランケン	水3	4	2		149
01096	通年	Discussion	N. H. ジョスト	月3	4	2		150
11227	通年	Discussion	R. J. バロウズ	火2	4	2		151
00837	通年	Discussion	W. J. ベンフィールド	水1	4	2		152

PUBLIC SPEAKING I

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08410	通年	PublicSpeaking I	A. R. ファルヴォ	金1	4	1		153
01339	通年	PublicSpeaking I	P. マッケビリー	金2	4	1		154
11521	通年	PublicSpeaking I	門倉 弘枝	金4	4	1		155

PUBLIC SPEAKING II

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルAを修得していること

[定員25名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08411	通年	PublicSpeaking II	E. カーニ	月1	4	2		156

DEBATE I

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
00851	通年	Debate I	P. M. ホーネス	月2	4	1		157
11215	通年	Debate I	R. J. バロウズ	火3	4	1		158
01072	通年	Debate I	柿田 秀樹	火4	4	1		159

DEBATE II

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルAを修得していること

[定員25名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08807	通年	Debate II	N. H. ジョスト	火2	4	2		160

通訳 I

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	通年	通訳 I	原口 友子	月4	4	1		161
	通年	通訳 I	原口 友子	月2	4	1		161

通訳 II

[既修条件]通訳 I またはレベルAを修得していること

[定員25名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	通年	通訳 II	原口 友子	月3	4	2		162

英語ビジネス・コミュニケーション I

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSIONまたはHONORS ENGLISH 1またはレベルCを修得していること

[定員50名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
01459	通年	英語ビジネス・コミュニケーション I	海老沢 達郎	金3	4	2		163
01299	通年	英語ビジネス・コミュニケーション I	杉山 晴信	木3	4	2		164
01433	通年	英語ビジネス・コミュニケーション I	杉山 晴信	木4	4	2		165
00739	通年	英語ビジネス・コミュニケーション I	信 達郎	月1	4	2		166
10675	通年	英語ビジネス・コミュニケーション I	信 達郎	月2	4	2		166

英語ビジネス・コミュニケーション II

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSIONまたはHONORS ENGLISH 1またはレベルBを修得していること

[定員45名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
01356	通年	英語ビジネス・コミュニケーション II	杉山 晴信	水2	4	2		167

メディア英語 I

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSION またはHONORS ENGLISH 1またはレベルCを修得していること

[定員40名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
01147	通年	メディア英語 I	W. J. ベンフィールド	水2	4	2		168
09085	通年	メディア英語 I	海老沢 達郎	火4	4	2		169
01298	通年	メディア英語 I	岡田 誠一	月2	4	2		170
01355	通年	メディア英語 I	岡田 誠一	木4	4	2		170
11554	通年	メディア英語 I	門倉 弘枝	金5	4	2		171
00815	通年	メディア英語 I	金子 節也	月4	4	2		172

メディア英語 II

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSIONまたはHONORS ENGLISH 1またはレベルBを修得していること

[定員40名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
01260	通年	メディア英語 II	A. R. ファルヴォ	月1	4	2		173
00973	通年	メディア英語 II	遠藤 朋之	木3	4	2		174

シネマ英語

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSIONまたはHONORS ENGLISH 1またはレベルBを修得していること

[定員35名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
00861	通年	シネマ英語	岡田 誠一	木3	4	2		175
13591	通年	シネマ英語	高橋 雄一郎	火4	4	2		176

第二外国語

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08877	通年	ドイツ語ⅢB〔文章表現法〕	永岡 敦	火4	2	3	全	177
08985	通年	フランス語Ⅲ	松橋 麻利	木2	2	3	全	178
01276	通年	スペイン語Ⅲ	北岸 団	月3	2	3	全	179
08984	通年	フランス語会話 I	H. ドリエップ	金2	2	3	全	180
01500	通年	スペイン語会話 I〔総合〕	J. フェレーラス	金5	2	3	全	181

学科専門科目

「言語情報」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
11543	春	言語情報処理Ⅰa(定員50名)	木村 恵	木4	2	2		183
01509	春	言語情報処理Ⅰa(定員50名)	吉成 雄一郎	金2	2	2		184
11544	秋	言語情報処理Ⅰb(定員50名)	木村 恵	木4	2	2		183
01510	秋	言語情報処理Ⅰb(定員50名)	吉成 雄一郎	金2	2	2		184
01541	春	言語情報処理Ⅱa(定員40名)	吉成 雄一郎	金1	2	2		185
01542	秋	言語情報処理Ⅱb(定員40名)	吉成 雄一郎	金1	2	2		185
01347	春	統語論a	安井 美代子	木2	2	2		187
01348	秋	統語論b	安井 美代子	木2	2	2		187
00790	春	意味論a	府川 謹也	金3	2	2		188
00791	秋	意味論b	府川 謹也	金3	2	2		188
00799	春	音声・音韻論a	大西 雅行	火1	2	2		189
00800	秋	音声・音韻論b	大西 雅行	火1	2	2		189
09829	春	英語史a	毛利 秀高	木4	2	2		190
09830	秋	英語史b	毛利 秀高	木4	2	2		190
01149	春	英語学特殊講義a	小早川 暁	金4	2	2		191
01150	秋	英語学特殊講義b	小早川 暁	金4	2	2		191
08784	春	英語学文献研究a(定員25名)	鈴木 英一	木5	2	3		192
08785	秋	英語学文献研究b(定員25名)	鈴木 英一	木5	2	3		192

「文学文化」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
08822	春	英米の小説a(定員100名)	藤田 永祐	金3	2	2		194
09059	秋	英米の小説b(定員100名)	片山 亜紀	木3	2	2		194
01151	春	英米の詩a(定員100名)	白鳥 正孝	月4	2	2		195
01156	秋	英米の詩b(定員100名)	白鳥 正孝	月4	2	2		195
00843	春	英米の演劇a(定員100名)	児嶋 一男	月3	2	2		196
00844	秋	英米の演劇b(定員100名)	児嶋 一男	月3	2	2		196
01166	秋	英米文学文献研究b(定員25名)	高橋 雄一郎	火3	2	3		203
00740	春	英米の社会と思想a(定員100名)	福井 嘉彦	火2	2	2		197
00741	秋	英米の社会と思想b(定員100名)	福井 嘉彦	火2	2	2		197
01295	春	英米の歴史a	佐藤 唯行	木2	2	2		198
01296	秋	英米の歴史b	佐藤 唯行	木2	2	2		198
01211	春	英米事情a(定員200名)	前沢 浩子	水3	2	2		199
01212	秋	英米事情b(定員200名)	前沢 浩子	水3	2	2		199
01006	春	英語圏文化特殊講義a	上野 直子	月3	2	3		200
11538	秋	英語圏文化特殊講義b	前沢 浩子	月2	2	3		200

「国際コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
00818	春	国際政治論a (a,bは担当者を変えて履修)	竹田 いさみ	月3	2	2		211
00817	春	国際政治論a (a,bは担当者を変えて履修)	永野 隆行	月3	2	2		212
00816	秋	国際政治論b (a,bは担当者を変えて履修)	金子 芳樹	月3	2	2		211
00819	秋	国際政治論b (a,bは担当者を変えて履修)	竹田 いさみ	月3	2	2		212
00743	春	国際関係史a	永野 隆行	月2	2	2		213
00732	秋	国際関係史b	永野 隆行	月2	2	2		213
00945	秋	国際開発協力論a	金子 芳樹	水1	2	2	法	214
00917	春	国際開発協力論b	竹田 いさみ	火3	2	2	法	214
13706	春	国際関係論特殊講義a	遠藤 充信	金4	2	2		218
13705	秋	国際関係論特殊講義b	遠藤 充信	金4	2	2		218
01502	秋	国際関係論特殊講義b	竹田 いさみ	火3	2	2		222
01501	秋	国際関係論特殊講義b	金子 芳樹	火2	2	2		220
12778	秋	国際関係論特殊講義b	石川 幸子	木2	2	2		219
13590	秋	国際関係論特殊講義b	小松 諄悦	金2	2	2		221

00935	春	国際関係論文献研究a(定員25名)	竹田 いさみ	火1	2	3	223
00961	秋	国際関係論文献研究b(定員25名)	竹田 いさみ	火1	2	3	223
01238	春	異文化間コミュニケーション論a(a.biは担当者を変えて履修)	鍋倉 健悦	月5	2	2	言 205
01434	春	異文化間コミュニケーション論a(a.biは担当者を変えて履修)	工藤 和宏	月5	2	2	言 204
01239	秋	異文化間コミュニケーション論b(a.biは担当者を変えて履修)	鍋倉 健悦	月5	2	2	言 205
01435	秋	異文化間コミュニケーション論b(a.biは担当者を変えて履修)	工藤 和宏	月5	2	2	言 204
01393	春	マス・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	木3	2	2	206
01394	秋	マス・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	木3	2	2	206
01108	春	スピーチ・コミュニケーション論a	板場 良久	月2	2	2	207
00977	春	スピーチ・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	火3	2	2	208
01169	秋	スピーチ・コミュニケーション論b	板場 良久	月2	2	2	207
00978	秋	スピーチ・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	火3	2	2	208
01360	春	コミュニケーション論特殊講義a	佐々木 輝美	木3	2	3	209
01361	秋	コミュニケーション論特殊講義b	佐々木 輝美	木3	2	3	209
00975	春	コミュニケーション論文献研究a(定員25名)	町田 喜義	火2	2	3	210
01511	秋	コミュニケーション論文献研究b(定員25名)	町田 喜義	火2	2	3	210
10222	春	特別セミナー(CAEL)(定員52名)	高木 亜希子	水3	2	2	224
10223	秋	特別セミナー(CAEL)(定員52名)	高木 亜希子	水3	2	2	224

◆「外国語学部共通科目」は『全学共通授業科目シラバス』に掲載しています。

学則別表(1998年~2001年度入学者用)

科目群	部門	科目	単位	言語情報コース			文学文化コース			国際コミュニケーションコース		
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	第2外国語	ドイツ語Ⅰ	2		4			4			4	
		フランス語Ⅰ	2									
		スペイン語Ⅰ	2									
		ドイツ語Ⅱ	2		4			4			4	
		フランス語Ⅱ	2									
	スペイン語Ⅱ	2										
	英語	英語Ⅰ	2	4			4			4		
		英語Ⅱ	2	2			2			2		
		英語Ⅲ	2	2			2			2		
		英語Ⅳ	2	2			2			2		
英語学概論		4	4			4			4			
英米文学概論		4	4			4			4			
国際コミュニケーション概論		4	4			4			4			
英語音声学	*2	2			2			2				
スピーチクリニック	*2											
学科共通科目	英語	専門講義	4	12			12			12		
		英作文	4									
		エッセイライティング	4									
		翻訳Ⅰ	4	4			4			4		
		翻訳Ⅱ	4									
		英文法	4									
		ConversationⅠ	4									
		ConversationⅡ	4									
		Discussion	4									
		スピーチ	4	4			4			4		
		ディベート	4									
		通訳Ⅰ	4									
	通訳Ⅱ	4										
	ビジネス英語Ⅰ	4										
	ビジネス英語Ⅱ	4										
	時事英語Ⅰ	4										
	時事英語Ⅱ	4			20			24			24	
	第2外国語	ドイツ語Ⅲ	2									
		フランス語Ⅲ	2									
		スペイン語Ⅲ	2									
ドイツ語Ⅳ		2										
フランス語Ⅳ		2										
スペイン語Ⅳ		2										
ドイツ語会話Ⅰ		2										
フランス語会話Ⅰ		2										
スペイン語会話Ⅰ		2										
ドイツ語会話Ⅱ		2										
フランス語会話Ⅱ		2										
スペイン語会話Ⅱ		2										
言語情報		言語情報処理Ⅰa	*2									
		言語情報処理Ⅰb	*2		4							
		言語情報処理Ⅱa	*2									
		言語情報処理Ⅱb	*2									
		統語論a	*2	2								
		統語論b	*2	2								
	意味論a	*2										
	意味論b	*2										
	音声・音韻論a	*2										
	音声・音韻論b	*2										
	英語史a	*2			12							
	英語史b	*2										
英語学特殊講義a	*2											
英語学特殊講義b	*2											
英語学文献研究a	*2											
英語学文献研究b	*2											
文学文化	英米文学史a	*2				2						
	英米文学史b	*2				2						
	英米の小説a	*2										
	英米の小説b	*2										
	英米の詩a	*2										
	英米の詩b	*2										
	英米の演劇a	*2										
	英米の演劇b	*2										
	英語圏文学特殊講義a	*2										
	英語圏文学特殊講義b	*2										
	英米文学文献研究a	*2										
	英米文学文献研究b	*2										
	英米の社会と思想a	*2										
	英米の社会と思想b	*2										
	英米の政治と経済a	*2										
	英米の政治と経済b	*2										
	英米の歴史a	*2										
	英米の歴史b	*2										
英米事情a	*2											
英米事情b	*2											
英語圏文化特殊講義a	*2											
英語圏文化特殊講義b	*2											
英米文化文献研究a	*2											
英米文化文献研究b	*2											
国際コミュニケーション	国際政治論a	*2								2		
	国際政治論b	*2								2		
	国際関係史a	*2										
	国際関係史b	*2										
	国際開発協力論a	*2										
	国際開発協力論b	*2										
	国際関係論特殊講義a	*2										
	国際関係論特殊講義b	*2										
	国際関係論文献研究a	*2										
	国際関係論文献研究b	*2										
	異文化間コミュニケーション論a	*2								2		
	異文化間コミュニケーション論b	*2								2		
マス・コミュニケーション論a	*2											
マス・コミュニケーション論b	*2											
スピーチ・コミュニケーション論a	*2											
スピーチ・コミュニケーション論b	*2											
コミュニケーション論特殊講義a	*2											
コミュニケーション論特殊講義b	*2											
コミュニケーション論文献研究a	*2											
コミュニケーション論文献研究b	*2											
特別セミナー	*2											
卒業論文	4											
外国語学部共通科目(別表Ⅰ-5)			28			28			28			
演習	4		8			8			8			
卒業に必要な単位数			76	36	20	76	32	24	80	28	24	
				132			132			132		

備考
 (1) *は、半期完結科目を現す。
 (2) 第2外国語部門からは一言語を選択する。
 (3) 言語情報コースの言語情報処理については、ⅠかⅡのいずれから4単位を修得する。ⅠとⅡを組み合わせることはできない。
 (4) 卒業に必要な選択科目のうち20単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。
 なお、教職課程授業科目の単位の代用について別に定める。

○ 本表は、1998年度入学者から適用する。

英語学科授業科目（2001年度以前入学生用）

※開講期が通年で曜時が2つある場合は、春学期／秋学期の記載です。

目次

学科基礎科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
01042	通年	英語 I [ReadingSt.]	白鳥 正孝／福井 嘉彦	木4／木1	2	1	全	25
13607	春	英語 I [ReadingSt.]	福井 嘉彦／白鳥 正孝	木1／木4	2	1	全	25
00968	通年	英語 I [ReadingSt.]	山中 章子	木5	2	1	全	25
01203	通年	英語 I [ReadingCom.]	J. A. グレイ	水5	2	1	全	26
12124	通年	英語 II [講読]	佐野 康子	火2	2	2	全	27
00772	通年	英語 III [SpeechCom.]	R. M. ペイン	金2	2	1	全	23
01325	通年	英語 IV [WritingSt.]	川崎 潔	木1	2	1	全	24
11567	通年	英語学概論	鈴木 英一／安井 美代子	木4／木1	4	1		13・14
11570	通年	英語学概論	府川 謹也／鈴木 英一	金1／木4	4	1		13・15
11569	通年	英語学概論	安井 美代子／府川 謹也	木1／金1	4	1		14・15
11571	通年	英語学概論	鈴木 英一／府川 謹也	木4／金1	4	1		13・15
11572	通年	英語学概論	府川 謹也／安井 美代子	金1／木1	4	1		14・15
11568	通年	英語学概論	安井 美代子／鈴木 英一	木1／木4	4	1		13・14
11578	通年	英米文学概論	上野 直子／藤田 永祐	木5／金3	4	1		16・17
11577	通年	英米文学概論	上野 直子／藤田 永祐	木4／金3	4	1		16・17
11588	通年	国際コミュニケーション概論	工藤 和宏／永野 隆行	月4／水2	4	1	言	20・22
11589	通年	国際コミュニケーション概論	永野 隆行／工藤 和宏	水2／月4	4	1	言	20・22
12104	通年	国際コミュニケーション概論	柿田 秀樹／永野 隆行	水2	4	1	言	19・22
12105	通年	国際コミュニケーション概論	永野 隆行／柿田 秀樹	水2	4	1	言	19・22
11091	春	英語音声学	青柳 真紀子	火1	2	1		11
11092	秋	英語音声学	青柳 真紀子	火1	2	1		11
11093	春	英語音声学	大西 雅行	木1	2	1		12
11094	秋	英語音声学	大西 雅行	木1	2	1		12
	春	スピーチ・クリニック(定員25名)	清水 由理子	月3	2	2		186
	秋	スピーチ・クリニック(定員25名)	清水 由理子	月3	2	2		186

学科共通科目

レベルはTOEIC®・TOEFL®のスコアによって次の3つのレベルにきめられています。

レベルA・・・TOEIC®700点以上・TOEFL® PBT 520点、CBT 190点、iBT68点以上を取得している者

レベルB・・・TOEIC®600点以上・TOEFL® PBT 480点、CBT 157点、iBT54点以上を取得している者

レベルC・・・TOEIC®500点以上・TOEFL® PBT 440点、CBT 123点、iBT41点以上を取得している者

*レベルが既修条件となっている科目を履修する場合、学内で受験したTOEICスコアが条件を満たしていれば手続きなしで登録可能です。

*学外で受験したTOEICスコアを利用したい場合は、スコアを証明する書類のコピーを教務課外国語学部担当係まで提出してください。

専門講読

[既修条件]英語 I [Reading Strategies]および英語 I [Reading Comprehension]を修得していること

[定員30名]

時間割 コード	開講期	科目名(副題)	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	Language, Culture and Communication	C. B. 池口	火2	4	2		60
	通年	Literary fiction and documentary studies	E. カーニィ	水1	4	2		61
	春	Education & Culture	J. J. ダゲン	木2／木3	4	2		62
	通年	Canadian Culture and Society	K. ミーハン	月1	4	2		63

通年	James Joyce	M. フッド	水3	4	2	64
通年	Education	N. H. ジョスト	水1	4	2	65
通年	Pragmatics	T. ヒル	月3	4	2	66
通年	Exploring Learning	T. マーフィー	月4	4	2	67
通年	音声知覚のしくみと発達入門	青柳 真紀子	火3	4	2	68
春	Exploring Language Teaching	浅岡 千利世	火3/火4	4	2	69
通年	米国の東アジア政策	阿部 純一	土2	4	2	70
通年	異文化コミュニケーション論	石井 敏	金1	4	2	71
通年	文化とコミュニケーション	石井 敏	金2	4	2	72
通年	アメリカのナショナリズムを読み解く:理論編	板場 良久	火3	4	2	73
通年	大西洋世界とブラックディアスポラ	上野 直子	火4	4	2	74
通年	Allen Ginsberg精読	遠藤 朋之	金2	4	2	75
通年	ディズニー・アニメの歴史をたどる	大木 理恵子	火3	4	2	76
通年	ことばと音声のしくみ	大西 雅行	木2	4	2	77
通年	アメリカ黒人の歴史	岡田 誠一	月4	4	2	78
通年	映画批評	柿田 秀樹	火5	4	2	79
通年	アメリカ文学:John Steinbeckの作品を読む	金谷 優子	金4	4	2	80
秋	アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係	金子 芳樹	月4/月5	4	2	81
通年	『ヨブ記』をRevised Versionで読む	川崎 潔	木2	4	2	82
通年	SLA実証研究論文	木村 恵	金3	4	2	83
通年	コミュニケーションと文化	工藤 和宏	月3	4	2	84
通年	オーストラリアの詩	国見 晃子	火3	4	2	85
通年	英語圏の現代演劇	児嶋 一男	火2	4	2	86
通年	文法と認知	小早川 暁	火3	4	2	87
通年	英国ユダヤ人史	佐藤 唯行	木4	4	2	88
通年	物語を楽しむ	佐藤 勉	金3	4	2	89
通年	現代国際関係論	佐野 康子	木3	4	2	90
通年	アメリカ小説	島田 啓一	金3	4	2	91
通年	イギリス児童文学	白鳥 正孝	月3	4	2	92
通年	各種英文ビジネス文書の読み方と実務	杉山 晴信	金3	4	2	93
通年	生成文法理論への誘い	鈴木 英一	水1	4	2	94
通年	異文化理解の視点	瀬戸 千尋	火3	4	2	95
通年	20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人	高田 宣子	火4	4	2	96
通年	グローバル社会論－世界のトレンドを読む－	竹田 いさみ	火2	4	2	97
通年	現代国際関係論	永野 隆行	月4	4	2	98
通年	インタビューやニュースのスク립トを読む	鍋倉 健悦	月4	4	2	99
通年	動詞の文法	府川 謹也	火1	4	2	100
通年	キリスト教への理解	福井 嘉彦	火3	4	2	101
通年	現代の親しみやすいエッセイ	藤田 永祐	木1	4	2	102
通年	シェイクスピア	前沢 浩子	木3	4	2	103
通年	言語・非言語とコミュニケーション	町田 喜義	木3/火1	4	2	104
通年	生成文法の基礎	水口 学	月2	4	2	105
通年	黒人表現文化	三吉 美加	水3	4	2	106
通年	告白詩を読む	山中 章子	木4	4	2	107

英作文

[既修条件]英語IV[Writing Strategies]またはレベルCを修得していること
[定員28名] ※英語IV[Paragraph Writing]の修得者は履修できません。

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
00832	通年	英作文	金子 節也	月3	4	2		108
13592	通年	英作文	中村 粲	火3	4	2		109
01250	通年	英作文	福井 嘉彦	水1	4	2		110

エッセイ・ライティング

[既修条件]英語IV[Paragraph Writing]または英作文またはレベルBを修得していること
[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
00824	通年	エッセイ・ライティング	D. L. ブランケン/L. K. ハーキンス	金3/月3	4	2		111-117
00749	通年	エッセイ・ライティング	E. カーニィ	火1	4	2		112

01186	通年	エッセイ・ライティング	J. A. グレイ	水3	4	2	113
01114	春	エッセイ・ライティング	K. ミーハン/J. J. ダゲン	月4/水2	4	2	114・116
01180	通年	エッセイ・ライティング	J. ウォールドマン	木2	4	2	115
00748	通年	エッセイ・ライティング	M. ダーリン	月5	4	2	118
01116	通年	エッセイ・ライティング	M. フッド	水4	4	2	119
01076	通年	エッセイ・ライティング	T. J. フォトス	水2	4	2	120
01519	通年	エッセイ・ライティング	W. J. ベンフィールド	水3	4	2	121

翻訳 I
[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
01189	通年	翻訳 I	遠藤 朋之	木2	4	2		122
01127	通年	翻訳 I	前沢 浩子/片山 亜紀	月2/火3	4	2		123・127
13602	通年	翻訳 I	柴田 耕太郎	火4	4	2		124
01521	通年	翻訳 I	藤田 永祐	木2	4	2		126

翻訳 II
[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
01524	通年	翻訳 II	高田 宣子	火5	4	3		125

英文法
[定員32名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
12832	通年	英文法	小早川 暁	金3	4	2		128
00834	通年	英文法	鈴木 英一	火3	4	2		129
09051	通年	英文法	府川 謹也	水1	4	2		130
12828	通年	英文法	藤田 永祐	金2	4	2		131
00970	通年	英文法	本田 謙介	月2	4	2		132
12773	通年	英文法	水口 学	月1	4	2		133
09825	通年	英文法	毛利 秀高	木3	4	2		134

CONVERSATION I
[既修条件]英語Ⅲ[Speech Communication]またはレベルCを修得していること
[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
01177	通年	Conversation I	E. J. ナオウミ	火1	4	2		135
00966	通年	Conversation I	T. ヒル	火2	4	2		136

CONVERSATION II
[既修条件]英語Ⅲ[Advanced Speech Communication]またはConversation I またはレベルBを修得していること
[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
01040	通年	Conversation II	C. B. 池口	火4	4	2		137
01220	通年	Conversation II	D. ベーカー/D. L. ブランケン	木5/金3	4	2		138・140
00930	通年	Conversation II	D. L. ブランケン	水2	4	2		139
08800	通年	Conversation II	D. マツキャン	木2	4	2		141
01181	通年	Conversation II	K. ミーハン	金4	4	2		142
01482	通年	Conversation II	M. フッド	水2	4	2		144
00755	通年	Conversation II	N. ハミルトン	月1	4	2		145
00823	通年	Conversation II	N. ハミルトン	火2	4	2		145
01485	通年	Conversation II	P. アップス	水2	4	2		146
01370	通年	Conversation II	P. M. ホーネス	月1	4	2		147
00757	通年	Conversation II	T. J. フォトス	水4	4	2		148

DISCUSSION

[既修条件]英語Ⅲ[Advanced Speech Communication]またはConversation I またはレベルBを修得していること

[定員20名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
07223	通年	Discussion	D. L. ブランケン	水3	4	2		149
01118	通年	Discussion	N. H. ジョスト	月3	4	2		150
11508	通年	Discussion	R. J. バロウズ	火2	4	2		151
00825	通年	Discussion	W. J. ベンフィールド	水1	4	2		152

スピーチ

[既修条件]英語Ⅲ[Advanced Speech Communication]またはConversation I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
08414	通年	スピーチ	A. R. ファルヴォ	金1	4	2		153
08412	通年	スピーチ	P. マッケブリー	金2	4	2		154
00709	通年	スピーチ	門倉 弘枝	金4	4	2		155
08413	通年	スピーチ	E. カーニィ	月1	4	2		156

ディベート

[既修条件]英語Ⅲ[Advanced Speech Communication]またはConversation I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
00869	通年	ディベート	P. M. ホーネス	月2	4	2		157
11218	通年	ディベート	R. J. バロウズ	火3	4	2		158
01112	通年	ディベート	柿田 秀樹	火4	4	2		159
08806	通年	ディベート	N. H. ジョスト	火2	4	2		160

通訳 I

[既修条件]英語Ⅲ[Advanced Speech Communication]またはConversation I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	通訳 I	原口 友子	月4	4	2		161
	通年	通訳 I	原口 友子	月2	4	2		161

通訳 II

[既修条件]通訳 I またはレベルAを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	通訳 II	原口 友子	月3	4	3		162

ビジネス英語 I

[定員50名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
01484	通年	ビジネス英語 I	海老沢 達郎	金3	4	2		163
01315	通年	ビジネス英語 I	杉山 晴信	木3	4	2		164
01442	通年	ビジネス英語 I	杉山 晴信	木4	4	2		165
00756	通年	ビジネス英語 I	信 達郎	月1	4	2		166
10676	通年	ビジネス英語 I	信 達郎	月2	4	2		166

ビジネス英語 II

[定員45名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
01380	通年	ビジネス英語 II	杉山 晴信	水2	4	3		167

時事英語 I

[定員40名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
01182	通年	時事英語 I	W. J. ベンフィールド	水2	4	2		168
09086	通年	時事英語 I	海老沢 達郎	火4	4	2		169
01314	通年	時事英語 I	岡田 誠一	月2	4	2		170
01379	通年	時事英語 I	岡田 誠一	木4	4	2		170
11555	通年	時事英語 I	門倉 弘枝	金5	4	2		171
00829	通年	時事英語 I	金子 節也	月4	4	2		172

時事英語 II

[定員40名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
01267	通年	時事英語 II	A. R. ファルヴォ	月1	4	3		173
00974	通年	時事英語 II	遠藤 朋之	木3	4	3		174

第二外国語

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
08877	通年	ドイツ語ⅢB〔文章表現法〕	永岡 敦	火4	2	3	全	177
08985	通年	フランス語Ⅲ	松橋 麻利	木2	2	3	全	178
01276	通年	スペイン語Ⅲ	北岸 団	月3	2	3	全	179
08984	通年	フランス語会話 I	H. ドリエップ	金2	2	3	全	180
01500	通年	スペイン語会話 I〔総合〕	J. フェレーラス	金5	2	3	全	181

学科専門科目

「言語情報」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
11543	春	言語情報処理 I a(定員50名)	木村 恵	木4	2	2		183
01509	春	言語情報処理 I a(定員50名)	吉成 雄一郎	金2	2	2		184
11544	秋	言語情報処理 I b(定員50名)	木村 恵	木4	2	2		183
01510	秋	言語情報処理 I b(定員50名)	吉成 雄一郎	金2	2	2		184
01541	春	言語情報処理 II a(定員40名)	吉成 雄一郎	金1	2	2		185
01542	秋	言語情報処理 II b(定員40名)	吉成 雄一郎	金1	2	2		185
01347	春	統語論a	安井 美代子	木2	2	2		187
01348	秋	統語論b	安井 美代子	木2	2	2		187
00790	春	意味論a	府川 謹也	金3	2	2		188
00791	秋	意味論b	府川 謹也	金3	2	2		188
00799	春	音声・音韻論a	大西 雅行	火1	2	2		189
00800	秋	音声・音韻論b	大西 雅行	火1	2	2		189
09829	春	英語史a	毛利 秀高	木4	2	2		190
09830	秋	英語史b	毛利 秀高	木4	2	2		190
01149	春	英語学特殊講義a	小早川 暁	金4	2	2		191
01150	秋	英語学特殊講義b	小早川 暁	金4	2	2		191
08784	春	英語学文献研究a(定員25名)	鈴木 英一	木5	2	3		192
08785	秋	英語学文献研究b(定員25名)	鈴木 英一	木5	2	3		192

「文学文化」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
08822	春	英米の小説a(定員100名)	藤田 永祐	金3	2	2		194
09059	秋	英米の小説b(定員100名)	片山 亜紀	木3	2	2		194
01151	春	英米の詩a(定員100名)	白鳥 正孝	月4	2	2		195
01156	秋	英米の詩b(定員100名)	白鳥 正孝	月4	2	2		195
00843	春	英米の演劇a(定員100名)	児嶋 一男	月3	2	2		196
00844	秋	英米の演劇b(定員100名)	児嶋 一男	月3	2	2		196
01166	秋	英米文学文献研究b(定員25名)	高橋 雄一郎	火3	2	3		203
00740	春	英米の社会と思想a(定員100名)	福井 嘉彦	火2	2	2		197
00741	秋	英米の社会と思想b(定員100名)	福井 嘉彦	火2	2	2		197
01295	春	英米の歴史a	佐藤 唯行	木2	2	2		198
01296	秋	英米の歴史b	佐藤 唯行	木2	2	2		198
01211	春	英米事情a(定員200名)	前沢 浩子	水3	2	2		199
01212	秋	英米事情b(定員200名)	前沢 浩子	水3	2	2		199
01006	春	英語圏文化特殊講義a	上野 直子	月3	2	3		200
11538	秋	英語圏文化特殊講義b	前沢 浩子	月2	2	3		200

「国際コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
00818	春	国際政治論a(a,bは担当者を変えて履修)	竹田 いさみ	月3	2	2		211
00817	春	国際政治論a(a,bは担当者を変えて履修)	永野 隆行	月3	2	2		212
00816	秋	国際政治論b(a,bは担当者を変えて履修)	金子 芳樹	月3	2	2		211
00819	秋	国際政治論b(a,bは担当者を変えて履修)	竹田 いさみ	月3	2	2		212
00743	春	国際関係史a	永野 隆行	月2	2	2	法	213
00732	秋	国際関係史b	永野 隆行	月2	2	2	法	213
00945	秋	国際開発協力論a	金子 芳樹	水1	2	2		214
00917	春	国際開発協力論b	竹田 いさみ	火3	2	2		214
13706	春	国際関係論特殊講義a	遠藤 充信	金4	2	2		218
13705	秋	国際関係論特殊講義b	遠藤 充信	金4	2	2		218
01502	秋	国際関係論特殊講義b	竹田 いさみ	火3	2	2		222
01501	秋	国際関係論特殊講義b	金子 芳樹	火2	2	2		220
12778	秋	国際関係論特殊講義b	石川 幸子	木2	2	2		219
13590	秋	国際関係論特殊講義b	小松 諄悦	金2	2	2		221
00935	春	国際関係論文献研究a(定員25名)	竹田 いさみ	火1	2	3		223
00961	秋	国際関係論文献研究b(定員25名)	竹田 いさみ	火1	2	3		223
01238	春	異文化間コミュニケーション論a(a,bは担当者を変えて履修)	鍋倉 健悦	月5	2	2	言	205
01434	春	異文化間コミュニケーション論a(a,bは担当者を変えて履修)	工藤 和宏	月5	2	2	言	204
01239	秋	異文化間コミュニケーション論b(a,bは担当者を変えて履修)	鍋倉 健悦	月5	2	2	言	205
01435	秋	異文化間コミュニケーション論b(a,bは担当者を変えて履修)	工藤 和宏	月5	2	2	言	204
01393	春	マス・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	木3	2	2		206
01394	秋	マス・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	木3	2	2		206
01108	春	スピーチ・コミュニケーション論a	板場 良久	月2	2	2		207
00977	春	スピーチ・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	火3	2	2		208
01169	秋	スピーチ・コミュニケーション論b	板場 良久	月2	2	2		207
00978	秋	スピーチ・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	火3	2	2		208
01360	春	コミュニケーション論特殊講義a	佐々木 輝美	木3	2	3		209
01361	秋	コミュニケーション論特殊講義b	佐々木 輝美	木3	2	3		209
00975	春	コミュニケーション論文献研究a(定員25名)	町田 喜義	火2	2	3		210
01511	秋	コミュニケーション論文献研究b(定員25名)	町田 喜義	火2	2	3		210
10222	春	特別セミナー(CAEL)(定員52名)	高木 亜希子	水3	2	2		224
10223	秋	特別セミナー(CAEL)(定員52名)	高木 亜希子	水3	2	2		224

◆「外国語学部共通科目」は『全学共通授業科目シラバス』に掲載しています。

06 年度以降 (春)	Lecture Workshop I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Lecture Workshop classes will be a mixture of Mini-Lectures (short lectures) followed by activities in which you will reformulate and use the information (workshop-style). Students are asked to speak mostly English in classes and to turn in weekly assignments entailing reading, listening, speaking, watching videos, and writing. Students may be asked to keep a Portfolio of their work to show to each teacher at the end of the term, as well as self-evaluations and project work.</p> <p>In many of the classes YAHOO Groups will be used for out of class discussion and homework. Students are expected to sign up for the new Yahoo Groups immediately after the teacher assigns it. Students who are new to Yahoo Groups and wish to practice with one can send a message to mits@dokkyo.ac.jp saying, “Please sign me up for 1styearcommons dokkyo06” and you will be signed up. It’s fun! This will be a place you can ask any questions. It will be moderated by older students who can answer your questions and the coordinator.</p>		<p><u>List of six-week courses (you will have only 4)</u> Alternative Learning Forms: T.Murphey, M. Suzuki Asian Englishes: E. Uchida Intro to Gender Studies: A. Katayama, N. Ueno Intro to Public Speaking: P. McEvelly Intro to Africa: E. Naoumi Intro to International Relations: P. Horness, Y. Sano American History through Music: J. Waldman Learning through Movies : D. Baker</p> <p>These short six-week courses are about a variety of interesting and useful content areas. Students will change classes each six weeks and will have a different teacher every six weeks (4 for the year). No students will have all the available topics but all will have a good variety.</p> <p>Because these courses are very short, ATTENDANCE is very important for students. Missing 1/3 of the classes (2) in any 6-week class is cause for failure. Please see your teacher for unavoidable sickness or absences.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Teachers will mostly use handouts and booklets to be distributed in class at minimal cost.		Evaluations are done by the individual teachers based upon participation and the amount and quality of work done for the class. Two teachers will combine their grades into one for a semester grade	

06 年度以降 (秋)	Lecture Workshop II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Lecture Workshop classes will be a mixture of Mini-Lectures (short lectures) followed by activities in which you will reformulate and use the information (workshop-style). Students are asked to speak mostly English in classes and to turn in weekly assignments entailing reading, listening, speaking, watching videos, and writing. Students may be asked to keep a Portfolio of their work to show to each teacher at the end of the term, as well as self-evaluations and project work.</p> <p>In many of the classes YAHOO Groups will be used for out of class discussion and homework. Students are expected to sign up for the new Yahoo Groups immediately after the teacher assigns it. Students who are new to Yahoo Groups and wish to practice with one can send a message to mits@dokkyo.ac.jp saying, “Please sign me up for 1styearcommons dokkyo06” and you will be signed up. It’s fun! This will be a place you can ask any questions. It will be moderated by older students who can answer your questions and the coordinator.</p>		<p><u>List of six-week courses (you will have only 4)</u> Alternative Learning Forms: T.Murphey, M. Suzuki Asian Englishes: E. Uchida Intro to Gender Studies: A. Katayama, N. Ueno Intro to Public Speaking: P. McEvelly Intro to Africa: E. Naoumi Intro to International Relations: P. Horness, Y. Sano American History through Music: J. Waldman Learning through Movies : D. Baker</p> <p>These short six-week courses are about a variety of interesting and useful content areas. Students will change classes each six weeks and will have a different teacher every six weeks (4 for the year). No students will have all the available topics but all will have a good variety.</p> <p>Because these courses are very short, ATTENDANCE is very important for students. Missing 1/3 of the classes (2) in any 6-week class is cause for failure. Please see your teacher for unavoidable sickness or absences.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Teachers will mostly use handouts and booklets to be distributed in class at minimal cost.		Evaluations are done by the individual teachers based upon participation and the amount and quality of work done for the class. Two teachers will combine their grades into one for a semester grade	

06 年度以降	Comprehensive English I (再履修は秋学期のみ開講)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class develops the range of English language skills (but with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives: The following are the macro-level objectives for this course:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To give students maximum opportunities to communicate (speak, listen, read and write). 2. To build student confidence in interpersonal communication. 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution. 		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Individual instructors are free to select their own text material, including any supplementary teaching material, and to use it in the manner they feel will best complete the above objectives.</p>		<p>Individual instructors are asked to determine a system of grading that is fair and consistent to the students, and best measures the classroom performance and overall improvement of the students communicative abilities.</p>	

06 年度以降	Comprehensive English II (再履修は春学期のみ開講)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class helps students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives: The following are the macro-level objectives for this course:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To develop in the students a good grounding in the organization skills of speech communication and writing. 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills. 3. To build student confidence in speech communication in front of a group. 		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Individual instructors are free to select their own text material, including any supplementary teaching material, and to use it in the manner they feel will best complete the above objectives.</p>		<p>Individual instructors are asked to determine a system of grading that is fair and consistent to the students, and best measures the classroom performance and overall improvement of the students communicative abilities.</p>	

06 年度以降	Reading Strategies I (再履修は春秋ともに開講)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目標] 英語の語彙を増やしなが、日本語を介さず英語で考える能力を養い、併せて外国の文化や文学を理解する力をつける。将来、英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解スキルを学習する。</p> <p>[概要] 各担当教員が選定した教材を用いる。 読解スキルとしては、Previewing and Predicting; Recognizing patterns in paragraphs; Recognizing patterns of text organization などが含まれる。 このほか、語彙を身につけるために、「E-learning (Comprehensive) I」の Powerwords で学んだ語彙の Quiz(小テスト)を授業中に行う。テストは1回3 units ずつで、春学期中に10回実施される。テストの点数は、このコースの評価に加えられる。Group A の学生に対しても、Group B レベルの Quiz が Reading Strategies(RS)の授業時間に行われ、RS の評価に加えられる。 (「E-learning (Comprehensive) I」を参照)</p> <p>但し再履修者は Powerwords を使用しない。</p>		各担当教員が開講時に説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

06 年度以降	Reading Strategies II (再履修は春秋ともに開講)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目標] 「Reading Strategies I」に引き続き、英語の語彙力をつけながら、日本語を介さないで読む直読直解の力と外国の文化や文学を理解する力をつける。また、「Reading Strategies I」で身につけた基礎的な読解スキルを定着させ、発展させる。</p> <p>[概要] 各教員が選定した教材を用いる。 秋学期は、次のような読解スキルを学ぶ。Previewing and Predicting; Recognizing patterns of text organization; Making inferences; Outlining など。 この学期も語彙力をつけるため、Powerwords で学んだ語彙の Quiz を授業中に行う。テストは1回3 units ずつで、学期中に10回実施される。テストの点数は、このコースの評価に加えられる。Group A の学生についても同様。(「E-learning (Comprehensive) II」を参照) 10月には、図書館の利用方法に慣れるため、クラス別に図書館ガイダンスが行われる。</p> <p>但し再履修者は Powerwords を使用しない。</p>		各担当教員が開講時に説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

06年度以降（春）	Writing Strategies	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one-term-long class that students work on sentence-level writing so that they can review what they learned in high school and move on to the introductory academic writing. Accuracy is the main focus; however, students should be provided with some free writing exercises where they can practice fluency as the same time.</p> <p>The objectives of this class are to help students:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. to write grammatical sentences 2. to increase the students' awareness of the common grammatical problems in writing made by EFL students 3. to introduce self-help strategies so that they can analyze their problems and revise their writing (ex. Teachers should use an error awareness sheet in order to help their students aware of what their errors are and to help them decide which errors to work on first.) 		<p><u>Recommended Topics:</u></p> <p>Verb tenses</p> <p>Sentence structure</p> <p>Modals (necessity, certainty etc.)</p> <p>Conditional</p> <p>Passives</p> <p>Relative Clauses</p> <p>Noun Clauses</p> <p>Free writing/Rush writing</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.		The decision is left to the discretion of individual instructors.	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The department would like the students to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is a basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives:</u></p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (ex. topic sentence, supporting sentences) To teach the various patterns of paragraph organizations To help students write clear and focused structures To help students analyze their problems and revise their writing <p>Students should write at least two 300-word-long paragraphs and have a chance to revise it.</p>		<p><u>Recommended Topics:</u></p> <p>What is a paragraph? Planning what they write Topic vs topic sentence Writing a topic sentence of a paragraph Supporting topic sentences (ex. giving examples, enumeration, giving a definition, cause and effect, comparison and contrast) Revising what they write Free writing/ Rush writing</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.		The decision is left to the discretion of individual instructors.	

06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The department would like the students to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is a basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives:</u></p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (ex. topic sentence, supporting sentences) To teach the various patterns of paragraph organizations To help students write clear and focused structures To help students analyze their problems and revise their writing <p>Students should write at least two 300-word-long paragraphs and have a chance to revise it.</p>		<p><u>Recommended Topics:</u></p> <p>What is a paragraph? Planning what they write Topic vs topic sentence Writing a topic sentence of a paragraph Supporting topic sentences (ex. giving examples, enumeration, giving a definition, cause and effect, comparison and contrast) Revising what they write Free writing/ Rush writing</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.		The decision is left to the discretion of individual instructors.	

06 年度以降（春）	Basic Essay Writing	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the essay writing course is to develop students' writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing about familiar ideas to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives:</u></p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' basic essay (ex. introduction, a thesis statement, supporting details, conclusion) To teach the various patterns of essay organizations To help students plan and revise an essay To help students write clear and focused paragraphs <p>Students should write at least one 5-paragraph-level essay including an introduction and a conclusion and have a chance to revise it.</p>		<p><u>Recommended Topics:</u></p> <p>Brainstorming and narrowing down the topic</p> <p>Writing an introduction</p> <p>Writing cohesive paragraphs</p> <p>Writing a conclusion</p> <p>Narrating (ex. unforgettable event)</p> <p>Describing (ex. a person you admire, a favorite place, a celebration, a process)</p> <p>Explaining (ex. the origin of a name, your learning style)</p> <p>Informing (ex. an event, a famous person)</p> <p>Evaluating (ex. a movie, a story, an event, a person)</p> <p>Summarizing (ex. a movie, a story)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.		The decision is left to the discretion of individual instructors. However, not only the final product but also the process of writing should be evaluated.	

06 年度以降（秋）	Basic Essay Writing	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the essay writing course is to develop students' writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing about familiar ideas to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives:</u></p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' basic essay (ex. introduction, a thesis statement, supporting details, conclusion) To teach the various patterns of essay organizations To help students plan and revise an essay To help students write clear and focused paragraphs <p>Students should write at least one 5-paragraph-level essay including an introduction and a conclusion and have a chance to revise it.</p>		<p><u>Recommended Topics:</u></p> <p>Brainstorming and narrowing down the topic</p> <p>Writing an introduction</p> <p>Writing cohesive paragraphs</p> <p>Writing a conclusion</p> <p>Narrating (ex. unforgettable event)</p> <p>Describing (ex. a person you admire, a favorite place, a celebration, a process)</p> <p>Explaining (ex. the origin of a name, your learning style)</p> <p>Informing (ex. an event, a famous person)</p> <p>Evaluating (ex. a movie, a story, an event, a person)</p> <p>Summarizing (ex. a movie, a story)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.		The decision is left to the discretion of individual instructors. However, not only the final product but also the process of writing should be evaluated.	

06 年度以降 (春)	E-learning I (Short Essay) (A グループ)	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的]</p> <p>英語学科 1 年 Group A の学生を対象とする。春学期の Paragraph Writing, 秋学期の Basic Essay Writing でパラグラフや短いエッセイを英語で書くための技術を学習するが、同時並行で行われるこの授業では、その技術を用いて多くのエッセイを書いていく実践練習を行う。レポート、小論文、卒業論文など、2 年次以降の専門科目の履修に必要なアカデミック・ライティングの実践力を身につけることを目標とする。</p> <p>[概要]</p> <p>米国 Educational Testing Service (ETS) が開発したライティング教材である <i>Criterion</i> を使用する。TOEFL のライティングテストで出題されるようなトピックに関してエッセイを書き、インターネットを介して提出する。コンピュータ・プログラムによって自動的に採点されたスコアと誤りに関するフィードバックを参照しながら、目標レベル達成を目指し学習を繰り返す。週 1 回の対面授業では、受講者に共通して見られる誤りについての解説や、英作文支援ツールの紹介、個別指導などを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. <u>Essay (1)</u> + <i>Criterion</i> の機能と使い方 3. <u>Essay (1)</u> のフィードバック online reference の紹介 <u>Essay (2)</u> 4. <u>Essay (2)</u> のフィードバック online reference の紹介 <u>Essay (3)</u> 5. <u>Essay (4)</u> + 個別指導 6. <u>Essay (5)</u> + 個別指導 7. <u>Essay (6)</u> + 個別指導 8. <u>Essay (7)</u> + 個別指導用 9. <u>Essay (8)</u> + 個別指導 10. <u>Essay (9)</u> + 個別指導 11. <u>Essay (10)</u> + 個別指導 12. <u>Essay (11)</u> + 個別指導 	
テキスト、参考文献		評価方法	
【重要】4 月の情報センターオリエンテーションで配布される、ネットワークにログインするためのパスワードの用紙を、最初の授業の際に必ず持参すること。		<i>Criterion</i> への提出状況 + <i>Essay</i> の質 + 授業への出席により評価する。	

06 年度以降 (秋)	E-learning II (Short Essay) (A グループ)	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的]</p> <p>春学期と同様だが、更なる分量、語彙的・文法的正確さ、パラグラフ構成（論理構成）の向上を目指す。 さらに、学習者間フィードバックを行うことで、より丁寧な推敲を重ねる。</p> <p>[概要]</p> <p>引き続き <i>Criterion</i> を使用する。 本学期は、担当教員による全体フィードバックに加え、受講生同士によるフィードバック (peer feedback) を取り入れる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス + <u>Essay (1)</u> 2. <u>Essay (1)</u> peer feedback + rewrite 3. <u>Essay (2)</u> 4. <u>Essay (2)</u> peer feedback + rewrite 5. <u>Essay (3)</u> 6. <u>Essay (3)</u> peer feedback + rewrite 7. <u>Essay (4)</u> 8. <u>Essay (4)</u> peer feedback + rewrite 9. <u>Essay (5)</u> 10. <u>Essay (5)</u> peer feedback + rewrite 11. <u>Essay (6)</u> 12. <u>Essay (6)</u> peer feedback + rewrite 	
テキスト、参考文献		評価方法	
【重要】ネットワークログイン用、 <i>Criterion</i> ログイン用、それぞれの ID とパスワードを忘れないようにすること。		<i>Criterion</i> への提出状況 + <i>Essay</i> の質 + 授業への出席により評価する。	

06年度以降(春)	E-learning I (Comprehensive) (B/Cグループ)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語学科1年のグループ B, C の学生を対象とする。Reading Strategies (RS) などの対面授業で教員から習ったスキルを自律学習によって定着、向上させることを目的とする。特に自律学習に適した単語力アップに力を入れる。春学期初めの説明会と各学期の中間試験、期末試験を除いて一斉授業は行わない。各自が学内の PC 教室もしくは自宅でサーバーにアクセスして自分のペースで教材に取り組む。</p> <p>教材サーバーは以下の2つ。 <u>Alc</u> http://alc.dokkyo.ac.jp/n-acad/bin/le/wletop.asp <u>Terra</u> http://terra.dokkyo.ac.jp</p> <p>教材は Alc/Terra の powerwords (PW), Alc/Terra の Reading/ Listening および Terra の Story の4つである。PW についてはグループ B はレベル4、グループ C はレベル3を学習する。Reading, Listening, Story はグループ共通。RS でのクイズは単語問題で、PW および Reading/Listening の本文から出題する。 春学期初めの説明会で学習の進め方、試験の出題形式など詳しく説明するので必ず出席すること。</p>		<p>4/11 第1回説明会(新教室棟講堂)</p> <p>4/18 RS でのクイズ1 (PW 1&2, Reading 1, Listening 1)</p> <p>4/25 RS でのクイズ2 (PW 3&4, Reading 2, Listening 2)</p> <p>5/2 RS でのクイズ3 (PW 5&6, Reading 3, Listening 3)</p> <p>5/9 RS でのクイズ4 (PW 7&8, Reading 4, Listening 4)</p> <p>5/16 RS でのクイズ5 (PW 9&10, Reading 5, Listening 5)</p> <p>5/23 中間試験 (PW 11-25, Reading 6-20, Listening 6-20, Story 1 教室は未定)</p> <p>5/30 RS でのクイズ6 (PW 26&27, Reading 21, Listening 21)</p> <p>6/6 RS でのクイズ7 (PW 28&29, Reading 22, Listening 22)</p> <p>6/13 RS でのクイズ8 (PW 30&31, Reading 23, Listening 23)</p> <p>6/20 RS でのクイズ9 (PW 32&33, Reading 24, Listening 24)</p> <p>6/27 RS でのクイズ10 (PW 34&35, Reading 25, Listening 25)</p> <p>定期試験期間 期末試験 (PW 36-50, Reading 26-40, Listening 26-40, Story 2)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		評価は中間/期末試験による。この授業とは別に RS の授業内に10回クイズを行い、RS の評価に含める。どちらも、範囲は上記の授業計画を参照。PW は最初の方の Unit をとばして後ろに進むことができないので、毎週確実に勉強すること。	

06年度以降(秋)	E-learning II (Comprehensive) (B/Cグループ)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ。ただし、PW についてはグループ B はレベル5、グループ C はレベル4を学習する。</p> <p>再履修者への注意事項</p> <p>06年度とは部分的に異なるので4月の説明会に必ず出席のこと。試験は単位を落とした学期の中間・期末のみ受験すること。RSでの試験はない。範囲はそれぞれの学期の「授業計画」を参照。新たに加わったStoryはTerraで学習すること。PWは1年の時のグループで指定されたものを学習すること。</p>		<p>9/26 自律学習</p> <p>10/3 RS でのクイズ1 (PW 1&2, Reading 41, Listening 41)</p> <p>10/10 RS でのクイズ2 (PW 3&4, Reading 42, Listening 42)</p> <p>10/17 RS でのクイズ3 (PW 5&6, Reading 43, Listening 43)</p> <p>10/24 RS でのクイズ4 (PW 7&8, Reading 44, Listening 44)</p> <p>10/31 RS でのクイズ5 (PW 9&10, Reading 45, Listening 45)</p> <p>11/7 中間試験 (PW 11-25, Reading Units 46-60, Listening Units 46-60, Story 3 教室は未定)</p> <p>11/14 RS でのクイズ6 (PW 26&27, Reading 61, Listening 61)</p> <p>11/28 RS でのクイズ7 (PW 28&29, Reading 62, Listening 62)</p> <p>12/5 RS でのクイズ8 (PW 30&31, Reading 63, Listening 63)</p> <p>12/12 RS でのクイズ9 (PW 32&33, Reading 64, Listening 64)</p> <p>12/19 RS でのクイズ10 (PW 34&35, Reading 65, Listening 65)</p> <p>定期試験期間 期末試験 (PW Units 36-50, Reading 66-80, Listening 66-80, Story 4)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		春学期と同じ。	

06 年度以降	Pronunciation Practice	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> コミュニケーションにおいて、相手の言ったことが聞き取れ、また自分の言ったことが相手に通じることはとても重要である。この授業では、より英語らしい音声について理解し、練習を通して英語の聴解能力と発音技能の向上を目指す。</p> <p><u>講義概要</u> LL 教室において、聞き取りと発音の演習を行う。日本語音声との比較も交えて英語音声の特徴について学び、特に日本語話者の苦手な点について、練習する。 具体的には、個々の音（母音・子音）、音の連結、ストレス、イントネーションなどの学習をし、語句、短文、または長文を使って発話練習をする。</p>		各担当者による。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当者による。		各担当者による。	

06 年度以降	Pronunciation Practice	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> コミュニケーションにおいて、相手の言ったことが聞き取れ、また自分の言ったことが相手に通じることはとても重要である。この授業では、より英語らしい音声について理解し、練習を通して英語の聴解能力と発音技能の向上を目指す。</p> <p><u>講義概要</u> LL 教室において、聞き取りと発音の演習を行う。日本語音声との比較も交えて英語音声の特徴について学び、特に日本語話者の苦手な点について、練習する。 具体的には、個々の音（母音・子音）、音の連結、ストレス、イントネーションなどの学習をし、語句、短文、または長文を使って発話練習をする。</p>		各担当者による。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当者による。		各担当者による。	

06年度以降	Introductory Grammar	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本文法事項の継続的な学習を通して、英語学科の開設科目を受講するのに最低限求められる文法的知識を高めると共に、誤用の少ない英文を作成できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>講義は、以下の内容からなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各担当教員による重要ポイントの解説と問題演習を行う。受講生が間違いやすい文法的事項や語句については、特に詳しく扱う。 2. 文法項目毎に重要な英文を各担当教員が選び、受講生は徹底した音読練習によって指定された英文を暗記する。 3. 1と2の方法で重要文法項目を学習した後は、TOEICやTOEFL等の総合問題演習を繰り返し行うことで、文法的誤謬に対する感受性を高める練習を積む。 		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

06年度以降	Introductory Grammar	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本文法事項の継続的な学習を通して、英語学科の開設科目を受講するのに最低限求められる文法的知識を高めると共に、誤用の少ない英文を作成できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>講義は、以下の内容からなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 各担当教員による重要ポイントの解説と問題演習を行う。受講生が間違いやすい文法的事項や語句については、特に詳しく扱う。 5. 文法項目毎に重要な英文を各担当教員が選び、受講生は徹底した音読練習によって指定された英文を暗記する。 6. 1と2の方法で重要文法項目を学習した後は、TOEICやTOEFL等の総合問題演習を繰り返し行うことで、文法的誤謬に対する感受性を高める練習を積む。 		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

(春)	英語音声学	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について少し体系的に見てみる。日本語や他の言語の音声と比較も交えて、英語音声をより深く理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や音声学のさまざまな面について触れることにより、その面白さを紹介し、これ以降の音声関係の科目履修への導入とする。</p> <p>講義概要 大教室における半期12回だけの授業であるので、音声学の基礎の講義となる。指定テキストは量的にも質的にもやさしい基本事項が記してある。各学生は毎回、最低限この指定範囲を読んでおくことが必須である。クイズや課題により、授業の確認・補足をしていく。</p> <p>メッセージ 第一回目の授業前にテキストを入手し、第1章(pp. 2-7)を読むこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1章「音声学とは」 学際的領域、理論と応用、学習者や指導者として 2. 第2章「発声のメカニズム」器官(発声、共鳴、調音)母音と子音 3. 第3章「音声表記」 IPA、分類(気流、声帯振動、調音位置/方法)、ピッチ/強さ/長さ 4. 第4章「母音」分類(高低/前後、円唇)、基本母音 5. 母音(2) 日本語との比較、スベリングと母音、アクセントと母音 6. 第5章「子音」有声/無声、調音位置/方法、阻害音/共鳴音 7. 子音(2) 日本語との比較 8. 第6章「音節」 音節構造、音素配列、音節構造と強勢(第二アクセント)と母音 9. 音節(2) 第7章「語強勢」 モーラ/音節、音節の連続によるアクセント/リズム 10. 語強勢(2) フット/リズム 日本語と英語 11. 第8章「音縮小」 第9章「同時調音」 12. 第10章「イントネーション」 言語情報・パラ言語情報・非言語情報 音声科学の発展(工学・教育・医療・政策・社会学) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『現代の英語音声学』佐藤寧、佐藤努。金星堂。1997 その他 配布資料		出席、クイズや課題、試験の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。出席は最低要件として厳しい。	

(秋)	英語音声学	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について少し体系的に見てみる。日本語や他の言語の音声と比較も交えて、英語音声をより深く理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や音声学のさまざまな面について触れることにより、その面白さを紹介し、これ以降の音声関係の科目履修への導入とする。</p> <p>講義概要 大教室における半期12回だけの授業であるので、音声学の基礎の講義となる。指定テキストは量的にも質的にもやさしい基本事項が記してある。各学生は毎回、最低限この指定範囲を読んでおくことが必須である。クイズや課題により、授業の確認・補足をしていく。</p> <p>メッセージ 第一回目の授業前にテキストを入手し、第1章(pp. 2-7)を読むこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1章「音声学とは」 学際的領域、理論と応用、学習者や指導者として 2. 第2章「発声のメカニズム」器官(発声、共鳴、調音)母音と子音 3. 第3章「音声表記」 IPA、分類(気流、声帯振動、調音位置/方法)、ピッチ/強さ/長さ 4. 第4章「母音」分類(高低/前後、円唇)、基本母音 5. 母音(2) 日本語との比較、スベリングと母音、アクセントと母音 6. 第5章「子音」有声/無声、調音位置/方法、阻害音/共鳴音 7. 子音(2) 日本語との比較 8. 第6章「音節」 音節構造、音素配列、音節構造と強勢(第二アクセント)と母音 9. 音節(2) 第7章「語強勢」 モーラ/音節、音節の連続によるアクセント/リズム 10. 語強勢(2) フット/リズム 日本語と英語 11. 第8章「音縮小」 第9章「同時調音」 12. 第10章「イントネーション」 言語情報・パラ言語情報・非言語情報 音声科学の発展(工学・教育・医療・政策・社会学) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『現代の英語音声学』佐藤寧、佐藤努。金星堂。1997 その他 配布資料		出席、クイズや課題、試験の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。出席は最低要件として厳しい。	

(春)	英語音声学	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的： 英語の一般的音声現象と英語特有の音声変化を解説する。音声についての理論的な説明と、その実際音に触れ、理論と実践の両面から音の習得を目指す。英語音を聞く、話す能力の向上と、言語研究やその応用研究への基礎知識を与える。</p> <p>概要： 音声を形成する仕組み、音声表記、母音と子音の特徴と分類、日・英・米音の差異、連続音の諸変化など発話に必要な音声の基礎を講義する。極力、オーディオ機器を使用し、実際の音の聴取と発音練習を行う。</p>		<p>授業計画：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の標準語と標準音 2. 発音器官と機能 3. 英語音の表記法 4. 母音の定義と分類 5. 英語の単母音 6. 英語の二重母音、三重母音 7. 英語の子音分類法 8. 破裂音、破擦音、鼻音 9. 側音、摩擦音、半母音 10. 弱形と強形 11. 同化作用、 12. 置換作用、省略作用 	
テキスト、参考文献		評価方法	
英語音声学の参考書は数多く発行されているので、特に、指定はしない。		テストの得点	

(秋)	英語音声学	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的： 英語の一般的音声現象と英語特有の音声変化を解説する。音声についての理論的な説明と、その実際音に触れ、理論と実践の両面から音の習得を目指す。英語音を聞く、話す能力の向上と、言語研究やその応用研究への基礎知識を与える。</p> <p>概要： 音声を形成する仕組み、音声表記、母音と子音の特徴と分類、日・英・米音の差異、連続音の諸変化など発話に必要な音声の基礎を講義する。極力、オーディオ機器を使用し、実際の音の聴取と発音練習を行う。</p>		<p>授業計画：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の標準語と標準音 2. 発音器官と機能 3. 英語音の表記法 4. 母音の定義と分類 5. 英語の単母音 6. 英語の二重母音、三重母音 7. 英語の子音分類法 8. 破裂音、破擦音、鼻音 9. 側音、摩擦音、半母音 10. 弱形と強形 11. 同化作用、 12. 置換作用、省略作用 	
テキスト、参考文献		評価方法	
英語音声学の参考書は数多く発行されているので、特に、指定はしない。		テストの得点	

06年度以降(春) 03～05年度(春)	英語学入門 英語学概論 a	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的: 英語学とは英語の言語学であり、言語学は人間の言語を科学的に研究する学問領域である。英語学は英語という言語のさまざまな面を科学的に研究する分野である。この講義では、英語の音・語・文・意味・用法に関する特徴がどのように研究されるかを概観する。 講義概要: 人間がどのような音を用いるか、英語ではどのような音を用いられているかは音声学と音韻論で説明される。文の最小単位である語の内部構造は形態論によって研究される。統語論は、語によって構成される文がどのような語の配列と構造をもつか、どのように説明するのが適切であるかを研究する。意味論は、文がどのような意味内容を表すかを扱う。文の意味内容を理解するためには、語句の文における機能、語の意味や語の結合の意味計算、語の修飾関係などを知る必要がある。文の意味解釈に文を使用する文脈・脈絡がどのような影響を及ぼすかを説明するのは語用論である。最後に、現代英語の特徴をみる上で有益な英語の歴史をたどることにする。		1. 英語学とは何か: 英語の言語学的研究, 言語学の研究領域 2. 音声学: 音声学と音韻論, 音声学の諸分野, 子音と母音 3. 音韻論: 英語の母音・子音体系, 母音の種類, 子音の種類, 音韻操作・過程, 強勢・リズム・音調 4. 形態論: 語の基本構造, 形態素の種類と語の構成, 語形成 5. 形態論: 語形成の方法, 派生接辞と屈折接辞, 複合語 6. 統語論: 語句のまとまり, 語順の役割, 文法機能の決定, 統語構造の説明 7. 統語論: 統語構造の句構造標識による説明, 句構造標識の表す情報, 抽象的構造と派生 8. 意味論: 意味解釈の諸相, 語彙的曖昧性と非曖昧化, 構造上の曖昧性, 語の意味分析, 意味素性, 関係を表す素性 9. 意味論: 文の意味分析, 動詞の意味素性による意味解釈, 移動構文の意味解釈, 省略構文の意味解釈 10. 語用論: 発話行為, 間接発話行為, 直示表現 11. 語用論: 前提と主張, 会話の含意と強調の原則, 情報構造 12. 英語史: 音韻の歴史, 形態・語の歴史, 統語構造の歴史	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト: プリントを配布 参考書: 安井稔(1987)『英語学概論』(開拓社)		出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する。なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる。	

06年度以降(秋) 03～05年度(秋)	英語学入門 英語学概論 a	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的: 英語学とは英語の言語学であり、言語学は人間の言語を科学的に研究する学問領域である。英語学は英語という言語のさまざまな面を科学的に研究する分野である。この講義では、英語の音・語・文・意味・用法に関する特徴がどのように研究されるかを概観する。 講義概要: 人間がどのような音を用いるか、英語ではどのような音を用いられているかは音声学と音韻論で説明される。文の最小単位である語の内部構造は形態論によって研究される。統語論は、語によって構成される文がどのような語の配列と構造をもつか、どのように説明するのが適切であるかを研究する。意味論は、文がどのような意味内容を表すかを扱う。文の意味内容を理解するためには、語句の文における機能、語の意味や語の結合の意味計算、語の修飾関係などを知る必要がある。文の意味解釈に文を使用する文脈・脈絡がどのような影響を及ぼすかを説明するのは語用論である。最後に、現代英語の特徴をみる上で有益な英語の歴史をたどることにする。		1. 英語学とは何か: 英語の言語学的研究, 言語学の研究領域 2. 音声学: 音声学と音韻論, 音声学の諸分野, 子音と母音 3. 音韻論: 英語の母音・子音体系, 母音の種類, 子音の種類, 音韻操作・過程, 強勢・リズム・音調 4. 形態論: 語の基本構造, 形態素の種類と語の構成, 語形成 5. 形態論: 語形成の方法, 派生接辞と屈折接辞, 複合語 6. 統語論: 語句のまとまり, 語順の役割, 文法機能の決定, 統語構造の説明 7. 統語論: 統語構造の句構造標識による説明, 句構造標識の表す情報, 抽象的構造と派生 8. 意味論: 意味解釈の諸相, 語彙的曖昧性と非曖昧化, 構造上の曖昧性, 語の意味分析, 意味素性, 関係を表す素性 9. 意味論: 文の意味分析, 動詞の意味素性による意味解釈, 移動構文の意味解釈, 省略構文の意味解釈 10. 語用論: 発話行為, 間接発話行為, 直示表現 11. 語用論: 前提と主張, 会話の含意と強調の原則, 情報構造 12. 英語史: 音韻の歴史, 形態・語の歴史, 統語構造の歴史	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト: プリントを配布 参考書: 安井稔(1987)『英語学概論』(開拓社)		出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する。なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる。	

06年度以降(春) 03～05年度(春)	英語学入門 英語学概論 a	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>impossible, intolerable</u> はどちらも下線部と逆の意味の形容詞であるが、2番目の文字は m と n と異なるのは何故だろう。意識して発音すると唇や舌の使い方が違うのに気がつくかもしれない。同じような違いが実は日本語の「乾杯」と「関東」の「ん」の発音にもある。あまり似ているようには見えない英語と日本語に何故共通性があるのだろうか。この授業ではこのように言語を意識的に分析してみることによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていく。扱うデータは英語が中心であるが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げる。また、不幸にして母国語を持たない、もしくは失ってしまった例を見ることによって、言語がいかに私たちの知的活動を支える上で不可欠か皆で考えたい。さらに、実際の英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことも実感してもらえと思う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 無意識の言語知識 2. 英語の音のしくみ (クイズ1) 3. 様々な音韻現象 (クイズ2) 4. 英語の単語の成り立ち (クイズ3) 5. 続き (クイズ4) 6. 英語の文構造 (クイズ5) 7. 続き (クイズ6) 8. 続き (クイズ7) 9. 子供の言語獲得 (クイズ8) 10. 続き (クイズ9) 11. 言語障害 (クイズ10) 12. まとめ、質問 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。プリントを配布する。		授業の最初に簡単な復習クイズを行う(上記の授業計画参照)。評価はこのクイズ(20%)と定期試験(80%)による。	

06年度以降(秋) 03～05年度(秋)	英語学入門 英語学概論 a	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		春学期と同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

03～05 年度（春）	英語学概論 b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、言語学の最近の発展から得られた知見を利用し、英語の特質を探り当てて英語そのものの理解を深め、英語についての知識を増やすことにあります。したがって、高校時代に習ってきた表現が「なぜそう言えるのに、こうは言えないの?」という素朴な疑問に対して、それなりに「なるほど!」と納得のいく理由のあることを説明していきます。</p> <p>この授業を受けると、例えば日本語で「ジョンに行くように説得したけれど、行かなかった」と言っても、“*I persuaded John to go, but he didn't go.”と言えない理由や、“I'm standing () the street.”のカッコに in と on が入るけど、意味が違うことも分かるようになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 機能的統語論（情報構造、受身文、再帰代名詞） 2. " 3. " 4. 意味論（語・句・節の意味、意味関係、前提と断定、） 5. " 6. 認知意味論（カテゴリー化、メタファー、メトニミー、イメージスキーマ、文法化、意味変化） 7. " 8. " 9. 語用論（ダイクシス、発話行為、会話の含意、ポライトネス） 10. " 11. 関連性理論（コミュニケーションと解釈原則、表意と推意、概念的コード化と手続き的コード化） 12. " 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリント（随時配布）を使います。参考書は随時紹介します。</p>		<p>試験と課題によります。（下を参照）</p>	

03～05 年度（秋）	英語学概論 b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義内容は春学期と同じです。</p> <p>もう少し、この授業を受けると分かるようになる例を挙げておきます。</p> <p>(1) 沸くのは「やかん」ではなく「お湯」なのに、英語も日本語も「やかんが沸く」と言う。</p> <p>a. The kettle is boiling.</p> <p>b. ヤカンが煮えくり返っている。</p> <p>(2) 'write Mary a letter' と 'write a letter to Mary' は同じ意味だと習ったのに、bは言えない。</p> <p>a. John wrote a letter to Mary, but later he tore it up.</p> <p>b.*John wrote Mary a letter, but later he tore it up.</p>		<p>授業計画は春学期と同じです。</p> <p>言うまでもなく出席は大事です。参考資料として、昨年度秋学期の定期試験結果の評価を挙げておきますが、Fを取った受講生は欠席が多かったものと思われまます。</p> <p>成績 AA: 9名 A: 21名 B: 29名 C: 18名 F: 24名</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリント（随時配布）を使います。参考書は随時紹介します。</p>		<p>試験と任意課題によります。</p>	

06年度以降(春) 03～05年度(春)	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学・文化概論 a	担当者	前沢浩子・片山亜紀 高橋雄一郎・上野直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いまや英語圏は世界中に広がっている。そのなかでも「間大西洋地域」を中心に、歴史と世界の動きのなかから生まれた文学と文化のエッセンスを紹介する。12回の講義を通して、文学表現のおもしろさを味わうとともに、文学・文化と政治・社会との複雑な関係にも気づいてほしい。</p> <p>12回のコースを4名の教員で3回ずつ担当し、各担当教員は専門とする地域とトピックについて講義を行う。授業で扱う地域は、イギリス連合王国、アメリカ合衆国、カリブ諸地域が中心となるが、その他の英語圏にも目配りしつつ進めたい。</p>		<p>1回目：ユニオンジャックとシェイクスピア（前沢） 2回目：18世紀の市民社会とジャーナリズム（前沢） 3回目：フランス革命とイギリス・ロマン派（前沢） 4回目：『フランケンシュタイン』とゴシック小説（片山） 5回目：19世紀ロンドンの光と影（片山） 6回目：第一次大戦とモダニズム運動（片山） 7回目：野外博物館に見るアメリカ合州国の歴史（高橋） 8回目：トニ・モリソンの『ピラヴド』を読む（高橋） 9回目：パフォーマンス・アートに見るポストコロニアリズム（高橋） 10回目：西欧史の背中の臍＝カリブ（上野） 言葉を持たぬ「キャリバン」から文学の豊穡まで 11回目：ディアスポラの世界地図と言葉という故郷（上野） 12回目：ユニオンジャックに「黒」はない？（上野）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを用意する。Further Reading のリストについては各講師が紹介する。		詳細は開講時に説明する。	

06年度以降(秋) 03～05年度(秋)	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学・文化概論 a	担当者	前沢浩子・片山亜紀 高橋雄一郎・上野直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いまや英語圏は世界中に広がっている。そのなかでも「間大西洋地域」を中心に、歴史と世界の動きのなかから生まれた文学と文化のエッセンスを紹介する。12回の講義を通して、文学表現のおもしろさを味わうとともに、文学・文化と政治・社会との複雑な関係にも気づいてほしい。</p> <p>12回のコースを4名の教員で3回ずつ担当し、各担当教員は専門とする地域とトピックについて講義を行う。授業で扱う地域は、イギリス連合王国、アメリカ合衆国、カリブ諸地域が中心となるが、その他の英語圏にも目配りしつつ進めたい。</p>		<p>1回目：ユニオンジャックとシェイクスピア（前沢） 2回目：18世紀の市民社会とジャーナリズム（前沢） 3回目：フランス革命とイギリス・ロマン派（前沢） 4回目：『フランケンシュタイン』とゴシック小説（片山） 5回目：19世紀ロンドンの光と影（片山） 6回目：第一次大戦とモダニズム運動（片山） 7回目：野外博物館に見るアメリカ合州国の歴史（高橋） 8回目：トニ・モリソンの『ピラヴド』を読む（高橋） 9回目：パフォーマンス・アートに見るポストコロニアリズム（高橋） 10回目：西欧史の背中の臍＝カリブ（上野） 言葉を持たぬ「キャリバン」から文学の豊穡まで 11回目：ディアスポラの世界地図と言葉という故郷（上野） 12回目：ユニオンジャックに「黒」はない？（上野）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを用意する。Further Reading のリストについては各講師が紹介する。		詳細は開講時に説明する。	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05年度(秋)	英語圏の文学・文化概論 b	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>イギリスの十八世紀末から十九世紀半ばにかけての、いずれも時代を代表する小説家、ジェーン・オースティン、チャールズ・ディケンズ、ウィリアム・M・サッカレー、この三人の作家の代表的な作品を解説・鑑賞していきます。また、作品から浮かび上がると同時に作品の背景にある歴史の動きや文化、時代の精神風土を解説していきます。</p> <p>受講生への要望は、講義で扱う作家のものを、どの作品でもよいから、あらかじめ読んでおいて欲しいことです。そうすれば、講義に対する関心と理解が深まることうけあいです。</p>		<p>最初の授業時に全体的な解説をします。</p> <p>ウィリアム・M・サッカレーの代表的作品を最初に取り上げて、時代をさかのぼって講義を進めていく予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは配布するプリント。参考文献は授業中に適宜紹介します。</p>		<p>主として、小テストとレポート。</p>	

06年度以降(春) 03～05年度(春)	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 a	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語を学ぶ皆さんは、「異文化コミュニケーション」というものに少なからず興味があるのではないのでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは「文化」「コミュニケーション」そして、この2つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただき、それを見つめ直していただきたいと考えています。なぜなら、大学で学ぶ異文化コミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えへの問い直しから始まるからです。なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<p>I. コミュニケーション理論のフロンティア</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 2. 科学技術的なコミュニケーション理論 3. 人間主義的なコミュニケーション理論 4. 批判実践的なコミュニケーション理論 <p>II. 文化研究への招待</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 比較文化論の問題 6. 文化本質主義と文化相対主義の問題 7. 文化の政治性とは何か？ <p>III. レトリック研究への招待</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. レトリック研究とは何か？ 9. 誰かを説得しようとしている自分 10. 知らぬ間に説得されている自分 <p>IV. 発表と審査</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. グループ発表： Day 1 12. グループ発表： Day 2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリント配布予定 参考書：『異文化コミュニケーション研究法』(有斐閣)</p>		<p>クイズ1回(不定期、30%) 学期末課題(グループ発表、70%)</p>	

06年度以降(秋) 03～05年度(秋)	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 a	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語を学ぶ皆さんは、「異文化コミュニケーション」というものに少なからず興味があるのではないのでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは「文化」「コミュニケーション」そして、この2つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただき、それを見つめ直していただきたいと考えています。なぜなら、大学で学ぶ異文化コミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えへの問い直しから始まるからです。なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<p>I. コミュニケーション理論のフロンティア</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 2. 科学技術的なコミュニケーション理論 3. 人間主義的なコミュニケーション理論 4. 批判実践的なコミュニケーション理論 <p>II. 文化研究への招待</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 比較文化論の問題 6. 文化本質主義と文化相対主義の問題 7. 文化の政治性とは何か？ <p>III. レトリック研究への招待</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. レトリック研究とは何か？ 9. 誰かを説得しようとしている自分 10. 知らぬ間に説得されている自分 <p>IV. 発表と審査</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. グループ発表： Day 1 12. グループ発表： Day 2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリント配布予定 参考書：『異文化コミュニケーション研究法』(有斐閣)</p>		<p>クイズ1回(不定期、30%) 学期末課題(グループ発表、70%)</p>	

06年度以降(春) 03~05年度(春)	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミックさを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。</p> <p>表象 (represent) された言語は政治的であり、表象の代理・代用 (re-present) 可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏（特にアメリカ）の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなる。</p> <p>講義概要 講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キータームの解説を加えながら講義を進めていく。</p>		1 Course Orientation 2 Hollywood and Hypercommercial 3 Hollywood and Hypercommercial 4 Hollywood and Hypercommercial 5 Advertisement and Public Culture 6 Advertisement and Public Culture 7 Advertisement and Public Culture 8 Desire, Sexuality and Power in Music Video 9 Desire, Sexuality and Power in Music Video 10 Desire, Sexuality and Power in Music Video 11 Desire, Sexuality and Power in Music Video 12 Wrap Up	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示する。		定期試験、不定期に課す課題、及び出席状況等による総合評価	

06年度以降(秋) 03~05年度(秋)	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミックさを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。</p> <p>表象 (represent) された言語は政治的であり、表象の代理・代用 (re-present) 可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏（特にアメリカ）の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなる。</p> <p>講義概要 講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キータームの解説を加えながら講義を進めていく。</p>		1 Course Orientation 2 Hollywood and Hypercommercial 3 Hollywood and Hypercommercial 4 Hollywood and Hypercommercial 5 Advertisement and Public Culture 6 Advertisement and Public Culture 7 Advertisement and Public Culture 8 Desire, Sexuality and Power in Music Video 9 Desire, Sexuality and Power in Music Video 10 Desire, Sexuality and Power in Music Video 11 Desire, Sexuality and Power in Music Video 12 Wrap Up	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示する。		定期試験、不定期に課す課題、及び出席状況等による総合評価	

03～05 年度（春）	文化コミュニケーション概論 b（春学期開講）	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文化とコミュニケーションの諸相を題材にしながら、問題意識を持ち自問し続けることの面白さを受講生と分かち合うことを講義目標とします。したがって、文化研究やコミュニケーション論の理論や学問体系を受講生に習得させることが本講義における私の意図ではありません。右の授業計画に沿いながらも、毎回重要だと思うテーマや出来事について、自由気ままに意見を述べたり質問したりしますので、積極的に授業に参加してください。授業の理解度は授業への参加度と比例するものと心得ておいてください。</p> <p>本講義内容に関連する理論や学問体系に関心のある受講生は、以下の本を読んでみるとよいでしょう。</p> <p>石井敏、久米昭元、岡部朗一（1996）『異文化コミュニケーション——新・国際人への条件』有斐閣。 伊藤公雄、橋本満 編（1998）『はじめて出会う社会学——社会学はカルチャー・スタディ』有斐閣。 船津衛（1996）『コミュニケーション・入門——心の中からインターネットまで』有斐閣。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入——文化とコミュニケーションを学問する 2. コミュニケーションを定義する？ 3. コミュニケーション研究史——歴史は語る 4. コミュニケーション・モデル——科学の挑戦 5. 文化——文化ではなく文化的な「あなた」 6. 文化の型と「異」文化への眼差し 7. 文化変容——文化＝コミュニケーション？ 8. アイデンティティと表象——私は誰でしょう？ 9. 説得的コミュニケーション——釈迦に説法できますか？ 10. 事例研究 1 ——刑務所化を知っていますか？ 11. 事例研究 2 ——グローバル化時代の大学生と文化コミュニケーション 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		レポート（40%）と試験（60%）	

03～05 年度（秋）	文化コミュニケーション概論 b（秋学期開講）	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文化とコミュニケーションの諸相を題材にしながら、問題意識を持ち自問し続けることの面白さを受講生と分かち合うことを講義目標とします。したがって、文化研究やコミュニケーション論の理論や学問体系を受講生に習得させることが本講義における私の意図ではありません。右の授業計画に沿いながらも、毎回重要だと思うテーマや出来事について、自由気ままに意見を述べたり質問したりしますので、積極的に授業に参加してください。授業の理解度は授業への参加度と比例するものと心得ておいてください。</p> <p>本講義内容に関連する理論や学問体系に関心のある受講生は、以下の本を読んでみるとよいでしょう。</p> <p>石井敏、久米昭元、岡部朗一（1996）『異文化コミュニケーション——新・国際人への条件』有斐閣。 伊藤公雄、橋本満 編（1998）『はじめて出会う社会学——社会学はカルチャー・スタディ』有斐閣。 船津衛（1996）『コミュニケーション・入門——心の中からインターネットまで』有斐閣。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入——文化とコミュニケーションを学問する 2. コミュニケーションを定義する？ 3. コミュニケーション研究史——歴史は語る 4. コミュニケーション・モデル——科学の挑戦 5. 文化——文化ではなく文化的な「あなた」 6. 文化の型と「異」文化への眼差し 7. 文化変容——文化＝コミュニケーション？ 8. アイデンティティと表象——私は誰でしょう？ 9. 説得的コミュニケーション——釈迦に説法できますか？ 10. 事例研究 1 ——刑務所化を知っていますか？ 11. 事例研究 2 ——グローバル化時代の大学生と文化コミュニケーション 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		レポート（40%）と試験（60%）	

06年度以降(春) 03～05年度(春)	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 a	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、国際関係論の基礎知識を学んでもらうことにある。この授業を通じて、現在の国際社会で実際に起きている事象や国際社会の直面する課題を理解し、分析するきっかけを掴んでもらいたい。</p> <p>第7週目までは、国際関係論がいかなる学問であるのか、国際社会の発展の経緯、国際社会を構成する主体、国際関係を分析する視点について説明する。第8週目以降は、国際社会が直面する課題として具体的なテーマを焦点に、それぞれの歴史的経緯、現状、国際社会による取組みを扱う。</p> <p>本講義においては、国際関係論と実社会との関連性を考えてもらうため、その時々国際情勢に応じた新聞記事の紹介を行う。また、授業の内容によっては、映像資料も積極的に用いる予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：国際関係論とは？ 2. 国際社会の発展と展開（1） 3. 国際社会の発展と展開（2） 4. 国際社会を構成する主体（1） 5. 国際社会を構成する主体（2） 6. 国際社会を分析する視点 7. 中間テスト 8. 国際社会の直面する課題（1）テロリズム 9. 国際社会の直面する課題（2）貿易・市場 10. 国際社会の直面する課題（3）ナショナリズム 11. 国際社会の直面する課題（4）核拡散・軍拡 12. 国際社会の直面する課題（5）環境問題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
指定テキストはないが、授業において参考文献を紹介する。		出席、中間テスト、学期末レポートの総合評価とする。	

06年度以降(秋) 03～05年度(秋)	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 b	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、国際関係論の基礎知識を学んでもらうことにある。この授業を通じて、現在の国際社会で実際に起きている事象や国際社会の直面する課題を理解し、分析するきっかけを掴んでもらいたい。</p> <p>第7週目までは、国際関係論がいかなる学問であるのか、国際社会の発展の経緯、国際社会を構成する主体、国際関係を分析する視点について説明する。第8週目以降は、国際社会が直面する課題として具体的なテーマを焦点に、それぞれの歴史的経緯、現状、国際社会による取組みを扱う。</p> <p>本講義においては、国際関係論と実社会との関連性を考えてもらうため、その時々国際情勢に応じた新聞記事の紹介を行う。また、授業の内容によっては、映像資料も積極的に用いる予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：国際関係論とは？ 2. 国際社会の発展と展開（1） 3. 国際社会の発展と展開（2） 4. 国際社会を構成する主体（1） 5. 国際社会を構成する主体（2） 6. 国際社会を分析する視点 7. 中間テスト 8. 国際社会の直面する課題（1）テロリズム 9. 国際社会の直面する課題（2）貿易・市場 10. 国際社会の直面する課題（3）ナショナリズム 11. 国際社会の直面する課題（4）核拡散・軍拡 12. 国際社会の直面する課題（5）環境問題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
指定テキストはないが、授業において参考文献を紹介する。		出席、中間テスト、学期末レポートの総合評価とする。	

06年度以降(春) 03～05年度(春)	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 a	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>半期の授業を通じて、国際関係研究 (study of international relations) とはどのような学問なのかを理解してもらおう。最終的には、教員による説明をただ受動的に聞くのではなく、授業内容を批判的に聞き、自分なりの「国際関係」のイメージを持つようになることを目指す。</p> <p>英語学科では、二学年次に四つの専門コースからひとつを選択することになっており、この授業がその手助けになるであろう。</p> <p>毎回の授業の冒頭では、学生諸君に日々変化する国際情勢に関心を持ってもらうために、その週の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を 30 分程度設ける。必要に応じてビデオ映像なども利用して、理解を深めてもらいたい。</p> <p>また授業のなかでは、国際関係研究のうえで重要な理論や用語についても、その都度説明を加えていく。</p> <p>この授業では、携帯メールによる質問を授業中随時受け付け、適宜それらを取り上げているので、疑問に思ったことなどを積極的に教員に伝えて欲しい。</p> <p>なお私語は厳禁、真剣に学ぼうとする学生の邪魔をするものには、即座に退室してもらおう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>国際関係論を学ぶにあたってのガイダンス</u> (第1週) ～勉強のうえで役に立つウェブサイトや図書館データベースの利用案内、本学国際関係関連科目の紹介、文献リストの解説 2. <u>イントロダクション</u> (第2～5週) ～国際関係論研究の誕生と発展、その特質について 3. <u>国際関係における秩序</u> (第6～12週) ～国際関係の特質としてのアナーキーと秩序 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>第一回目の講義で、詳しい参考文献リストを配布する。なお、ブックレポート(書評)では、文献リストに掲載されている本を取り上げてもらう。</p>		<p>学期中のレポートと学期末試験による評価。</p>	

06年度以降(秋) 03～05年度(秋)	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 b	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>半期の授業を通じて、国際関係研究 (study of international relations) とはどのような学問なのかを理解してもらおう。最終的には、教員による説明をただ受動的に聞くのではなく、授業内容を批判的に聞き、自分なりの「国際関係」のイメージを持つようになることを目指す。</p> <p>英語学科では、二学年次に四つの専門コースからひとつを選択することになっており、この授業がその手助けになるであろう。</p> <p>毎回の授業の冒頭では、学生諸君に日々変化する国際情勢に関心を持ってもらうために、その週の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を 30 分程度設ける。必要に応じてビデオ映像なども利用して、理解を深めてもらいたい。</p> <p>また授業のなかでは、国際関係研究のうえで重要な理論や用語についても、その都度説明を加えていく。</p> <p>この授業では、携帯メールによる質問を授業中随時受け付け、適宜それらを取り上げているので、疑問に思ったことなどを積極的に教員に伝えて欲しい。</p> <p>なお私語は厳禁、真剣に学ぼうとする学生の邪魔をするものには、即座に退室してもらおう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>国際関係論を学ぶにあたってのガイダンス</u> (第1週) ～勉強のうえで役に立つウェブサイトや図書館データベースの利用案内、本学国際関係関連科目の紹介、文献リストの解説 2. <u>イントロダクション</u> (第2～5週) ～国際関係論研究の誕生と発展、その特質について 3. <u>国際関係における秩序</u> (第6～12週) ～国際関係の特質としてのアナーキーと秩序 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>第一回目の講義で、詳しい参考文献リストを配布する。なお、ブックレポート(書評)では、文献リストに掲載されている本を取り上げてもらう。</p>		<p>学期中のレポートと学期末試験による評価。</p>	

03~05年度 (春)	Speech Communication a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a course for speech communication, defined here as formal and informal speaking in situations such as face-to-face interaction, small group communication, public speaking, and debate.</p> <p>Given today's societal needs and students' interests, the Department would like every class to incorporate some activities to improve students' presentation skills. More specifically, the instructor is expected to provide a portion of each lesson to activities to improve the students' basic presentation (expository and persuasive) skills for communication. Students should (1) get experience in making and delivering a short speech in English, (2) become familiar with how to describe visual materials or to use visual aids to explain events, phenomena or concepts, and (3) learn to be responsive listeners, commentators, and/or questioners in the audience, rather than passive auditors.</p>		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p>		<p>Student performances should be graded based on clarity and enthusiasm to communicate.</p>	

03~05年度 (秋)	Speech Communication b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a course for speech communication, defined here as formal and informal speaking in situations such as face-to-face interaction, small group communication, public speaking, and debate.</p> <p>Given today's societal needs and students' interests, the Department would like every class to incorporate some activities to improve students' presentation skills. More specifically, the instructor is expected to provide a portion of each lesson to activities to improve the students' basic presentation (expository and persuasive) skills for communication. Students should (1) get experience in making and delivering a short speech in English, (2) become familiar with how to describe visual materials or to use visual aids to explain events, phenomena or concepts, and (3) learn to be responsive listeners, commentators, and/or questioners in the audience, rather than passive auditors.</p>		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p>		<p>Student performances should be graded based on clarity and enthusiasm to communicate.</p>	

03～05年度（春）	英語ライティング・ストラテジーズ a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本的な単語や文法を用い、文章構成の基本を学びながら身近でやさしいトピックについて具体的に目的を持った短い文章が書けるようになることを目標とする。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な文法項目等を復習する 2. 日常使われる手紙の基本形式を学び、実際に短い手紙を書いてみる（お祝の手紙、入学／就職希望の手紙、英文履歴書等） 3. パラグラフの基本について学ぶ <ol style="list-style-type: none"> (1) パラグラフとはなにか (2) トピック・センテンスについて (3) トピック・センテンスをサポートする、他 4. 以上の作文技術を学習した後、各教員が指定した教材を使用し作文力の向上を図る。場合によっては上記の作文技術と文法・作文用の教材を交えながら年間を通じて学んでいくこともあり得る。 		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		平常点、試験、レポート等による。	

03～05年度（秋）	英語ライティング・ストラテジーズ b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語ライティング・ストラテジーズ a の延長。</p>		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		平常点、試験、レポート等による。	

03～05年度（春）	英語リーディング・ストラテジーズ a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>語彙力を増やしながら英語の読解力を養うことを目的とする。</p> <p>最初の数週間は読解力の基礎となるパラグラフ・リーディングの技術や skimming, scanning といった読むためのストラテジーズを習得し、文章がどのように組み立てられているかを考えながら読むことを学ぶ。その後は各教員が選定した現代英語のテキストを用い読解力を養う。</p>		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>統一オンライン教材以外に関しては各担当教員が指示する。</p>		<p>各担当教員が開講時に説明する。</p>	

03～05年度（秋）	英語リーディング・ストラテジーズ b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>語彙力を増やしながら英語の読解力を養うことを目的とする。</p> <p>各教員が選定した現代英語のテキストを用い読解力を養う。テキストの背後にある歴史・政治・文化の背景を認識しながら深く読むことを学ぶ。</p>		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>統一オンライン教材以外に関しては各担当教員が指示する。</p>		<p>各担当教員が開講時に説明する。</p>	

03～05年度（春）	Reading Comprehension a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The Department has set the following macro-level objectives for this reading course to be taught by native-speaker instructors:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To help students learn to think in English 2. To enlarge students' vocabulary 3. To give students insights into Western culture and literature 4. To help prepare students for study in an English-speaking country. 5. To help students learn new ideas, and have new learning experiences. <p>Instructors are free to select their own texts (inside and outside readers) and to use them as they think fit. However, in addition to the set texts, the Department would like the students in this class to be taught basic reading skills. The teaching of the skills may be done at the beginning of each class throughout the year or, alternatively, it may be done for a month or so at the beginning of the course.</p>		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p>		<p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p>	

03～05年度（秋）	Reading Comprehension b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The Department has set the following macro-level objectives for this reading course to be taught by native-speaker instructors:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To help students learn to think in English 2. To enlarge students' vocabulary 3. To give students insights into Western culture and literature 4. To help prepare students for study in an English-speaking country. 5. To help students learn new ideas, and have new learning experiences. <p>Instructors are free to select their own texts (inside and outside readers) and to use them as they think fit. However, in addition to the set texts, the Department would like the students in this class to be taught basic reading skills. The teaching of the skills may be done at the beginning of each class throughout the year or, alternatively, it may be done for a month or so at the beginning of the course.</p>		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p>		<p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p>	

03～05 年度（春）	英語専門講読入門 a（再履修）	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、開発途上国の直面するさまざまな課題を読み解く。具体的には、人口増加、HIV/AIDS、食糧難、グローバリゼーションの影響、民主化・民主化支援についてである。</p> <p>この授業で扱う文献は、同一のテーマに対する賛成の意見と反対の意見の相反する立場から執筆された短い論文によって構成される。本文献を読み進めることにより、学生には、国際関係の中でも特に開発途上国と呼ばれる国々の現状を身近に感じてもらい、また、一つのテーマに対する相反する意見を学ぶことで視野を広げてもらいたい。</p> <p>第一週目の授業において、各章の担当者を決める。この授業の履修を希望する学生は必ず出席すること。学生の理解状況に応じて、授業を進めることにするが、基本的には、毎週一章ずつのペースで読み進める。第2週目以降は、各章の担当者による発表（日本語）、その後簡単な小テスト（英語）を行う。</p>		<p>1. オリエンテーション、発表者決め（発表、小テスト）</p> <p>2. ～3. Overpopulation</p> <p>4. ～5. AIDS</p> <p>6. ～7. Hunger and obesity</p> <p>8. ～9. Globalization and development</p> <p>10. ～11. Globalization and terrorism</p> <p>12. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(1) Laura K. Egenderf eds., <i>The Third World (Opposing Viewpoints Series)</i>, Thomson Gale, Farmington Hills, 2000.</p> <p>(2) David M. Haugen eds., <i>The Third World (Opposing Viewpoints Series)</i>, Thomson Gale, Farmington Hills, 2006.</p>		出席、小テスト、発表、学期末レポートの総合評価とする。	

03～05 年度（秋）	英語専門講読入門 b（再履修）	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同一の文献を同様の方法にて読み進める。		<p>1. オリエンテーション、発表者決め（発表、小テスト）</p> <p>2. ～3. Democracy in Africa</p> <p>4. ～5. Democracy in Asia</p> <p>6. ～7. U.S. Aid and good governance</p> <p>8. ～9. U.S. Aid and democracy</p> <p>10. ～11. The United Nations role</p> <p>12. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(1) Laura K. Egenderf eds., <i>The Third World (Opposing Viewpoints Series)</i>, Thomson Gale, Farmington Hills, 2000.</p> <p>(2) David M. Haugen eds., <i>The Third World (Opposing Viewpoints Series)</i>, Thomson Gale, Farmington Hills, 2006.</p>		出席、小テスト、発表、学期末レポートの総合評価とする。	

06年度(春)	Comprehensive English III (HONORS)	担当者	N.H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course sets out to help students develop further their discussion skills, reading comprehension skills, and analytical skills. Class time will be divided between warm-up discussions, mini lectures, and group discussions and presentations. Topics for discussion will be decided in advance by students and each student will be required to do outside preparation for each discussion.</p> <p>Student will have reading material which will be discussed in the form of a warm-up discussion at the start of each class. Students will be required to do several group presentations each semesters.</p>		<p>Week 1: Class Introduction; Self Introductions</p> <p>Week 2: Being an effective group leader.</p> <p>Week 3: Practicum</p> <p>Week 4: Engaging other members of the group</p> <p>Week 5: Practicum</p> <p>Week 6: Creating a communicative atmosphere</p> <p>Week 7: Practicum</p> <p>Week 8: Techniques for interrupting</p> <p>Week 9: Practicum</p> <p>Week 10: Challenging others' opinions</p> <p>Week 11: Practicum</p> <p>Week 12: Final class</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this class. The instructor will provide all prints, videos and other materials.		Final grades are based on classroom participation, presentations and attendance.	

06年度(秋)	Comprehensive English IV (HONORS)	担当者	N.H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The second semester is a continuation of the first semester. The first class will be spent reviewing the material covered during the first semester.</p>		<p>Week 1: Class Introduction; Self Introductions</p> <p>Week 2: Preparing a presentation</p> <p>Week 3: Practicum</p> <p>Week 4: Preparing comprehension/discussion quest.</p> <p>Week 5: Practicum</p> <p>Week 6: Using multimedia in the classroom</p> <p>Week 7: Practicum</p> <p>Week 8: Creating questionnaires</p> <p>Week 9: Practicum</p> <p>Week 10: Looking at feedback</p> <p>Week 11: Practicum</p> <p>Week 12: Final class</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this class. The instructor will provide all prints, videos and other materials.		Final grades are based on classroom participation, presentations and attendance.	

06年度(春)	Comprehensive English III (HONORS)	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help advanced –level students develop critical thinking skills and the ability to discuss issues of contemporary importance.</p> <p>Using newspapers, students will build up their vocabulary in a number of content areas, and will develop the ability to express their own opinions in both written and spoken English.</p> <p>Students will be expected to participate actively in class, do research in the library and on the internet, and write a number of short papers on the issues that that interest them most.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Japanese politics 3. Japanese politics 4. World politics 5. World politics 6. Economics and business 7. Economics and business 8. Social issues 9. Social issues 10. Sport and Entertainment 11. Sport and Entertainment 12. Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Daily Yomiuri Japan Times		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, the submission of a class notebook, and a final examination	

06年度(秋)	Comprehensive English IV (HONORS)	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help advanced –level students develop critical thinking skills and the ability to discuss issues of contemporary importance.</p> <p>Using newspapers, students will build up their vocabulary in a number of content areas, and will develop the ability to express their own opinions in both written and spoken English.</p> <p>Students will be expected to participate actively in class, do research in the library and on the internet, and write a number of short papers on the issues that that interest them most.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Japanese politics 3. Japanese politics 4. World politics 5. World politics 6. Economics and business 7. Economics and business 8. Social issues 9. Social issues 10. Sport and Entertainment 11. Sport and Entertainment 12. Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Daily Yomiuri Japan Times		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, the submission of a class notebook, and a final examination	

06 年度 (春)	Comprehensive English III (HONORS)	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</p> <p>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</p> <p>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</p>		<p>1. Course introduction; choosing possible topics</p> <p>2. Topic 1: reading, analysis and discussion</p> <p>3. Topic 2: reading, analysis and discussion</p> <p>4. Discussion skills: the language of discussion</p> <p>5. Topic 3: reading, analysis and discussion</p> <p>6. Topic 4: reading, analysis and discussion</p> <p>7. Discussion skills: effective group leadership</p> <p>8. Topic 5: reading, analysis and discussion</p> <p>9. Topic 6: reading, analysis and discussion</p> <p>10 Discussion skills: being a good group member</p> <p>11. Topic 7: reading, analysis and discussion</p> <p>12. Review of term's work</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material provided by teacher		Continuous assessment of class work and assignments, as well as participation in class activities and attendance	

06 年度 (秋)	Comprehensive English IV (HONORS)	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</p> <p>2. To teach students how to prepare and lead a class presentation/discussion</p> <p>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</p>		<p>1. Course introduction; choosing possible topics</p> <p>2. Topic 1: reading, analysis and discussion</p> <p>3. Topic 2: reading, analysis and discussion</p> <p>4. Preparation for presentations</p> <p>5. Preparation for presentations</p> <p>6. Presentations</p> <p>7. Topic 4: reading, analysis and discussion</p> <p>8. Topic 5: reading, analysis and discussion</p> <p>9. Preparation for presentations</p> <p>10. Preparation for presentations</p> <p>11. Presentations</p> <p>12. Review of term's work</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material provided by teacher		Continuous assessment of class work and assignments, as well as participation in class activities and attendance	

06年度(春)	Comprehensive English III	担当者	D. Bradley
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to improve reading comprehension skills and to use this material as a basis for discussion. We will use a variety of reading materials as a resource for developing speaking and discussion skills and students will share their ideas and opinions in pair and group discussion.</p>		<p>Week 1 Introduction to the course Week 2 Consolidation activities Week 3 Work and daily life Week 4 " Week 5 Travel and transport Week 6 " Week 7 Biographies: famous people Week 8 " Week 9 Describing places Week 10 " Week 11 Language and culture Week 12 "</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>There will be no text book. I will distribute handouts as necessary.</p>		<p>Grades will be based on attendance (33%), class participation (33%) and homeworks (33%). Good attendance is a prerequisite for a grade.</p>	

06年度(秋)	Comprehensive English IV	担当者	D. Bradley
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course students are expected to provide input in choosing material for discussion and to prepare a presentation. As deciding on material will take some time the first few weeks will be organized as the reading and discussion classes for which I will provide materials. During that time we will decide on topics for presentation. The weekly headings are provisional to allow for some flexibility once the class has started meeting.</p>		<p>Week 1 Introduction to the course Week 2 Consolidation activities Week 3 Language and culture Week 4 " Week 5 Discussion topics: social issues Week 6 " Week 7 Presentations Week 8 " Week 9 " Week 10 " Week 11 " Week 12 "</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>There will be no text book. I will distribute handouts as necessary.</p>		<p>Grades will be based on attendance (33%), class participation (33%) and the effort put into presentations (33%). Good attendance is a prerequisite for a grade.</p>	

06年度(春)	Comprehensive English III	担当者	D. McCann
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to enable students to put the English they have already acquired to practical use through involvement in pair and group discussion, with plenty of opportunity and encouragement to express their own views and consider those of their classmates. Materials will be selected with a view to stimulating interest and motivation on the part of the students themselves, and students' own input and suggestions will be welcomed.</p> <p>Reading material will be selected from various authentic sources, including magazines, newspapers and illustrated publications. These will be supplemented, where appropriate, with DVD extracts, music and song, drawn from all available media channels. All class members will be asked to make a personalized introduction card at the outset of the course, and this will be used extensively throughout the semester.</p>		<p>The sequence of course activities and topics to be covered will be largely determined by the nature of the materials. At every stage, emphasis will be placed on functional language skills such as identifying main ideas from text, analyzing information and drawing logical conclusions.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
A selection of authentic language materials		Grading will be by continuous assessment, based on classroom participation, enthusiasm and co-operation as well as performance in assignments, tasks and activities	

06年度(秋)	Comprehensive English IV	担当者	D. McCann
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to enable students to put the English they have already acquired to practical use through involvement in pair and group discussion, with plenty of opportunity and encouragement to express their own views and consider those of their classmates. Materials will be selected with a view to stimulating interest and motivation on the part of the students themselves, and students' own input and suggestions will be welcomed.</p> <p>Reading material will be selected from various authentic sources, including magazines, newspapers and illustrated publications. These will be supplemented, where appropriate, with DVD extracts, music and song, drawn from all available media channels. All class members will be asked to make a personalized introduction card at the outset of the course, and this will be used extensively throughout the semester.</p>		<p>The sequence of course activities and topics to be covered will be largely determined by the nature of the materials. At every stage, emphasis will be placed on functional language skills such as identifying main ideas from text, analyzing information and drawing logical conclusions.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
A selection of authentic language materials		Grading will be by continuous assessment, based on classroom participation, enthusiasm and co-operation as well as performance in assignments, tasks and activities	

06年度(春)	Comprehensive English III	担当者	L.K.Hawkins
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Goal and course description: This course is designed to provide the students with an opportunity to greatly improve their ability to understand and communicate in modern American English. This course shall employ several movies (complete with English subtitles and transcripts). Each week, the students will watch one 10 minute scene of the movie. Then, the instructor will provide them with worksheets pertaining to that scene with which they will study the vocabulary, grammar and idioms of that scene. The students will then do role plays or other interesting speaking activities to practice what they have studied. Furthermore, the student's will be required to prepare and present one presentation at the end of each semester.</p>		<p>Week 1: Orientation and evaluation of student's level Week 2: Scene 1 Week 3: Scene 2 Week 4: Scene 4 Week 5: Scene 5 Week 6: Review and Quiz Week 7: Scene 6 Week 8: Scene 8 Week 9: Movie Test Week 10: Presentation Preparation Week 11: Presentations Week 12: Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor.		Attendance, two tests, class participation, one presentation	

06年度(秋)	Comprehensive English IV	担当者	L.K.Hawkins
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Goal and course description: This course is designed to provide the students with an opportunity to greatly improve their ability to understand and communicate in modern American English. This course shall employ several movies (complete with English subtitles and transcripts). Each week, the students will watch one 10 minute scene of the movie. Then, the instructor will provide them with worksheets pertaining to that scene with which they will study the vocabulary, grammar and idioms of that scene. The students will then do role plays or other interesting speaking activities to practice what they have studied. Furthermore, the student's will be required to prepare and present one presentation at the end of each semester.</p>		<p>Week 1: Orientation and evaluation of student's level Week 2: Scene 1 Week 3: Scene 2 Week 4: Scene 4 Week 5: Scene 5 Week 6: Review and Quiz Week 7: Scene 6 Week 8: Scene 8 Week 9: Movie Test Week 10: Presentation Preparation Week 11: Presentations Week 12: Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor.		Attendance, two tests, class participation, one presentation	

06年度(春)	Comprehensive English III	担当者	M.Darling
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is for students to develop the ability to read and analyze various kinds of subject matter, and express/detail their understanding through individual and group presentations: summarizing; identifying main ideas; and debating. The instructor will provide authentic materials from a variety of sources for outside and in-class reading.</p> <p>Students will be guided on how to express their own opinions and ideas with greater confidence, and how to take an opposing opinion. Students will be called on to manage classroom discussions with one or two students serving as discussion leaders.</p> <p>As a solid vocabulary is essential for better understanding of language overall, students will be required to keep an account of the new lexical items they come across in the reading.</p> <p>By the end of this course, students will have become good group discussion leaders and will be able to express themselves with logic and clarity.</p>		<p>Week 1: Course introduction and policies Week 2: Task: Reading & Discussions Week 3: Review & lecture on role of group members Week 4: Task: identifying main ideas from readings Week 5: Reading & Discussions Week 6: Task: creating outlines & summarizing Week 7: Reading & Discussions Week 8: Task: analyzing information Week 9: Reading & Discussions Week 10: Presentations Week 11: Presentations Continued Week 12: Wrap up and review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text. Materials will be provided by the instructor.		Grades will be based on attendance, active participation, and evaluations.	

06年度(秋)	Comprehensive English IV	担当者	M.Darling
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Continuation of first semester.</p> <p>Points for further consideration: • Students will need a notebook and a good English-English dictionary.</p>		<p>Week 1: Course introduction and policies Week 2: Reading task; brainstorming Week 3: Presentation task; brainstorming Week 4: Presentations; collecting feedback Week 5: Presentations Continued Week 6: Reading task; analyzing feedback Week 7: Reading & Discussions Week 8: Presentations Week 9: Presentations Continued Week 10: Reading task; drawing conclusions Week 11: Reading & Discussions Week 12: Wrap up and review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text. Materials will be provided by the instructor.		Grades will be based on attendance, active participation, and evaluations.	

06年度(春)	Comprehensive English III	担当者	N. Hamilton
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose and goal of this course is to further strengthen and consolidate students` abilities in English communication. We will discuss various topics, using various mediums such as music and DVDs. Enjoyment of English is the key expression which will Describe these classes. The atmosphere will be warm and welcoming.</p> <p>Students will get ample opportunities to communicate in English through classroom discussions, peer interaction and also through the medium of Presentations on topics selected either by the teacher or by the students themselves. Te emphasis will always be on English Communication and the enhancement of the students` abilities. Come along and lets enjoy social interaction in English!</p>		<p>During the year we will cover a wide range of topics chosen from various materials which will be provided.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials and texts will be provided by the instructor.		Students will be assessed according to the following criteria: Attendance, Participation, Homeworks/Reports and Presentations.	

06年度(秋)	Comprehensive English IV	担当者	N.Hamilton
講義目的、講義概要		授業計画	
Same as the Spring semester.		Same as the Spring semester.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Same as the Spring semester.		Same as the Spring semester.	

06年度(春)	Comprehensive English III	担当者	P.Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a second year course which will build and reinforce the skills, learnt in the first year. The students will be expected to produce role plays, do presentations and participate in discussions.</p> <p>The book chosen is North Star which has a variety of topics that are interesting to all students. It is not a low level course and students will be expected to attend and participate in the class. There will be homework and assignments every week.</p>		<p>The students will decide the sequence on the first day of study.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>NorthStar Intermediate by Sherry Preiss Published by Pearson Longman</p>		<p>1. Student Attendance 2. Student participation 3. Unit test 4. Assignments</p>	

06年度(秋)	Comprehensive English IV	担当者	P.Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a second year course which will build and reinforce the skills, learnt in the first year. The students will be expected to produce role plays, do presentations and participate in discussions.</p> <p>The book chosen is North Star which has a variety of topics that are interesting to all students. It is not a low level course and students will be expected to attend and participate in the class. There will be homework and assignments every week.</p>		<p>The students will decide the sequence on the first day of study.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>NorthStar Intermediate by Sherry Preiss Published by Pearson Longman</p>		<p>1. Student Attendance 2. Student participation 3. Unit test 4. Assignments</p>	

06 年度 (春)	Comprehensive English III	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Reading & Discussion</p> <p>This is a reading course which seeks to develop students' ability to:</p> <p>a) enjoy & understand articles within a time limit</p> <p>b) employ a variety of reading techniques to improve speed & comprehension</p> <p>c) understand & discuss the writer's opinion</p> <p>In addition to regular reading practice, students will have ample opportunity to widen their vocabulary knowledge, practice various reading skills and find & discuss the author's opinion.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductory Class 2. Speed Reading 3. International Marriage 4. Family Rivalry 5. Longevity 6. Assisted Suicide 7. International Organ Trade 8. Medical Ethics 9. Destruction of the Rainforest 10. Animals in Captivity 11. Nuclear Energy 12. Course Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook. An English-English dictionary & a new A4 or B4 sized binder or folder are required		30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Assignment	

06 年度 (秋)	Comprehensive English IV	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Presentation & Discussion</p> <p>This is a course which seeks to develop students' ability to:</p> <p>a) present their ideas & opinions to an audience</p> <p>b) methodically prepare formal presentations</p> <p>c) question & discuss their own & other class members' ideas</p> <p>In addition to skills development, students will have a number of opportunities to present their ideas & opinions on topics of interest to them, to other class members</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Self-introductions 3 +4. The Physical Message 5 + 6. The Story Message 7 + 8. The Visual Message 9 + 10. Book/Movie Review 11 + 12. Persuasive Presentation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook. An English-English dictionary & an A4 or B4 sized folder or binder are required		30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Presentation	

06年度(春)	Comprehensive English III	担当者	R.Durham
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>OVERALL OBJECTIVES OF THE COURSE:</p> <p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) discuss better, in both verbal & non-verbal English;</p> <p>b) read Newspaper articles about World Issues, and to discuss the articles from an International point of view;</p> <p>c) think and communicate more effectively in 21st Century English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>d) speak, explain, & elaborate your opinions more clearly, in Modern English;</p> <p>e) begin & continue <i>dynamic, interesting conversations</i> with a variety of English-speakers from various countries; and</p> <p>f) (if student interest is high) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>Tentative Weekly Schedule for the April – July Semester: (* Note: This is a <i>tentative</i> schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Introductions, in 21st Century English. Practice of Introductions in English. News article exercises distributed & assigned.</p> <p>Week 2: Review & further practice of Introductions. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study</i>.</p> <p>Week 3: Inquiring about the Golden Week plans of other people; & how to explain/elaborate. Discussion of recent International News articles and/or News Videos. (Focus on striving to obtain a balanced Global viewpoint.)</p> <p>Week 4: Explaining IN DETAIL about your weekend/ Golden Week/ parties/ concerts, etc. "How was ___?" What is "EQ"; and how can we best use it, to have more effective communication?</p> <p>Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.</p> <p>Week 5: Student reading/research about a variety of themes which they choose, such as: Global Warming; International Relations; relations with other countries; uses & misuses of the Internet; and many more student-suggested topics of interest. Possibly: choosing an International topic for presentation.</p> <p>Week 6: Ongoing assessment of student abilities & class performance. What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication</i>? Refining on possible presentation topics.</p> <p>Week 7: International News stories, with discussion. Examination & use of International vs. Domestic <i>etiquette</i>. Preparations for making presentations.</p> <p>Week 8: Continuous assessment. Examination of some ways to meet new people (using English); and how to continue/develop conversations with them. International News articles and/or videos; with discussion thereof.</p> <p>Week 9: International vs. Domestic Body Language — another form of "EQ". Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Listening exercise & discussion.</p> <p>Week 10: Differences between flattery & compliments. The need for heartfelt compliments & appreciation ("EQ"). Student presentations.</p> <p>Week 11: <i>International communication</i>: reserving hotels/air tickets/trains/restaurant seats, in English. Student presentations.</p> <p>Week 12: Discussing plans for the Summer. Student presentations.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Materials/Textbook:</p> <p>We will mostly be using recent International newspaper articles, Internet research, global videos, and research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.</p>		<p>Evaluation Method/ Grading/ Assessment: The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</p>	

06年度(秋)	Comprehensive English IV	担当者	R. Durham
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>OVERALL OBJECTIVES OF THE COURSE:</p> <p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) discuss better, in both verbal & non-verbal English;</p> <p>b) research and learn about International festivals & special days/dates/occasions, in various countries around the world.</p> <p>c) read Newspaper articles about World Issues, and to discuss the articles from an International point of view;</p> <p>d) think and communicate more effectively in 21st Century English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>e) speak, explain, & elaborate your opinions more clearly, in Modern English;</p> <p>f) begin & continue <i>dynamic, interesting conversations</i> with a variety of English-speakers from various countries; and</p> <p>g) (if student interest is high) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>Tentative Weekly Schedule for the September – December/January Semester: (* Note: This is a <i>tentative</i> schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, and elaborating about your Summer Break, using 21st Century English. News article exercises distributed & assigned.</p> <p>Week 2: Continuous assessments. Asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.</p> <p>Week 3: Researching <i>festivals in different countries</i>: Halloween and other occasions chosen by students. Discussion of recent International News articles and/or News Videos. (Focus on striving to obtain a balanced Global viewpoint.)</p> <p>Week 4: Choosing a country and Fall/Winter festival about which you would like to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication and business success.</p> <p>Week 5: Halloween video and discussion. News articles and/or video about <i>International</i> topics.</p> <p>Week 6: Ongoing assessments. English-listening and discussion exercise. Preparation for presentations. Conversation practice.</p> <p>Week 7: Concepts of what "hobbies" means, in other countries. Discussing and elaborating about at least five of your special, unique hobbies.</p> <p>Week 8: Dynamic English & "EQ": practicing how to 'shine' and impress English speakers in other countries.</p> <p>Week 9: Finalizing preparations and practice for presentations. News articles and/or video about international topics. Song-listening exercise.</p> <p>Week 10: Class presentations. Christmas song-listening exercise. Christmas cultures in various countries.</p> <p>Week 11: Christmas in various countries in the world. Asking others, and elaborating, about Christmas wishes and plans. Christmas song exercise.</p> <p>Week 12: Christmas song-listening & discussion. Christmas in countries around the world, part 2.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Materials/Textbook:</p> <p>We will mostly be using recent International newspaper articles, Internet research, global videos, and research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.</p>		<p>Evaluation Method/ Grading/ Assessment: The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</p>	

06年度(春)	Comprehensive English III	担当者	T.J.Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Overall Objectives: This one semester course will focus on improving practical English reading Comprehension, reasoning, communicative, and presentation skills of 2nd year students.</p> <p>Possible Topics: The major topics for study will be selected by the students themselves. These topics could range from the social and economic difficulties encountered by freeters (contract or part-time workers), matters of gender and racial equality, to questions concerning the survival of mankind due to global warming or some other cosmic catastrophe. There will be small group discussions based upon one's own opinions, independent research, preferably utilizing online resources, and more formal prepared presentations to the whole class. In the process, the students will gain useful experience in getting to the mail point and coherently or clearly making themselves understood in a polite and convincing manner.</p>		<p>Week</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Getting to know one another, initial evaluation of student skill levels, more detailed course explanation 2 Selection of first small group topics; research and discussion techniques 3 Small group discussions 4 Critique and guidance; ways to improve; choosing a research topic 5 Continuation of preparation, research, and practice for individual talks 6 Individual presentations 7 Individual presentations and critiques 8 Panel or group presentations explained, groups and topics chosen 9 Preparing for group presentations 10 Panel presentations 11 Panel presentations 12 Wrapping up, last thoughts 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Since a lot of individual student research will be required, a regular textbook would most likely be needed only if the overall English skills level of the students is not sufficiently high to warrant a more tutorial or self-directed style. In other words, the question of a text will be decided later.</p>		<p>The most important factor is a student's willingness to try to communicate and develop academic competence in English. From different starting points, each student ought to do her or his personal best to improve those skills needed to not only just get along in a foreign language, but to excel. Certainly, the usual university standards of attendance and being prepared for class apply. There will be continuous evaluation, guidance, and feedback throughout the term.</p>	

06年度(秋)	Comprehensive English IV	担当者	T.J.Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Overall Objectives: This one semester course will focus on improving practical English reading Comprehension, reasoning, communicative, and presentation skills of 2nd year students.</p> <p>Possible Topics: The major topics for study will be selected by the students themselves. These topics could range from the social and economic difficulties encountered by freeters (contract or part-time workers), matters of gender and racial equality, to questions concerning the survival of mankind due to global warming or some other cosmic catastrophe. There will be small group discussions based upon one's own opinions, independent research, preferably utilizing online resources, and more formal prepared presentations to the whole class. In the process, the students will gain useful experience in getting to the mail point and coherently or clearly making themselves understood in a polite and convincing manner.</p>		<p>Week</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Getting to know one another, initial evaluation of student skill levels, more detailed course explanation 2 Selection of first small group topics; research and discussion techniques 3 Small group discussions 4 Critique and guidance; ways to improve; choosing a research topic; traditional and online information sources; information without acknowledging the source 5 Continuation of preparation, research, and practice for individual talks 6 Individual presentations 7 Individual presentations and feedback or critiques 8 Panel or group presentations explained, groups and topics selected 9 Preparing for group presentations; one-to-one and small group guidance 10 Panel presentations 11 Panel presentations 12 Last minute wrapping up and final thoughts 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Since a lot of individual student research will be required, a regular textbook would most likely be needed only if the overall English skills level of the students is not sufficiently high to warrant a more tutorial or self-directed style. In other words, the question of a text will be decided later.</p>		<p>The most important factor is a student's willingness to try to communicate and develop academic competence in English. From different starting points, each student ought to do her or his personal best to improve those skills needed to not only just get along in a foreign language, but to excel. Certainly, the usual university standards of attendance and being prepared for class apply. There will be continuous evaluation, guidance, and feedback throughout the term.</p>	

06年度(春)	Comprehensive English III	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students develop critical thinking skills and the ability to discuss issues of contemporary importance.</p> <p>Using newspapers, students will build up their vocabulary in a number of content areas, and will develop the ability to express their own opinions in both written and spoken English.</p> <p>Students will be expected to participate actively in class, do research in the library and on the internet, and write a number of short papers on the issues that interest them most.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Japanese politics 3. Japanese politics 4. World politics 5. World politics 6. Economics and business 7. Economics and business 8. Social issues 9. Social issues 10. Sport and Entertainment 11. Sport and Entertainment 12. Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Daily Yomiuri Japan Times		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, the submission of a class notebook, and a final examination	

06年度(秋)	Comprehensive English IV	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students develop critical thinking skills and the ability to discuss issues of contemporary importance.</p> <p>Using newspapers, students will build up their vocabulary in a number of content areas, and will develop the ability to express their own opinions in both written and spoken English.</p> <p>Students will be expected to participate actively in class, do research in the library and on the internet, and write a number of short papers on the issues that interest them most.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Japanese politics 3. Japanese politics 4. World politics 5. World politics 6. Economics and business 7. Economics and business 8. Social issues 9. Social issues 10. Sport and Entertainment 11. Sport and Entertainment 12. Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Daily Yomiuri Japan Times		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, the submission of a class notebook, and a final examination	

06 年度 (春)	Comprehensive English III	担当者	T. Murphey
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The main theme of this class is WHAT WORKS in LANGUAGE LEARNING for YOU. You will be helped to read, write, speak, and listen intensively about yourself as a language learner and your classmates. You are asked to research yourself and your ways of learning. <u>You will be video recorded</u> having conversations on video. At the end of each semester you will have about 10 five-minute video-recordings of yourself (one each week) and write a paper comparing your first conversations with your later ones. You can see how you improved and evaluate your learning experiments and strategies, beliefs, and identities.</p> <p>We will look at how we can ENJOY learning more in many ways, in and out of class, through songs, movies, and USING English outside of class in our everyday lives. We will also have larger group discussions and change roles and partners often to achieve the objectives of the course. Because I adjust to student feedback, the schedule is approximate. Students will read about 2 chapters in the texts each week, to prepare for the video topics, and group discussions. ((continued below))</p>		<p><u>Tentative Schedule</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and tentative syllabus: Intro video 2. Five ways I like to learn 3. Helpful Friends & Classmates 4. Learning New Strategies 5. Mistake stories 6. Language Learning Histories 7. Movie Discussion 8. Topics to be determined 9. Topics to be determined 10. Topics to be determined 11. Topics to be determined 12. My Progress This Semester 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Required Texts (2007). <i>Passionate Language User!</i> [You buy it from the teacher in the first class]</p>		<p><i>Evaluation:</i> Students will be evaluated each week from their participation and action logs. A paper at the end of each semester and an interview with the teacher will also support your grade. 1/3 absent or missed work = automatic "F" No final exam.</p>	

06 年度 (秋)	Comprehensive English IV	担当者	T. Murphey
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Please note: This class has an English Mostly policy— students are expected to try to use mostly English as much as possible and to achieve 100% English classes half the time during each semester. Mistakes are OK, they show we are trying. Your level is not important, but your WILLINGNESS to try to speak in English is.</p> <p>You should count on at least an hour a week of reading, watching, or activity time outside class.</p> <p>Comment from a student last year</p> <p>“Videoring our conversations in English is a great way to improve our English. This class also got me used to using English in my everyday life. After 90 minutes in English, it just comes naturally after class. You gave us a lot of work. I did most of it and I learned a lot.”</p> <p>For more information see http://www2.dokkyo.ac.jp/%7Eesemi029/pages/timteaches.htm</p>		<p><u>Tentative Schedule</u></p> <p>Tentative Schedule (Fall Semester) Weeks</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Video 1 Summer vacation 2. Video 2 Jobs 3. Video 3 Extensive Reading 4. Video 4 Being Someone Else 5. Video 5 Topics to be determined 6. Video 6 MOVIE Rapa Nui 7. Video 7 Topics to be determined 8. Open Variation 9. Video 8 Class Reunion 10. Video 9 Random Acts of Kindness 11. Video 10 Movie Wonderful Life 12. Video 11 My Progress This semester <p>Because I adjust to student feedback the above schedule is approximate. Students will read and write a good bit each week.</p> <p>SAME EVALUATION SYSTEM and TEXTS AS ABOVE</p> <p>A Yahoo Groups E-mail MAILING LIST will be used for this class to mail newsletters and reading material. Students are expected to check their email accounts regularly and perhaps a Yahoo Group.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be determined in negotiation with students.		Same as above (first semester)	

06年度(春)	Comprehensive English III	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</p> <p>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</p> <p>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</p>		<p>1. Course introduction; choosing possible topics</p> <p>2. Topic 1: reading, analysis and discussion</p> <p>3. Topic 2: reading, analysis and discussion</p> <p>4. Discussion skills: the language of discussion</p> <p>5. Topic 3: reading, analysis and discussion</p> <p>6. Topic 4: reading, analysis and discussion</p> <p>7. Discussion skills: effective group leadership</p> <p>8. Topic 5: reading, analysis and discussion</p> <p>9. Topic 6: reading, analysis and discussion</p> <p>10 Discussion skills: being a good group member</p> <p>11. Topic 7: reading, analysis and discussion</p> <p>12. Review of term's work</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material provided by teacher		Continuous assessment of class work and assignments, as well as participation in class activities and attendance	

06年度(秋)	Comprehensive English IV	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</p> <p>2. To teach students how to prepare and lead a class presentation/discussion</p> <p>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</p>		<p>1. Course introduction; choosing possible topics</p> <p>2. Topic 1: reading, analysis and discussion</p> <p>3. Topic 2: reading, analysis and discussion</p> <p>4. Preparation for presentations</p> <p>5. Preparation for presentations</p> <p>6. Presentations</p> <p>7. Topic 4: reading, analysis and discussion</p> <p>8. Topic 5: reading, analysis and discussion</p> <p>9. Preparation for presentations</p> <p>10. Preparation for presentations</p> <p>11. Presentations</p> <p>12. Review of term's work</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material provided by teacher		Continuous assessment of class work and assignments, as well as participation in class activities and attendance	

06 年度 (春)	Reading Strategies III (HONORS)	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class aims to provide an opportunity for students to absorb, process and utilize the learning and information that can be found in a variety of readings. Students will be asked to read in both their own time and occasionally in class time, and be able to discuss and effectively express the information they have covered.</p> <p>Class work will include various forms of information exposure, not just the reading of set pieces. Students will endeavor to become efficient in skills to help them show that they can process information usefully; to become selective in a world inundated with information. Work outside of class will also be advised, especially extensive reading in the areas that the students themselves are familiar with.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions and explanations 2. Dealing with compacted ideas 3. Self expression and an economy of language usage 4. Over-explaining, under-explaining? 5. Sample pieces, spoilt for choice? 6. Anecdotes, experience, useful examples 7. Fiction, exaggeration, fun and leisure 8. Documentary, logic, the precise and the calculated 9. Talking it out to reduce it to its essentials 10. Tell us about what you read 11. The challenges of transcription 12. Revisions 	
テキスト、参考文献		評価方法	
A variety of materials including topical articles and established documentary pieces.		Class performance, quizzes, and a final report	

06 年度 (秋)	Reading Strategies IV (HONORS)	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
As above		Similar to the above depending on student level and class needs.	
テキスト、参考文献		評価方法	
As above		As above	

06年度(春)	Reading Strategies III (HONORS)	担当者	N.H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This reading strategies class sets out to help students further advance their reading comprehension skills, and to help them to be able to apply different reading skills to different types of reading material--syntactic reading. We will look at the distinctions between intensive reading and extensive reading.</p> <p>Students will be required to keep a reading journal and will have weekly reading assignments. Additionally, students will have to keep a vocabulary notebook and will have to discuss their new lexical items each week.</p> <p>Class time will be divided between lectures, group discussion, and mini presentations. Students considering this class should be motivated to improve their overall reading ability in English.</p>		<p>Week 1: Class Introduction Overview</p> <p>Week 2: Looking at reading in general</p> <p>Week 3: Continuation</p> <p>Week 4: Extensive reading</p> <p>Week 5: Continuation</p> <p>Week 6: Intensive reading</p> <p>Week 7: Continuation</p> <p>Week 8: Reading for speed</p> <p>Week 9: Continuation</p> <p>Week 10: Reading for higher comprehension</p> <p>Week 11: Continuation</p> <p>Week 12: Final class</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text to be decided at a later date.		Grades will be based on class participation, attendance and evaluations	

06年度(秋)	Reading Strategies IV (HONORS)	担当者	N.H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Continuation of first semester</p> <p>The second semester will be a continuation of the first semester. The first week of class will be spent reviewing the material covered in the first semester.</p>		<p>Week 1: Class Introduction</p> <p>Week 2: Looking at scanning</p> <p>Week 3: Continuation</p> <p>Week 4: Looking at skimming</p> <p>Week 5: Continuation</p> <p>Week 6: Improving vocabulary</p> <p>Week 7: Continuation</p> <p>Week 8: Effective reading</p> <p>Week 9: Continuation</p> <p>Week 10: Pleasure reading</p> <p>Week 11: Continuation</p> <p>Week 12: Final class</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text to be decided at a later date.		Grades will be based on class participation, attendance and evaluations	

06年度(春)	Reading Strategies III (HONORS)	担当者	T.Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to develop reading strategies by reading an interesting book about language. The book deals with the human ability to learn language by asking questions such as “How do we acquire language?” and “Does language equal thought?” It also deals with issues of language in society such as “Do men and women speak differently?” and “Does exposure to offensive language harm children?”</p> <p>Students will be expected to read and prepare the text each week using a hand-out, and in class to discuss and write about the issues concerned. Guidance will be given as to how to read and study a textbook of this nature.</p> <p>The class is for students who love language and are interested in how language is used in society.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. How do we acquire language? I 2. How do we acquire language? II 3. Why is it hard to learn a second language? I 4. Why is it hard to learn a second language? II 5. Does language equal thought? I 6. Does language equal thought? II 7. Are sign languages real languages? I 8. Are sign languages real languages? II 9. Do animals have language? I 10. Do animals have language? II 11. Can computers learn language? I 12. Can computers learn language? II 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Language Matters Dona Jo Napoli Oxford University Press</p>		<p>Evaluation will be based on attendance, participation in class, a number of quizzes, and a final examination.</p>	

06年度(秋)	Reading Strategies IV (HONORS)	担当者	T.Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to develop reading strategies by reading an interesting book about language. The book deals with the human ability to learn language by asking questions such as “How do we acquire language?” and “Does language equal thought?” It also deals with issues of language in society such as “Do men and women speak differently?” and “Does exposure to offensive language harm children?”</p> <p>Students will be expected to read and prepare the text each week using a hand-out, and in class to discuss and write about the issues concerned. Guidance will be given as to how to read and study a textbook of this nature.</p> <p>The class is for students who love language and are interested in how language is used in society.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Whose speech is better? I 2. Whose speech is better? II 3. Why do dialects differ from standard language? I 4. Why do dialects differ from standard language? II 5. Do men and women speak differently? I 6. Do men and women speak differently? II 7. Why is English spelling so hard? I 8. Why is English spelling so hard? II 9. Should US adopt English as its official language I 10. Should US adopt English as its official language II 11. Does exposure to bad language harm children? I 12. Does exposure to bad language harm children? II 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Language Matters Dona Jo Napoli Oxford University Press</p>		<p>Evaluation will be based on attendance, participation in class, a number of quizzes, and a final examination</p>	

06年度(春)	Reading Strategies III	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>英米の短編小説を読みます。細部のわかりにくさにこだわり、文法の知識を適宜使いながら、単語のニュアンスや、語り口の特徴などに注目していきます。これは作家のテクニックを楽しむためですが、文章をゆっくり味わう読み方(精読)のトレーニングでもあります。</p> <p>また、授業の一部では、物語の理解を踏まえて、小説の背景にあるものについても考えます。これは小説の理解を深めてもらうためですが、読む目的に合わせた読み方を身につけるトレーニングでもあります。</p> <p>その他、長い英文を楽しみながら自分で読み進められるように、授業外で自分で本を選んで book report を書いてもらいます。</p> <p>講義概要</p> <p>同じストーリーを3つの角度から読みます。まずレポーターに文法や単語のレベルでわかりにくい点を前もって出してもらい、全員で答えを探ります。次に、ストーリーの特徴についてみんなで考えます。最後に、ストーリーの背景について他の資料から情報を拾い出します。</p>		<p>1. インTRODakション</p> <p>2～4. John Updike, "Should Wizard Hit Mommy?"</p> <p>5～8. Graham Greene, "The End of the Party"</p> <p>9～12. William Boyd, "Killing Lizards"</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Escott and Bassett eds, <i>The Eye of Childhood</i> (Oxford University Press) を Duo で購入してください		授業への参加と期末試験の総合評価 ただし欠席が3回を越える場合は評価の対象としない	

06年度(秋)	Reading Strategies IV	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>英米の短編小説を読みます。細部のわかりにくさにこだわり、文法の知識を適宜使いながら、単語のニュアンスや、語り口の特徴などに注目していきます。これは作家のテクニックを楽しむためですが、文章をゆっくり味わう読み方(精読)のトレーニングでもあります。</p> <p>また、授業の一部では、物語の理解を踏まえて、小説の背景にあるものについても考えます。これは小説の理解を深めてもらうためですが、読む目的に合わせた読み方を身につけるトレーニングでもあります。</p> <p>その他、長い英文を楽しみながら自分で読み進められるように、授業外で自分で本を選んで book report を書いてもらいます。</p> <p>講義概要</p> <p>同じストーリーを3つの角度から読みます。まずレポーターに文法や単語のレベルでわかりにくい点を前もって出してもらい、全員で答えを探ります。次に、ストーリーの特徴についてみんなで考えます。最後に、ストーリーの背景について他の資料から情報を拾い出します。</p>		<p>1. インTRODakション</p> <p>2～4. Penelope Lively, "Next Term, We'll Mash You"</p> <p>5～8. Bernard MacLaverty, "Secrets"</p> <p>9～12. Morley Callaghan, "The Runaway"</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Escott and Bassett eds, <i>The Eye of Childhood</i> (Oxford University Press) を Duo で購入してください		授業への参加と期末試験の総合評価 ただし欠席が3回を越える場合は評価の対象としない	

06年度(春)	Reading Strategies III	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>語彙力を強化しながら、読む目的に応じた精読と速読の方法を習得するのが学習目標です。</p> <p>春学期は、リーディング用のプリント教材や英字新聞を用いながら、様々な分野の文章に親しむと同時に、スキミング、スキミング、メモやノートの取り方等の基本技術を学びます。</p> <p>秋学期では、多種多様な環境や他者との関わりの中で経験される戸惑いや葛藤を学習テーマとしながら、やや専門的な英語文献の批判的読解力、リサーチおよびプレゼンテーション・スキルの向上を目指します。</p> <p>授業参加が非常に重視されますので、積極的に発言し意見交換をしながら語学力と思考力を向上させたい人の受講を望みます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 文学を読む① 3. 文学を読む② 4. 言語学を読む① 5. 言語学を読む② 6. 国際関係論を読む① 7. 国際関係論を読む② 8. コミュニケーション論を読む① 9. コミュニケーション論を読む② 10. 日本文化論を読む① 11. 日本文化論を読む② 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント教材を使用。		グループ発表(40%)、授業参加(30%)、定期試験(30%)	

06年度(秋)	Reading Strategies IV	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>語彙力を強化しながら、読む目的に応じた精読と速読の方法を習得するのが学習目標です。</p> <p>春学期は、リーディング用のプリント教材や英字新聞を用いながら、様々な分野の文章に親しむと同時に、スキミング、スキミング、メモやノートの取り方等の基本技術を学びます。</p> <p>秋学期では、多種多様な環境や他者との関わりの中で経験される戸惑いや葛藤を学習テーマとしながら、やや専門的な英語文献の批判的読解力、リサーチおよびプレゼンテーション・スキルの向上を目指します。</p> <p>授業参加が非常に重視されますので、積極的に発言し意見交換をしながら語学力と思考力を向上させたい人の受講を望みます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. Culture shock (Levine & Adelman, 1993) 3. Culture shock (Levine & Adelman, 1993) 4. On becoming "American" (Imahori, 2000) 5. On becoming "American" (Imahori, 2000) 6. <i>Kikokushijo</i> (Kidder, 1992) 7. <i>Kikokushijo</i> (Kidder, 1992) 8. Farewell to Nippon (Sato, 2001) 9. Farewell to Nippon (Sato, 2001) 10. Lives of Koreans in contemporary Japan (Fukuoka, 2004) 11. Lives of Koreans in contemporary Japan (Fukuoka, 2004) 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Johnson, S. (1998). <i>Who moved my cheese?</i> London: Vermilion. その他、プリント教材を使用。		グループ発表(40%)、授業参加(30%)、書評(英文で500~1,000語程度)(30%)	

06 年度（春）	Reading Strategies III	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品を選んでいきますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。</p> <p>参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート（500 字）2 編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

06 年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品を選んでいきますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。</p> <p>参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート（500 字）2 編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

06年度（春）	Reading Strategies III	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語の読解力を高めることを目的とする。使用するテキストは、認知科学の観点から書かれた言語学の入門書である。授業では、下記のテキストの第1部“The fundamental arguments”と第2部“The organization of mental grammar”の前半を読む予定である。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする、学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえるだけでよしとするようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。</p>		<p>テキストを一行一行丹念に読んでゆく。進度としては、1章あたり3回ないし4回の授業をあてる予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。十分な予習をして授業に臨みたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jackendoff, Ray (1993) <i>Patterns in the Mind: Language and Human Nature</i> . New York: Harvester Wheatsheaf.		出席状況、授業での発表、試験、レポート課題などにより総合的に評価する。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が求められる。	

06年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語の読解力を高めることを目的とする。使用するテキストは、認知科学の観点から書かれた言語学の入門書である。授業では、下記のテキストの第2部“The organization of mental grammar”の後半と第3部“Evidence for the biological basis of language”を読む予定である。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする、学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえるだけでよしとするようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。</p>		<p>春学期と同様、テキストを一行一行丹念に読んでゆく。進度としては、1章あたり3回ないし4回の授業をあてる予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。十分な予習をして授業に臨みたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jackendoff, Ray (1994) <i>Patterns in the Mind: Language and Human Nature</i> . New York: Harvester Wheatsheaf.		出席状況、授業での発表、試験、レポート課題などにより総合的に評価する。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が求められる。	

06年度（春）	Reading Strategies III	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>平均的な大学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎、各章毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。</p>		<p>最初の授業で説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>アメリカ史に関するテキストをコピーして、その都度配布します。</p>		<p>筆記試験をします。平常点も30%ほど考慮します。欠席が授業回数の1/3を超えた場合、単位を与えません。遅刻は3回で欠席1回分にカウントします。</p>	

06年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ。</p>		<p>最初の授業で説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ。</p>		<p>春学期と同じ。</p>	

06年度(春)	Reading Strategies III	担当者	佐藤 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>皆さんは物語を読むのが好きですか。好きで好きでたまらないという受講生にはきっと面白く、またためになること請け合いです。物語の読み方には、好きで読むタイプ、時間つぶしで読むタイプ、そして本格的に読むタイプとありますが、そのいずれのタイプにも物語に読みの戦略というものがあることを知ると一層高度な読みができ、また人間の奥深さに感動することができます。このような、いわば専門的な読みへのイントロにこの授業は大いに役立つと思います。いろいろな物語がありますが、ここでは非常に分かりやすいO'Henryの物語をまず聞き読みをしますが、そこには様々な人の心が網羅され、いろいろな物語の読解の基本を学ぶことができます。勿論、語彙の習得、さらに必要な文法事項などにも触れて多読の準備をしていきます。そのために一番取り組みやすい物語テキストを選びました。このRS IIIの目標は専門講読へ進むための読みの戦略的技術を習得することを目標とします。このRS IIIを希望する受講生はそのことを念頭において参加してください。授業は受講生による注釈の作成と提出などを合わせた輪読形式による発表になります。従って順番で発表する時に休むことはできません。もし事情で出席できない時は自分で次の人に代替を依頼しておくことが大切です。ここが私の授業のポイントとなりますので注意してください。</p>		<p>この授業で扱うものは優れた短い物語で、以下の作品をListening で学習します。 Stories by O'Henry <i>Madison Square and Sparrow</i> <i>Hearts and Hands</i> <i>Retrieved Reformation</i> <i>The Last Leaf</i> <i>The Happy Prince</i> by Wilde <i>Yuki-Onna</i> by Hearn <i>Rip Van Winkle</i> by Irving <i>The Diamond Necklace</i> by Maupassant <i>After Twenty Years</i> by O'Henry</p> <p>その他に授業の進行状況によって時間があればそのほかの短編を読みます。これらはすべてハンドアウトを用意します。</p> <p>この他に「Supplementary Readings for Reading Strategies III & IV」(プリント)から宿題としていくつかを読んでもらいます。その読み方は授業の時に指示致します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを用意しますので教科書を購入することはありません。		平常点 (これは予習の課題、授業中での発表などが入る) 出席点 (これは春学期の全出席の3分の1以上で与える) 定期試験の点数 (これが評価の中心です)	

06年度(秋)	Reading Strategies IV	担当者	佐藤 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期の目標はさらに進んだ物語を読んでいきます。主として読む作品はTennessee Williamsの作品が中心になります。</p> <p>勿論、映画を見て参考にしてもらいますが、基本はベースとなった短編作品と戯曲として自ら書き直したシナリオを合わせを読んで、それらの比較をすることによって作者の意図や作品自体の意味、その言葉の変化、あるいは舞台や映画のための状況設定のあり方、ト書きなど様々なことを学びます。つまり、文学作品を活字と映像の両方からアプローチする予定です。</p> <p>その他の作品については作家の持つ特異性が見事に表現されている作品ばかりです。授業が順調に進展するように受講生にしっかりと協力を御願ひしたいと願っています。</p>		<p>授業計画： この授業でまず読む作品はT. Williamsの<i>Portrait of a Girl in Glass</i>です。次にそのシナリオである<i>The Glass Menagerie</i>と取り組みます。これは映画としても、また舞台上演としても非常に良く知られた名作で私の最も好きな作品の一つです。</p> <p>時間があれば、その他の作品として以下の作品を読む予定にしています。Roald Dahlの<i>The Landlady</i>と<i>Person's Pleasure</i>を読みます。さらに時間があれば、Joyce Carol Oatesの<i>In the Region of Ice</i>、Somerset Maughamの作品などです。</p> <p>しかし、各週の授業の進み具合によって予定している作品を全部読みきることができないこともご承知下さい。秋学期にも「Supplementary Readings for Reading Strategies III & IV」(プリント)から宿題としていくつかを読んできてもらいます。その読み方は授業の時に指示致します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Glass Menagerie</i> (Action Edition) 鶴見書店版を売店で購入してください。その他のものはプリントを渡します。		平常点 (これは予習の課題、授業中での発表などがはいる) 出席点 (これは春学期の全出席の3分の1以上で与える) 定期試験の点数 (これが評価の中心です)	

06 年度 (春)	Reading Strategies III	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカの小説（短編）を読みます。訳読と質問表による討論を通じて、英語の読解力と作品理解を深めることを目的とします。</p> <p>最初は訳読を中心に授業を進め、後半は事前に配布した作品の内容に関する質問表の答え合わせをしながら、討論形式で授業を進める予定です。</p> <p>また、課外に英語 Web サイトの報告メール・レポート (ML) を作成してもらい、様々な分野の英語に触れてもらいます。</p> <p>毎回必ず予習をして授業に臨むことが義務づけられます。万が一予習をしておこなった場合は、出欠をとるときに、その旨申告してもらいます（「はい」のかわりに「パス」と返事）。但し、「パス」は3回までで、その後は、1回につき1点減点します。欠席は2点減点、30分以内の遅刻、早退は1点減点です。減点0（無遅刻・無欠席・ノーパス）の場合は、学期末に15点の「ボーナス点」を与えます。「パス」の申告漏れは15点減点としますので、発覚すればほぼ致命的と思われると思います。</p>		<p>第1週 授業の説明など。必ず出席することを希望。欠席すると「ボーナス点」(左記参照)の資格が消えます。</p> <p>第2週以降 前週指示した範囲を読み、訳読や質問表にもとづく討論をします。以下、同じ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントや e-text/book などを用いる予定		定期試験(100点満点)±平常点(上記参照)にメール・レポート点を加味する	

06 年度 (秋)	Reading Strategies IV	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期を参照		春学期を参照	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントや e-text/book などを用いる予定		定期試験(100点満点)±平常点(上記参照)にメール・レポート点を加味する	

06年度(春)	Reading Strategies III	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 この授業では英文の内容の詳細を読み取る精読と要旨の把握に重点を置いた多読につながる速読の両方の読み方を取り入れたリーディングを行う。春学期は1年次に培った読解方略 (reading strategies) を更に自分のものにしていく。そのために読む目的に合わせて精読や速読の方法が取れるようになること、また、多くの英文を読むこと、語彙を増やすことを目標とする。</p> <p>講義概要 いくつかの読解方略に関連するテーマを取り上げ、それに添った英文を読んでいく。 授業の初めに速読用のテキストを用い、速読の練習をする。その他、易しいが長目の英文を辞書に頼らず読み、英文を読む楽しさを味わって欲しいと思っている。何冊かの本を読み、それについての口頭発表や Book Report を書いてもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Reading Test (Pre-Test) Speed reading techniques 3. Paragraph structure and text organization, Scanning & skimming 4. Relationships (time & sequence) 5. Cause and effect 6. Book Report 1 7. Comparison (1) 8. Comparison (2) 9. Inferences (1) 10. Inferences (2) 11. Book Report 2 12. Reading Test (Post-Test) & Consolidation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
速読用テキスト: <i>Timed Readings Book 3</i> , Jamestown Publishers. その他はプリントを使用。		定期試験結果に Assignment, Quiz などの日常点を加えて評価を出す。	

06年度(秋)	Reading Strategies IV	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に続いて、新聞・雑誌記事、短編小説、随筆などを材料に用いて効果的な読み方を身につけていく。</p> <p>また、読解において欠かせない背景知識 (background knowledge) との関連についての論文も読んでみる。単に文字の解読ではなく、読み手がどのような文化的、社会的背景知識をもっているかが、文章の内容の解釈に影響を及ぼす。特に外国語として英語を学んでいる者にとっては、語学的な面の理解では解決しない問題があることにも意識を向けてもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction & Reading Test (Pre-Test) 2. Reading newspaper / magazine articles 3. Reading short essays (1) 4. Reading short essays (2) 5. Book Report 1 6. Characterization 7. Reading short stories (1) 8. Reading short stories (2) 9. Papers on reading (1) 10. Papers on reading (2) 11. Book Report 2 12. Reading Test (Post-Test) & Consolidation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントと上記の速読用テキストを用いる。		定期試験結果に Assignment, Quiz などの日常点を加えて評価を出す。	

06年度(春)	Reading Strategies III	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>まず第一の目的は、1年時に学んだことを基に、更に速読(faster reading)のスキルを実践的に学ぶ。第二に時間が許せば、終わりの10-15分位を使って、直読(direct reading)による読みの訓練を目指す。直読とは、我々が、(日本語の)新聞などを読んで直ぐ分かるように、英文をその場で読んで直ぐ分かることである。第三に自由読書(pleasure reading)として課外で読んでいただく。速読の実践の為である。なお、日程などの詳細は、以下の通り。</p> <p>自由読書、課題と日程</p> <p>A. 課題 指定されたテキストだけでは、読む量に限界もあり、自分の好きな英文を読むというメリットをも活かすため、150頁程度の英文を課外で自由に読んでもらう。(参考までにリーディング・リストは別途配布する。)</p> <p>B. 日程 a. 5月9日(水) 指定された用紙にタイトル他を決めて申告する。 b. 6月6日(水) 中間報告会(タイトル変更、可) c. 6月27日(水) 提出(直接、教室で)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 「人生のパートナー」(スキヤニング) 2. 「記憶の不思議」(スキミング) 3. 「時間の不思議」(予見) 4. 「絶滅の危機」(コンテキストの意味) 5. 「旅のマナー」(パラグラフ) 6. 「百万ドルの価値」(原因と結果) 7. 「世界の不思議」(主題と補足) 8. 「ひとりっ子は孤独?」(事実と意見) 9. 「自宅教育の是非」(トピックへの賛否) 10. 「乗り物新時代」(推論) 11. 「芸術とは何か」(論理と時間の順) 12. 「異文化理解の知恵」(主題の読み取り) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Neil J. Anderson, 川又正之 著 『リーディングスキルの発展演習』(成美堂 2007年) その他適宜プリント使用。		A: 期末テスト 80% B: 自由読書 20%	

06年度(秋)	Reading Strategies IV	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>RSIIIに引き続いて、速読のスキルの仕上げをした後、やや精読(intensive reading)に近い学びを心がける。文章の中での言葉遣いや、文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくとも文章を味わって読む読み方。紀行文ではあるが、イギリス詩の代表的詩人たちを紹介した文章である。また直読、自由読書も引き続き実践していただく。詳細は以下の通り。</p> <p>自由読書：日程</p> <p>a. 10月10日(水) 指定された用紙にタイトルを決めて申告する。 b. 11月7日(水) 中間報告会(タイトル変更可) c. 12月19日(水) 提出(直接、教室で)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 「明日の医学」(コンテキストの意味) 2. 「宇宙旅行の将来」(主題と補足) 3. 「家庭パパの子育て」(パラグラフと主題) 4-12 チャーサー、シェークスピア、ミルトン、ワーズワース、ホプキンズ、T.S.エリオットらのふるさとを訪ねるピーター・ミルワード氏の文章を味わいながら読む。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 初めは、上記テキストの続き 2. ピーター・ミルワード著 『英国詩のふるさと』(金星堂、1993年)、その他プリント。 		A: 期末テスト 80% B: 自由読書 20%	

06年度(春)	Reading Strategies III	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 英語をきちんと読むための心得を身に付けることを目的とする。多くの文がまとまった《談話》を理解するためには、何について書かれているかを読み取る必要がある。そのためには、談話を構成する個々の文を理解しなければならない。「森を見て木を見るか」、「木を見て森を見るか」という問題に似ている。結論的には、その両方を同時に並行的に行う必要がある。人間はこの双方向同時並行処理を行うことができる能力を持っている。実践しながら要点を習得しよう。読解の応用練習としてTOEICの読解問題を練習し、その解説をする。</p> <p>講義概要: 各課に含まれる二つの英語の談話を次のように読んでいく。 1) 細部にあまり気をとられず、談話の話題を見つける。 2) 談話の話題の発見は個々の文の話題が手掛かりになる。 3) 文の話題は主語か主語の前の要素である。 4) 文の理解のために文の構成と語・句の意味を推測する。 5) 述語動詞の特徴から文の構成・構造を考える。 6) 語・句の意味は談話・文の話題や前後の要素を考慮して推測する。語がもつ多くの意味から一つの意味を選ぶ。 7) 文・談話が何について何が述べられているかを読み取る。</p>		<p>1. Lesson1, Reading 1: Scientists & Managerial Positions 2. Lesson 1, Reading 2: So-called Paperless Society 3. Lesson 2, Reading 1: Text Messages 4. Lesson 2, Reading 2: Why was religion born? 5. Lesson 3, Reading 1: Dust Clouds 6. Lesson 3, Reading 2: Girl Students & Science 7. Lesson 4, Reading 1: GM Foods 8. Lesson 4, Reading 2: Choosing Your Baby's Sex 9. Lesson 5, Reading 1: Global Dimming 10. Lesson 5, Reading 2: What makes us feel pleasure? 11. Lesson 6, Reading 1: Branches of Biotechnology 12. Lesson 6, Reading 2: The Digital Divide</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 石谷由美子 & Suzanne Embury (著) <i>Outlook on Science and Technology: Skills for Better Reading III</i>. (南雲堂)</p>		<p>授業における平常点, 授業の準備状況, 期末試験の成績, 出席状況を総合して評価する。なお, 単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	

06年度(秋)	Reading Strategies IV	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: (春学期と同じ) 英語をきちんと読むための心得を身に付けることを目的とする。多くの文がまとまった《談話》を理解するためには、何について書かれているかを読み取る必要がある。そのためには、談話を構成する個々の文を理解しなければならない。「森を見て木を見るか」、「木を見て森を見るか」という問題に似ている。結論的には、その両方を同時に並行的に行う必要がある。人間はこの双方向同時並行処理を行うことができる能力を持っている。実践しながら要点を習得しよう。読解の応用練習としてTOEICの読解問題を練習し、その解説をする。</p> <p>講義概要: (春学期と同じ) 各課に含まれる二つの英語の談話を次のように読んでいく。 1) 細部にあまり気をとられず、談話の話題を見つける。 2) 談話の話題の発見は個々の文の話題が手掛かりになる。 3) 文の話題は主語か主語の前の要素である。 4) 文の理解のために文の構成と語・句の意味を推測する。 5) 述語動詞の特徴から文の構成・構造を考える。 6) 語・句の意味は談話・文の話題や前後の要素を考慮して推測する。語がもつ多くの意味から一つの意味を選ぶ。 7) 文・談話が何について何が述べられているかを読み取る。</p>		<p>1. Lesson 7, Reading 1: Browser Wars 2. Lesson 7, Reading 2: The Fight against Malaria 3. Lesson 8, Reading 1: Warning for Science Education 4. Lesson 8, Reading 2: Out of the wild and Into the backyard 5. Lesson 9, Reading 1: How does the brain read sarcasm? 6. Lesson 9, Reading 2: Thought Control 7. Lesson 10, Reading 1: Dark Matter and Dark Energy 8. Lesson 10, Reading 2: REM Sleep 9. Lesson 11, Reading 1: Otaku 10. Lesson 11, Reading 2: Minus Ions 11. Lesson 12, Reading 1: Panicked Mice 12. Lesson 12, Reading 2: Games on the Brain</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 石谷由美子 & Suzanne Embury (著) <i>Outlook on Science and Technology: Skills for Better Reading III</i>. (南雲堂)</p>		<p>授業における平常点, 授業の準備状況, 期末試験の成績, 出席状況を総合して評価する。なお, 単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	

06年度（春）	Reading Strategies III	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文法をいくら知識として覚えていても、その応用力がなければ、英語を十分に読みこなせるようにはならない。</p> <p>「なんとなく解かる」という曖昧な読み方をつづけていたのでは、いつまでたっても、細かな内容やニュアンスを読み取れるようにはならないのである。そこで当講座では、英文法の応用力アップを目的として授業を進めていきたい。</p>		<p>当授業では、学生は文法の応用力アップを目的としている。内容の委細については、今の時点では未定であるが、TOEIC®の問題も広く用いたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		平常の授業での評価	

06年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		出席、平常の授業での評価	

06年度（春）	Reading Strategies III	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
ヨーロッパの文化について述べた文章を読む。		各時間、各一章ずつ読む。 なお、授業時には、名簿順に席に着いていただく。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Appreciating European Culture		出席を評価する。また、毎授業時での発表等も評価し、更に定期試験の結果を評価する。	

06年度（春）	Reading Strategies IV	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準じる		春学期に準じる	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期の続きを読む。		春学期に準じる。	

06 年度（春）	Reading Strategies III	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の第一の目的は英語を駆使する能力の向上にあります。英文和訳の作業は和訳そのものが目的ではありません。それは、日本語を母国語とする者が英文を記す能力、話す能力を上達させ、磨きをかけるのに欠かすことができない作業でもあるのです。</p> <p>今までに日本の文化と欧米の文化を比較し考察した欧米人や日本人は少なくありませんが、テキストに使う <i>Polite Fictions</i> にみられる考察は、その最も優れたものだと思います。具体的で分かりやすく、日本人と欧米人のメンタリティの違いの核心を突いており(主張のすべてが正鵠を得ているわけではありませんが)読む人を惹きつける点で右に出るものがないからです。</p>		<p>色々な手法をとりいれて授業を進める予定です。最初の時間に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Polite Fictions</i> by Nancy Sakamoto(金星堂)		レポート、平素の小テスト、平常点	

06 年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	藤田 永祐
(講義目的、講義概要)		授業計画	
<p>この授業の第一の目的は英語を駆使する能力の向上にあります。英文和訳の作業は和訳そのものが目的ではありません。それは、日本語を母国語とする者が英文を記す能力、話す能力を上達させ、磨きをかけるのに欠かすことができない作業でもあるのです。</p> <p>今までに日本の文化と欧米の文化を比較し考察した欧米人や日本人は少なくありませんが、テキストに使う <i>Polite Fictions</i> にみられる考察は、その最も優れたものだと思います。具体的で分かりやすく、日本人と欧米人のメンタリティの違いの核心を突いており(主張のすべてが正鵠を得ているわけではありませんが)読む人を惹きつける点で右に出るものがないからです。</p>		<p>色々な手法をとりいれて授業を進める予定です。最初の時間に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Polite Fictions</i> (金星堂)		レポート、平素の小テスト、平常点	

06 年度（春）	Reading Strategies III	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ：「スピーチを読む」</p> <p>効果的なスピーチ、印象的なスピーチは、比較的平易な言葉を使って人々の心を動かす。この授業ではさまざまなスピーチを読むことによって、英語の表現に触れ、言葉についての理解を深めることをめざす。ケネディ、アインシュタイン、ネルー、ハマースホルドなど、20世紀の歴史に大きな影響を与えた人たち、あるいはブレア、クリントン、ブッシュなど、現代の政治指導者たち、さらには映画の中に出てくるスピーチも含めて、できるだけ多様なスピーチを読む予定である。正確に意味を把握しながら、語彙や表現を身につけること、さらにそれぞれのスピーチの背景となる歴史、文化、社会についての理解を深めることを目指す。あわせて言葉が持つ力の危険性や、発話の仕方による効果の違いなどについても考える機会とする。</p>		<p>1回の授業でひとつずつのスピーチを扱う。</p> <p>スピーチそのもの、歴史背景や伝記的事実などについての補助教材をあわせて授業前に読んでおくこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『現代スピーチ集』（音羽書房鶴見書店） 他にプリントを配布する		平常点による。	

06 年度（秋）	Reading Strategies IV	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続き。		上に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
上に同じ。		上に同じ。	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(Language, Culture and Communication) 英語専門講読 a(Language, Culture and Communication)	担当者	C.B.Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to provide a lot of reading opportunity to develop different reading skills. The reading skills in focus range from simple factual comprehension to interpretation and reasoning for implications. Materials will focus on the relation between language and culture.</p> <p>The choice of materials is based on the rationale that students today live in an ever globalizing world. Travel is a necessity. There is a great need to interrelate with diverse people of different language and culture backgrounds. The basic step, awareness of the issue, is the final goal, by reading materials on these and related topics.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course orientation: scope of the lesson, class methods, evaluation, etc. 2. The joys of traveling 3. Various types/experiences of culture travelers (1) 4. Various types/experiences of culture travelers (2) 5. Culture interaction as a result of traveling 6. Culture interaction as a result of traveling 7. The culture shock experience: how to deal with it. 8. Foreigners in Japan: what they say! 9. Foreigners in Japan: why they say so!! 10. The Japanese uniqueness (1) 11. The Japanese uniqueness (2) 12. Summary and evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text and references will be announced on the first day of class.		Student grades will be based on a summative evaluation of class participation and end-of-term test or report.	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(Language, Culture and Communication) 英語専門講読 b(Language, Culture and Communication)	担当者	C.B.Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of the lessons in the second term continue from those of the first term.</p> <p>This course aims to provide a lot of reading opportunity to develop different reading skills. The reading skills in focus range from simple factual comprehension to interpretation and reasoning for implications. Materials will focus on the relation between language and culture.</p> <p>The choice of materials is based on the rationale that students today live in an ever globalizing world. Travel is a necessity. There is a great need to interrelate with diverse people of different language and culture backgrounds. The basic step, awareness of the issue, is the final goal, by reading materials on these and related topics.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course orientation: scope of the lessons, class methods, evaluation, etc. 2. Culture, language and communication style 3. Sweet interdependence "Amae" 4. Respectfulness and homogeneity 5. Relational identities 6. Levels of politeness: language honorifics 7. Masculinity and language use 8. Femininity and language use 9. Back channelling 1: types of back channelling 10. Back channelling 2: psychological use in face-to-face communication 11. Back channelling 3: cultural factors and back channelling 12. Summary and evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text will be announced on the first day of class.		Student grades will be based on a summative evaluation of class participation and end-of-term test or report.	

06年度以降(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(Literary fiction and documentary studies) 英語専門講読 a(Literary fiction and documentary studies)	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to encourage students to try to get the most out of their reading. They will read for pleasure, for study, for vocabulary building, and to enhance their power of self expression.</p> <p>The materials are chosen for their active ingredients: thought-provoking, stimulating, and educational. Students will be invited to discuss the material and should be able to meet a challenge quiz on each reading piece.</p> <p>Extended reading, peripheral study, reading for gain in the information field, and such things will be a part of the coverage.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and methods 2. Sample reading 3. First Reading: documentary 4. Continued 5. Quiz and second reading starts: short story 6. Continued 7. Discussion and comment 8. Quiz and next reading 9. Continued 10. Study and compare 11. Reading for pleasure versus reading for knowledge 12. Revisions 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Short stories, documentary pieces, instructive items to stimulate discussion, and humorous pieces.		Quizzes and final report	

06年度以降(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(Literary fiction and documentary studies) 英語専門講読 b(Literary fiction and documentary studies)	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
As above		<ol style="list-style-type: none"> 1. Explanations 2. Reading and comprehending 3. Comparing and evaluating 4. The author's world, the reader's world 5. Next reading 6. Continued with discussion 7. Student comments and ideas 8. Hearing, seeing, reading a story 9. Fiction versus documentary 10. Read, discuss, and compare 11. Read, revise, and question time 12. Last quiz. Report guidance 	
テキスト、参考文献		評価方法	
As above		Quizzes and final report	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読 I (Education&Culture) 英語専門講読 a (Education&Culture)	担当者	J.J. Duggan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><i>My Mother is a Tractor</i> is the first-person account of the adventures of an Australian bloke coming to Japan to take part in the JET program. It offers an instructive, yet amusing, inside look at Japan's social system as seen by someone from another culture. The author's account of his experiences of his life in Japan (culture shock, humorous anecdotes and insights, reflections upon his own life and cultural baggage, strange facts, etc.) will form the basis of study for this class.</p> <p>By reading and discussing the observations made by the author, it is hoped that students will achieve a new outlook and understanding of how others see life in Japan and of Japanese society and culture in general.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.</p> <p>As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p> <p>Note that this course will be held twice a week as both semesters will run concurrently Spring semester .</p>		<p>Week 1: Introduction & Selected chapter. Week 2: Selected chapter. Week 3: Selected chapter. Week 4: Selected chapter. Week 5: Selected chapter. Week 6: Selected chapter. Week 7: Selected chapter. Week 8: Selected chapter. Week 9: Selected chapter. Week 10: Selected chapter. Week 11: Selected chapter. Week 12: Selected chapter & Review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Klar, N. <i>My Mother is a Tractor: A Life in Rural Japan</i> . (Trafford Publishing).		Grades are based on in-class participation, assignments, and a final assessment based on the text and lecture.	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読 II (Education&Culture) 英語専門講読 b (Education&Culture)	担当者	J.J. Duggan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><i>My Mother is a Tractor</i> is the first-person account of the adventures of an Australian bloke coming to Japan to take part in the JET program. It offers an instructive, yet amusing, inside look at Japan's social system as seen by someone from another culture. The author's account of his experiences of his life in Japan (culture shock, humorous anecdotes and insights, reflections upon his own life and cultural baggage, strange facts, etc.) will form the basis of study for this class.</p> <p>By reading and discussing the observations made by the author, it is hoped that students will achieve a new outlook and understanding of how others see life in Japan and of Japanese society and culture in general.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.</p> <p>As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p> <p>Note that this course will be held twice a week as both semesters will run concurrently Spring semester .</p>		<p>Week 1: Introduction & Selected chapter. Week 2: Selected chapter. Week 3: Selected chapter. Week 4: Selected chapter. Week 5: Selected chapter. Week 6: Selected chapter. Week 7: Selected chapter. Week 8: Selected chapter. Week 9: Selected chapter. Week 10: Selected chapter. Week 11: Selected chapter. Week 12: Selected chapter & Review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Klar, N. <i>My Mother is a Tractor: A Life in Rural Japan</i> . (Trafford Publishing).		Grades are based on in-class participation, assignments, and a final assessment based on the text and lecture.	

06 年度 (春) 03~05 年度 (春)	英語専門講読 I (Canadian Culture and Society) 英語専門講読 a (Canadian Culture and Society)	担当者	K. Meehan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of this course is to study and learn about the many cultures that have been part of Canada's landscape, from native peoples, early-europeans , and multiculturalism of modern day Canada will be covered. The history, geography, religion and politics of the various cultures will be covered throughout the class. The class will revolve around small group discussions, short readings and videos.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Landscape 3. Native Mythology 4. Tribes 5. Early Europeans 6. New France 7. North America 8. Canada 9. Immigration 10. TBA 11. TBA 12. TBA 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Douglas Coupeland, Souvenir Canada, Douglas & McTyre		Grades will be based on attendance, class participation, short essays, and book journal.	

06 年度 (秋) 03~05 年度 (秋)	英語専門講読 II (Canadian Culture and Society) 英語専門講読 b (Canadian Culture and Society)	担当者	K. Meehan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The Objective of this course is to study and learn about the many cultures that have been part of Canada's landscape, from native peoples, early-europeans, and multiculturalism of modern day will be covered. The history, geography, religion, and politics of the various cultures will be covered throughout the class. The class will revolve around small group discussion, short reading and videos</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Nisei 2. Multiculturalism 3. Quiet revolution 4. Coming of Age 5. Literature 6. Film 7. Great Canadian 8. Modern Natives 9. TBA 10. TBA 11. TBA 12. TBA 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Douglas Coupeland, Souvenir of Canada, Douglas & Mctyre		Grades will be based on attendance, class participation, short essays, and book journal.	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ (James Joyce) 英語専門講読 a (James Joyce)	担当者	M. Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is intended to introduce students to the life and writings of James Joyce (1882-1941).</p> <p>In this term, we will:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Learn about Joyce's life 2. Study the political, cultural, and religious currents of early 20th century Dublin and Europe and their function in Joyce's works. 3. Consider the definition and significance of literary modernism and Joyce's role in the modernist movement. 4. Begin reading Joyce's early works. 		<p>Each week, there will be a lecture and discussion on a different aspect of Joyce's work. Generally, we will follow this schedule:</p> <p>April: Biography and Influences</p> <p>May/June: "Dubliners."</p> <p>July: "A Portrait of the Artist as a Young Man."</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>The Portable James Joyce. Viking Press ISBN: 0140150307</p> <p>Additional materials will be available at mikehoodenglish.com</p>		<p>Grades will be determined based on in-class and out of class writing assignments, and an exam.</p>	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (James Joyce) 英語専門講読 b (James Joyce)	担当者	M. Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This term, we will our work on James Joyce, following the same procedures, with the same goals, as the first term.</p> <p>We will spend the majority of the term studying Joyce's most famous work, "Ulysses."</p> <p>We will spend a short time at the end of the term on his final and most enigmatic work, "Finnegans Wake."</p>		<p>September: Finish "A Portrait."</p> <p>October/November/December: "Ulysses."</p> <p>December: "Finnegans Wake."</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>The Portable James Joyce. Viking Press ISBN: 0140150307</p> <p>Additional materials will be available at mikehoodenglish.com</p>		<p>Grades will be determined based on in-class and out of class assignments and an exam.</p>	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読 I (Education) 英語専門講読 a (Education)	担当者	N.H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The Excellent 11: Qualities Teachers And Parents Use To Motivate, Inspire, And Educate Children</p> <p style="text-align: center;">by Ron Clark</p> <p>The book chosen for this class looks at the qualities teachers and parents can use to motivate, inspire and educate children. The book offers insight into the world of teaching and bringing up elementary aged students. It considers issues that are often not formally addressed by teachers.</p> <p>Class time will be divided between lectures and discussions. Roughly ten to twelve pages will be required reading for each class.</p> <p>This class is suited for students who are interested in education and some of the issues and interested in learning about some of the issues in the American school system.</p>		<p>Week 1: Course Introduction.</p> <p>Week 2: Teaching and showing enthusiasm</p> <p>Week 3: Continuation</p> <p>Week 4: Learning to adventure</p> <p>Week 5: Continuation</p> <p>Week 6: Finding Creativity</p> <p>Week 7: Continuation</p> <p>Week 8: The power of reflection</p> <p>Week 9: Continuation</p> <p>Week 10: Balance in the classroom</p> <p>Week 11: Continuation</p> <p>Week 12: Final lesson</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The Excellent 11 by Ron Clark Publisher Hyperion, 2006		Grades are based on class participation, attendance, and evaluations	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読 II (Education) 英語専門講読 b (Education)	担当者	N.H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a continuation of the first semester.</p> <p>Please Note:</p> <p>1) The course book for this class will not be ordered through the university bookstore. Students are responsible for ordering the books themselves. This book is available at Amazon Japan:</p> <p style="text-align: center;">http://www.amazon.co.jp</p> <p style="text-align: center;">(1400 Yen)</p> <p>2) The reading assignments and handouts must be completed before class.</p> <p>3) Students will required to maintain a vocabulary notebook.</p>		<p>Week 1: Introduction</p> <p>Week 2: The need for compassion</p> <p>Week 3: Continuation</p> <p>Week 4: Building confidence</p> <p>Week 5: Continuation</p> <p>Week 6: The role of humor</p> <p>Week 7: Continuation</p> <p>Week 8: Using/teaching common sense</p> <p>Week 9: Continuation</p> <p>Week 10: Appreciation</p> <p>Week 11: Continuation</p> <p>Week 12: Resilience</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The Excellent 11 by Ron Clark Publisher Hyperion, 2006		Grades are based on class participation, attendance, and evaluations	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読 I (Pragmatics) 英語専門講読 a (Pragmatics)	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Pragmatics is the study of meaning that cannot be predicted by linguistic knowledge alone and takes into account knowledge about the physical and social world. For example, when someone says "It's hot in here!" he/she might mean "Please open the window!" or "Is it all right if I open the window?" or perhaps "You're wasting electricity!" Pragmatic competence is the ability to understand what a speaker really means by his/her utterance. The text introduces two highly influential approaches to pragmatics: the co-operative principle and speech act theory, both of which are useful in analyzing pragmatic aspects of language.</p> <p>Students will be expected to read the textbook each week outside of class and complete a hand-out which will be provided. In class, students will discuss the issues in groups, and work on exercises designed to make pragmatics easier to understand.</p> <p>Students will be encouraged to think about how pragmatic aspects of language can be acquired by second language learners, and how teachers can best teach these aspects of language in the second language classroom.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. What is pragmatics? I 2. What is pragmatics? II 3. Entailment I 4. Entailment II 5. Presupposition I 6. Presupposition II 7. The co-operative principle I 8. The co-operative principle II 9. Implicature I 10. Implicature II 11. Exploring pragmatics: project 1 12. Exploring pragmatics: projects II 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pragmatics Jean Stilwell Peccei Routledge		Evaluation will be based on attendance, participation in class, completion and submission of weekly hand-outs, and a term paper.	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読 II (Pragmatics) 英語専門講読 b (Pragmatics)	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Pragmatics is the study of meaning that cannot be predicted by linguistic knowledge alone and takes into account knowledge about the physical and social world. For example, when someone says "It's hot in here!" he/she might mean "Please open the window!" or "Is it all right if I open the window?" or perhaps "You're wasting electricity!" Pragmatic competence is the ability to understand what a speaker really means by his/her utterance. The text introduces two highly influential approaches to pragmatics: the co-operative principle and speech act theory, both of which are useful in analyzing pragmatic aspects of language.</p> <p>Students will be expected to read the textbook each week outside of class and complete a hand-out which will be provided. In class, students will discuss the issues in groups, and work on exercises designed to make pragmatics easier to understand.</p> <p>Students will be encouraged to think about how pragmatic aspects of language can be acquired by second language learners, and how teachers can best teach these aspects of language in the second language classroom.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. More on implicature I 2. More on implicature II 3. Speech acts I 4. Speech acts II 5. More about speech acts I 6. More about speech acts II 7. Politeness I 8. Politeness II 9. Making sense I 10. Making sense II 11. Exploring pragmatics: projects I 12. Exploring pragmatics: projects II 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pragmatics Jean Stilwell Peccei Routledge		Evaluation will be based on attendance, participation in class, completion and submission of weekly hand-outs, and a term paper.	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読 I (Exploring Learning) 英語専門講読 a (Exploring Learning)	担当者	T. Murphey
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>HOW YOU LEARN WITH OTHERS</u> will be the main topic for this advanced class. You can experiment with learning in many ways and then discuss these in your recordings. Starting the first week <u>you will be recorded</u> having conversations on video. At the end of each semester you will have about 10 five-minute video-recordings of yourself (one each week) and write a paper comparing your first conversations with your later ones. You can see how you improved and evaluate your learning experiments and strategies, beliefs, and identities.</p> <p>We will look at how we can ENJOY learning more in many ways, in and out of class. For example, we may have some classes OUTSIDE, learn to JUGGLE, call each other on our cell phones and get used to USING English outside of class in our everyday lives.</p> <p>Because I adjust to student feedback, the above schedule is approximate. Students will read about 2 chapters in the texts each week. (continued below)</p>		<p><u>Tentative Schedule</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and tentative syllabus: Intro video 2. Five ways I like to learn 3. Helpful Friends & Classmates 4. Learning New Strategies 5. Mistake stories 6. Language Learning Histories 7. Movie Discussion 8. Topics to be determined 9. Topics to be determined 10. Topics to be determined 11. Topics to be determined 12. My Progress This Semester 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Required Texts (2007). <i>Passionate Language User!</i> [You buy it from the teacher in the first class]</p>		<p><i>Evaluation:</i> Students will be evaluated each week from their participation and action logs. A paper at the end of each semester and an interview with the teacher will also support your grade. 1/3absent or missed work = automatic "F" No final exam.</p>	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読 II (Exploring Learning) 英語専門講読 b (Exploring Learning)	担当者	T. Murphey
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Please note: This class has an English Mostly policy— students are expected to try to use mostly English as much as possible and to achieve 100% English classes half the time during each semester. Mistakes are OK, they show we are trying. Your level is not important, but your WILLINGNESS to try to speak in English is.</p> <p>You should count on at least an hour a week of reading, watching, or activity time outside class.</p> <p>Comment from a student last year “Videoining our conversations in English is a great way to improve our English. This class also got me used to using English in my everyday life. After 90 minutes in English, it just comes naturally after class. You gave us a lot of work. I did most of it and I learned a lot.” For more information see http://www2.dokkyo.ac.jp/%7Eesemi029/pages/timteach.es.htm</p>		<p><u>Tentative Schedule (Fall Semester) Weeks</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Video 1 Summer vacation 2. Video 2 Jobs 3. Video 3 Extensive Reading 4. Video 4 Being Someone Else 5. Video 5 Topics to be determined 6. Video 6 MOVIE Rapa Nui 7. Video 7 Topics to be determined 8. Open Variation 9. Video 8 Class Reunion 10. Video 9 Random Acts of Kindness 11. Video 10 Movie Wonderful Life 12. Video 11 My Progress This semester <p>Because I adjust to student feedback the above schedule is approximate. Students will read and write a good bit each week. SAME EVALUATION SYSTEM and TEXTS AS ABOVE A Yahoo Groups E-mail MAILING LIST will be used for this class to mail newsletters and reading material. Students are expected to check their email accounts regularly and perhaps a Yahoo Group.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be determined in negotiation with students.		Same as above.	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読 I (音声知覚のしくみと発達入門) 英語専門講読 a (音声知覚のしくみと発達入門)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 音声知覚(ことばを聞くこと)やその習得・発達に関連していくつかの読み物から抜粋して読んでいく。音声学や音韻論の基礎の学習を通して音声に対する興味を開拓し、また乳幼児や動物の音声認知を知ることよりヒトの知能活動としての言語の面白さに触れる。</p> <p>テキストは比較的やさしい入門書ではあるが、専門的な内容についてある程度まとまった分量を継続して読み進めることにより、正確な読解力と分析的な視点を養う。</p> <p>講義概要 (1) 音声知覚入門(子どもの音声獲得・発達、動物による知覚も含む) (2) その他音声(発話・認知)に関するトピック</p> <p>2006年度秋学期に使用したテキストのうち、取り上げなかった章を今回新たに扱う。また音声の生成・認知に関連してその他の文献から抜粋して扱う。</p> <p>各学生は毎回の指定範囲の予習が前提となり、小テストで確認する。英文の構造とその内容を正確に理解できるよう精読の練習をする。各章の後に担当者がハンドアウト(配布資料)を使用して内容のまとめを発表する。これについて教員が補足、解説をし、また質疑応答・議論を行う。</p> <p>メッセージ リーディング課題(質・量)は少しずつ慣れていけるはずである。昨年度から導入した“進度自己チェック表”をさらに改良して活用し、読めているかどうか少しずつ確認する予定なので、是非チャレンジして欲しい。一緒に頑張しましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction /Preliminary reading サルの顔認知 2. Ch-9 Dichotic Listening (1) 右脳・左脳の話 3. Ch-9 Dichotic Listening (2) 4. Ch-9 Dichotic Listening (3) 5. Ch-11 Studies of Infant Speech Perception 乳児の音声認識 6. Ch-11 Studies of Infant Speech Perception (2) 7. Ch-11 Studies of Infant Speech Perception (3) 8. Review 9. Ch-12 Development of Speech Perception 音声認識の発達 10. Ch-12 Development of Speech Perception (2) 11. Ch-12 Development of Speech Perception (3) 12. Exercises 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Ryalls, Jack. (1996) <i>A Basic Introduction to Speech Perception</i>. Singular Publishing Group Inc. (ISBN: 1-56593-617-5)</p> <p>その他 配布資料</p>		<p>授業参加(準備・参加)、小テスト、発表、試験の総合評価による。各項で最低限をクリアすること。</p>	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読 II (音声知覚のしくみと発達入門) 英語専門講読 b (音声知覚のしくみと発達入門)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 春学期に引き続き読み進め、さらなる読解力を養う。</p> <p>講義概要 春学期に同じ</p> <p>テキストに関する補足 Ryalls(1996)は入門書の中でももっとも平易に簡潔に書かれているものである。英語も易しく、各章も文字の大きいわずかな数ページからなり、後ろに確認 exercise がついていて初心者にとっても親切である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Ch-13 Speech Perception in Animals 動物の音声認識 2. Ch-13 Speech Perception (2) 3. Ch-13 Speech Perception (3) 4. Ch-14 Disorders Affecting Speech Perception 言語障害 5. Ch-14 Disorders Affecting Speech Perception (2) 6. Ch-14 Disorders Affecting Speech Perception (3) 7. Review 8. Selected topic (1) When We Listen to Speech 9. Selected topic 10. Selected topic 11. Selected topic (2) 12. Selected topic 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Ryalls, Jack. (1996) <i>A Basic Introduction to Speech Perception</i>. Singular Publishing Group Inc. (ISBN: 1-56593-617-5)</p> <p>その他 配布資料</p>		<p>授業参加(準備・参加)、小テスト、発表、試験の総合評価による。各項で最低限をクリアすること。</p>	

06年度以降(春) 03～05年度(春)	英語専門講読 I (Exploring Language Teaching) 英語専門講読 a (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, we will discuss factors that teachers need to consider when planning a reading lesson. This course provides practical guidelines as to how our reading lessons can be made more interesting and effective.</p> <p>All the coursework will be conducted in English. You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is recommended for students who are in the teacher-training course and both I and II will be taught in the spring semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. What is reading? 3. Principles for designing reading lessons 1 4. Principles for designing reading lessons 2 5. Finding a focus to teach reading strategies 1 6. Finding a focus to teach reading strategies 2 7. Developing Activities 1 8. Developing activities 2 9. Presentations 10. Presentations 11. Presentations 12. Summary 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<u>Planning Lessons for a Reading Class</u> (T.Farrell, RELC), 講義支援システム使用		class participation, reading assignments and projects	

06年度以降(春) 03～05年度(春)	英語専門講読 II (Exploring Language Teaching) 英語専門講読 b (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, we will examine a variety of approaches to effective vocabulary teaching and learning in foreign language programs. This course provides a conceptual framework for managing vocabulary learning and provides a practical guide to teaching vocabulary.</p> <p>All the coursework will be conducted in English. You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is recommended for students who are in the teacher-training course and both I and II will be taught in the spring semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Principles 3. Teaching procedure 4. Measuring learners' vocabulary knowledge 5. Vocabulary and intensive reading 6. Vocabulary and extensive reading 7. Guessing words from context 8. Specialized vocabulary 9. Presentations 10. Presentations 11. Presentations 12. Summary 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<u>Managing Vocabulary Learning</u> (P. Nation, RELC), 講義支援システム使用		class participation, reading assignments and projects	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ (米国の東アジア政策) 英語専門講読 a (米国の東アジア政策)	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨年11月の中間選挙で議会共和党は大敗し、ブッシュ政権は事実上の「不信任」を突きつけられたとあってよい。残る2年近い任期のなかで、引き続き中東政策の打開に集中せざるをえず、東アジアへの関与は低調に推移することを余儀なくされる。結果として、北朝鮮の核問題を扱う六カ国協議、台湾海峡問題において、ともにキープレイヤーとなる中国との関係を重視する姿勢がより鮮明になる。ただし、同時に米国は、台頭する中国が米国を東アジアから排除しようとすることを警戒し、日米の協調で中国を牽制する傾向も強めるだろう。米中関係を軸に、朝鮮半島、台湾、日米安保などの動向をフォローすることで、米国の東アジア政策のダイナミズムを観察・検討することが本講義の目的である。</p>		<p>授業では、事前に配布した教材を元に報告を担当する学生がレジュメを用意し、それに基づき内容を報告する。その内容についての背景、関連事項、派生する問題などにつき説明、議論する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
シンクタンクのレポート、新聞記事、政府高官の議会証言等から教材を選択し、毎回配布する。		成績は、学生の報告、授業への議論参加、出席を基に評価。出席率70%以下は不可。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (米国の東アジア政策) 英語専門講読 b (米国の東アジア政策)	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
(春学期に準じる)		(春学期に準じる)	
テキスト、参考文献		評価方法	
(春学期に準じる)		(春学期に準じる)	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(異文化コミュニケーション論)(金1) 英語専門講読a(異文化コミュニケーション論)(金1)	担当者	石井 敏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 言語の学習には、聴く・話す・読む・書くの4言語技能と音声・語彙・文法・文字の4言語構成要素に関するバランスの維持が不可欠である。しかし現代の日本人大学生は、音声英語の機械的模倣練習と内容が幼稚で浅薄な日常英会話にのみ関心をもちがちである。その結果として、彼らは他の英語技能と英語構成要素に関する理解力と運用力を欠き、大学生らしい問題意識と思考力を具えていないといわれる。そこで本講義では、異文化(間)コミュニケーションに関する英文を批判的に読解し、英語の語彙・文法・文字の知識を伸ばし、異文化に関する問題意識と思考力を育成することを目的とする。</p> <p>講義概要 最初に、鍵用語である「文化」と「コミュニケーション」を概念化し、両者の相関関係を明らかにする。続いて、英語圏文化を背景とする人達が主に日本で経験する具体的な異文化問題を扱い、問題の原因を究明し、改善策を考察する。単なる英文和訳の作業ではなく、内容を批判的に理解し、内容について建設的な感想・意見を積極的に発表することを重要視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> Overall Introduction to the Course (Lecture) Conceptualizing Intercultural Communication Studies (Lecture) (a) Finding and Moving into an Apartment in Japan, and (b) Judging from Appearances (a) Preconceptions versus Experiences, and (b) Foreign Students in Japan (a) Polite English, and (b) My Favorite Parties (a) Cross-cultural Dating between Americans and Japanese, and (b) Last Names (a) Finding a Job, and (b) Celebrities: What Talent? (a) International Airports, and (b) Japan-US Trade Friction (a) Language Problems and Gestures, and (b) The Personal Computer Age: The Internet (a) American Dream, and (b) What Is "Communication"? (a) Nonverbal Communication, and (b) Contexts of Communication (a) Self-disclosure and Communication, and (b) Culture and Perception 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト <i>Intercultural communication.</i> 大阪教育図書。 参考書 古田 暁ほか 『異文化コミュニケーション・キーワード』(新版)有斐閣。</p>		出席状況、授業中の発表の内容と方法、そして学期末試験の成績による。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(異文化コミュニケーション論)(金1) 英語専門講読a(異文化コミュニケーション論)(金1)	担当者	石井 敏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 言語の学習には、聴く・話す・読む・書くの4言語技能と音声・語彙・文法・文字の4言語構成要素に関するバランスの維持が不可欠である。しかし現代の日本人大学生は、音声英語の機械的模倣練習と内容が幼稚で浅薄な日常英会話にのみ関心をもちがちである。その結果として、彼らは他の英語技能と英語構成要素に関する理解力と運用力を欠き、大学生らしい問題意識と思考力を具えていないといわれる。そこで本講義では、異文化(間)コミュニケーションに関する英文を批判的に読解し、英語の語彙・文法・文字の知識を伸ばし、異文化に関する問題意識と思考力を育成することを目的とする。</p> <p>講義概要 文化とコミュニケーションの相関関係を全体的に復習しながら、具体的な異文化間の危機事例(critical incident)を中心に異文化問題を扱い、問題の原因を究明し、改善策を考察する。単なる英文和訳の作業ではなく、内容を批判的に理解し、内容について建設的な感想・意見を積極的に発表することを重要視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> (a) Overall Introduction to the Course (Lecture), and (b) Culture and Identity Hidden Culture Stereotypes Words, Words. Words Communication Without Words Diversity Perception Communication Styles (1) Communication Styles (2) Values Deep Culture (Beliefs and Values) Culture Shock 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト Shaules, J. ほか(1997). <i>Different realities.</i> 南雲堂。 参考書 古田 暁ほか 『異文化コミュニケーション・キーワード』有斐閣。</p>		出席状況、授業中の発表の内容と方法、そして学期末試験の成績による。	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講義Ⅰ(文化とコミュニケーション)(金2) 英語専門講義a(文化とコミュニケーション)(金2)	担当者	石井 敏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 現代の日本人大学生、特に英語学科の学生は、聴く・話す・読む・書くの言語4技能のうち話す技能の育成に偏向した関心をもっている。しかし、大学生に広く求められる英語運用能力は、バランスのとれた言語4技能に基づいたものでなければならない。加えて、英語学科の学生は、英語圏の社会・文化を無批判に理想化し、白人崇拜という人種差別的な異文化意識を抱きがちである。国際的な場面では、その種の学生は自分の社会・文化や歴史等に関する理解力を欠く「黄色いバナナ」として嘲笑と批判の対象となる。そこで本講義は、健全な異文化(間)コミュニケーション観の育成を目的とする。</p> <p>講義概要 最初に異文化間の平等性と双方向コミュニケーションの重要性の認識課題を扱う。続いて、外面文化・内面文化とコミュニケーションの関連性を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. General Introduction to the Course (Lecture) 2. Paradigm Shift from Language to Communication (Lecture) 3. Lessons 1 and 2 (Textbook) 4. Lessons 3 and 4 5. Lessons 5 and 6 6. Lessons 7 and 8 7. Lessons 9 and 10 8. Lessons 11 and 12 9. Lessons 13 and 14 10. Lessons 15 and 16 11. Lessons 17 and 18 12. Lessons 19 and 20 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト <i>Lewis, R. D., When Cultures Collide</i>, 南雲堂。 参考書 古田 暁ほか 『異文化コミュニケーション・キーワード』(新版)有斐閣。</p>		出席状況、授業中の発表の内容と方法、そして学期末試験の成績による。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講義Ⅱ(文化とコミュニケーション)(金2) 英語専門講義b(文化とコミュニケーション)(金2)	担当者	石井 敏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 現代の日本人大学生、特に英語学科の学生は、聴く・話す・読む・書くの言語4技能のうち話す技能の育成に偏向した関心をもっている。しかし、大学生に広く求められる英語運用能力は、バランスのとれた言語4技能に基づいたものでなければならない。加えて、英語学科の学生は、英語圏の社会・文化を無批判に理想化し、白人崇拜という人種差別的な異文化意識を抱きがちである。国際的な場面では、その種の学生は自分の社会・文化や歴史等に関する理解力を欠く「黄色いバナナ」として嘲笑と批判の対象となる。そこで本講義は、健全な異文化(間)コミュニケーション観の育成を目的とする。</p> <p>講義概要 最初にグローバル時代の現象問題を批判的に扱う。続いて、異文化間のコミュニケーション、文化とコミュニケーションの関係、文化と教育、文化と健康管理の問題を考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. The Global Village : Introduction, Multinational Businesses, and Other Business-Related Problems (Copy) 2. The Global Village : Visitors from Abroad, Minority Rights, Academic Interest, and Summary (Copy) 3. Lessons 1 and 2 (Textbook) 4. Lessons 3 and 4 5. Lessons 5 and 6 6. Lessons 7 and 8 7. Lessons 9 and 10 8. Lessons 11 and 12 9. Lessons 13 and 14 10. Lessons 15 and 16 11. Lessons 17 and 18 12. Lessons 19 and 20 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト <i>Stefani, L. Culture and Communication</i>, 鷹書房弓プレス。 参考書 古田 暁ほか 『異文化コミュニケーション・キーワード』有斐閣。</p>		出席状況、授業中の発表の内容と方法、そして学期末試験の成績による。	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講義Ⅰ(アメリカのナショナリズムを読み解く:理論編) 英語専門講義a(アメリカのナショナリズムを読み解く:理論編)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「外国語」と呼ばれるものを学ぶ私たちに強く見られる傾向の1つに、言語や文化や人間集団(人種)に国名を付けて理解・発話するという言語運用習慣があります。「～語」「～文化」「～人」の「～」の部分に国名を入れてコミュニケーションする場合があります。また、より一般的には、国単位で世界を理解することが自然なことではなく、実は政治的効果としての習慣(習慣化されたもの)であることにも気づかない場合もあります。</p> <p>このクラスでは、「アメリカ合衆国」という国家を共通の話題として取り上げ、国家という単位を「領土」としてだけでなく「意味」としても存続させている仕掛けを理解することを目指します。その手段として、春学期には、ナショナリズム(国家主義)の分析のための理論を学びます。</p> <p>また、身近なナショナリズムの作用を感じていただくために、東京九段の千鳥ヶ淵戦没者墓苑～靖国神社への見学ツアーも予定しています。また、こうした施設への「アメリカ」からの応答も考察できればと考えています。</p> <p>なお、グループ研究・発表が中心のため、そのような授業形式に興味のある学生にお勧めのクラスと言えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Overview of the course; group formation 2. The problem (pp.1-6) 3. What is the nation? (pp.7-26) 4. The nation as social relation (pp.27-42) 5. Motherland, fatherland, and homeland (pp.43-56) 6. Let's plan a field research tour! 7. The nation in history (pp.57-79) 8. Whose god is mightier? (pp.80-97) 9. Human Divisiveness (pp.98-115) 10. Conclusion (pp.116-120) 11. Presentations: Day I 12. Presentations: Day II; Take-home exam due. <p>(履修人数によって若干の変更の可能性もあります)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Steven Grosby, <i>Nationalism: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press).		①出席状況 40%. ②グループ発表 40%. ③Take-Home Exam 20%.	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講義Ⅱ(アメリカのナショナリズムを読み解く:理論編) 英語専門講義b(アメリカのナショナリズムを読み解く:理論編)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に学んだナショナリズムを看破するための理論に基づいて、「アメリカ国家」という共同体意識を存続させているパブリック・コミュニケーション戦略を、その基本的文書を読み解くことによって探究します。</p> <p>具体的には以下のことを行う予定です。</p> <p>①アメリカ国家の代表的な基本文書やシンボル、そしてそれらに関する簡単な参考文献をそれぞれ1~2点読みます。国家などの歌は一緒に歌いますが、歌詞のメッセージをそのまま受け入れるためだけでなく、テキストと馴染むために歌います。また、読んだ文章のほんの一部を暗唱していただくこともあります。</p> <p>②これらの文書に表象されるアメリカの国家像や理念を批判的に分析することで、言語と文化と国家の政治的関係を学びます。</p> <p>③グループ活動を中心とし、発表形式も取り入れます。</p> <p>④講義とディスカッションは日本語で、研究発表は英語で行なっていただきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Overview of the course; group formation 2. “The American Way” や “The American Mind” の虚構性について 3. “The Star-Spangled Banner” : アメリカの国歌 4. “The Declaration of Independence” : アメリカ独立宣言 5. “The U.S. Constitution-Preamble” : 米国憲法序文 6. “The Emancipation Proclamation” : 奴隷解放宣言 7. “The Gettysburg Address” : ゲティスバーグ演説 8. “The Pledge of Allegiance to the Flag” : 国旗への宣誓文 9. “The Great Seal of the U.S.” : アメリカの国璽 10. “God Bless the USA” : アメリカの現代ポップソング 11. Presentations: Day I 12. Presentations: Day II; Take-home exam due. <p>(履修人数によって若干の変更の可能性もあります)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。インターネットのサイト情報も提供します。音楽CDなども紹介します。		①出席状況 40%. ②グループ発表 40%. ③Take-Home Exam 20%.	

06年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(大西洋世界とブラックディアスポラ) 英語専門講読a(大西洋世界とブラックディアスポラ)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ブラック・ブリティッシュの作家、Caryl Phillips のトラベル・エッセイ、<i>The Atlantic Sound</i> (全 275 頁) を読み、大西洋世界とブラック・ディアスポラの歴史と現在について学びましょう。また授業での考察を通して、わたしたち自身が身をおく社会と歴史についても考えてみてください。</p> <p>Phillips は奴隷の子孫としてカリブに生まれ、わずか生後4ヶ月で母に抱かれてイングランドに移住しました。本書 <i>The Atlantic Sound</i> において、彼は自分のような存在を作りだした大西洋世界の歴史をたどるべく、大西洋を行き来します。まずは記憶にない自らの移住を再現するかのごとく、カリブからイギリスへ。それも飛行機ではなく、バナナ運搬船に乗って。その後、Liverpool へ、ガーナの Elmina へ、アメリカ、南カリフォルニアの Charleston へ。そして旅の最後は、イスラエルの砂漠に作られた、アフリカン・アメリカンのコミュニオン。これらの場所をつなぐのは、過去数世紀にさかのぼるブラック・ディアスポラの往來です。</p> <p>テキストはときにフィクションも交えながら、過去と現在をつなぎ、白い大西洋世界と黒い大西洋世界との複雑なむすびつきを浮かびあがらせていきます。またそのように</p>		<p>授業計画の詳細は開講時に提示します。</p> <p>授業はプレゼンテーションと質疑応答を軸として進めますが、必要に応じて講義を挿入します。また、数回に一度、全員が参加する討議の時間を設けます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Caryl Phillips, <i>The Atlantic Sound</i> , New York: Vintage International, 2001 (amazon 等で各自購入のこと) +ハンドアウト		授業への参加(単なる出席ではない)、小テスト、レポートを総合的に評価します。	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(大西洋世界とブラックディアスポラ) 英語専門講読b(大西洋世界とブラックディアスポラ)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上からの続き)</p> <p>複雑な歴史を生きる個人の姿をヴィヴィッドに描き出します。</p> <p>テキストを深く理解するには、本文の精読のみならず、歴史・文化・社会についての様々なリサーチも必要ですので、文献検索能力も身につけていただくつもりです。</p>		<p>(上記に同じ)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ (Allen Ginsberg 精読) 英語専門講読 a (Allen Ginsberg 精読)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、20世紀後半のアメリカで、カウンターカルチャーに多大な影響を及ぼした、というより、その中心にいた詩人、Allen Ginsberg の作品、特に“<i>Howl</i>”を中心に精読する。</p> <p>家庭においては「肉親殺し」、学校においては「いじめ」、社会においては「格差」や「右傾化」、また世界においては「新自由主義」という名の搾取構造、そういったものが新たな conformity になろうとしているように思われる。そういった時代に、知らぬ間にその conformity に捕らわれないにはどうしたらいいのか？ Ginsberg は“<i>candor</i>”ということを常に重要に考えていた。つまり、世界に向けて開いているにはどうしたらいいのか、身をもって示したのだ。</p> <p>その世界に向けて開かれている Ginsberg の姿を、彼の詩作品から見、そしてこれからの21世紀に、われわれはGinsberg をどう活かせるか、そのことを考えてみたい。</p> <p>なお、世界に向かって自らを開いていった“<i>candor</i>”の詩人であるがゆえ、性的、それも同性愛についての表現 (Ginsberg は同性愛者だった) など出てくるが、それを「キモい」と片付ける学生は、世界に対して閉じられている。</p>		<p>1. Introduction (Ginsberg の一生をまとめたビデオ)</p> <p>2. Walt Whitman “I Hear America Singing,” “Poets to Come,” “To You,” “Shut Not Your Doors”</p> <p>3. ditto</p> <p>4. “A Supermarket in California”</p> <p>5. “America”</p> <p>6. ditto</p> <p>7~12. “Howl I”</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Selected Poems 1947-1995</i> (Penguin)</p> <p>その他の参考文献は随時授業で紹介する。</p>		<p>レポート2通。2000字以上のものと、790~800字以内のもの。詳細は、追って連絡する。</p>	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (Allen Ginsberg 精読) 英語専門講読 b (Allen Ginsberg 精読)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、Ginsberg を読む。Conformity にどうやって飲まれないでいるか、その方途を Ginsberg から探る作業は終わらない。</p> <p>女性を「子供を産む機械」としか見なさない厚生労働大臣、東アジア諸国人を「三国人」呼ばわりし、「子供を産めなくなったババアは、文明の生んだ最大のクズ」と公言してはばからない都知事、400億円もの資産がありながら、さらに資産を増やそうとして、インサイダー取引をする社長、5年前に出したコンピュータ OS のアフターケアを、2009年で止めようとしたコンピュータ会社。どういった共通の mindset があるのか？ 知りたい学生は、Ginsberg を読むべし。</p>		<p>1. レポートの返却、及び講評</p> <p>2~4. “Howl II”</p> <p>5~7. “Howl III”</p> <p>8~9. “Footnote to Howl”</p> <p>10~12. “Sunflower Sutra”</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記。		上記。しかし、授業の進み方によっては、変更もある。	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読 I (ディズニー・アニメの歴史をたどる) 英語専門講読 a (ディズニー・アニメの歴史をたどる)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Walt Disney 研究の第一人者 Bob Thomas の著作を通じ、『白雪姫』から『ジャングル・ブック』まで、Walt Disney 存命中の長編アニメーション映画を中心に、Disney 映画の軌跡を辿ります。Disney 映画と、それを核として広がる壮大なディズニー文化の世界は、いまやアメリカの（そして日本を含めた世界の）ポップカルチャーを語る上では避けて通ることのできないものです。受講者のみなさんには、テキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20 世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。</p> <p>授業は、担当者によるプレゼンテーションを中心として進めます。必要があれば、担当者が用意した AV 資料を視聴することもあります。詳細は開講時に受講者と相談することとします。</p> <p>なお、テキストに出てくる作品は、授業外の時間を利用して、各自 (skeptical な観かたで) 視聴してから出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Launching the Animated Feature 1 3. Launching the Animated Feature 2 4. Seven Dwarfs for Snow White 5. New Tools: Live Action, Multiplane Camera & Effects 1 6. New Tools: Live Action, Multiplane Camera & Effects 2 7. New Tools: Live Action, Multiplane Camera & Effects 3 8. New Tools: Live Action, Multiplane Camera & Effects 4 9. Disney's Folly 10. Pinocchio 11. Fantasia 1 12. Fantasia 2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Thomas, Bob, <u>Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast</u>, Hyperion, New York, 1991.</p> <p>他の参考文献等については、随時紹介します。</p>		出席、授業への貢献度、プレゼンテーションの内容、学期末に提出するペーパーから、総合的に評価します。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読 II (ディズニー・アニメの歴史をたどる) 英語専門講読 b (ディズニー・アニメの歴史をたどる)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>引き続き、Walt Disney 研究の第一人者 Bob Thomas の著作を通じ、Walt Disney 存命中の長編アニメーション映画を中心に、Disney 映画の軌跡を辿ります。受講者のみなさんには、テキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20 世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。</p> <p>春学期と同じく、授業は、担当者によるプレゼンテーションを中心として進めます。受講者全員が、テキストに出てくる作品を、必ず事前に視聴した上で出席するという原則は変わりませんが、第二次世界大戦中の政府協力映画については、入手困難なため、担当者が用意した AV 資料を授業内に視聴します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Bambi / Economizing: Dumbo 2. The New Studio, The Strike, and the War 1 3. The New Studio, The Strike, and the War 2 4. The New Studio, The Strike, and the War 3 5. The Anthology Features / Cinderella Restores the Glory 6. Alice, Peter, Lady and the Tramp 1 7. Alice, Peter, Lady and the Tramp 2 8. Alice, Peter, Lady and the Tramp 3 9. Sleeping Beauty Awakens 10. Walt Disney's Last Films 1 11. Walt Disney's Last Films 2 12. 授業の総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Thomas, Bob, <u>Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast</u>, Hyperion, New York, 1991.</p> <p>他の参考文献等については、随時紹介します。</p>		出席、授業への貢献度、プレゼンテーションの内容、学期末に提出するペーパーから、総合的に評価します。	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(ことばと音声のしくみ) 英語専門講読a(ことばと音声のしくみ)	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：英語は異なった地域で、異なった人々が広く使っている。それは地域や社会の経済力による階級、年齢、性別、民族、あるいは歴史などさまざまな異なった状況、環境との関わりを意味する。ここでは社会との繋がりの中で英語の音声面の構造、変化を観察、考察する。 春学期は広域な視点から、秋学期は絞った視点から音について読む。</p> <p>概要：授業は学生の輪読と、担当者の語句、内容の説明を進める。極力、多くの学生に当てたいので、十分、予習し、遅刻、欠席のないように心がけて欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Social variability 2. Dialect 3. Accent 4. Traditional-dialect 5. Geographical variation 6. Socio-economic class 7. Sex, ethnicity 8. Age: the time dimension 9. Styles and roles 10. Perceiving a stereotype 11. Projecting an image 12. Standards 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		テストの得点と平常点の総合	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(ことばと音声のしくみ) 英語専門講読b(ことばと音声のしくみ)	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：社会との繋がりの中で英語の音声面の構造、変化を考察する。春学期は広域な視点から、秋学期は絞った視点から音について読む。</p> <p>概要：授業は学生の輪読と、担当者の語句、内容の説明を進める。極力、多くの学生に当てたいので、十分、予習し、遅刻、欠席のないように心がけて欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Phonology 2. The taxonomic-phonemic model 3. Phonetic similarity 4. Non-contrastive distribution 5. Affricates 6. Diphthongs 7. The phonological word 8. Multiple complementation 9. Neutralization 10. Taxonomic phonemics 11. Phonological rules 12. Natural classes 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		テストの得点と平常点の総合	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(アメリカ黒人の歴史) 英語専門講読a(アメリカ黒人の歴史)	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカ黒人文化の流れを学ぶのが、この授業の一つの目標である。絵、風刺画、写真、新聞雑誌記事などが豊富に掲載されている本をテキストに使う予定。</p> <p>また、英文をじっくり読むことにより、将来必ず役立つであろうような英語力を培うのが、この授業のもう一つの目標である。</p> <p>今年度は、19世紀中頃のアメリカで、黒人たちがどのように生きていたかを学ぶ。</p> <p>なお、アメリカ黒人文化を知るための一助として、年間数本、黒人に関する映画を鑑賞する予定である。</p> <p>この授業を受けるには、アメリカ黒人について興味を抱いていることが必要条件。</p> <p>テキストにはいわゆる原書を使うので、真面目に予習をして授業に臨むならば、一年間で驚くほどの読解力を身につけることができよう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・逃亡奴隷法について ・カンザス・ネブラスカ法案とは ・流血のカンザス ・ドレッド・スコット事件 ・自由黒人について ・ボストン大虐殺と一人の黒人 ・独立戦争と黒人たち ・自由を求めて戦う黒人 ・白人たちを導く黒人牧師などについて学んでいく。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>A Pictorial History of Blackamericans</i> の抜粋(プリント)を使用する。</p> <p>参考文献は授業中適宜指示する。</p>		<p>出席状況、予習して授業に臨んだか否か、期末の試験、などにより評価が決定される。</p>	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(アメリカ黒人の歴史) 英語専門講読b(アメリカ黒人の歴史)	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・黒人たちの教会 ・1812年の戦争について ・黒人奴隷とアフリカ ・船で働く黒人たち ・再奴隷化におびえる自由黒人 ・自由黒人と教育 ・有名な黒人俳優 ・芸術・科学の分野で活躍した黒人 ・黒人作家たち <p>などについて学ぶ予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ</p>		<p>春学期と同じ</p>	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(映画批評) 英語専門講読a(映画批評)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画(予定)	
<p>講義目的 映画を諸哲学的立場から批評した論文を精読する。論文の精読を通して映像テキストの表象分析とはいかなるものであるかを考察する。講義においては以下の3点が探求のテーマとなる。1) 理論とは何か、2) 批評とは何か、3) レトリック研究とは何か。これら3点のテーマについて、映画の綿密なテキスト分析を実践し、この映画の可能性に含まれた文化政治的意義を探っていく。</p> <p>講義概要 映像という表象手段によってコミュニケーションされる映画をテキストとして、レトリック理論の基礎としての諸哲学を学んでいく。映像というレトリックの手段が哲学を織り込んでいく過程を、映画作品とその批評を綿密に読み込み、さらに理論的な背景を加味しながら理解していく。この講座の目的はあくまでもレトリック理論の探求であり、映画をエンターテインメントとして楽しむことではない。如何にして理論的な「読み」の重要性を映画というテキストを通じて見いだすことができるか。これが、学生が講義と活発な討論で探求する主題となる。したがって、テキストの新たな章に入る前には、その章を予習しておくだけでなく、題材となる映画も予め必ず各自で観ておくこと。これらの時間を要する予習への心構えがない学生は受講を遠慮すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Orientation 2. The Matrix and Plato's Cave : Why the Sequels Failed 3. The Matrix and Plato's Cave : Why the Sequels Failed 4. The Matrix of Control : Why The Matrix Still has Us 5. The Matrix of Control : Why The Matrix Still has Us 6. Only Love is Real : Heidegger, Plato, and The Matrix Trilogy 7. Only Love is Real : Heidegger, Plato, and The Matrix Trilogy 8. The Matrix is Prozac of the People 9. The Matrix is Prozac of the People 10. "The Purpose of Life is to End" : Schopenhauerian Pessimism, Nihilism, and Nietzschean Will to Power 11. "The Purpose of Life is to End" : Schopenhauerian Pessimism, Nihilism, and Nietzschean Will to Power 12. Wrap up 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><u>More Matrix and Philosophy</u>. ed. by William Irwin (Chicago ; La Salle, II : Open Court, 2005)</p>		<p>定期試験又はレポート、授業への参加度(発表・発言等)、出席状況(一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当)等から総合的に評価する。</p>	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(映画批評) 英語専門講読a(映画批評)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画(予定)	
同上		<ol style="list-style-type: none"> 1. Choice, Purpose, and Understanding : Neo, the Merovingian, and the Oracle 2. Choice, Purpose, and Understanding: Neo, the Merovingian, and the Oracle 3. Why Make a Matrix? And Why you Might be in One 4. Why Make a Matrix? And Why you Might be in One 5. Challenging Simulacra and Simulation : Baudrillard in The Matrix 6. Challenging Simulacra and Simulation : Baudrillard in The Matrix 7. Race Matters in The Matrix : Is Morpheus Black? 8. Race Matters in The Matrix : Is Morpheus Black? 9. Pissin' Metal : Columbine, Malvo, and the Matrix of Violence 10. Pissin' Metal : Columbine, Malvo. and the Matrix of Violence 11. Reloaded Revolutions 12. Reloaded Revolutions/Course Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><u>More Matrix and Philosophy</u>. ed. by William Irwin (Chicago ; La Salle, II : Open Court, 2005)</p>		<p>定期試験又はレポート、授業への参加度(発表・発言等)、出席状況(一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当)等から総合的に評価する。</p>	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ (アメリカ文学: John Steinbeck の作品を読む) 英語専門講読 a (アメリカ文学: John Steinbeck の作品を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要,1938)		授業計画	
『怒りの葡萄』(<i>The Grapes of Wrath</i> , 1939)、『エデンの東』(<i>The East of Eden</i> , 1952)の著者であり、1962年にノーベル文学賞を受賞したジョン・スタインベックは、20世紀アメリカ文学を語る際、忘れてはならない作家であると言えます。彼は、上掲の二大作品以外にも多様なジャンルにわたる数多くの作品を著わしていますが、この授業では、代表作『怒りの葡萄』と前後して発表された短編集『長い谷間』(<i>The Long Valley</i> , 1938)を扱ってゆきます。その作品には全部で15編の短編が収められていますが、年間を通じて、なるべく多くの作品を読む予定ですので、各自、授業計画に基づいて準備をして授業に臨んでください。また、授業で扱えなかった作品はレポート課題とする予定です。		1: Introduction: 作家 John Steinbeck と代表作品を紹介 2: <i>The Long Valley</i> について 3: 作品読解 “The Chrysanthemums” 4: ” 5: ” 6: 作品読解 “The White Quail” 7: ” 8: 作品読解 “Fight” 9: ” 10: ” 11: Review 12. Report 回収	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Steinbeck, <i>The Long Valley</i> (Penguin Book)		平常点(出席状況と授業中の発表内容、提出物)と期末のレポートを総合的に評価	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅰ (アメリカ文学: John Steinbeck の作品を読む) 英語専門講読 a (アメリカ文学: John Steinbeck の作品を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
前期に引き続き、 <i>The Long Valley</i> の読解を続けます。		1: Introduction: 2: 作品読解 “Snake” 3: ” 4: ” 5: 作品読解 “Breakfast” 6: 作品読解 “Raid” “ 7: ” 8: ” 9: 作品読解 “The Harness” “ 10: ” 11: ” 12: Review / Report 回収	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Steinbeck, <i>The Long Valley</i> (Penguin Book)		平常点(出席状況と授業中の発表内容、提出物)と期末のレポートを総合的に評価	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅰ(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) 英語専門講読a(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的は3つあります。第一に、国際関係論や地域研究(Area Studies)にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第二に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析を行う際の視点や手法を習得すること、第三に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。</p> <p>テキストに基づき各国の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。</p> <p>なお、本年度については、春学期の間、担当者(金子)が海外研修で不在のため、英語専門講読のⅠ・Ⅱ/a・bを合わせて秋学期集中とし、月曜日の4、5時限に連続で行います。したがって、<u>英語専門講読Ⅰ・Ⅱ/a・bを同時に履修することが条件となります。</u></p>		<p>*テキストのパートごとに進めます。詳細については1回目の授業時にシラバスを配布し、説明します。</p> <p>テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, <i>Regional Outlook: Southeast Asia 2007-2008</i>, ISEAS, 2007. (200ページ前後、価格は1800円程度)。 Institute of Southeast Asian Studies, <i>Southeast Asian Affairs 2007</i>, ISEAS, 2007. (350ページ前後、価格は2200円程度)。</p> <p>・テキストの内容は、いずれも近年における東南アジア諸国の国際関係、政治、経済の状況に関する国別の分析、および幾つかの関連イシューに関する解説。(目次や内容の概略は以下のWebサイトで検索可能： http://bookshop.iseas.edu.sg/)</p> <p>・受講者数には上限があります。また、初回の授業で1時間程度の英文の読解力テスト(国際政治経済の時事問題に関する英文の和訳)を実施します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はありません。(Amazon.com等で個人が購入することは可能ですが、授業で一括購入した方が割安です)。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外します。	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) 英語専門講読b(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的および進め方については、英語専門講読aと同様です。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。</p> <p>なお、本年度については、担当者(金子)が春学期中は海外研修で不在のため、英語専門講読のⅠ・Ⅱ/a・bを合わせて秋学期集中とし、月曜日の4、5時限に連続で行います。したがって、<u>英語専門講読Ⅰ・Ⅱ/a・bを同時に履修することが条件となります。</u></p> <p>本授業の受講者数には上限があります。また、初回の授業で1時間程度の英文の読解力テスト(国際政治経済の時事問題に関する英文の和訳)を実施します。</p>		<p>*テキストのパートごとに進めます。詳細については1回目の授業時にシラバスを配布し、説明します。</p> <p>テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, <i>Regional Outlook: Southeast Asia 2007-2008</i>, ISEAS, 2007. (200ページ前後、価格は1800円程度)。 Institute of Southeast Asian Studies, <i>Southeast Asian Affairs 2007</i>, ISEAS, 2007. (350ページ前後、価格は2400円程度)。</p> <p>・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。(内容の概略は以下のWebサイトで検索が可能：http://bookshop.iseas.edu.sg/)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はありません。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外します。	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読 I (『ヨブ記』を Revised Version で読む) 英語専門講読 a (『ヨブ記』を Revised Version で読む)	担当者	川崎 潔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語英文学を学ぶ者にとって、英訳聖書、殊に The Authorized Version (1611年出版)は W. Shakespeare の戯曲と共に必読の書である。AVは先行する英訳聖書の料を集大成したものであり、それ以後信仰の書として読み続けられ、英米の文化と文学にも広く深い影響を与え、英語史家達からは、「英語散文の金字塔」であり、「近代英語の性格を決定した」と言われるに至ったからである。Book of Job のヘブル語源典は text の乱れがあるので、原典解釈上の進歩による改訂版 Revised Version で読むことにしたい。</p> <p>Book of Job は、正しい人が苦難に襲われることがあるのは何故かという mystery of suffering の問題を中心として、神の絶対性と人間の浅はかさを教える偉大な宗教文学である。授業ではテキストを語学的に精読することに重点をおきたいと思う。Revised Version (1881-85年出版)は用語や文体がほぼ AV に似ているが、これを他の現代英語訳聖書、例えば Revised Standard Version (新旧両訳 1952) や New English Bible (新旧両訳・外典 1970) と読み比べることによって、両者の英語の違いを具体的に知ることができよう。</p>		1 Chapter I 2 Chapter I 3 Chapter II 4 Chapter II・III 5 Chapter III 6 Chapter IV 7 Chapter V 8 Chapter V・VI 9 Chapter VI 10 Chapter VII 11 Chapter VIII 12 予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
小林清一 注釈：The Book of Job, 南雲堂 浅野順一『ヨブ記 注解』I、II、III、IV、創文社 浅野順一『ヨブ記—その今日への意義』 岩波新書		期末テストと平常点によって評価する。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読 II (『ヨブ記』を Revised Version で読む) 英語専門講読 b (『ヨブ記』を Revised Version で読む)	担当者	川崎 潔
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		1 Chapter IX 2 Chapter X 3 Chapter XI 4 Chapter XII 5 Chapter XII・XIII 6 Chapter XIII 7 Chapter XIV 8 Chapter XXXVIII 9 Chapter XXXVIII 10 Chapter XL 11 Chapter XL II 12 予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

06年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読 I (SLA 実証研究論文) 英語専門講読 a (SLA 実証研究論文)	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的]</p> <p>第二言語習得(SLA: second language acquisition)研究の中の、特に「実証的研究」を行う英語論文を講読する。それにより、SLAに関する知識を増やすとともに、研究論文で用いられる英語表現を知ることが目的とする。加えて、複雑ではあっても論理的な研究デザインを読み解くために、繰り返し対象論文を読み、さらなる英語力増強をも目指していく。</p> <p>[概要]</p> <p>より良い日本の英語教育を追い求めるなかで、教師や研究者たちは、「Aという教え方とBという教え方のどちらが効果的なのか?」、「日本人の英語語彙力を正確に測れるテストはどのように作ったらよいのか?」といった数多くの疑問を持っている。それらの疑問に対する答えを探すため、実験を行ったり、学習者を観察したりして実証的なデータを収集・分析する研究が行われている。この講義では、そのような実証研究の論文を読み解いていく。さらに、それらの研究方法について批評・議論も行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 実証研究とは何か：講義 3. 実証研究論文例 4. 論文(1)：理解確認 5. 論文(1)：ディスカッション 6. 論文(2)：理解確認 7. 論文(2)：ディスカッション 8. 実証研究に用いられる統計について：講義 9. 論文(3)：理解確認 10. 論文(3)：ディスカッション 11. 論文(4)：理解確認 12. 論文(4)：ディスカッション <p>※ 昨今の第二言語習得・英語教育に関する実証研究にはさまざまな統計処理が用いられている。論文を読解するのに必要程度の統計知識を身につけるため、夏休み期間中に「統計ゼミ」を実施するので参加を奨励する。(必修ではない。希望者のみ対象)詳細は授業中に説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本国内で出版された、日本人英語学習について取り扱った英語論文。その都度コピーを配布する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読 II (SLA 実証研究論文) 英語専門講読 b (SLA 実証研究論文)	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的]</p> <p>春学期同様、SLA 研究の中の、特に「実証的研究」を行う研究論文を講読する。</p> <p>秋学期は、より広い視野をもって SLA 研究を考えることを目指し、海外で出版された論文を読んでいく。</p> <p>[概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 論文を読み、その方法論について理解の確認を行う 2) その研究方法について批評・議論を行う <p>手順は春学期と同様。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 論文(1)：理解確認 3. 論文(1)：理解確認 4. 論文(1)：ディスカッション 5. 実証研究に用いられる統計について：講義 6. 論文(2)：理解確認 7. 論文(2)：理解確認 8. 論文(2)：ディスカッション 9. 論文(3)：理解確認 10. 論文(3)：理解確認 11. 論文(3)：ディスカッション 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
海外で出版された、第二言語学習について取り扱った英語論文。その都度コピーを配布する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(コミュニケーションと文化) 英語専門講読a(コミュニケーションと文化)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>A central issue in intercultural communication studies has been the question of how to conceptualise culture and understand dynamic interplay between culture and communication. This subject will focus on theories and arguments related to these issues, drawing on the literature of various disciplines such as communication, psychology, sociology, linguistics, education and cultural studies. Students will be asked to examine aspects of culture and communication from different philosophical and methodological viewpoints through critical reading of the texts, discussion and presentation.</p> <p>This subject is recommended for students who wish to undertake research into intercultural communication, particularly in Japanese communication contexts, and are willing to spend more than two hours per week reading difficult texts and preparing well for class activities.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course 2. Introduction (pp. 1-7) 3. Representation, meaning and language & Making meaning, representing things (pp. 15-19) 4. Language and representation & Sharing the codes (pp. 19-24) 5. Theories of representation, The language of traffic lights & Summary (pp. 24-30) 6. Saussure's legacy, The social part of language, Critique of Saussure's model & Summary (pp. 30-36) 7. From language to culture & myth today (pp. 36-41) 8. Discourse, power and the subject & From language to discourse (pp. 41-46) 9. Historicising discourse, From discourse to power/knowledge & Summary (pp. 46-51) 10. Charcot and the performance of hysteria & Where is the 'subject'? (pp. 52-56) 11. How to make sense of Velasquez' Las Meninas, The subject of/in representation & Conclusion (pp. 56-63) 12. Summary 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hall, S. (1997). The work of representation. In S. Hall (Ed.), <i>Representation: Cultural representations and signifying practices</i> (pp. 15-64). London: Sage. (コピーを配布)		A group presentation (40%), a 500-word essay (30%) and an exam (30%)	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(コミュニケーションと文化) 英語専門講読b(コミュニケーションと文化)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>A central issue in intercultural communication studies has been the question of how to conceptualise culture and understand dynamic interplay between culture and communication. This subject will focus on theories and arguments related to these issues, drawing on the literature of various disciplines such as communication, psychology, sociology, linguistics, education and cultural studies. Students will be asked to examine aspects of culture and communication from different philosophical and methodological viewpoints through critical reading of the texts, discussion and presentation.</p> <p>This subject is recommended for students who wish to undertake research into intercultural communication, particularly in Japanese communication contexts, and are willing to spend more than two hours per week reading difficult texts and preparing well for class activities.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Communication and culture 1 (Martin & Nakayama, 2001) 3. Communication and culture 2 (Martin & Nakayama, 2001) 4. Japanese collectivism (Matsumoto, 2002) 5. Euro-U.S. centrism (Ishii, 2006) 6. De-orientalising Japanese (Maynard, 1997) 7. Dis/orienting identities (Nakayama, 2004) 8. Japanese nationalism (Yoshino, 1999) 9. Cultural globalisation (Chang et al., 2006) 10. Asiacentrism (Miike, 2007) 11. tba 12. Summary <p>*内容がかなり専門的なので「異文化間コミュニケーション論 a, b」を履修済みであることが望ましい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布		A group presentation (40%), a 500-word essay (30%) and an exam (30%)	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(オーストラリアの詩) 英語専門講読a(オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 「言葉は力であり、魔法である。」このことを、一年間、くどいくらいしつこくお話しすることになると思います。このことを、頭だけではなく心から理解できたとき、生活がどんどん変わっていく、と心から信じています。もしかしたら今まで「詩」に馴染みのなかった方が多いかもしれませんが、「言葉の力」を学ぶには、詩は最適のテキスト！一緒に読んでいきましょう。</p> <p>旅行、留学等の経験から、「オーストラリアが大好き！」という方はたくさんいらっしゃいますよね。「好き」は「もっと知りたい」ということに通じると思います。表面的な知識だけではなく、様々な角度からオーストラリアを考察していきましょう。まだ、あまりよくオーストラリアのことを知らないけれど、関心・興味はある、という方。「関心・興味」は研究への第一歩です。熱意のある方、お待ちしております。</p> <p><講義概要> アボリジニの歴史や神話を踏まえた上で、彼らの詩を読んでいきます。CD、ビデオ、DVDを使用して、授業を進めることもあります。</p>		<p>皆さんに私が解説していく講義形式になるときもありますが、基本的に、この授業ではレポーター形式で進めていきます。発表者は授業前にあらかじめ担当箇所を調べ、どのように発表したらうまく伝えられるだろうか、他の学生を眠らせないようにするにはどうしたらいいか等、発表の仕方も工夫してみてくださいね。(過去に受講して下さった学生たちは、パワーポイントやサイトをスクリーンで見せながら解説したり、自作の紙芝居や演劇で再現したり、クイズ形式で他の学生に答えさせたりなど、いろいろ楽しい授業を作り出してくれました。今年も楽しみにしていますよ！)</p> <p>最初の4回で、「オーストラリアの歴史」「アボリジニの歴史」「アボリジニの神話・伝説」の概略を学びます。オーストラリア関連の映像も紹介します。背景を知った上で、アボリジニの人たちが、アボリジニ独自の言語で書いた詩(英訳されたものを配布します。CDでアボリジニ独自の言語の音声を聴きます)、それから最初から英語で書いた詩、を読んでいきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントして配布いたします。 参考文献は授業で随時紹介していきます。</p>		<p>学期末レポート、授業での参加度(発表、発言)、出席状況(欠席は3回以内。30分以内の遅刻の場合、3分の1の欠席として計算します。)</p>	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(オーストラリアの詩) 英語専門講読b(オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 春学期と同様です。</p> <p><講義概要> 入植者の血を引くものたちの詩を読んでいきます。詩人本人が朗読している詩もありますので、その場合は、CDを利用して授業を進めます。</p>		<p>春学期ではアボリジニの詩を読みましたが、秋学期では入植者の血を引くものたちの詩を読みます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期同様</p>		<p>春学期同様</p>	

06 年度 (春) 03~05 年度 (春)	英語専門講読 I (英語圏の現代演劇) 英語専門講読 a (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品を選んでいきますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。Reading StrategiesⅢ・Ⅳや専門講読入門のクラスよりも英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート (500 字) 2 編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

06 年度 (秋) 03~05 年度 (秋)	英語専門講読 II (英語圏の現代演劇) 英語専門講読 b (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品を選んでいきますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。Reading StrategiesⅢ・Ⅳや専門講読入門のクラスよりも英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート (500 字) 2 編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(文法と認知) 英語専門講読 a(文法と認知)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、「文法と認知」を副題とする英語専門講読の授業である。ここでは、下記のテキストの第1章“The Relation of Grammar to Cognition”を読んでゆく (http://linguistics.buffalo.edu/people/faculty/talmy/talmyweb/Volume1/chap1.pdfにて閲覧可)。暗記の対象でしかないとみなされがちな文法規則の背後に、豊かな認知能力と体系性がみとれることを確認してゆくことになる。分析の対象となる言語、例としてあげられる言語は主として英語であるが、授業では、日本語についてもあわせて考察し、言語の普遍性と相対性の問題についても理解を深めたい。</p>		<p>テキストを一行一行丹念に読み進めてゆく。春学期は、1節と2節(21頁から40頁)を読む予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。使われている語彙や構文は必ずしも易しいものではないので、十分に予習のうえ授業に臨まれたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Talmy, Leonard (2000) <i>Toward a Cognitive Semantics: Concept Structuring Systems</i> . Cambridge, MA: MIT Press.		出席状況、授業での発表、試験、レポート課題などにより総合的に評価する。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が求められる。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(文法と認知) 英語専門講読 b(文法と認知)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、「文法と認知」を副題とする英語専門講読の授業である。ここでは、下記のテキストの第1章“The Relation of Grammar to Cognition”を読んでゆく (http://linguistics.buffalo.edu/people/faculty/talmy/talmyweb/Volume1/chap1.pdfにて閲覧可)。暗記の対象でしかないとみなされがちな文法規則の背後に、豊かな認知能力と体系性がみとれることを確認してゆくことになる。分析の対象となる言語、例としてあげられる言語は主として英語であるが、授業では、日本語についてもあわせて考察し、言語の普遍性と相対性の問題についても理解を深めたい。</p>		<p>1回目の授業では、春学期の内容の復習を行なう。秋学期は、3節(40頁)以降を読んでゆく。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。使われている語彙や構文は必ずしも易しいものではないので、十分に予習のうえ授業に臨まれたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Talmy, Leonard (2000) <i>Toward a Cognitive Semantics: Concept Structuring Systems</i> . Cambridge, MA: MIT Press.		出席状況、授業での発表、試験、レポート課題などにより総合的に評価する。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が求められる。	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(英国ユダヤ人史) 英語専門講読a(英国ユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。</p> <p>使用するテキストは英国ユダヤ人史の概説書です。</p>		最初の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pamela Jones, <i>Jews of Britain</i> 高価なため、コピーを配布します。		毎回出席をとります。授業日数の1/3以上欠席された方は単位をあげません。遅刻3回で欠席1回にカウント。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(英国ユダヤ人史) 英語専門講読b(英国ユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		最初の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ (物語を楽しむ) 英語専門講読 a (物語を楽しむ)	担当者	佐藤 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>優れた現代英米の物語(短編小説と呼んでもよい)を読んで、作品の構造、語りの技巧、物語内容などに触れ、読みの行為とはなにか、物語の面白さはどこにあるか、という点に焦点を当てて考えます。読むための技術を身につけることを目的とします。</p> <p>そのためにいろいろな物語を取り上げたいのですが、時間の都合で数編ということになるでしょう。今年度は市販のテキストを使わないで、ハンドアウトを渡します。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりです。言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたり、作者がどんな文化的背景を物語の語りに織り込んでいるかを見極めたりします。最終的には物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえるように授業を進めていきます。授業では右に掲げた授業計画のメイン・トピックスを取り上げて解説・説明をする予定です。受講生に読んでもらいますので順番を守ることがなによりも大切な評価の要素です。</p>		<p>以下に学習する主なトピックスを挙げておきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Character と characterization について 2 Plot と plotting について 3 Point of view と narrator について 4 Setting と perspective について 5 Style と tone について 6 Theme と title について 7 Structure と narration について 8 Metaphor について 9 Allegory について 10 Imagery について 11 Satire について 12 Symbol について 13 Focalization について 14 Stereotype について 15 Irony について その他 16 Analogy について 17 Allusion について 18 Connotation と denotation について 19 Paradox について 20 Genre について 21 物語の語り手の役割について 22 物語と読者との関係について その他 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはハンドアウトを配布しますので購入の必要はありません。参考文献は必要に応じて授業で挙げます。</p>		<p>成績評価は出席、定期試験によって行います。3分の2以上の授業出席がないと試験が受けられません。また授業で当てられているのに休むと他に出席していてもアウトになります。そこがこの授業の最も重要なポイントです。</p>	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (物語を楽しむ) 英語専門講読 b (物語を楽しむ)	担当者	佐藤 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>優れた現代英米の物語(短編小説と呼んでもよい)を読んで、作品の構造、語りの技巧、物語内容などに触れ、読みの行為とはなにか、物語の面白さはどこにあるか、という点に焦点を当てて考えます。読むための技術を身につけることを目的とします。</p> <p>そのためにいろいろな物語を取り上げたいのですが、時間の都合で数編ということになるでしょう。今年度は市販のテキストを使わないで、ハンドアウトを渡します。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりですが、言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたり、作者の文化を背景に物語の技巧をどのように駆使しているかを見極めたりします。最終的には物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえるように授業を進めていきます。授業では右に掲げた授業計画のメイン・トピックスを取り上げて解説・説明をする予定です。受講生に読んでもらいますので順番を守ることがとても大切な評価の要素です。</p>		<p>以下に学習する主なトピックスを挙げておきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Character と characterization について 2 Plot と plotting について 3 Point of view と narrator について 4 Setting と perspective について 5 Style と tone について 6 Theme と title について 7 Structure と narration について 8 Metaphor について 9 Allegory について 10 Imagery について 11 Satire について 12 Symbol について 13 Focalization について 14 Stereotype について 15 Irony について、その他 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはハンドアウトを配布しますので購入の必要はありません。参考文献は必要に応じて授業で挙げます。</p>		<p>成績評価は出席、定期試験によって行います。3分の2以上の授業出席がないと試験が受けられません。また授業で当てられているのに休むと他に出席していてもアウトになります。そこがこの授業の最も重要なポイントです。</p>	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ (現代国際関係論) 英語専門講読 a (現代国際関係論)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、変転著しい現代の国際関係の中でも、特に論争の分かれるテーマを扱う。具体的には、経済的グローバリゼーション、国際社会における米国のプレゼンス、中台関係、国連の役割、途上国の債務問題、環境問題などである。</p> <p>この授業で使用する文献は、一つのテーマについて、賛成(Yes)と反対(No)の相反する主張の記述により構成されている。学生には、双方の見解を理解した上で、どちらの主張がより説得力を有するのかを考えてもらいたい。その上で、それぞれのテーマについて自らの意見を持ち、積極的に議論に加わってもらいたい。</p> <p>学生の理解状況を考慮するが、基本的には、一週間に一章を終えるペースで進める。発表と議論は日本語で行ってもらうが、文献を理解するには多少なりとも高度な英語力を要する。</p> <p>この授業の履修を希望する者は、各自文献を用意すること(DUOで購入可)。最初の1、2週間分については、オリエンテーションにて配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、グループ分け (二週目以降は、グループ発表と議論) 2. Is Economic Globalization a Positive Trend? 3. Does Globalization Threaten Cultural Diversity? 4. Will State Sovereignty Survive Globalism? 5. Should the United States Decrease Its Global Presence? 6. Should the United States Continue To Encourage a United Europe? 7. Is Russian Foreign Policy Taking an Unsettling Turn? 8. Does a Strict "One China" Policy Still Make Sense? 9. Should North Korea's Nuclear Arms Program Evoke a Hard-Line Response? 10. Would it be an Error to Establish a Palestine State? 11. Was War with Iraq Justified? 12. Are Strict Sanctions on Cuba Warranted? 	
テキスト、参考文献		評価方法	
John T. Rourke, <i>Taking Sides: Clashing Views in World Politics</i> , 12 th ed., McGraw-Hill, 2007.		出席、発表、学期末レポートの総合評価とする。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (現代国際関係論) 英語専門講読 b (現代国際関係論)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同一の文献を読み進める。		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、グループ分け (二週目以降は、グループ発表と議論) 2. Is Capitalism the Best Model for the Global Economy? 3. Should the Rich Countries Forgive All the Debt Owed by the Poor Countries? 4. Is Preemptive War an Unacceptable Doctrine? 5. Is the War on Terrorism Succeeding? 6. Is Government-Ordered Assassination Sometimes Acceptable? 7. Is United Nations Fundamentally Flawed? 8. Should the United States Ratify the International Criminal Treaty? 9. Is the Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination Against Women Worthy of Support? 10. Do Environmentalists Overstate Their Case? 11. Are Adequate Preparations Underway For a Possible Avian Influenza Pandemic? 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
John T. Rourke, <i>Taking Sides: Clashing Views in World Politics</i> , 12 th ed., McGraw-Hill, 2007.		出席、発表、学期末レポートの総合評価とする。	

06年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ (アメリカ小説) 英語専門講読 a (アメリカ小説)	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>まず第一に「英語で」原書を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に討論による作品理解を深めることを目的とする。</p> <p><i>The Assistant</i> (1957)は Bernard Malamud の2番目の長編小説で、このアメリカのユダヤ系作家の初期の代表作である。ニューヨークの貧しいユダヤ人食料店主 Morris Bober と人生に目標を見いだせないイタリア系青年 Frank Alpine との奇妙な交流を描いている。大恐慌の暗い影を背景に進行するこの小説の時代錯誤的ともいうべき理想主義は、拝金主義が蔓延する現代社会に生きる現在の日本の若者が、一度原点に戻って人生を考える上で、参考になるかも知れない。この「暗い」小説の技巧や主題を質問表に基づく討論を通じて考えていく。</p> <p>春学期は、この小説の前半を読む。</p>		<p>授業は前の週までに配布する各章の内容に関する質問表をもとに進めていく。授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習することが義務づけられる。授業では質問表をもとに質疑応答・討論を進めていくが、積極的に討論に参加することが望まれる。時間的に可能ならば朗読の録音を聞く時間も設けたい。</p> <p>第1週 授業の進め方などについての説明と「質問表」にもとづく討論による体験授業。 第2週 前週に配布した質問表による討論。問1～10程度。 第3週以降、同様な方法で毎週平均ほぼ10ページ弱読んでいく予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Bernard Malamud, <i>The Assistant</i> (1957) テキストの入手方法については最初の授業時に指示します。		学期末の定期試験、および平常点(授業・討論への貢献度で、出席点ではない)	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ (アメリカ小説) 英語専門講読 b (アメリカ小説)	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の項を参照。この小説の後半を読む。</p> <p>参考1：春学期 第1章の質問表の例 1) Why does Morris reduce the sum under “Drunk Woman” to \$1.61? What aspect of his character does this episode reveal? 2) Comment on the following two lines related to Morris’s store. What do they imply? Now the store looked like a long dark tunnel. (p. 8) In a store you were entombed. (p. 9) 3) Who is Nick Fusco? What does he do on pages 8-9? 4) Why does Morris pay cash for the liverwurst? Why does he not want favors from a German?</p>		<p>春学期の項を参照。</p> <p>春学期と同様な方法で <i>The Assistant</i> の後半を読んでいく。</p> <p>参考2：Malamud のホームページ 島田作成の Bernard Malamud のホームページ ”The Unofficial Bernard Malamud Homepage”があるので、この作家について知りたい方は訪ねてください。 Google で”Bernard Malamud”と検索すると最初に表示されるはずです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Bernard Malamud, <i>The Assistant</i> (1957)		学期末の定期試験、および平常点(授業・討論への貢献度で、出席点ではない)	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(イギリス児童文学) 英語専門講読a(イギリス児童文学)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「習うより慣れよ。」(Use makes perfect.)の観点より、面白くて易しい英語を多読することを、目的とする。(昨年の実績は、課外のレポートも含めて504頁であった。)</p> <p>Lang (Andrew,1844-1922)の『色分け昔話集』(全12巻)の内、『オレンジ昔話集』を読む。ラングはグリム同様編者に過ぎないが、中には翻訳・再話で少し変えているところもある。今回もなじみの話は少ないが、基本は同じ、夢とヒューマーとペイソスである。(1回20頁相当を2人の共同責任で読んでもらう。)</p> <p>参考文献 キャサリン・ブリグス編著 『妖精辞典』 平野敬一他訳 富山房 1992年</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. <i>The Story of the Hero Makoma</i> 3. <i>The Magic Mirror</i> 4. <i>Story of the King who would see Paradise</i> 5. <i>How Isuro the Rabbit tricked Gudes</i> 6. <i>Ian, the Soldier's Son</i> 7. <i>The Fox and the Wolf</i> 8. <i>How Ian Direach got the Blue Falcon</i> 9. <i>The Ugly Duckling</i> 10. <i>The Two Caskets</i> 11. <i>The Goldsmith's Fortune</i> 12. <i>The Enchanted Wreaths</i> 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lang,Andrew, <i>The Orange Fairy Book</i> . Dover, 1968		期末試験をする。それとは別に課外に20頁程度のものを読んでいただく。詳細は教室で指示する。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(イギリス児童文学) 英語専門講読b(イギリス児童文学)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<ol style="list-style-type: none"> 1. <i>The Foolish Weaver</i> 2. <i>The Clever Cat</i> 3. <i>The Story of Manus</i> 4. <i>The Pinkel the Thief</i> 5. <i>The Adventures of a Jackal</i> 6. <i>TheAdventures of Jackal's Eldest Son</i> 7. <i>The Adventures of the Youger Son of the Jackal</i> 8. <i>The Three Treasures of the Giants</i> 9. <i>The Rover of the Plain</i> 10. <i>The White Doe</i> 11. <i>The Girl'Fish</i> 12. <i>The Owl and the Eagle</i> 	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講義Ⅰ(各種英文ビジネス文書の読み方と実務) 英語専門講義a(各種英文ビジネス文書の読み方と実務)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いわゆるESP(English for Specific Purposes)の観点から、ビジネス英語を「国際商取引を遂行・促進するための英語によるコミュニケーション活動」ととらえると、その内容は概ねビジネス通信文(Business Correspondence)とビジネス文書(Business Documentation)とに大別できます。この授業は、前者のみを扱う狭義のビジネス英語から脱却し、後者にまで学習範囲を拡大して、国際ビジネスに従事する者にとって不可欠な実務能力とロジカル・シンキングを涵養することを目指します。</p> <p>「英文ビジネス文書」と一言と言っても、実際には法律文書、技術文書、財務文書、広告・宣伝文書等々、きわめて多岐にわたります。その中で、今年度の春学期は法律文書(legal writings)の代表である契約書と定款を扱います。具体的には、メーカーなどが海外で特定の第三者を通じて独占的に自社製品を販売する「一手販売店契約」(exclusive distributorship agreement)の英文契約書と、米国法に基づく株式会社の設立定款(certificate of incorporation)をテキストとして読み、法律英語の文体や語法の特徴を言語的知識として学ぶと同時に、国際ビジネスに関する実務的な知識を習得できるように努力します。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の授業計画と学習内容について詳しく説明し、履修上の注意事項を伝達します。 2 法律英語の文体や語法の基本的特徴、英文契約書の標準的構成と用語法などについて講義します。 3 代表的な国際契約の類型について講義します。 4 販売店契約(distributorship agreement)について、代理店契約(agency agreement)と比較しながら詳しく説明します。 5 英文契約書の前文と定義条項を読みます。 6 実質条項のうち、指名(appointment)、当事者関係(privity)などの条項を読みます。 7 実質条項のうち、最低購入額(minimum purchase)、決済(payment)などの条項を読みます。 8 実質条項のうち、情報と報告(information and report)、販売促進(sales promotion)、工業所有権(industrial property rights)などの条項を読みます。 9 契約期間(duration)、契約の終了(termination)、不可抗力(force majeure)、仲裁(arbitration)、準拠法(governing law)などの一般条項を読みます。 10 米国の会社の設立定款について詳しく説明します。 11 New York州法に基づく株式会社の定款を読みます。 12 春学期の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを当方で用意します。また、必要な資料も随時配布します。		出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講義Ⅱ(各種英文ビジネス文書の読み方と実務) 英語専門講義b(各種英文ビジネス文書の読み方と実務)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は春学期と同じですが、秋学期は英文財務諸表を扱います。実在の米国企業の連結財務諸表(consolidated financial statements)を範例とした英文のテキストを読みながら、貸借対照表(balance sheet)、損益計算書(income statement)、利益剰余金計算書(statement of retained earnings)、株主持分計算書(statement of shareholders' equity)、キャッシュフロー計算書(statement of cash flow)などの意義、表示区分と読み方、勘定科目、各種の分析指標などについて学び、ごく基本的なレベルで企業業績を読み取ることができるようになることを目指します。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋学期の授業計画と学習内容について詳しく説明するとともに、履修上の注意事項を伝達します。 2 財務諸表(financial statements; F/S)、特に貸借対照表と損益計算書の意義について詳しく説明します。 3 各種英文財務諸表の表示区分と読み方、および主要な勘定科目について、日本語版のそれらと比較しながら詳しく説明します。 4 同上 5 実在の米国企業の連結財務諸表を範例とした英文のテキストを、専門用語(technical terms)に慣れながら読み進み、実務知識の習得を目指します。 6 同上 7 同上 8 同上 9 同上 10 各種の分析指標を用いて、テキストが範例としている米国企業の基礎的な経営分析を行い、流動性(liquidity)、収益性(profitability)、効率性(efficiency)などの業績を検討します。 11 同上 12 秋学期の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを当方で用意します。また、必要な資料も随時配布します。		出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(生成文法理論への誘い) 英語専門講読a(生成文法理論への誘い)	担当者	鈴木 英一
講義目的・講義概要		授業計画	
講義目的: 世界的に著名な言語学者であるNoam Chomskyが1995年(元々は1991年)に発表した、生成文法の新しい理論改訂に関わる重要な論文を読み、英語の読解力を伸ばしながら、生成文法の最近の理論を理解する。 講義概要: Chomsky (1995) <i>The Minimalist Program</i> という著書の第2章“Some Notes on Economy of Derivation and Representation”の前半部(pp.129-146)を精読する。まず、「派生と表示の経済性」を論じるための前提となる仮定を考える。次に、述語動詞の文中での位置を説明するために動詞の屈折(Inflection)が論じられている。さらに、文の生成・派生を最小化する方法、すなわち、文の経済的派生方法として「最小の力」による説明がなされている。最後に、派生の経済性についての議論が整理されている。		1. Preliminary Assumptions (1) 2. Preliminary Assumptions (2) 3. Preliminary Assumptions (3) 4. Some Properties of Verbal Inflection (1) 5. Some Properties of Verbal Inflection (2) 6. Some Properties of Verbal Inflection (3) 7. A “Least Effort” Account – Minimizing Derivations (1) 8. A “Least Effort” Account – Minimizing Derivations (2) 9. A “Least Effort” Account – Minimizing Derivations (3) 10. The Element I (Inflection) 11. On Economy of Derivation (1) 12. On Economy of Derivation (2)	
テキスト・参考文献		評価方法	
テキスト: Noam Chomsky (1995) <i>The Minimalist Program</i> . MIT Press. 参考書: 安井稔(編)『コンサイス英文法辞典』(三省堂)		出席状況、授業の予習、授業中の発表、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(生成文法理論への誘い) 英語専門講読b(生成文法理論への誘い)	担当者	鈴木 英一
講義目的・講義概要		授業計画	
講義目的: (春学期と同じ) 世界的に著名な言語学者であるNoam Chomskyが1995年(元々は1991年)に発表した、生成文法の新しい理論改訂に関わる重要な論文を読み、英語の読解力を伸ばしながら、生成文法の最近の理論を理解する。 講義概要: Chomsky (1995) <i>The Minimalist Program</i> という著書の第2章“Some Notes on Economy of Derivation and Representation”の後半部(pp.146-162)を精読する。まず、主語と動詞、動詞と目的語の一致を説明する「一致体系」を論じる。次に、表示の経済性を考え、wh-要素を含む構造を説明するために演算子と変数の関係を扱い、LF(Logical Form)で許される要素を考える。さらに、意味内容をもたない虚辞要素の認可を完全解釈原理との関係やLFにおける繰り上げ現象を論じる。		1. The Agreement System (1) 2. The Agreement System (2) 3. The Agreement System (3) 4. Economy of Representation 5. Operators and Variables 6. Legitimate LF Elements 7. Full Interpretation and Expletive Elements (1) 8. Full Interpretation and Expletive Elements (2) 9. Further Questions concerning LF Raising (1) 10. Further Questions concerning LF Raising (2) 11. Some conclusions on Language Design (1) 12. Some conclusions on Language Design (2)	
テキスト・参考文献		評価方法	
テキスト: Noam Chomsky (1995) <i>The Minimalist Program</i> . MIT Press. 参考書: 安井稔(編)『コンサイス英文法辞典』(三省堂)		出席状況、授業の予習、授業中の発表、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講義Ⅰ(異文化理解の視点) 英語専門講義a(異文化理解の視点)	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、コミュニケーション論の専門的な英語文献を読む能力の育成と異文化理解において重要な役割を果たすいくつかの視点に関する知識の獲得と理解の深長を目的とする。</p> <p>文献の購読に関しては、論文表記上のルールや意義などにも触れながら単に「英語を読む」に留まらない専門的な「読み」を意識する。また、異文化理解の視点に関しては、「異文化」を西洋と東洋が両極であるような枠組みを脱し、グローバルかつ現実的な視点を導入する。</p> <p>授業は、基本的には、受講生によるグループ・プレゼンテーションとそれに対する質疑応答とディスカッション、授業担当者による補足説明・解説・問題提起で構成される。コミュニケーションや異文化理解のプロセスは、日常生活のあらゆる場面で起こっていることであり、経験していることである。授業をより有意義な者とするために、文献に書かれている内容を自分の生活体験と演繹させ、積極的に発言することが求められる。</p> <p>春学期においては、異文化理解を目的としたコミュニケーションにおいて重要と思われる基礎的な事柄についての文献を読んでいく予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Class guidance and Introduction 2. Making Groups 3. Understanding Culture as Multilevel 4. Understanding the Six Barriers 5. Practicing Culturally-Centered Communication Skills 6. "Who am I?": cultural variations in self-systems 7. Independent and Interdependent Models of the self as cultural frame 8. Why self-construals are useful 9. The source of dualism: Mechanistic Cartesian worldview 10. Dimensionality of cultural identity 11. Self-disclosure: Bragging vs. negative self-disclosure 12. Conclusion 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリント教材(初回授業時に一部配布)</p> <p>参考文献：コミュニケーション論関連の基礎文献など</p>		<p>レポート(40%)、プレゼンテーション(30%)、授業への貢献度(15%)、授業への参加度(15%)を総合的に評価する。</p>	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講義Ⅱ(異文化理解の視点) 英語専門講義b(異文化理解の視点)	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、コミュニケーション論の専門的な英語文献を読む能力の育成と異文化理解において重要な役割を果たすいくつかの視点に関する知識の獲得と理解の深長を目的とする。</p> <p>文献の購読に関しては、論文表記上のルールや意義などにも触れながら単に「英語を読む」に留まらない専門的な「読み」を意識する。また、異文化理解の視点に関しては、「異文化」を西洋と東洋が両極であるような枠組みを脱し、グローバルかつ現実的な視点を導入する。</p> <p>授業は、基本的には、受講生によるグループ・プレゼンテーションとそれに対する質疑応答とディスカッション、授業担当者による補足説明・解説・問題提起で構成される。コミュニケーションや異文化理解のプロセスは、日常生活のあらゆる場面で起こっていることであり、経験していることである。授業をより有意義な者とするために、文献に書かれている内容を自分の生活体験と演繹させ、積極的に発言することが求められる。</p> <p>秋学期においては、春学期の内容を踏まえ、異文化理解を目的としたコミュニケーションにおいて重要と思われる理論的な事柄やその応用についての文献を読んでいく予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Motivation to approach verbal communication 3. Identity management theory & Cultural schema theory 4. Theorizing cultural identifications 5. Cross-cultural and intercultural applications of expectancy violations theory and interaction adaptation theory. 6. An anxiety/uncertainty management theory of strangers' intercultural adjustment (a) 7. An anxiety/uncertainty management theory of strangers' intercultural adjustment (b) 8. Double translation 9. Translating the pain experience 10. Curricular efforts 11. Issues for the Twenty-First century 12. Conclusion 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリント教材(初回授業時に配布)</p>		<p>レポート(40%)、プレゼンテーション(30%)、授業への貢献度(15%)、授業への参加度(15%)を総合的に評価する。</p>	

06年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人) 英語専門講読 a(20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人)	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、20世紀アメリカの有色系女性作家・詩人たちの作品(エッセイ、短篇小説、詩)を、精読あるいは多読しながら、行動する女性たちの目に映ったアメリカ社会について探る。		1. ガイダンス マイノリティーとは? 2. ネイティブ・アメリカンの歴史と文化 3. Leslie Marmon Silko 4. Leslie Marmon Silko 5. まとめ 復習テスト 6. アフリカ系アメリカ人の歴史と文化 その1 7. アフリカ系アメリカ人の歴史と文化 その2 8. Alice Walker 9. Alice Walker 10. Alice Walker 11. Alice Walker 12. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。 参考文献については開講時に紹介。		小テスト、プレゼンテーションおよびレポートによる。	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人) 英語専門講読 b(20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人)	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
前期に続き、20世紀アメリカの有色系女性作家・詩人たちの作品(エッセイ、短篇小説、詩)を精読あるいは多読することで、行動する女性たちの目に映ったアメリカ社会について探る。		1. ガイダンス 日系アメリカ人の歴史と文化 1 2. 日系アメリカ人の歴史と文化 その2 3. Janice Mirikitani 4. Janice Mirikitani 5. Janice Mirikitani 6. Janice Mirikitani 7. まとめ 復習テスト 8. 境界からの声—チカーナという生き方 9. Gloria Anzaldua 10. Gloria Anzaldua 11. Gloria Anzaldua 12. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。 参考文献については開講時に紹介。		小テスト、プレゼンテーションおよびレポートによる。	

06年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(グローバル社会論-世界のトレンドを読む-) 英語専門講読a(グローバル社会論-世界のトレンドを読む-)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界中で読まれている英国の国際情報誌『エコノミスト』が、1年に1度発行する国際動向年報を取り上げます。世界中の有力書店やホテルで販売されており、政治家・官僚・ビジネスマン・ジャーナリストが注目している年報です。</p> <p>本授業では、2つの目標を設定しています。第1の目標は、世界トレンドと各国事情を理解し、最新の国際情報を獲得することです。第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。</p> <p>2週単位で授業が進みます。第1週に、受講生は担当するテーマに関して詳細なレジюмеを用意してプレゼンテーションを行います。その際、新聞・雑誌・各種資料を活用し、テキストの内容を掘り下げる工夫が求められます。</p> <p>第2週では、テキストの英文を理解する作業が行われます。例えば第1週にアジアに関するプレゼンがあり、第2週ではテキストに掲載されているアジアの記事を、英語に注目して討論します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(第1週) 英国の国際情報誌『エコノミスト』を説明 国際情報ツールの解説 プレゼンの担当者とテーマの決定 2. 各担当者によるプレゼンと討論 (第2週～第12週) 3. 対象テーマ群 世界トレンド・社説 ヨーロッパ イギリス アメリカ アジア 中東・アフリカ 国際関係 国際ビジネス 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>The Economist: The World in 2007,</i> London: The Economist, 2006.</p>		<p>受講生によるレジюме作成とプレゼンテーション、出席と討論への参加が基本となります。</p>	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(グローバル社会論-世界のトレンドを読む-) 英語専門講読b(グローバル社会論-世界のトレンドを読む-)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界中で読まれている英国の国際情報誌『エコノミスト』が、1年に1度発行する国際動向年報を取り上げます。世界中の有力書店やホテルで販売されており、政治家・官僚・ビジネスマン・ジャーナリストが注目している年報です。</p> <p>本授業では、2つの目標を設定しています。第1の目標は、世界トレンドと各国事情を理解し、最新の国際情報を獲得することです。第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。</p> <p>2週単位で授業が進みます。第1週に、受講生は担当するテーマに関して詳細なレジюмеを用意してプレゼンテーションを行います。その際、新聞・雑誌・各種資料を活用し、テキストの内容を掘り下げる工夫が求められます。</p> <p>第2週では、テキストの英文を理解する作業が行われます。例えば第1週にアジアに関するプレゼンがあり、第2週ではテキストに掲載されているアジアの記事を、英語に注目して討論します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 秋学期オリエンテーション(第1週) 春学期の授業レビュー プレゼンの担当者とテーマの確認・再調整 2. 各担当者によるプレゼンと討論 (第2週～第12週) 3. 対象テーマ群 世界トレンド・社説 ヨーロッパ イギリス アメリカ アジア 中東・アフリカ 国際関係 国際ビジネス 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>The Economist: The World in 2007,</i> London: The Economist, 2006.</p>		<p>受講生によるレジюме作成とプレゼンテーション、出席と討論への参加が基本となります。</p>	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(現代国際関係論) 英語専門講読a(現代国際関係論)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【授業の目的】</p> <p>① 現代国際関係における諸問題に対する関心を高め、理解を深めること。</p> <p>② プレゼンテーションを通じて、ものごとを筋道立てて説明し、発表する能力を身につけること。</p> <p>【授業の流れ】</p> <p>春学期は、英文テキストについて、あらかじめ指定された学生(またはグループ)が内容のサマリーを発表し、その後ディスカッションを進めます。<u>また、二週に一度、内容に関するクイズを行います。</u></p> <p>なお、テキストの講読を通じて、秋学期に向けたプレゼンテーションのテーマを見つけてもらいます。</p> <p>*第一回のプレゼンで使用される英文テキストはデジタル配布するので、履修希望学生は初回の授業前までに個人研究室にUSBメモリを持参のこと。</p> <p>*受講者多数の場合には、グループ(2~3人)を組んでもらい、グループごとに研究・発表してもらうことになる。</p>		<p>1. この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに発表担当者(グループ分け)の決定(第1週)</p> <p>2. 各発表者(グループ)によるプレゼンテーション(第2~第11週)</p> <p>3. 秋学期の発表についての打ち合わせ(最終週)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
W. Raymond Duncan, Barbara Jancar-Webster, & Bob Switky, <i>World Politics in the 21st Century</i> , updated edition (New York: Addison Wesley, 2002). 図書館所蔵		評価は次の三点による。①発表の担当(35%)、②小テストの点数(35%)、③ディスカッションへの貢献度(30%)。欠席が四回を越えた時点で不可。遅刻は二回で欠席とみなす。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(現代国際関係論) 英語専門講読b(現代国際関係論)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、個人(もしくはグループ)が、特定のテーマについてパワーポイントを使ってプレゼンテーションを英語で行います。テーマは、基本的には春学期のテキストで学んだことに関連していることが望ましい。漠然としたテーマではなく、特定の問題に焦点をあて、<u>何らかの問題について、疑問点をあげて、それに対する答えを導き出す形式</u>をとること。</p> <p>決して自己満足的な発表とならないように、常に「聞き手」を意識したプレゼンテーションを行うように心がけてください。</p> <p>またプレゼンテーションのあとには、学生全員の参加するディスカッション(英語)を行いますので、担当グループは工夫して、ディスカッションが盛り上がるようにしてください。この授業の主役は学生で、教員はあくまでもアドバイザー役に徹します。</p> <p><u>*英語を人前で話す意思、勇気のない人は、受講をお断りします。</u></p>		<p>1. 秋学期のオリエンテーション(第1週)</p> <p>2. 個人(もしくはグループ)によるプレゼンテーション(第2~最終週)</p> <p>【注意事項】</p> <p>発表担当者(グループ)は、担当となる週の一週間前の授業で、英語の事前資料を用意して、学生に当日までに読んできてもらうようすること。</p> <p>毎回の発表終了後には、発表担当者を除く全学生に対して授業用掲示板への投稿を求めます。発表を受けて自分が考えたこと、疑問に思ったことなどを出来る限り詳しく書くこと。内容によっては、再投稿を求める。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
発表者が用意する英文資料(コピー)		評価は次の3点による。①発表の担当(35%)、②ディスカッションへの貢献度(35%)、③掲示板への投稿(30%)。なお欠席と遅刻の取り扱い、春学期と同様とする。	

06年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(インタビューやニュースのスク립トを読む) 英語専門講読a(インタビューやニュースのスク립トを読む)	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>読んで理解できない英語は、当然、聴いても理解できない。 <u>ただこのことは、往々にして忘れられがちである。</u></p> <p>当講座は、“英会話”以上の英語(ニュース・インタビュー・スピーチ・レクチャーetc)を聴いて理解できるようにするためにはどうしたらよいのか、そのスキルを会得するためのものである。このため、授業では、さまざまなジャンルのスク립トを使って、聴解力アップのためのいろいろな読み方を体験してもらおう。当講座は、いわば異文化間コミュニケーション実践のスキル・アップを目的としたものであると考えて欲しい。</p> <p>なお、授業の3分の1以上を欠席した場合、単位は認められない。</p>		<p>聴解能力には、読解能力だけでなく、スピードもまた重要となってくる。そこで、学生には、文頭からの読み、予測読み、速読など(英語を聴いて理解するための読みの技術)を教えていきたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回ごとにスク립トのプリントを使用		出席、平常授業での評価による	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(インタビューやニュースのスク립トを読む) 英語専門講読b(インタビューやニュースのスク립トを読む)	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回ごとにスク립トのプリントを使用		出席、平常授業での評価による	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(動詞の文法) 英語専門講読a(動詞の文法)	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、まずは下記のテキストを読んでいきます。このテキストは、動詞が進行形や完了形で使われたり、will、going to、may、shouldなどと現れたりした場合、どのような意味になり、またどのように使われるのかを説明しています。</p> <p>具体的には、I() in fair play.のカッコにbelieveが入ってもam believingが入らないこととか、Watch it! That pile of boxes() fall! だとis going toは良くてwillはおかしく、またYou {have to / must} save that money to buy a house.ではhave toとmustの両方を使えるけれど意味が違う(それゆえ用法が異なる)こともわかるようになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 動詞の現在時制と過去時制の意味と用法 2. " 3. 動詞の進行形の意味と用法 4. " 5. 過去(から現在まで)の表し方 6. " 7. " 8. 未来の表し方 9. " 10. may、must、shouldなどの助動詞の意味と用法 11. " 12. " 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Leech, Geoffrey (2004) <i>Meaning and the English Verb</i> . Pearson Education Limited. (最初にプリントを配りますが、あとは各自購入してください。)		試験とふだんの努力によります。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(動詞の文法) 英語専門講読b(動詞の文法)	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、さまざまなジャンルの名作に動詞がどのように使われているかを考察し、その作品の文章を味わうと同時に、動詞の使い方を体系的に勉強します。名作を味わい、動詞の使い方の要点のまとめを学習したあとで練習問題を解き、また動詞以外の語法の要点も把握できるようにしたいと思っています。したがって、この授業を受講すると、たとえば、「猫のにおい」と言うときに、the smell of {a cat / cats / cat}のうちふつうはどれを選ぶのか、あるいはkindの場合にはHe is kind to the old.とtoが使えるのに、I'm angry with John.ではwithの代わりにtoが使えないのはどうしてなのかというようなこと、さらに「エベレストに登った」と言うときにどうしてupを入れてThey climbed (?up) Everest.とするとおかしくなるのかわかるようになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 他動詞と自動詞 2. " 3. 句動詞(自動詞+副詞)・句動詞(自動詞+前置詞) 4. 句動詞(自動詞+副詞+前置詞)・句動詞(他動詞+副詞) 5. 基本時制・進行形 6. 完了形・能動態と受動態 7. 動名詞と不定詞 8. 分詞 9. 助動詞 10. 仮定法 11. 直接話法・間接話法 12. 混合話法・描出話法 	
テキスト、参考文献		評価方法	
九頭見・ほか(編著) <i>Deeper into English Verbs through Masterpieces</i> . 金星堂		試験とふだんの努力によります。	

06年度(春) 03～05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(キリスト教への理解) 英語専門講読a(キリスト教への理解)	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨年度はテキスト(プリント)のⅣ章 Good Grief!(P80)から数頁までを読んだが、今年度は同じ章Ⅳ(P80)から始めてⅤ章 The Hound of heaven、Ⅵ章 Concluding Unscientific Postscript までを読む予定。</p> <p>テキストの内容は諸君おなじみの、ピーナッツとチャーリーブラウンのマンガが、キリスト教の考え方を述べているというもの。</p>		<p>テキストの文章の難易度と、学生の予習能力に応じて授業を進めていく。</p> <p>授業時には、名簿に従って席に着いていただく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The Gospel According to Peanuts のⅣ章、Ⅴ章、Ⅵ章或いは、Cultural Cocktails		授業への出席、発表、テストの結果で評価する。	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(キリスト教への理解) 英語専門講読b(キリスト教への理解)	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に続く箇所を読む		春学期に準じる	
テキスト、参考文献		評価方法	
張る学期に準じる		春学期に準じる	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(現代の親しみやすいエッセイ) 英語専門講読a(現代の親しみやすいエッセイ)	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Reading は Communication 能力の養成にどうしても欠かせないものです。語学力を身につける一つの方法は、自分の好きな文章や英文らしい歯切れの良さをもつ文章などを、手におえる範囲で(難しすぎる文章はエネルギーのロスが多すぎることになります)くり返し黙読ないし音読して、発想やコロケーションを消化することでしょう(これはネイティブスピーカーも母国語の能力を伸ばそうとするとき自然に行なっていると思います)。その場合、対象となる英文の発想が、それに相当する日本文の発想と異なる度合いが大きいほど、自分のものにするのがむずかしくなります。これは、いつでもどこでも誰にでもできる方法ですが、昔も今も有効な学習法であることに変わりないと思います。</p> <p>一つ一つの word, phrase, sentence を正確に、そして深く把握することが、英語を駆使する上でいかに大切かを学んで欲しいと思います。 予習と復習は不可欠です。</p>		<p>最初の授業時に授業の進め方、成績の出し方の細かい点、そして辞書の大切さ、効果的な使い方などをお話します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>More Bob Greene</i> 一みずみずしく誠実なボブ・グリーンの世界― [南雲堂]</p>		<p>普段の授業に数回テストを行い、その総合点と平常点で評価する。</p>	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(現代の親しみやすいエッセイ) 英語専門講読b(現代の親しみやすいエッセイ)	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Reading は Communication 能力の養成にどうしても欠かせないものです。語学力を身につける一つの方法は、自分の好きな文章や英文らしい歯切れの良さをもつ文章などを、手におえる範囲で(難しすぎる文章はエネルギーのロスが多すぎることになります)くり返し黙読ないし音読して、発想やコロケーションを消化することでしょう(これはネイティブスピーカーも母国語の能力を伸ばそうとするとき自然に行なっていると思います)。その場合、対象となる英文の発想が、それに相当する日本文の発想と異なる度合いが大きいほど、自分のものにするのがむずかしくなります。これは、いつでもどこでも誰にでもできる方法ですが、昔も今も有効な学習法であることに変わりないと思います。</p> <p>一つ一つの word, phrase, sentence を正確に、そして深く把握することが、英語を駆使する上でいかに大切かを学んで欲しいと思います。 予習と復習は不可欠です。</p>		<p>最初の授業時に辞書の使い方や reading の心構えと共に授業の進め方についての話をします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>More Bob Greene</i> 一みずみずしく誠実なボブ・グリーンの世界― [南雲堂]</p>		<p>普段の授業に数回テストを行い、その総合点と平常点で評価する。</p>	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(シェイクスピア) 英語専門講読a(シェイクスピア)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>シェイクスピアの喜劇 <i>The Merchant of Venice</i> (『ヴェニスの商人』) を精読しながら、シェイクスピアの詩や作劇法に触れる。シェイクスピアを原文で読むおもしろさとむずかしさを実際に経験することを目的とする。</p> <p>まずはシェイクスピアの用いた詩の形式(ブランク・ヴァース)に慣れる。現代の日常的な英語との語義や語法の違いを理解し、韻文のリズムを聞いてみる。その詩の中で、ヴェニスとベルモントを舞台として、若々しい恋愛、キリスト教徒とユダヤ人の対立、変装と逃亡といったドラマが展開する。韻文の戯曲という文学形式に近づくために、できるだけ音声テープなどを利用したいと考えている。作品への理解を深めるため、シェイクスピアの時代の劇場や作劇の伝統、社会的背景、あるいはシェイクスピアの他の作品についても、必要に応じて説明する。また映画化されたものを通して、現代におけるシェイクスピア劇の受容についても考える。</p>		<p>第1回: シェイクスピアについての概説と授業の進め方の説明</p> <p>第2回から第12回: 丹念にテキストを読み解くことを中心に授業を行う。1回の授業で100行くらいを目安に読み進めていく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大修館シェイクスピア双書 <i>The Merchant of Venice</i>		小テスト、学期末試験、平常点を総合して評価する。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(シェイクスピア) 英語専門講読b(シェイクスピア)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
上に同じ。		春学期の続き。	
テキスト、参考文献		評価方法	
上に同じ。		上に同じ。	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(言語・非言語とコミュニケーション) 英語専門講読a(言語・非言語とコミュニケーション)	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標:「コミュニケーション」の概念を理解し、「コミュニケーション・リテラシー」の理解・応用へと発展させる。</p> <p>講義概要: <基礎>「コミュニケーション・プロセス」における構成要素を理解する。 <専門>言語・非言語とコミュニケーションの関係を理解する。 <応用>上記を理解し、日常生活におけるコミュニケーションに応用する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ① 授業概要 ② Communication as a Human Activity ③ Communication as a Process ④ A Model of Communication ⑤ The Model in Action ⑥ Choices in Communication ⑦ The Perception and Communication ⑧ Intention and Communication ⑨ Structure and Communication ⑩ Thought , Feeling, and Communication ⑪ Language and Communication ⑫ Nonverbal Communication 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Benjamin, James(1986) <i>Communication: Concepts and Contexts</i> , Harper & Row		出席点、個人プレゼンテーション、グループ・プレゼンテーション、グループ・レポート	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(言語・非言語とコミュニケーション) 英語専門講読b(言語・非言語とコミュニケーション)	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標:前期の内容を踏まえて、非言語コミュニケーションについて探求する。</p> <p>講義概要: <専門>非言語とコミュニケーションの関係を理解する。 <応用>上記を理解し、日常生活におけるコミュニケーションに応用する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ① 講義概要 ② Nonverbal Communication-An Introduction ③ Communication and the Human Body ④ Kinesics ⑤ Eye Behavior ⑥ Paralanguage ⑦ Silence ⑧ Tacesics and Stroking ⑨ Proxemics ⑩ Chronemics ⑪ Color ⑫ And the Feat Goes On 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Vargas, Marjorie Fink(1986) <i>Louder Than Words</i> , The Iowa State University Press		出席点、個人プレゼンテーション、グループ・プレゼンテーション、グループ・レポート	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読 I (生成文法の基礎) 英語専門講読 a (生成文法の基礎)	担当者	水口 学
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 生成文法は思考・表現の自由な創出を可能にしている脳内にある言語能力を研究対象とし、言語研究を通して人間の本質に迫ることを試みている言語学の一学問分野である。本講義は生成文法の基本的な考え方を学ぶことを主眼とする。生成文法はこれまでに幾多の理論的変遷を経ているが、本講義では生成文法の基礎概念に関する文献を読むことにより、基本的な知識・理解を深めると同時に、文法や表現に注意しながら読むことで英文読解力を鍛えていくことを目的とする。</p> <p>講義概要: N. チョムスキーの著書に収録されている“Knowledge of Language as a Focus of Inquiry” (pp.1 - 14)という論文を輪読する。生成文法は「言語能力」という独立した体系が脳内に存在し、それにより言語獲得が可能になると仮定しているが、本学ではなぜそのような仮説が妥当であるのかをこの論文を通して検討していく。この論文はチョムスキーの論文の中でも比較的分かり易く書かれたものではあるが、専門的な内容にも触れているので読み応えのあるものである。講義では必要な解説を十分に加え、他の用例と関連する論文を交えながらじっくりと読み進めていくことにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction, Views on language 2. Generative grammar and its focus of inquiry (1) 3. Generative grammar and its focus of inquiry (2) 4. Traditional, structuralist and generative grammar (1) 5. Traditional, structuralist and generative grammar (2) 6. Poverty of stimulus [1] (1) 7. Poverty of stimulus [1] (2) 8. Poverty of stimulus [2] (1) 9. Poverty of stimulus [2] (2) 10. Argument for abstract representation (1) 11. Argument for abstract representation (2) 12. Argument for abstract representation (3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: N. Chomsky (1986) <i>Knowledge of Language</i> (Chapter 1). Praeger: NY. 参考文献: S. ピンカー著 椋田直子訳 (1995)『言語を生み出す本能 上下』NHK 出版</p>		特に平常点(出席・受講姿勢・発表など)を重視し、期末定期試験と総合して最終評価を決定する。単位認定の上で必要な出席回数は授業回数の2/3以上とされている。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読 II (生成文法の基礎) 英語専門講読 b (生成文法の基礎)	担当者	水口 学
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 生成文法は思考・表現の自由な創出を可能にしている脳内にある言語能力を研究対象とし、言語研究を通して人間の本質に迫ることを試みている言語学の一学問分野である。本講義は生成文法の基本的な考え方を学ぶことを主眼とする。生成文法の初期の文法体系を説明した文献を読むことにより、基本的な知識・理解を深めると同時に、文法や表現に注意しながら読むことで英文読解力を鍛えていくことを目的とする。</p> <p>講義概要: N. チョムスキーの著書に収録されている“Facing Plato’s Problem”という論文の最初の部分(pp.51 - 68)を輪読する。生成文法はこれまでに幾多の理論的変遷を経ているが、この講義では「規則体系」としての文法体系を考察する。我々はまず、説明のモデルを概観し、そして言語の文構造がどのようにこの規則体系の中で生み出されていくのかをテキストの用例を使って検討していく。この論文は比較的分かり易く書かれたものではあるが、専門的な内容にも触れているので読み応えのあるものである。講義では必要な解説を十分に加え、他の例文や具体的な分析を通してじっくりと読み進めていくことにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. A model of explanation: overview 2. Descriptive and explanatory adequacy 3. Instantaneous learning and maturation (1) 4. Instantaneous learning and maturation (2) 5. Phrase structure and phrase structure rules (1) 6. Phrase structure and phrase structure rules (2) 7. Evidence for structural asymmetry (1) 8. Evidence for structural asymmetry (2) 9. Extension of phrase structure (rules) 10. Motivating grammatical levels 11. Transformational rules (1) 12. Transformational rules (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: N. Chomsky (1986) <i>Knowledge of Language</i> (Chapter 3). Praeger: NY. 参考文献: S. ピンカー著 椋田直子訳 (1995)『言語を生み出す本能 上下』NHK 出版</p>		特に平常点(出席・受講姿勢・発表など)を重視し、期末定期試験と総合して最終評価を決定する。単位認定の上で必要な出席回数は授業回数の2/3以上とされている。	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(黒人表現文化) 英語専門講読a(黒人表現文化)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカ合州国の黒人(在米のカリブ系含む)作家によるショートストーリー、詩、文化批評を読む。同時進行で、関連する黒人表現文化を鑑賞し、解釈する。</p> <p>奴隷制の時代から現代までの歴史を概観した後で、時代の変遷とともに、どのような黒人表現文化が出現してきたのか理解する。本講義では、映画や音楽、ダンスなどを鑑賞し、社会的歴史的に構築されてきた「黒人らしさ」を表象するとされるリズム感、スタイル、表現方法などを考察する。みて、きいて、感じたことを言語化する練習も行なう。</p> <p>「遠くにあるもの」として、ブラックカルチャーに接してもらいたくはない。地理的には遠い国で起こった(ている)社会・文化現象も、じつはわたしたちの社会と関わっている。黒人をとりまく社会状況からわたしたちが学ぶべきこともたくさんあるはずだ。本講義を通して、積極的に身近なことについても考えてほしい。自分の住む地域社会や趣味について、自分が好きと思っているものごとについて....。そもそもブラックカルチャーは、必ずしも「黒人」が担っているわけではない。あなたもブラックカルチャーの担い手になりうるのだ。</p>		<p>詳細は初回授業時に告知する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 黒人の歴史 ○ 語り、民話、ワークソング ○ ゴスペルとブルース ○ 移動 ○ 身体表現、ダンス ○ ジャズ ○ ソウル、R&B ○ コマーシャリズム <p>* 学校や家で、ビデオや音楽を視聴してきてもらうことがある。</p> <p>* いくつかのグループにわけ、あるテーマについて調べてきてもらい、クラスで発表するというスタイルの授業も数回設ける。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウト		授業中の参加(出席含む)、コメントペーパー、試験	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(黒人表現文化) 英語専門講読b(黒人表現文化)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続き。		<ul style="list-style-type: none"> ○ カリブ系移民 ○ ブラックコミュニティ ○ レゲエ ○ ヒップホップ ○ 黒人女性であること ○ 「アフリカ」へのノスタルジー ○ スポーツ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウト		授業中の参加(出席含む)、コメントペーパー、試験	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語専門講読Ⅰ(告白詩を読む) 英語専門講読a(告白詩を読む)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>辛いことがあったら、あなたは どうしますか？ 恋人、友人や家族、アルコールの助けを借りますか。それとも部屋の真ん中でじっと坐って時間が解決してくれるのを待ちますか。もしかしたら文章や絵に思いを託して気を晴らす人もいるかもしれません。</p> <p>この講義では、「告白詩人」と呼ばれた Theodore Roethke, John Berryman, Robert Lowell, Anne Sexton, Sylvia Plath などの作品を取り上げ、それぞれの作品を通して、違いや共通点などを探っていきます。彼らは自分の辛い経験やネガティブな感情を作品にしました。20世紀半ば、精神疾患、離婚、アルコール中毒等の実人生の暗い面を作品の主題とし、まるで詩を書くことが「告解」のような役目を果たしている、という理由から「告白詩人」と呼ばれるようになった詩人たちです。彼らの作品には各詩人の実人生に即した苦しさや悲しみがたっぷり詰まっていますが、単に辛い悲しいと嘆いているわけではありません。人に読ませる「作品」として成り立っているところ——つまりどのように詩にしたかに注目して味わっていきましょう。</p>		<p>1. インTRODakション 2. 20世紀半ばのアメリカ詩概要① 3. 20世紀半ばのアメリカ詩概要②</p> <p>第4回以降は、少人数のグループに分かれ、各回に詩を1篇選んで発表してもらいます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Geoffrey Moore ed, <i>Penguin Book of American Verse</i> . London: Penguin Books. (Revised Edition を用意してください。参考文献は随時紹介します。		学期末のレポート、授業での参加度(発表など)で評価します。全授業数の3分の1以上欠席すると評価の対象から外れるので、十分注意してください。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語専門講読Ⅱ(告白詩を読む) 英語専門講読b(告白詩を読む)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
引き続き、春学期と同じテーマです。		<p>1. レポート返却、評価等。秋学期のイントロダクション</p> <p>第2回以降は春学期と同様にグループに分かれ、1篇の詩を選び発表していきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Geoffrey Moore ed, <i>Penguin Book of American Verse</i> . London: Penguin Books. (Revised Edition を用意してください。参考文献は随時紹介します。		学期末のレポート、授業での参加度(発表など)で評価します。全授業数の3分の1以上欠席すると評価の対象から外れるので、十分注意してください。	

03～05年度（春）	英作文 a	担当者	金子 節也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語の基礎構造（5文型）をしっかりと理解し、短い日本語をたくさん、スピーディーに英語にしてゆく。 たくさん練習する。つまり、英語を produce することによって、Speaking に近づいてゆく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1, 2文型 2. 第2, 3文型 3. 第3, 4文型 4. 第4, 5文型 5. 1-5 復習 6. 形容詞句（第1-3文型） 7. 副詞句（第1-3文型） 8. 名詞句（第1-3文型） 9. 形容詞句（第1-5文型） 10. 副詞句（第1-5文型） 11. 名詞句(2)（第1-5文型） 12. 6-11 復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Building up English Skills（テキスト）その他多くの配布プリント		テストと出欠を含む平常点。	

03～05年度（秋）	英作文 b	担当者	金子 節也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>口頭英作文の要素を取り入れる。作文をさらにスピードアップ。プリント教材（自作）を併用。時事作文の要素を取り入れて、現実性を増す。五文型重視は春学期と同じ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 等位節 2. 名詞節（1） 3. 副詞節（1） 4. 形容詞節（1） 5. 1-4 復習 6. 形容詞節（2） 7. 名詞節（2） 8. 副詞節（2） 9. 副詞節（3） 10. 副詞節（4） 11. 副詞節（5） 12. 6-12 復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03～05 年度（春）	英作文 a	担当者	中村 粲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義概要> 精選された問題で和文英訳のコツと書き方を教え、実作を通して体得してもらおう。問題は日常一般の話題に止まらず、日本人としての知識教養を培い、対外発信に役立つ実践的で有用なものを選んである。 春学期は基本的文法事項を応用した和文英訳を主に、秋学期は文法応用をはなれた総合的和文英訳を多く取り入れた練習をする。 毎回学生に板書させ、それを添削し、訳例を示す。</p> <p><受講者への要望> 毎回重要かつ独自の解説をするので、遅刻欠席せずに真剣に受講すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ウォームアップ問題 2 基本時制① 3 基本時制② 4 It・There① 5 It・There② 6 完了① 7 完了② 8 否定・不定詞① 9 否定・不定詞② 10 分詞・動名詞① 11 分詞・動名詞② 12 総復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用。		平素の熱意と勤怠及び定期試験の成績を総合的に考慮して評価する。	

03～05 年度（秋）	英作文 b	担当者	中村 粲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義概要> 精選された問題で和文英訳のコツと書き方を教え、実作を通して体得してもらおう。問題は日常一般の話題に止まらず、日本人としての知識教養を培い、対外発信に役立つ実践的で有用なものを選んである。 春学期は基本的文法事項を応用した和文英訳を主に、秋学期は文法応用をはなれた総合的和文英訳を多く取り入れた練習をする。 毎回学生に板書させ、それを添削し、訳例を示す。</p> <p><受講者への要望> 毎回重要かつ独自の解説をするので、遅刻欠席せずに真剣に受講すること。</p> <p>◎英作文 a を履修していることが望ましい（受講要件ではない）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ウォームアップ問題 2 比較① 3 比較② 4 仮定(叙想)法① 5 仮定(叙想)法② 6 物主構文① 7 物主構文② 8 総合問題① 9 総合問題② 10 総合問題③ 11 総合問題④ 12 総合問題⑤ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用。		平素の熱意と勤怠及び定期試験の成績を総合的に考慮して評価する。	

03～05年度（春）	英作文 a	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>どちらかと言えば、英作文の苦手な諸君を相手とした授業を行ないたい。</p> <p>テキストは、授業開始時には発表できるようにしている。</p>		<p>テキストにもよるが、各章ごとのテキスト使用の場合、各時間、その一章を仕上げるようにする。</p> <p>受講者は、名簿に従って席についていただく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定（授業開始時には発表する）		日常の授業への出席と、授業時での発表、および期末テストの結果で評価する。	

03～05年度（秋）	英作文 b	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に準じる。春学期での残り部分のテキストに従って授業を行なう。</p>		<p>春学期に準じる</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に準じる		春学期に準じる	

06年度(春) 03~05年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	D.L.Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course students will practice writing short academic essays : we will begin with a simple book review, progress through persuasive/analytical essays and end with a longer essay that cites sources and contains a bibliography.</p> <p>Academic writing consists of refining first and later drafts of consecutive and coherent ideas. There will be writing and revising of paragraphs both in and out of class, prior to the typing of final drafts using word processing software.</p> <p>Essays will be prepared in four-week blocs, starting with a short book report, continuing with a longer informative essay, and finishing with a more extensive "term paper" that has notes and sources.</p> <p>You need to be interested in written English, be methodical in your own writing, very punctual in your attendance and capable of meticulous adhering to rules and examples.</p>		<p>Week 1: Overview; sample book report handouts Week 2: Choice of book for review; draft writing I Week 3: Finish and submission of draft I Week 4: Comments and criticism; revision Week 5: Overview; sample essay handouts Week 6: Draft writing II Week 7: Critique and revision of drafts Week 8: Typed draft II submission; commentary Week 9: Overview; samples of longer essays Week 10: Draft writing III Week 11: Typed draft III submission after revision Week 12: Final comments and opinions</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook, but the instructor will provide handouts with samples of academic writing formats. Certain prints will concern methods and procedure.		Grades will be compiled from pupils' (1) weekly writing (drafts, 25%); (2) three essays (typed, 50%); and classroom performance (25%).	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

06 年度 (春) 03～05 年度 (春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This program is aimed primarily at having the students produce good, clear, communicative English. Also, we are looking for ways to organize and express at an academic level. Coherence and balance are target items in all writing work.</p> <p>Classes will give time for the appreciation of the subject material and this will include some discussion. Advice will be given on simple construction and the importance of clarity in communicating ideas.</p> <p>Some set pieces will be used as sample work and students will be requested to match their own ideas with these and express themselves accordingly. Received meaning versus intended meaning will be examined in all writing.</p> <p>We will aim for at least one writing task per week to give students the opportunity to show that they have grasped the explanations in class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and methods 2. Errors in construction 3. The power of the comma 4. Ambiguity pitfalls 5. Transcription 6. Descriptive skills 7. Seeing and writing 8. Balance and judgment 9. Documentary style 10. Some extra difficulties in article use 11. Time sequence for the reader and the writer 12. Revision, checks, recriminations 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Various materials for this level of study		Graded weekly assignments	

06 年度 (秋) 03～05 年度 (秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
As above		<ol style="list-style-type: none"> 1. Comparing some standard writings 2. The power of the anecdote 3. Concise writing 4. Criticism 5. Nuance 6. Writing for the reader 7. The power of humor 8. Creative expression 9. Can they see it as I see it? 10. Thesis style 11. Plagiarism 12. Revisions and endings 	
テキスト、参考文献		評価方法	
As above		As above	

06年度(春) 03~05年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	J.Gray
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one semester long semi-elective course for 2nd year students and above who have successfully completed Basic Paragraph/Essay writing as a pre-requisite.</p> <p>Objectives: The goal of the Academic Writing course is to refine students' ability to write academic essays, as well as, book reports, and to synthesize information from multiple sources to produce clear and coherent discourse. Students will also learn how to collect and organize information, synthesize this, and quote from sources. Students will have ample chances to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes. Students will write at least one 1000 or more-word-long essay with at least two revisions.</p>		<p>Course Schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course Intro. Review of Basic Essay Writing 2. Brainstorming & Topic Selection/ Narrowing 3. Library/Internet Research Skills/Plagiarism 4. Collecting and synthesizing information 5. Writing the first draft 6. Peer Evaluation 7. Writing the second draft 8. Peer Evaluation 9. Writing the Final Draft 10. Writing a summary of the final essay 11. Sharing their final essay 12. Conclusion 	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced. Power Point, handouts, and other materials will be used throughout the semester.		Students will be assessed according to their attendance, attitude, participation, homework, presentation, drafts, outlines, and final product. Subject to change.	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	J.Gray
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one semester long semi-elective course for 2nd year students and above who have successfully completed Basic Paragraph/Essay writing as a pre-requisite.</p> <p>Objectives: The goal of the Academic Writing course is to refine students' ability to write academic essays, as well as, book reports, and to synthesize information from multiple sources to produce clear and coherent discourse. Students will also learn how to collect and organize information, synthesize this, and quote from sources. Students will have ample chances to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes. Students will write at least one 1000 or more-word-long essay with at least two revisions.</p>		<p>Course Schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course Intro. Review of Basic Essay Writing 2. Brainstorming & Topic Selection/ Narrowing 3. Library/Internet Research Skills/Plagiarism 4. Collecting and synthesizing information 5. Writing the first draft 6. Peer Evaluation 7. Writing the second draft 8. Peer Evaluation 9. Writing the Final Draft 10. Writing a summary of the final essay 11. Sharing their final essay 12. Conclusion 	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced. Power Point, handouts, and other materials will be used throughout the semester.		Students will be assessed according to their attendance, attitude, participation, homework, presentation, drafts, outlines, and final product. Subject to change.	

06年度(春) 03~05年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	J.J. Duggan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Academic writing, as the name implies, is the kind of writing that you are required to do in college or university. Academic writing is a process of creating, organizing, writing, and polishing. In the first step of the process, you create ideas. In the second step, you organize the ideas. In the third step, you write a rough draft. In the final step, you polish your rough draft by editing it and making revisions.</p> <p>In this course we will be following these steps to help students refine their ability in writing academic essays. Class time will be spent in understanding these steps, as well as in carrying them out. As such, students can expect to practice writing both in and out of class. All student work will be kept in a folio which will be turned in at the end of the term.</p> <p>As the prerequisite for this course is the successful completion of the Basic Essay Writing course or equivalent, students are naturally expected to already be in possession of the writing skills necessary to pursue academic writing.</p> <p>As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Course description & introduction. Week 2: The Writing Process, Step 1: Creating (Prewriting). Week 3: The Writing Process, Step 2: Planning (Outlining). Week 4: The Writing Process, Step 3: Writing. Week 5: The Writing Process, Step 4: Polishing. Week 6: Process Essays, part I. Week 7: Process Essays, part II. Week 8: Cause/Effect Essays, part I. Week 9: Cause/Effect Essays, part II. Week 10: Comparison/Contrast Essays, part I. Week 11: Comparison/Contrast Essays, part II. Week 12: Summary and review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Oshima, A & A. Hogue. <i>Writing Academic English</i> . (Pearson Education).		Grades are based on in-class participation & assignments, and a final assessment/paper.	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

06年度(春) 03~05年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	J. Waldman
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation with explanation of grading system and student requirements. 2. Diagnostic writing and Chapter 1 3. Writing as a process: introduce free writing, journals, drafts and editing. 4. Review paragraph basics and topic sentences. 5. Organizing sentences and using transitions. 6. Vocabulary quiz, Chapter 3 7. Review subject verb agreement, plural nouns. 8. Review punctuation and capitalization. 9. Writing a five-paragraph essay, Chapter 4 10. Continue with essay writing, Chapter 4 11. Revising checklist for essays. In-class essay. 12. Return essays and go over strong and weak points. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Ready To Write More- Second Edition</i> Karen Blanchard Christine Root Publisher: Longman		Students will be graded on attendance, in-class essays, homework and tests.	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	J. Waldman
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation with explanation of grading system and student requirements. 2. Review spring term lessons and Chapter 5 3. Writing a process essay. 4. Vocabulary quiz and Chapter 6 5. Classifying and dividing the topic of essays. 6. The language of causes and effects. 7. Continue working on Chapter 7. 8. The comparison/contrast essay, Chapter 8. 9. Continue comparison/contrast 10. The problem/solution essay, Chapter 9 11. In-class essay. 12. Return essays. Writing summaries. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Ready To Write More- Second Edition</i> Karen Blanchard Christine Root Publisher: Longman		Students will be graded on attendance, in-class essays, homework and tests.	

06年度(春) 03~05年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	K.Meehan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to refine students' ability to write academic essays(e.g. persuasive,informative or analytical) and to synthesize information from multiple sources to produce clear and coherent discourse. Students will also learn how to collect and organize information,synthesize this,and quote from sources. Students will have ample chances to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Brainstorming and topic selection 3. Organization 4. Collecting and synthesizing information 5. Paragraph to short essay 6. Descriptive essay 7. Narrative essay 8. Opinion essay 9. Peer evaluation 10. Writing final draft 11. Comparison and contrast essay 12. Test 	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook is required, students will be provided with all necessary prints.		Grades will be based on attendance(70%),homework(15%),and test (15%)	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	L.K.Hawkins
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Goal and Course Description: This course will focus the the proper structure for an essay. The students will study the following components of essay writing: An attention grabbing introduction, The topic sentence, body paragraphs and The conclusion. Proper structure will be emphasized. Once the students have a firm grasp of the basics, they will write two essays of approximately 3 typed pages each during the semester. The first essay will be of a personal topic that they choose and the second shall be a persuasive essay about a topic they feel strongly about. After completing this course, the students should be able to write a persuasive, well structured and easily understood essay in English.</p>		<p>Week 1: Orientation - Self Introduction - Level Check Week 2: Basic Essay Writing, Fundamentals Week 3: Basic Essay Writing, Fundamentals Week 4 - 7: First Essay, Writing, Rewriting, Presentation Week 8-11: Second Essay, Writing, Rewriting, Presentation Week 12: Consultation, Instructor Comment</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
All materials will be provided by the instructor.		Students will be evaluated on attendance, participation and the quality of the two required essays.	

06年度(春) 03~05年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	M. Darling
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this class is to help students develop the skill of academic writing by learning how to construct an essay. The focus will be on the organization and presentation of ideas, and the clarity and intelligibility of the English itself.</p> <p>The typical class will usually consist of a writing warm up, using the textbook and the presentation of a model writing.</p> <p>The class will be taught entirely in English. Students will be expected to use English to discuss their own writing and model essays which will be analyzed in the class. Ample opportunities will be provided for students to revise their writings and for sharing them in class with their peers.</p> <p>By the end of this course, students will be more competent writers and better understand the process of writing academic essays.</p>		<p>Week1: Introduction to Academic Writing</p> <p>Week 2: Brainstorming topics</p> <p>Week 3: Model paragraph format</p> <p>Week 4: Task: write a paragraph</p> <p>Week 5: Organizing ideas</p> <p>Week 6: Model: essay outline</p> <p>Week 7: Writing an essay outline</p> <p>Week 8: Writing an introduction</p> <p>Week 9: Writing a conclusion</p> <p>Week 10: Writing the draft</p> <p>Week 11: Revising and Editing</p> <p>Week 12: Final draft due and presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be announced at a later date. Photocopies will be provided by the instructor.		Students will be evaluated on attendance, active participation, writing assignments and their progress in writing.	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	M. Darling
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Points for further consideration:</p> <ul style="list-style-type: none"> Students will need an English-English dictionary Students will be required to have a notebook and a writing journal 		<p>Week 1: Prewriting activities and Brainstorming</p> <p>Week 2: Brainstorming topics continued</p> <p>Week 3: Grouping ideas logically; writing task</p> <p>Week 4: Developing supporting details</p> <p>Week 5: Quoting other sources; writing task</p> <p>Week 6: Lecture on plagiarism</p> <p>Week 7: Using statistics; writing task</p> <p>Week 8: Library research</p> <p>Week 9: Writing the first draft</p> <p>Week 10: Writing the second draft</p> <p>Week 11: Polishing: Revising and Editing</p> <p>Week 12: Final draft due and presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be announced at a later date. Photocopies will be provided by the instructor.		Students will be evaluated on attendance, active participation, writing assignments and their progress in writing.	

06年度(春) 03~05年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	M.Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the end of this term, students will be able to:</p> <p>Read complex essays and write SUMMARIES of them; RESPOND to the writings of others using PERSONAL EXPERIENCE and TEXTUAL ANALYSIS; ANALYZE and RESPOND in essay form to the ideas of others; EXPLAIN similarities and differences.</p> <p>The course is designed to provide students with the tools required to become INDEPENDENT writers. Students will be able to:</p> <p>Develop their own ideas; Keep their ideas unified in writing; Maintain coherence in their essays; Follow basic principles of style.</p> <p>To succeed in this course, there is a great deal of work to be done IN CLASS. ATTENDANCE IS MANDATORY.</p>		<p>April: SUMMARIES</p> <p>May/June: RESPONSES</p> <p>June/July: COMPARISON/CONTRAST</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no textbooks for this class. Materials will be available at mikehoodenglish.com		<p>Essay Grades: 60%</p> <p>Participation: 40%</p>	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	M.Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the end of this term, students will be able to:</p> <p>Read complex essays and write SUMMARIES of them; RESPOND to the writings of others using PERSONAL EXPERIENCE and TEXTUAL ANALYSIS; ANALYZE and RESPOND in essay form to the ideas of others; EXPLAIN similarities and differences.</p> <p>The course is designed to provide students with the tools required to become INDEPENDENT writers. Students will be able to:</p> <p>Develop their own ideas; Keep their ideas unified in writing; Maintain coherence in their essays; Follow basic principles of style.</p> <p>To succeed in this course, there is a great deal of work to be done IN CLASS. ATTENDANCE IS MANDATORY.</p> <p>Note: The skills are the same as those learned in the spring term. Students who took the course in the spring may choose to take the course in the fall to deepen knowledge and refine their skills. The topics will be different in the fall term.</p>		<p>September/October: SUMMARIES</p> <p>November: RESPONSES</p> <p>December: COMPARISON/CONTRAST</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no textbooks for this class. Materials will be available at mikehoodenglish.com		<p>Essay grades: 60%</p> <p>Participation: 40%</p>	

06年度(春) 03~05年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	T. Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of this English course is to offer students an organized chance to become better writers. One learns by doing and that means lots of practice. Essentially, the more one writes, the better one's writing will be. Mistakes will be made. After being corrected, students should not make the same mistakes.</p> <p>There is a basic requirement that anyone who writes has patterns, models, examples, or images in her or his brain about what good writing is. In other words, a person ought to have a pretty good idea of what is to be written by having lots of pictures of writing already in one's basic knowledge. That means reading a lot.</p> <p>So, although this is a composition or writing course, there is also the need for students to read about plenty of different topics. Some will have that deep learning already, others won't and will have to work that much harder to acquire the ability to write well. Students will be graded based upon their individual efforts to improve from whatever level they are at now.</p>		<p>Week 1 Introductory lesson and level test of students' writing ability.</p> <p>“ 2 Self-introduction essays.</p> <p>Weeks 3-10 Lessons will be determined by the contents of the textbook to be selected.</p> <p>Week 11 Final essays due and review.</p> <p>“ 12 Final essays returned and last advice given.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be decided after the first class meeting.		Doing one's best to improve one's writing skills will be the key ingredient in deciding each student's grade. Obviously, doing all the required class work is only a starting point—one should aim high!	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	T. Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
Please refer to the comments about the spring semester.		<p>Week 1 Introductory lesson and level test of students' writing ability.</p> <p>Weeks 2-10 Course dependent upon textbook to be used.</p> <p>Week 11 Final essays are to be turned in and a review of key points that have been covered will be done.</p> <p>“ 12 Last class meeting of the semester with the final corrected essay being returned to the students.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook to be decided later.		Please refer to the spring semester's grading comments.	

06年度(春) 03~05年度(春)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. To develop students' ability to write academic essays (e.g. persuasive, informative or analytical).</p> <p>2. To learn how to synthesize information from multiple sources to produce clear and coherent discourse</p> <p>3. To learn how to collect and organize information and quote from sources</p> <p>4. To learn and practice editing skills, drafting and re-drafting</p>		<p>1. Course introduction</p> <p>2. Selection of possible topics</p> <p>3. Essay 1: Gathering and collating information in groups</p> <p>4. Writing first draft</p> <p>5. Editing skills: reviewing first draft</p> <p>6. Writing second draft</p> <p>7. Essay 2 (long essay): Gathering and collating information in groups</p> <p>8. Writing first draft</p> <p>9. Editing skills: reviewing first draft</p> <p>10. Writing second draft</p> <p>11. Sharing the final product</p> <p>12. Review of term's work</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material provided by teacher		Grades will be decided on the basis of one long essay as well as attendance and participation in class activities	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. To develop students' ability to write academic essays (e.g. persuasive, informative or analytical).</p> <p>2. To learn how to synthesize information from multiple sources to produce clear and coherent discourse</p> <p>3. To learn how to collect and organize information and quote from sources</p> <p>4. To learn and practice editing skills, drafting and re-drafting</p>		<p>1. Course introduction</p> <p>2. Selection of possible topics</p> <p>3. Essay 1: Gathering and collating information in groups</p> <p>4. Writing first draft</p> <p>5. Editing skills: reviewing first draft</p> <p>6. Writing second draft</p> <p>7. Essay 2 (long essay): Gathering and collating information in groups</p> <p>8. Writing first draft</p> <p>9. Editing skills: reviewing first draft</p> <p>10. Writing second draft</p> <p>11. Sharing the final product</p> <p>12. Review of term's work</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material provided by teacher		Grades will be decided on the basis of one long essay as well as attendance and participation in class activities	

06年度(春) 03~05年度(春)	翻訳 翻訳 a	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>20世紀の英語詩において多大な影響を及ぼした、Ezra Pound の編集した、Ernest Fenollosa の詩論を読み、それを日本語に直す (Fenollosa を知らない学生は、なぜボストン美術館に、国宝指定間違いのない日本美術が所蔵されているか、Wikipedia でも調べてみるべし。Pound を知らない学生は、なぜ俳句が“haiku”として、英語圏で認知されるようになったか、調べること)。</p> <p>本論は、詩のみに限定された書き物ではなく、漢字についての特異な認識に裏打ちされた、難解で晦渋な東アジア表象文化論でもある。</p> <p>この授業は「翻訳」というタイトルだが、「翻訳」とは、ある文化を別な文化に移植することだ。普段、何気なく使っている漢字が、英語圏から見るとどのように見えるのか、それをまずは理解し、それから日本語に再移植する、これがこの授業で行おうとしていることである。</p> <p>この世に自分しかいないなら、自分の特殊性など考える必要もない。他者の目があって初めて自分の特殊性がわかる。西洋の目から見た漢字文化のエッセイによって、自分が浸かっている漢字文化の特殊性がわかるだろう。</p> <p>受講生にとっても、担当者にとっても、非常に challenging な授業である。</p>		<p>すべてで45ページたらずのパンフレットであり、章立てもない。だから、進行状況を決めることはできないが、少なくとも1コマで2ページ程度は進みたい。</p> <p>初回、2回目の授業は、こちらで、本書の大まかな説明をする。それ以降は、ひたすら翻訳するのみ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
アーネスト・フェノロサ著『詩の媒体としての漢字考』(東京美術) 高田美一訳		2人の学生が同じ部分(2段落程度)を訳し、それを他の受講生がその訳に点数をつける。さらに、授業への出席、 participation も評価に反映させる。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	翻訳 翻訳 b	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>引き続き、フェノロサのエッセイを訳す。授業は厳しい。エッセイの内容は理解しにくい。翻訳は難しい。日本語訳はあるが、「惨敗」と言ってもいいようなものだ。しかし、「この単位、いいや…」と言うよりも、もっと厳しい状況に置かれていたのが、フェノロサであり、パウンドだ。2つの文化を身体化するのだから、その引き裂かれ方は尋常ではない。単位をあきらめるか、あきらめないか、などという甘ちゃんなレベルではない。本当に2つの文化に1つの身体をおいてみたい、そして、架け橋になってみたいという学生に受講してもらいたい。</p>		<p>前期に訳了したところから始める。とにかく、ひたすら訳す。それが、上手な翻訳家になるための最短距離だ、と思ってもらいたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記。		上記。	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	翻訳 翻訳 b	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 ある英語圏の現代作家による短編小説を日本語に翻訳していく作業をとおして、翻訳の基礎を身につけます。具体的には、これまで勉強してきた文法の知識を使いつつ、英和辞典や英英辞典などを参照しながら、原文のニュアンスにできるだけ近い日本語表現を模索していくトレーニングを積みます。</p> <p>講義概要 ほぼ毎回、受講者全員に1~2ページ程度の課題範囲を前もって全訳して提出してもらいます。授業ではあらかじめ提出してもらった訳文をチェックして各受講者に返却するとともに、いくつか訳例をつきあわせたプリントを配ります。自分の訳文を片手に、プリントの訳例をみんなで比較検討しながら、より原文を生かした訳文を作るにはどうしたらいいかをディスカッションしていくことが、授業中のおもな作業です。</p>		<p>1. イントロダクション 2~12. 翻訳演習</p> <p>以下は取り上げる短編小説の冒頭です。難易度はどうか、興味が持てそうか等、参考にしてください。</p> <p>“When Bernadette Lynch woke up in the morning, an enormous potato the size of a small man lay next to her wearing her husband’s pyjamas. It was the first thing she saw. She rubbed her eyes furiously. She did not want any lingering nightmares, she had no time for them; it was wash-day and she had to do the sheets.” -- Moy McCrory, “Transubstantiation”</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布		毎回の提出物、学期末レポートの総合評価。ただし欠席が4回を越える場合は評価の対象としない。	

06年度(春) 03～05年度(春)	翻訳 翻訳 a	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。</p> <p>(1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」(4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削例、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。</p> <p>この講座を終了した受講生は自信をもって、英語の次の段階へと進めるはずです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、英語の規則Ⅰ「アンドとカンマ」 2、英語の規則Ⅱ「記号と掛かり方」 3、やさしい翻訳Ⅰ「ふくろうの目」「マルコーニの実験」 4、やさしい翻訳Ⅱ「恐竜」「貴婦人と一角獣」 5、やさしい翻訳Ⅲ「宇宙」「少年少女小説」 6、やさしい翻訳Ⅳ「トロイ戦争」「ミュケーネ文明」 7、やさしい翻訳Ⅴ「針葉樹林」「書記官鳥」 8、エッセイⅠ「不思議の国のアリス①」「不思議の国のアリス②」 9、エッセイⅡ「不思議の国のアリス③」「人間と環境」 10、エッセイⅢ「自分を客観的に見る」「他人を判断する基準」 11、エッセイⅣ「人を許すということ」「人生の取り返しのつかなさ」 12、エッセイⅤ「悪人の善と善人の悪」「ある偽善家」 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは講師の手作り。初回時に渡します。</p> <p>参考文献はありません。</p>		<p>授業に出るのも、課題を提出するのも、皆さん自身のためです。出席点も課題提出点もありません。学年末に一度、翻訳の試験をします。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤全体として読みやすい日本語になっているか、を見ます。</p>	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	翻訳 翻訳 b	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。</p> <p>(1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」(4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削例、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。</p> <p>この講座を終了した受講生は自信をもって、英語の次の段階へと進めるはずです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、短編小説Ⅰ「アンブレラマン①」 2、短編小説Ⅱ「アンブレラマン②」 3、短編小説Ⅲ「アンブレラマン③」 4、短編小説Ⅳ「善女のパン①」 5、短編小説Ⅴ「善女のパン②」 6、短編小説Ⅵ「善女のパン③」 7、詩「ラッパズイセン」 8、戯曲「レベッカ」 9、映像「ロミオとジュリエット」 10、産業「タイの交通事情」 11、難文「衣装哲学」 12、翻訳の実務 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは講師の手作り。初回時に渡します。</p> <p>参考文献はありません。</p>		<p>授業に出るのも、課題を提出するのも、皆さん自身のためです。出席点も課題提出点もありません。学年末に一度、翻訳の試験をします。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤全体として読みやすい日本語になっているか、を見ます。</p>	

06年度(春) 03～05年度(春)	翻訳 翻訳 a	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を明らかにし、翻訳の限界と可能性について実践的に探ります。</p> <p>翻訳では、原文を的確な英語あるいは日本語に置き換える際に、目的や状況などを考慮する必要があります。また、翻訳語の字数やリズムについても工夫が求められる場合もあります。</p> <p>授業では、主として文系英文および和文（新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品）などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。また、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。</p> <p>コトバの意味と音に関心のある学生を求めます。</p>		<p>第1回 ガイダンス 辞書について</p> <p>第2回 翻訳の難しさと面白さについて</p> <p>第3回 機械翻訳の可能性について</p> <p>第4回 翻訳の実例比較検討</p> <p>第5回 復習テスト</p> <p>第6～12回 翻訳プレゼンテーションとコメント交換</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		コメント、プレゼンテーション、復習テストなど	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	翻訳 翻訳 b	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。</p> <p>授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。</p> <p>なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。</p> <p>また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。</p>		<p>第1回 前期テストの講評および後期授業のガイダンス</p> <p>第2回 日英および英日翻訳の実例検討 その1</p> <p>第3回 日英および英日翻訳の実例検討 その2</p> <p>第4～6回 プレゼンテーションおよびディスカッション</p> <p>第7回 復習テスト</p> <p>第8～11回 プレゼンテーションおよびディスカッション</p> <p>第12回 復習テスト</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		コメント、プレゼンテーション、復習テストなど	

06年度(春) 03～05年度(春)	翻訳 翻訳 a	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文学作品や各種のエッセイや時事英語などを英文から日本文に翻訳します。日本語の特徴をよく生かした自然な日本文にする訓練、研究をします。授業は個人作業とグループ作業の組み合わせで行います。グループで行うときは、お互いの能力を磨き、伸ばしあうことにポイントがありますから、下準備を面倒がらずに必ずしておくことが不可欠です。</p> <p>学年の上下とか面子にとらわれずに各自が意見・解釈を率直・自由にとり交わすことができないと授業が生きてきません。各グループが作成したものを比較検討しますが、その場合、各自がグループ作業の段階で積極的に参加していないと、比較検討することから大いに刺激を受け、多くを吸収するという風にはいきません。</p> <p>平常点を重視しますから、一限目の授業でも遅刻が多いようでは熱意のほどが疑われます。</p>		<p>最初の授業時に翻訳の心構え、辞書の使い方、授業の進め方などについて話します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。参考文献は適宜指示する。		平常点、提出物、出席を総合評価する。	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	翻訳 翻訳 b	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文学作品や各種のエッセイや時事英語などを英文から日本文に翻訳します。日本語の特徴をよく生かした自然な日本文にする訓練、研究をします。授業は個人作業とグループ作業の組み合わせで行います。グループで行うときは、お互いの能力を磨き、伸ばしあうことにポイントがありますから、下準備を面倒がらずに必ずしておくことが不可欠です。</p> <p>学年の上下とか面子にとらわれずに各自が意見・解釈を率直・自由にとり交わすことができないと授業が生きてきません。各グループが作成したものを比較検討しますが、その場合、各自がグループ作業の段階で積極的に参加していないと、比較検討することから大いに刺激を受け、多くを吸収するという風にはいきません。</p> <p>平常点を重視しますから、一限目の授業でも遅刻が多いようでは熱意のほどが疑われます。</p>		<p>最初の授業時に翻訳の心構え、辞書の使い方、授業の進め方などについて話します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。参考文献は適宜指示する。		平常点、提出物、出席を総合評価する。	

06年度(春) 03～05年度(春)	翻訳 翻訳 a	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>新聞や放送局のウェブサイトなどから選んだ英文記事を日本語に訳していきます。社会、政治、文化などできるだけ広範囲の話題から、世界で今起きている出来事についての記事を毎回、日本語に訳してもらいます。</p> <p>ごちない「英文和訳」ではなく、英文を正確に解釈した上で、日本語でその意味を再構築する「翻訳」の力を伸ばすことを目指します。時事的な話題に関する英語と日本語それぞれの語彙を身につけ、その意味を正しく理解することや、英語と日本語の双方の言葉について、感覚を鋭敏にすることも、この授業の目標です。</p>		<p>毎回、課題を出します。指定された期日までに提出してもらい、添削します。授業中には、提出された翻訳の中から例を挙げて、より適切な翻訳を探るという作業を行います。</p> <p>また翻訳についての参考文献をいくつか指示しますので、その内容についてのレポートも授業中にしてもらいます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で指示する。		毎回の課題を評価して、その総合点で最終成績を出す。	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

06年度(春) 03～05年度(春)	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語の文法に関する理解を深めることを目的とする。より具体的には、暗記の対象としてではなく、発見の対象・理解の対象としての文法という見方を身につけることを目的とする。あわせて、英語と日本語の比較を通じて、日本語そのものに対する理解も深めたい。</p> <p>講義では、下記のテキストの第1章から第5章の内容を扱う予定である。</p> <p>第1章 英文法は便利な道具</p> <p>第2章 数えられる名詞と数えられない名詞</p> <p>第3章 the のさまざまな用法</p> <p>第4章 名詞と修飾表現</p> <p>第5章 状態動詞と非状態動詞(前半)</p>		<p>1回目の授業では、発見の対象・理解の対象としての文法という見方を担当者の用意した資料にもとづいて説明する。2回目以降は、テキストの内容を適宜補足しながら、1章あたり2回ないし3回の授業をあてて進めてゆく。受講生の数が少ない場合には、演習形式で進めたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
武田修一・小原純子(2001)『英文法のからくり—英語表現の意味を推理する—』(丸善ライブラリー)		出席状況、授業態度、試験、レポート課題などにより総合的に評価する。なお、単位認定にあたっては、授業回数 $\frac{3}{2}$ 以上の出席が求められる。	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語の文法に関する理解を深めることを目的とする。より具体的には、暗記の対象としてではなく、発見の対象・理解の対象としての文法という見方を身につけることを目的とする。あわせて、英語と日本語の比較を通じて、日本語そのものに対する理解も深めたい。</p> <p>講義では、下記のテキストの第5章から第9章の内容を扱う予定である。</p> <p>第5章 状態動詞と非状態動詞(後半)</p> <p>第6章 受動文の意味と用法</p> <p>第7章 副詞の位置が伝える意味</p> <p>第8章 挿入表現の多彩な機能</p> <p>第9章 強調と倒置</p>		<p>1回目の授業では、春学期の復習を行なう。2回目以降は、テキストの内容を適宜補足しながら、1章あたり2回ないし3回の授業をあてて進めてゆく。受講生の数が少ない場合には、演習形式で進めたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
武田修一・小原純子(2001)『英文法のからくり—英語表現の意味を推理する—』(丸善ライブラリー)		出席状況、授業態度、試験、レポート課題などにより総合的に評価する。なお、単位認定にあたっては、授業回数 $\frac{3}{2}$ 以上の出席が求められる。	

06年度(春) 03～05年度(春)	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 英文法は、英語の文の構成・内容を明らかにする仕組みである。文は語から構成され、複数の語が句を構成し、句が結合されて文となる。英文法は英語のすべての言語活動の基礎となっている。英語ができるようになるために、この授業では英文法を身に付けることを目的とする。さらに、英文法の実践的応用としてTOEICの文法問題を練習し、その解説を行う。</p> <p>講義概要: 英文法を学習する際に、トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である。文全体から句、句から語というような方式をとりながら、春学期ではまず、英文法の基本的な事項のうち、文というもののはどのようなものがあるかを考える。文は基本的な文、拡張的な文、派生的な文の三種類に分けられ、基本的な文は5文型によって説明し、拡張的な文は一つの文に二つ以上の節(主語+述語)を含む文であり、重文や複文として学習する。さらに、文の種類として、疑問文、感嘆文、命令文、受動文などを学習する。それを踏まえて、呼応や時制の一致、話法、強調構文などを扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 文:主部を欠く文,「主部 + 述部」,節・句・語 2. 主部:主部の要素と述部の要素 3. 文型:5文型,5文型の拡張,7文型 4. 述語動詞Ⅰ:述部,述語動詞の種類,等位叙述型,補語 5. 述語動詞Ⅱ(1):自動詞型,自動詞・他動詞両用の動詞 6. 述語動詞Ⅱ(2):他動詞型,他動詞型の述部 7. 文の種類(1):文の種類,重文と複文 8. 文の種類(2):疑問文,感嘆文,命令文,否定文 9. 態:能動態と受動態,受動態の用法 10. 呼応と時制の一致:主語と動詞の一致,代名詞と先行詞の呼応,時制の一致,時制の一致の例外 11. 話法:直接話法と間接話法,疑問文の間接話法,命令文の間接話法 12. 文の主語と情報構造,強調,省略・挿入 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書: 安井稔(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)</p>		出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的:(春学期と同じ) 英文法は、英語の文の構成・内容を明らかにする仕組みである。文は語から構成され、複数の語が句を構成し、句が結合されて文となる。英文法は英語のすべての言語活動の基礎となっている。英語ができるようになるために、この授業では英文法を身に付けることを目的とする。さらに、英文法の実践的応用としてTOEICの文法問題を練習し、その解説を行う。</p> <p>講義概要: 秋学期では、文を構成する要素を中心に扱うこととし、まず、名詞、代名詞、形容詞、冠詞、副詞、助動詞を学習する。形容詞と副詞に関しては比較級の用法も学習する。次に、時制を含まない節として、不定詞・分詞・動名詞を学習する。不定詞と動詞のing形には名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があるとことを学習する。さらに、埋め込み文の一つとして関係詞節を学習する。また、英語の文の構成に重要な、時制、比較表現、否定表現、仮定法の用法を学習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 名詞:名詞の種類,可算名詞の単数・複数形,不可算名詞,集合名詞,名詞の複数形,名詞の所有格 2. 代名詞:代名詞の種類,人称代名詞,再帰代名詞,指示代名詞,疑問代名詞,不定代名詞 3. 形容詞,形容詞の用法,形容詞の語順,数詞 4. 冠詞:不定冠詞,定冠詞,無冠詞の用法 5. 副詞,副詞の種類,副詞の用法,副詞の位置,比較の用法 6. 助動詞:助動詞として用いられる語 7. 非定形節:不定詞,分詞,動名詞 8. 関係詞節:関係代名詞節,関係副詞節 9. 時制:現在時制の用法,過去時制の用法 10. 相:現在・過去・未来完了形の用法,進行形の用法 11. 仮定法,直説法と仮定法,さまざまな仮定表現 12. 否定,部分否定と全体否定,否定語の位置,二重の否定 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書: 安井稔(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)</p>		出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

06年度(春) 03~05年度(春)	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>TOEICテストの過去の出題を調べてみると、問われる文法項目は限られていて、高校英語Ⅱまでに習っている項目が大部分です。この授業では、英文法にたいする考え方を身に付ける実践編として、毎回45分位の時間を割いて、TOEICやTOEFLに見られるような英語語法・文法と語彙の練習問題の答え合わせと解説を行います。</p> <p>そして残りの45分くらいは、大学で英語を学ぶ学生にとって恥ずかしくない英文法の知識をきっちり身につけてもらうためのテキストを読み、問題の解説を行います。グラマーの勉強には、「なぜこう言えて、ああ言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切です。たとえば、a. John shot the elephant dead.(撃ち殺した)と言えるのに、動詞の直後に前置詞を入れて*John shot at the elephant dead.とすると、どうして言えなくなるのでしょうか。このような素朴な疑問を抱く、まじめで努力型の学生の受講を期待しています。</p>		<p>毎回の模擬問題の答え合わせに加えて、テキストでは次のトピックを扱い、練習問題も解説します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語語法・文法研究の対象と問題 2. 文の基本構造：5文型 3. 5文型(続き) 4. 文の構成要素 5. 呼応 6. 中間テスト 7. 動詞句の構造：動詞句の形式(1) 8. 現在・過去・未来 9. 進行形 10. 完了形 11. 受身 12. 受身(続き) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・高橋作太郎『文法』大修館書店 ¥1900 ・プリント(随時配布) 		2回の試験とふだんの努力によります。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業を受講すると、次のようなことが何故そうなのかわかるようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「通りに立っている」とき I'm standing on the street.とも I'm standing in the street. とも言える。 (2) 同じ「寝る」なのに This bed was slept in by Napoleon. とは言えても、This bed was slept in by John. とはなぜか言えない。 (3) 楽器には the が付くと習ったのに、Portrait of a Hippy Playing a Guitar のように a が付く場合がある。 (4) I ate an apple. と言えるのに I used to eat apples と言わなくてはならない。 (5) He swam in the river. と He swam the river とでは意味が違う。 (6) 未来の出来事を表すのに進行形が使えると習ったのに、The Red Sox are winning tomorrow. とは言えず、will を使わねばならない。 		<p>毎回の模擬問題の答え合わせに加えて、テキストでは次のトピックを扱います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語語法・文法研究の対象と問題 2. 英語語法・文法研究の対象と問題 3. 法助動詞 4. 法助動詞(続き) 5. 仮定法 6. 中間テスト 7. 仮定法(続き) 8. 動詞句の形式 9. 動詞句の形式(2)(続き) 10. 不定詞の用法 11. 不定詞の用法(続き) 12. 不定詞構文と5文型 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・高橋作太郎『文法』大修館書店 ¥1900 ・プリント(随時配布) 		2回の試験とふだんの努力によります。	

06年度(春) 03～05年度(春)	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちが母国語で表現したものを字義通り英語に直そうとするとまるで英文にならないのは、誰しもよく経験することですが—私たちの使う英語の間違ひの実に90パーセント以上が日本語に引きずられることと関連しています—フランス人やドイツ人の英語学習者の場合事情が相当異なります。独仏人などと違って日本人や、例えばトルコの人や韓国の人が英語を使おうとするとき、文法の実践的知識は不可欠なのです。文法をいくら詳細に覚えても英語を使えないのは真実ですが、ヒアリングをどれだけ訓練してもそれだけではやはりだめであって、両方面の訓練が必要なのです。そして単語・語句・文章それぞれのレベルで日本語と英語の発想の違いを比較検討する習慣を身につけること。内容のある英語を話し・書く能力を習得するにはこれらは不可欠な訓練なのです。従来の多くの英語学習法は、いわば英語を一方向的に日本語にひきつけたやり方であり、日本語の環境に囲まれて暮らす私たちにとって自然でやむを得ぬ方法ともいえます。今度は、英語にひきつけて日本語を捉える努力をしながら英語を学んでいると、両方の言語についてそれまで気づかなかったことが色々分明して、英語の能力向上に役立ちます。</p> <p>時にテキストを離れて、詩とかエッセイの英訳に取り組みます。</p>		<p>テキストに沿って進めますが、学生一人ひとりの能力が異なるため、個人指導が欠かせません。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト <i>A New Approach to English Grammar</i> (松柏社) 参考文献『日本人に共通する和文英訳のミス』 岩垣守彦著 (ジャパンタイムズ)。</p>		<p>平素の小テストと平常点。</p>	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちが母国語で表現したものを字義通り英語に直そうとするとまるで英文にならないのは、誰しもよく経験することですが—私たちの使う英語の間違ひの実に90パーセント以上が日本語に引きずられることと関連しています—フランス人やドイツ人の英語学習者の場合事情が相当異なります。独仏人などと違って日本人や、例えばトルコの人や韓国の人が英語を使おうとするとき、文法の実践的知識は不可欠なのです。文法をいくら詳細に覚えても英語を使えないのは真実ですが、ヒアリングをどれだけ訓練してもそれだけではやはりだめであって、両方面の訓練が必要なのです。そして単語・語句・文章それぞれのレベルで日本語と英語の発想の違いを比較検討する習慣を身につけること。内容のある英語を話し・書く能力を習得するにはこれらは不可欠な訓練なのです。従来の多くの英語学習法は、いわば英語を一方向的に日本語にひきつけたやり方であり、日本語の環境に囲まれて暮らす私たちにとって自然でやむを得ぬ方法ともいえます。今度は、英語にひきつけて日本語を捉える努力をしながら英語を学んでいると、両方の言語についてそれまで気づかなかったことが色々分明して、英語の能力向上に役立ちます。</p> <p>時にテキストを離れて、詩とかエッセイの英訳に取り組みます。</p>		<p>テキストに沿って進めますが、学生一人ひとりの能力が異なるため、個人指導が欠かせません。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト <i>A New Approach to English Grammar</i> (松柏社) 参考文献『日本人に共通する和文英訳のミス』 岩垣守彦著 (ジャパンタイムズ)。</p>		<p>平素の小テストと平常点。</p>	

06年度(春) 03～05年度(春)	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	本田 謙介
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちの頭の中にある（日本語の）文法知識を使って、英語の文法について考えていきたい。</p> <p>教師の講義と学生の発表が半々くらいで授業が進められる。</p>		<p>毎回与えられたトピックを学生が調べて発表することから授業ははじまる。それに対し教師がコメントし、さらに補足説明を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。		出席、発表、試験による。	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	本田 謙介
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちの頭の中にある（日本語の）文法知識を使って、英語の文法について考えていきたい。</p> <p>教師の講義と学生の発表が半々くらいで授業が進められる。</p>		<p>毎回与えられたトピックを学生が調べて発表することから授業ははじまる。それに対し教師がコメントし、さらに補足説明を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。		出席、発表、試験による。	

06年度(春) 03~05年度(春)	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	水口 学
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 本講義では高等学校までに学習した文法事項を網羅的に復習しながら、英文法に対する知識を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法の深い理解の為には「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では文法を単なる暗記ではなく、考える対象として扱い、得た知識を各種の演習問題を通して実践していく。本講義を通して、英文法に対する新しい見方を提供し、英語学科で英語を学ぶ学生に相応しい文法知識を身につけられる授業にしていくつもりである。自分がこれまでに知らなかった英文法的一面を発見し、文法の面白さや奥深さを知ってもらえればと思う。</p> <p>講義概要: 本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、最近の言語学研究で得られた知見をも積極的に取り込みながら、授業を進めていくことにする。本学は文構成を中心に講義し、大枠となる文の種類、構成から始めて、動詞、時制、法助動詞、未来表現など文の骨格となる要素に焦点を当てる。その上で、語法や受動態などの文の発展事項へと移り、文構成への理解を深めていくことにする。本講義は訓練の場でもあるので、受講生は漫然と講義を聞くのではなく、自ら問題を提起し、自主的・積極的に考えながら講義に参加することを期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 文の基本構成、文の種類・分類基準 2. 文の構成要素、品詞、文型 3. 動詞と時制(1): 動詞の分類、単純時制 4. 動詞と時制(2): 完了時制、進行形 5. 法助動詞(1): 法助動詞の法性、法助動詞の種類、その意味、その用法 6. 法助動詞(2): 法助動詞の種類、その意味、その用法(続き)、その他の法助動詞 7. 未来表現(1): 未来を表す文法形式(現在形、進行形等) 8. 未来表現(2): 未来を表す表現形式 9. 語法(1): 直接・間接語法の形式、その転換 10. 語法(2): 中間語法、語法の注意点 11. 受動態(1): 受動態の特徴、注意点、過去分詞の性質 12. 受動態(2): その他の受動態(get受動態、経験受動態) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 水鳥・岡田・西村共著(1986)『大学英文法入門』英宝社 その他、プリント教材を使用する予定 参考文献: 安井稔著(1996)『改訂版英文法総覧』開拓社</p>		<p>特に平常点(出席・受講姿勢・発表など)を重視し、期末定期試験と総合して最終評価を決定する。単位認定の上で必要な出席回数は授業回数の2/3以上とされている。</p>	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	水口 学
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的(春学期と同じ): 本講義では高等学校までに学習した文法事項を網羅的に復習しながら、英文法に対する知識を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法の深い理解の為には「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では文法を単なる暗記ではなく、考える対象として扱い、得た知識を各種の演習問題を通して実践していく。本講義を通して、英文法に対する新しい見方を提供し、英語学科で英語を学ぶ学生に相応しい文法知識を身につけられる授業にしていくつもりである。自分がこれまでに知らなかった英文法的一面を発見し、文法の面白さや奥深さを知ってもらえればと思う。</p> <p>講義概要: 本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、最近の言語学研究で得られた知見をも積極的に取り込みながら、授業を進めていくことにする。本学は節構造や関係詞などの文中の埋め込みの構造を中心として講義し、副詞や否定、名詞等の文構成の上で重要となる個別要素へと移っていくことにする。教科書では触れていない項目も関連してできるだけ扱うことにしたい。本講義は訓練の場でもあるので、受講生は漫然と講義を聞くのではなく、自ら問題を提起し、自主的・積極的に考えながら講義に参加することを期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 条件文と仮定法(1): 直説法(条件文)と仮定法、仮定法の文法形式、仮定法の注意点 2. 条件文と仮定法(2): 仮定法の表現、注意すべき語法 3. 節構造(1): 節の種類、節と句、節の機能・役割 4. 節構造(2): 動詞・形容詞に続く定形説・非定形節 5. 節構造(3): ing形(動名詞、現在分詞)、代不定詞 6. 関係詞(1): 関係代名詞、関係形容詞、関係副詞 7. 関係詞(2): 不定関係詞、強調構文 8. 比較: 比較の種類と用法、絶対比較、特殊な比較 9. 副詞: 副詞の種類、副詞の分類、副詞の生起位置 10. 否定(1): 文否定、否定の注意点、否定要素 11. 否定(2): 否定の範囲、その他の否定(構成素否定等) 12. 名詞と限定詞: 名詞の種類、名詞の表現、限定詞(冠詞)の用法 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 水鳥・岡田・西村共著(1986)『大学英文法入門』英宝社 その他、プリント教材を使用する予定 参考文献: 安井稔著(1996)『改訂版英文法総覧』開拓社</p>		<p>特に平常点(出席・受講姿勢・発表など)を重視し、期末定期試験と総合して最終評価を決定する。単位認定の上で必要な出席回数は授業回数の2/3以上とされている。</p>	

06年度(春) 03～05年度(春)	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	毛利 秀高
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語を正確に使えるようになることがこの授業の目的である。テキストには、アメリカの学生生活で使われる英語が各頁に記載されているので、文法の知識を習得するだけではなく、アメリカ人の、特にアメリカの学生の生活様式を知ることができるであろう。テキストの半分は練習問題である。居眠りをする暇はない。例文はすべて口語英語であることは言うまでもない。</p> <p>春学期は名詞を中心に学ぶ。したがって冠詞、形容詞間の語順などを学ぶ。</p>		<p>I. 名詞と代名詞</p> <p>II. 冠詞</p> <p>III. 形容詞</p> <p>IV. 前置詞</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hayden, R. E., <i>Mastering American English</i> (Prentice Hall)		出席、試験	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	毛利 秀高
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は春学期と同じ。</p> <p>秋学期は動詞を中心に学習する。したがって副詞や動詞のイディオム、語順などを取り扱う。最後に論文の作成に役立つパンクチュエーション(句読点)を学ぶ。</p>		<p>I. 動詞</p> <p>II. 副詞</p> <p>III. 語順</p> <p>IV. 句読点の付け方</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03～05 年度（春）	Communicative English I a	担当者	E.J. Naoumi
講義目的、講義概要		授業計画	
This course aims to develop student listening and speaking skills through exposure to a number of different topics. Background to the topics will be provided through listening passages, movie clips and short reading passages. Students will be encouraged to express their opinions through guided activities such as drama, speeches and presentation.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course 2. Things in common 3. Language learning experiences 4. Food - TV Programs in English 5. Restaurants – Restaurant language 6. Sport 7. Movies Hollywood, Bolly wood and Nollywood 8. Movies “The School of Rock” 9. Music “The School of Rock” 10. Presentation skills 11. Presentation preparation 12. Group presentation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
All materials will be provided but students should bring a good dictionary to class.		Attendance and participation in class, preparation for short speeches and presentation, effort to improve.	

03～05 年度（秋）	Communicative English I b	担当者	E.J. Naoumi
講義目的、講義概要		授業計画	
This course aims to develop student listening and speaking skills through exposure to a number of different topics. Background to the topics will be provided through listening passages, movie clips and short reading passages. Students will be encouraged to express their opinions through guided activities such as drama, speeches and presentation.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vacations, travel 2. Leisure – making a questionnaire 3. Presenting the results of a questionnaire 4. Part-time jobs 5. Job Interviews 6. Social Issue 1 “About a Boy” 7. “About a Boy” 8. Social Issue 2 “Mrs. Doubtfire” 9. “Mrs. Doubtfire” 10. What makes a good teacher? - “The School of Rock” 11. Group presentation preparation 12. Group presentation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
All materials will be provided but students should bring a good dictionary to class.		Attendance and participation in class, preparation for short speeches and presentation, effort to improve.	

03～05 年度（春）	Communicative English I a	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students develop their ability to think about topics of national and international importance and to develop their ability to talk and write about these issues.</p> <p>We will use newspapers as our main text, and students will select articles on subjects that interest them most. Students will read and study the articles at home, and in class, working in small groups, they will present their articles and lead a discussion on the topic.</p> <p>Students will also be expected to give poster presentations on special topics of their own choice which will involve making mini-speeches of 5 to 10 minutes.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Article 1 3. Article 2 4. Article 3 5. Poster presentations 6. Poster presentations 7. Article 4 8. Article 5 9. Article 6 10. Poster presentations 11. Poster presentations 12. Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
English newspapers		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, the submission of a class notebook, and a final examination	

03～05 年度（秋）	Communicative English I b	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students develop their ability to think about topics of national and international importance and to develop their ability to talk and write about these issues.</p> <p>We will use newspapers as our main text, and students will select articles on subjects that interest them most. Students will read and study the articles at home, and in class, working in small groups, they will present their articles and lead a discussion on the topic.</p> <p>Students will also be expected to give poster presentations on special topics of their own choice which will involve making mini-speeches of 5 to 10 minutes</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Article 1 3. Article 2 4. Article 3 5. Poster presentations 6. Poster presentations 7. Article 4 8. Article 5 9. Article 6 10. Poster presentations 11. Poster presentations 12. Poster presentations 	
テキスト、参考文献		評価方法	
English newspapers		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, the submission of a class notebook, and a final examination	

06年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	C. B. Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The overall aim of this course is teach students some important but often overlooked techniques in face-to-face communication. In the class, the term communication will be used to refer to communication style, focusing on differences between that of the Japanese and non-Japanese.</p> <p>Classes in the first term will explore situations that show differences in thinking behavior and how these differences are reflected in the way people speak. Students will analyze and discuss different culture-style conversations.</p> <p>Classes in the second term will focus on various situations of virtue and polite manners. Students will analyze and discuss examples that illustrate these differences.</p> <p>The final goal of the course is to help improve fluency in the use of English language skills.</p>		<p>First Term:</p> <p>I. Orientation class objectives, method and evaluation</p> <p>II. How to avoid embarrassing conversation situations</p> <p>(1). Different Communication Styles</p> <p>(2) Sensitivity in conversations: does it help?</p> <p>(3) Be a Good Listener: a good advice?</p> <p>(4) Subtlety in Conversations: is it good?</p> <p>(5) Low-key expressions: do they help?</p> <p>(6) Frankness: when to and when not to?</p> <p>(7)Conversation Compliment: how to across cultures</p> <p>III. Summary and Evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced on the first day of class.		Summative evaluation of class participation: discussion and reports, as well as term-end exams. Students are highly recommended to review each lesson and study beforehand.	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	C. B. Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The overall aim of this course is teach students some important but often overlooked techniques in face-face communication. In the class, the term communication will be used to refer to communication style, focusing on differences between that of the Japanese and non-Japanese.</p> <p>Classes in the first term will explore situations that illustrate difference behavior and why these differences exist. Students will analyze and discuss various themes related to interpersonal communication.</p> <p>Classes in the second term will focus on various situations of virtue and polite manners. Students will analyze and discuss examples that illustrate these differences.</p> <p>The final goal of the course is to help improve fluency in the use of English language skills.</p>		<p>Second Term</p> <p>I. Orientation: class objectives, method and evaluation</p> <p>II. Behavior differences</p> <p>(1) Identity: do you have a strong cultural identity?</p> <p>(2) Values: what are your lifestyle values?</p> <p>(3) Culture shock: what is your personality type?</p> <p>(4) Culture in language: do you believe in proverbs?</p> <p>(5) Body language and customs: do you know them?</p> <p>(6) Individualism: are you an individualist?</p> <p>(7) Politeness: are you a formal or a casual person?</p> <p>(8) Communication style: what's yours?</p> <p>(9) Gender and culture: are they different?</p> <p>(10) Diversity and culture: the changing Japan!</p> <p>III. Summary and Evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced on the first day of class.		Summative evaluation of class participation: discussion and reports, as well as term-end exams. Students are highly recommended to review each lesson and study beforehand.	

06年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	D.L. Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will present various topics, some chosen by the instructor, others chosen by students. Subjects can range from music (like a rap song), literature (a poem or short story), and art (painting or sketches), to events and issues (like Internet or media topics). Students will explain and discuss these: their presentations may entail listening to and looking at, possibly performing, topic-related things.</p> <p>Topics for discussion will be prepared in advance, often requiring prints and printouts from the students, and visual/aural materials from students or the instructor.</p> <p>You need to be proficient in oral English, interested in a variety of topics, punctual in your attendance, and able to hold your own in an English-only classroom.</p>		<p>Week 1: Introductions and assignment of topics Week 2: Sample presentation/discussion by teacher Week 3: Music (Mus): songs and their lyrics Week 4: Mus (2) Week 5: Mus (3) Week 6: Internet issues (Net): Web sites and topics Week 7: Net (2) Week 8: Net (3) Week 9: Literature (Lit): poems & stories Week 10: Lit (2) Week 11: Lit (3) Week 12: Lit (Oral/Written exam on an assigned poem)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts		Grades will be made from class performance (40%), examinations and one report per semester (40%) and from attendance (20%).	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	D.L. Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will present various topics, some chosen by the instructor, others chosen by students. Subjects can range from music (like a rap song), literature (a poem or short story), and art (painting or sketches), to events and issues (like Internet or media topics). Students will explain and discuss these: their presentations may entail listening to and looking at, possibly performing, topic-related things.</p> <p>Topics for discussion will be prepared in advance, often requiring prints and printouts from the students, and visual/aural materials from students or the instructor.</p> <p>You need to be proficient in oral English, interested in a variety of topics, punctual in your attendance, and able to hold your own in an English-only classroom.</p>		<p>Week 1: Media (Med): TV or newspaper topics Week 2: Med (2) Week 3: Med (3) Week 4: Med (4) Week 5: Art: paintings, sketches, graphics Week 6: Art (2) Week 7: Art (3) Week 8: Student topics (ST) Week 9: ST (2) Week 10: ST (3) Week 11: ST (4) Week 12: Report, oral exam, evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts		Grades will be made from class performance (40%), examinations and one report per semester (40%) and from attendance (20%).	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	D.L. Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will present various topics, some chosen by the instructor, others chosen by students. Subjects can range from music (like a rap song), literature (a poem or short story), and art (painting or sketches), to events and issues (like Internet or media topics). Students will explain and discuss these: their presentations may entail listening to and looking at, possibly performing, topic-related things.</p> <p>Topics for discussion will be prepared in advance, often requiring prints and printouts from the students, and visual/aural materials from students or the instructor.</p> <p>You need to be proficient in oral English, interested in a variety of topics, punctual in your attendance, and able to hold your own in an English-only classroom.</p>		<p>Week 1: Media (Med): TV or newspaper topics Week 2: Med (2) Week 3: Med (3) Week 4: Med (4) Week 5: Art: paintings, sketches, graphics Week 6: Art (2) Week 7: Art (3) Week 8: Student topics (ST) Week 9: ST (2) Week 10: ST (3) Week 11: ST (4) Week 12: Report, oral exam, evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts		Grades will be made from class performance (40%), examinations and one report per semester (40%) and from attendance (20%).	

06年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	D.Baker
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one term once-a-week class will expose students to a variety of English language resources and materials in order to develop language skills and stimulate curiosity. The course is designed for students who are already at least at intermediate level and able to express and present their opinions fairly confidently.</p> <p>The three overall objectives of this course are:</p> <p><input type="checkbox"/> to develop comprehension skills through exposure to audio-visual, print and online media</p> <p><input type="checkbox"/> to broaden understanding of the world and deepen critical thinking skills</p> <p><input type="checkbox"/> to give students opportunities to share their thoughts and opinions in forms such as group discussions, speeches, projects and presentations</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and orientation 2. World geography 3. Money 4. Population and inequality 5. Education 6. Education - speeches 7. Music 8. Music - presentations 9. The internet - project research 10. Project workshops 11. Project presentations and discussions 12. As above and course review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set textbook		Assessment is continuous and based on attendance, class participation and performance, and assignments	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

06年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	D. McCann
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations.</p> <p>A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.</p>		<p>Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.		Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	D. McCann
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations.</p> <p>A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.</p>		<p>Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.		Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.	

06年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	K.Meehan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of the course is develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussions. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Advertising 3. Animal rights 4. Beliefs 5. Discipline 6. Art and Artists 7. Fashion 8. Crime and punishment 9. Cultures 10. Family 11. Drink and drugs 12. Test 	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on attendance, class participation, and tests.	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II a	担当者	K.Meehan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of the course is to develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussion. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Religions 2. Film and TV 3. Language 4. Poverty 5. War 6. Diet and nutrition 7. Green issues 8. Natural Disasters 9. Sexism 10. International Relations 11. Pax Americana 12. Test 	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on attendance, class participation, and tests.	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	L.K.Hawkins
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Goal and Course Description: The goal of this course is to expose the students to modern English vocabulary, grammar and idiomatic expressions and slang. This course will involve a great deal of speaking and the students are encouraged to adopt enthusiastic, outgoing attitudes. This course shall use scenes from movies as a basis for study. Each week, a short 10 minute scene will be watched and studied. We will focus on vocabulary development, the proper usage of idioms and grammar practice. After, the students fully understand the language presented in the scene, we will do role plays or various discussion type exercises in which the students will have the opportunity to practice what they have just learned. This course is designed to be both interesting and informative. A final presentation will also be required of the students.</p>		<p>Week 1: Introduction to the course and Introductions Week 2: Scene 1 - speaking exercises Week 3: Scene 2 - speaking exercises Week 4: Scene 3 - speaking exercises Week 5: Scene 4 - speaking - exercises Week 6: Review - quiz Week 7: Scene 5 - speaking exercises Week 8: Scene 6 - speaking exercises Week 9: Test Week 10: Presentation Preparation Week 11: Presentations Week 12: Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>The instructor will provide all materials that the students will use.</p>		<p>Students shall be evaluated on the following: Attendance, one quiz, one test and the final presentation.</p>	

06年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	M. Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the end of this term, students will be able to:</p> <p>Communicate in English about a variety of interesting cultural, political, and social topics;</p> <p>Express their own ideas about these topics;</p> <p>Engage other students to elicit their ideas on these topics.</p> <p>This course is designed to develop students productive vocabulary, listening comprehension, and confidence in using English in a variety of situations.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Each week, new topics will be introduced, key terms explained, and focused discussions performed in small groups. Students will make presentations and serve as active audience participants during the presentations of others. Topics will be chosen and developed by the students themselves.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
North Star Listening & Speaking (High Intermediate) ISBN: 0-201-75572-6		Grades will be determined based on participation, presentations, quizzes, and homework assignments.	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	M. Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This term, we will continue practicing and developing the skills learned in the first term.</p>		<p>Each week, new topics will be introduced, key terms explained, and focused discussions performed in small groups. Students will make presentations and serve as active audience participants during the presentations of others. Topics will be chosen and developed by the students themselves.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
North Star Listening & Speaking (High Intermediate) ISBN: 0-201-75572-6		Grades will be determined based on participation, presentations, and homework assignments.	

06年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	N.Hamilton
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students attending this class will get the chance to practice and improve their ability in Communicative English. During the classes, we will discuss many different topics and everyone will be encouraged to express their opinions clearly and concisely.</p> <p>The atmosphere will be relaxed, warm, and friendly and it is hoped that this will encourage active participation both on a peer level and also generally within the classroom.</p> <p>There will be opportunities for presentations, and we will use various media forms to make the classes both interesting and enjoyable. These will include music and DVDs.</p>		<p>During the year we will cover a wide range of topics chosen from textbooks and from other materials which will be provided.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor.		Students will be assessed on the basis of Attendance, Participation, Reports, Homeworks and Presentations.	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	N.Hamilton
講義目的、講義概要		授業計画	
Same as for the Spring semester		Same as for the Spring semester	
テキスト、参考文献		評価方法	
Same as for the Spring semester		Same as for the Spring semester	

06年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	P.Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> To improve the students' knowledge of current English. To improve the students' critical thinking skills To improve the students' reading and speaking skills To improve discussion and presentation skills. <p>The topics studied in this course will be on current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to participate in the class)</p>		<p>As there is no textbook for the year the sequence of the discussions will be decided by the students and the teacher.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion test 	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	P.Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> To improve the students' knowledge of current English. To improve the students' critical thinking skills To improve the students' reading and speaking skills To improve discussion and presentation skills. <p>The topics studied in this course will be on current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to participate in the class)</p>		<p>As there is no textbook for the year the sequence on discussions will be decided by the students and the teacher.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion test 	

06年度(春) 03~05年度(春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	P. Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an intermediate course to communication. Students will get a chance to improve their fluency through many speaking exercises. One of the goals of the course is to have students adjust to different types of speaking situations, i.e., formal versus informal speech. Additionally, students will be able to build their vocabulary, work on pronunciation and incorporate personal learning goals. It is important for the students to set specific goals and develop autonomous learning strategies.</p> <p>Students will be asked to make various visual aides for each presentation outside of class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Suprasegmentals 3. Discussion: money 4. Discussion: work 5. Presentation preparation #1: Personal item 6. Presentation 7. Presentation preparation #2: Reading 8. Presentation 9. Presentation preparation #3: Policy 10. Presentation 11. Review 12. Instructor-led discussion <p>Subject to change based on class's needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Attendance, participation, written summaries, and speaking exercises	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Communicative English Communicative English II b	担当者	P. Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is the second half of the intermediate course to communication. In this semester, students will get more of chance to voice their opinions in different discussions. Most of the discussion topics will be decided by the students. Although there is no assigned text for this course, students will be required to research for the discussion topics. The main goal of this class is for students to develop and form opinions on selected topics of discussion. Students should be able to express their opinions in English coherently without relying on Japanese for clarification. Additionally, students will be asked to give presentations using PowerPoint.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and review 2. Discussion: Learning English 3. Discussion: Student topic 4. Discussion: Student topic 5. Culture comparisons 6. Culture comparisons 7. Culture comparisons 8. Presentation: Culture comparison 9. Presentation: Culture comparison 10. Presentation: Culture comparison 11. Discussion versus debate 12. Instructor-led discussion <p>Subject to change based on class's needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Attendance, participation, written summaries, and discussions	

06 年度 (春) 03~05 年度 (春)	Communicative English Communicative English II a	担当者	T. J. Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is for intermediate level students.</p> <p>The idea is to improve each student's speaking and listening. Active participation in the lessons and perhaps some outside of class practice will greatly assist in helping to reach the objective of better communicative English.</p> <p>Small group practice covering selected topics of current events from handouts or prints from magazines and newspapers will be discussed. Items covered in the textbook will also help students get better at everyday English. Clearly and diplomatically stating one's own opinion or feelings about various topics is a desirable skill to develop.</p> <p>A presentation or short speech will be expected of each student, the topic will be up to the student to decide.</p>		<p>Week 1 Course introduction and level test if needed.</p> <p>“ 2 Student self-introductions and pronunciation practice.</p> <p>“ 3 The actual lesson will be from following the contents of the textbook and from handouts.</p> <p>“ 4 “</p> <p>“ 5 “</p> <p>“ 6 “</p> <p>“ 7 “</p> <p>“ 8 “</p> <p>“ 9 “</p> <p>“ 10 “</p> <p>“ 11 Presentations and review lesson.</p> <p>“ 12 Final lesson and last one-to-one interview.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be decided after the first lesson. There will be handouts covering various current topics.		Your grade will be a combination of attendance, active participation in the lessons, including making a sincere effort to improve your English speaking and listening.	

06 年度 (秋) 03~05 年度 (秋)	Communicative English Communicative English II a	担当者	T. J. Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is for intermediate level students.</p> <p>The idea is to improve each student's speaking and listening. Active participation in the lessons and perhaps some outside of class practice will greatly assist in helping to reach the objective of better communicative English.</p> <p>Small group practice covering selected topics of current events from handouts or prints from magazines and newspapers will be discussed. Items covered in the textbook will also help students get better at everyday English. Clearly and diplomatically stating one's own opinion or feelings about various topics is a desirable skill to develop.</p> <p>A presentation or short speech will be expected of each student, the topic will be up to the student to decide.</p>		<p>Week 1 Introduction if necessary; talking about last summer: short student speeches</p> <p>“ 2 Actual lessons to be announced dependent upon the textbook and extra handout topics.</p> <p>“ 3 “</p> <p>“ 4 “</p> <p>“ 5 “</p> <p>“ 6 “</p> <p>“ 7 “</p> <p>“ 8 “</p> <p>“ 9 “</p> <p>“ 10 “</p> <p>“ 11 Last student presentations and review lesson</p> <p>“ 12 Final lesson with one-to-one interviews.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Refer to the spring semester.		Refer to the spring semester.	

06年度(春) 03~05年度(春)	Discussion Discussion a	担当者	D.L.Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course students will form groups each term to lead the talk in class about various topics that they choose, first from daily life – items like work experience and places to visit or tour. Later they will select either more challenging or more personal issues by means of brainstorming and on the basis of consensus, items like dating or social topics.</p> <p>Topics will be prepared in advance at a rate of one per two weeks as the leader groups rotate. The discussion format may vary: students may engage in simple debates, survey interpreting, opinion eliciting, and taking contrarian attitudes.</p> <p>You need to be proficient in spoken English, be interested in a variety of topics, very punctual in your attendance and able to hold your own in an English-only environment in the classroom.</p>		<p>Week 1: Introduction; how to have a discussion Week 2: Ways of handling a discussion topic Week 3: Group I: daily life topic, Part 1 Week 4: Group I, Part 2 Week 5: Group II: daily life topic, Part 1 Week 6: Group II, Part 2 Week 7: Critique of methods and procedures Week 8: Group III: more "meaty" topic, Part 1 Week 9: Group III, Part 2 Week 10: Group IV, more "meaty" topic, Part 1 Week 11: Group IV, Part 2 Week 12: Commentary on spring term</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook, but the instructor and leader groups will provide handouts and/or visual aids. Certain prints will concern methods and procedure		Grades will be compiled from performance each week (50%, including oral exams), work as the lead group (25%) and talks with the instructor (25%).	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Discussion Discussion b	担当者	D.L.Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course students will form groups each term to lead the talk in class about various topics that they choose, first from daily life – items like work experience and places to visit or tour. Later they will select either more challenging or more personal issues by means of brainstorming and on the basis of consensus, items like dating or social topics.</p> <p>Topics will be prepared in advance at a rate of one per two weeks as the leader groups rotate. The discussion format may vary: students may engage in simple debates, survey interpreting, opinion eliciting, and taking contrarian attitudes.</p> <p>You need to be proficient in spoken English, be interested in a variety of topics, very punctual in your attendance and able to hold your own in an English-only environment in the classroom.</p>		<p>Week 1: Regrouping of students and topics Week 2: Group I: free topic, Part 1 Week 3: Group I, Part 2 Week 4: Group II: free topic, Part 1 Week 5: Group II, Part 2 Week 6: Critique: new discussion modes Week 7: Group III: free topic, Part 1 Week 8: Group III, Part 2 Week 9: Group IV: free topic, Part 1 Week 10: Group IV, Part 2 Week 11: Oral exam: Class discussion (a) Week 12: Oral exam: Class discussion (b)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook, but the instructor and leader groups will provide handouts and/or visual aids. Certain prints will concern methods and procedure.		Grades will be compiled from performance each week (50%, including oral exams), work as the lead group (25%) and talks with the instructor (25%).	

06年度(春) 03~05年度(春)	Discussion Discussion a	担当者	N.H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is for those students who have an advanced proficiency in spoken English. The class aims to provide a forum for students to discuss in a logical and reasoned manner the many issues that face us today. Topics for discussion will be student generated and will hopefully look at issues of concern and interest--topics related to global issues, national issues, environmental issues, cultural topics, student life, music, movies, literature and other topics of interest. Moreover, it aims to help students further develop their speaking and listening skills, and to help students understand more clearly what a discussion is. Students considering this class should have 1) an advanced proficiency in English particularly in speaking and listening; 2) a deep interest in discussing topics are that both challenging and pertinent to students; and 3) a keen interest in the ideas and opinions of others. Topics for discussion will be introduced a week in advance of class and students are required to prepare in advance. This class is a semester class, but students are encourage to enroll for entire academic year.</p>		<p>Week 1: Class Introduction; Self Introductions</p> <p>Week 2: Discussion # 1</p> <p>Week 3: Discussion # 2</p> <p>Week 4: Discussion # 3</p> <p>Week 5: Discussion # 4</p> <p>Week 6: Discussion # 5</p> <p>Week 7: Discussion # 6</p> <p>Week 8: Discussion # 7</p> <p>Week 9: Discussion # 8</p> <p>Week 10: Discussion # 9</p> <p>Week 11: Discussion # 10</p> <p>Week 12: Final Discussion for Evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this class. The instructor will provide all prints, videos and other materials.		Final grades are based on classroom participation, presentations and attendance.	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Discussion Discussion b	担当者	N.H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Same as above.</p> <p>Note well: This class has an English only policy--only English is used in class.</p>		<p>Week 1: Class Introduction; Self Introductions</p> <p>Week 2: Discussion # 1</p> <p>Week 3: Discussion # 2</p> <p>Week 4: Discussion # 3</p> <p>Week 5: Discussion # 4</p> <p>Week 6: Discussion # 5</p> <p>Week 7: Discussion # 6</p> <p>Week 8: Discussion # 7</p> <p>Week 9: Discussion # 8</p> <p>Week 10: Discussion # 9</p> <p>Week 11: Discussion # 10</p> <p>Week 12: Final Discussion for Evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this class. The instructor will provide all prints, videos and other materials.		Final grades are based on classroom participation, presentations and attendance.	

06年度(春) 03~05年度(春)	Discussion Discussion a	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ideas & Issues</p> <p>This is a discussion course which seeks to:</p> <p>a) facilitate discussion by studying controversial & challenging global topics</p> <p>b) expose students to new issues & unconventional views</p> <p>c) develop students' self-confidence & skills of self-expression</p> <p>We will use a variety of reading sources & selected audio texts to build students knowledge on a given topic before exploring different opinions in pair-work & group discussion activities.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductory Class 2. Advertising 3. Animal Rights 4. Art & Artists 5. Beauty 6. Beliefs 7. Crime & Punishment 8. Discipline 9. Drink & Drugs 10. Family 11. Fashion 12. Film & TV 	
テキスト、参考文献		評価方法	
30 % Attendance & Punctuality, 40% In-Class Work, 30% Assignment		No text book. English-English Dictionary & a new A4 or B4 sized folder or binder are required.	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Discussion Discussion b	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ideas & Issues</p> <p>This is a discussion course which seeks to:</p> <p>a) facilitate discussion by studying controversial & challenging global topics</p> <p>b) expose students to new issues & unconventional views</p> <p>c) develop students' self-confidence & skills of self-expression</p> <p>We will use a variety of reading sources & selected audio texts to build students knowledge on a given topic before exploring different opinions in pair-work & group discussion activities.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Review & Preview 2. Food 3. Friendship 4. Green Issues 5. Honesty 6. Language 7. New Technology 8. Poverty 9. Racism 10. Rebellion 11. Sexism 12. Sport 	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text book. English-English dictionary & a new A4/B4 sized binder or folder are required		30 % Attendance & Punctuality, 40% In-Class Work, 30% Assignment	

06年度(春) 03~05年度(春)	Discussion Discussion a	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to develop three skills:</p> <p>1) information gathering</p> <p>2) reading comprehension</p> <p>3) presentation and discussion</p> <p>Students will gather information, read and assimilate it, and use it as a basis for discussions and presentations. Presentations will be group-based. The specific topics covered will be decided by the students themselves, but the focus should be on contemporary social issues.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction 2. Selection of topics, forming of groups 3. Presentation 1: reading and preparation 4. Presentation 1: reading and preparation 5. Group presentations 6. Feedback on presentations 7. Analysis of useful and necessary language for discussion/presentations 8. Presentation 2: reading and preparation 9. Presentation 2: reading and preparation 10. Group presentations 11. Feedback on presentations 12. Review of term's work 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material provided by teacher/students		Continuous assessment of class work, as well as participation in class activities and attendance	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Discussion Discussion b	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to develop three skills:</p> <p>1) information gathering</p> <p>2) reading comprehension</p> <p>3) presentation and discussion</p> <p>Students will gather information, read and assimilate it, and use it as a basis for discussions and presentations. Presentations will be group-based. The specific topics covered will be decided by the students themselves, but the focus should be on contemporary social issues.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction 2. Selection of topics, forming of groups 3. Presentation 1: reading and preparation 4. Presentation 1: reading and preparation 5. Group presentations 6. Feedback on presentations 7. Analysis of useful and necessary language for discussion/presentations 8. Presentation 2: reading and preparation 9. Presentation 2: reading and preparation 10. Group presentations 11. Feedback on presentations 12. Review of term's work 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material provided by teacher/students		Continuous assessment of class work, as well as participation in class activities and attendance	

06年度（春） 03～05年度（春）	Public Speaking I Public Speaking I a	担当者	A.R. Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
In the class we will focus on three messages in public speaking: the Visual Message, the Physical Message and the Story Message. We will video students with a camera and evaluate their performance in class. Students will be expected to use Power Point in making presentations.		Introduction: The Physical Message Posture and Eye Contact Informative Speech Gestures Layout Speech Voice Infection Demonstration Introduction to the Story Message The Introduction Persuasive Speech The Body Transition and Sequencers	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be decided		Weekly participation in speeches and the email receipt of student speeches.	

06年度（秋） 03～05年度（秋）	Public Speaking II Public Speaking I b	担当者	A.R. Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
In the class we will focus on three messages in public speaking: the Visual Message, the Physical Message and the Story Message. We will video students with a camera and evaluate their performance in class. Students will be expected to use Power Point in making presentations.		Review of Term One Persuasive Speech: The Body The Conclusion Persuasive Speech: The Conclusion Introduction to the Visual Message Making Visual Aids Explaining Visual Aids Full Presentation of the Persuasive Speech with Visual Aids Power Point Introduction Video Taping Part One Video Taping Part Two Critique of Taping	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be decided		Weekly participation in speeches and the email receipt of student speeches.	

06年度(春) 03~05年度(春)	Public Speaking I Public Speaking I a	担当者	P. McEvelly
講義目的、講義概要		授業計画	
The purpose of this course is to develop the students' public speaking skills. Students will write and give speeches throughout the year. We will cover a variety of presentation styles. Students will learn the effective use of eye contact, posture, gesture, and voice.		To be arranged.	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be arranged.		Grading will be based on attendance, classrooms participation, and homework: 50% Speeches and tests: 50%	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Public Speaking II Public Speaking I b	担当者	P. McEvelly
講義目的、講義概要		授業計画	
The purpose of this course is to develop the students' public speaking skills. Students will write and give speeches throughout the year. We will cover a variety of presentation styles. Students will learn the effective use of eye contact, posture, gesture, and voice.		To be arranged.	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be arranged.		Grading will be based on attendance, classrooms participation, and homework: 50% Speeches and tests: 50%	

06年度(春) 03～05年度(春)	Public Speaking I Public Speaking I a	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 「異文化コミュニケーション」という言葉がよく聞かれる今日、どうしたら英語で上手くコミュニケーションがとれるようになるのでしょうか。この授業では、自分の伝えたい事を言葉のみでなく、Physical Message, Story Message, Visual Message によって如何により効果的にプレゼンテーションが出来るようになるかを学びます。</p> <p>講義概要： プレゼンテーションをする時のコミュニケーションの方法と段階を上記の三つに分けます。それぞれのメッセージは'What', 'Why', 'How', 'Practice' の四項目から成り、更に'Performance'と'Evaluation' のセクションで自分のプレゼンテーションを通じて、又クラスメイトのプレゼンテーションを聞き、如何に改善すべきかを自ら学びとります。</p> <p>易しい英語と愉快的イラストを使いながら、100パーセント学習者参加型の演習方法で授業を進めていきます。</p> <p>進度は皆さんの様子を見ながら必要に応じて調整していきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. [I] THE PHYSICAL MESSAGE: Introduction to the Physical Message Posture and Eye Contact 3. Informative Speech 4. Presentation 5. Gesture, Layout Speech 6. Presentation 7. Voice Inflection, Demonstration Speech 8. Presentation 9. [II] THE STORY MESSAGE: Introduction to the Story Message Presentation 10. Persuasive Speech (Introduction) 11. Presentation 12. Presentation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：Harrington, D. & LeBeau, C., <i>Speaking of Speech – Basic Presentation Skills for Beginners</i>. MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2003. 1748円 + 税</p>		出席状況、授業への参加度、宿題、発表、試験などから総合的に評価します。主に授業中のプレゼンテーションを最重要視するので、出席は最も重要。	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	Public Speaking II Public Speaking I b	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 春学期と同じ。</p> <p>講義概要： 春学期に引き続く。</p>		<p>(春学期からの続き。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [II] THE STORY MESSAGE The Body 2. Transitions and Sequencers 3. Transitions and Sequencers 4. Persuasive Speech (Body) 5. presentation 6. The Conclusion 7. Persuasive Speech (Conclusion) 8. Presentation 9. [III] THE VISUAL MESSAGE Introduction to the Visual Message 10. Making Visual Aids 11. Explaining Visual Aids 12. Final Performance 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

03～05 年度（春）	Public Speaking II a	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class aims to help students to prepare and deliver speeches with maximum effect. The use of language, the art of effective construction, and the use of all forms of communication when delivering a speech will be seen.</p> <p>Students will work both inside and outside of classtime to prepare and hone their speeches ready for delivery. We want to cover a wide area of aspects related to good speech making, so preparation and class participation are vital.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions and explanations 2. What should a speech be? 3. Speechmaking: aims and relative ideas 4. The confidence factor 5. The importance of the small items that tend to get taken too much for granted 6. Who are you talking to? 7. The power of addressing the individual in the crowd 8. Negative things in the failed speech 9. Preparation and practice 10. Delivery 11. The conversational touch 12. Revision 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Various prints and DVDs		Class performance and final report	

03～05 年度（秋）	Public Speaking II b	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
As above		<ol style="list-style-type: none"> 1. Saying something meaningful 2. Loving your subject 3. Ad-libbing to bridge the gaps 4. Humor and other weapons of mass communication 5. Say it again, Sam 6. How to bore everybody 7. Speaking to machines, speaking to people 8. Stressing your good technique 9. Including the audience 10. Look at me, look at you 11. Tell it like it is 12. Final 	
テキスト、参考文献		評価方法	
As above		Class performance and final report	

06年度(春) 03~05年度(春)	Debate I Debate Ia	担当者	P. Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory course to debate. Students will have a chance to select topics for research and discussion. Although there is no assigned text, students will be required to do research for the discussion topics. Before a topic is debated, it will be researched and discussed thoroughly. The main goal to be accomplished is the students forming and expressing well formed ideas on specific topics. In addition, students will be expected to follow basic debate procedures, analyze and discuss arguments simultaneously.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Discussion 3. Discussion 4. Debate 5. Discussion 6. Discussion 7. Debate 8. Discussion 9. Discussion 10. Debate 11. Topic review and debate 12. Topic review and debate <p>Subject to change based on class's needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook, but students should be familiar using the internet for research.		Attendance, participation, written summaries, and discussion exercises	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Debate II Debate I b	担当者	P. Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is the second half to the introduction of debate. Students will have a chance to select topics for research and discussion. Although there is no assigned text, students will be required to do research for the discussion topics. In this half students will encounter several different types of debate formats. The types of debate format will be open for discussion due to the fact there are too many format styles to cover. In addition, individual and team debates will occur. The main goal to be accomplished is the students forming and expressing well formed ideas on specific topics.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and review 2. Discussion 3. Discussion 4. Debate 5. Discussion 6. Discussion 7. Debate 8. Discussion 9. Discussion 10. Debate 11. Topic review and debate 12. Topic review and debate <p>Subject to change based on class's needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook, but students should be familiar using the internet for research.		Attendance, participation, written summaries, and debate exercises	

06年度(春) 03~05年度(春)	Debate I Debate I a	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Debating Skills</p> <p>This is a debate course which seeks to develop students' ability to:</p> <p>a) have lively & interesting debates</p> <p>b) find & critique opinions, reasons & examples</p> <p>c) generalize, theorize & persuade</p> <p>In addition to regular discussion practice, students will have ample opportunity to present their ideas & opinions on topics of interest to them to other class members</p>		<p>1. Introductory Class</p> <p>2. Review: How to Have a Conservation</p> <p>3 + 4. Parts of a Debate 1</p> <p>5 + 6. Parts of a Debate 2</p> <p>7 + 8. Making Sense/Evaluating Opinions</p> <p>9 + 10. What are the Issues?</p> <p>11 + 12. Persuasive Opinions</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook. An English-English dictionary & a new A4 or B4 sized binder or folder are required		30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Assignment	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Debate II Debate I b	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Debating Skills</p> <p>This is a debate course which seeks to develop students' ability to:</p> <p>a) have lively & interesting debates</p> <p>b) find & critique opinions, reasons & examples</p> <p>c) generalize, theorize & persuade</p> <p>In addition to regular debate practice, students will have ample opportunity to present their ideas & opinions on topics of interest to them to other class members</p>		<p>1. Summer Review</p> <p>2 + 3. Generalizing</p> <p>4 + 5. Theorizing</p> <p>6 + 7. Opposing Opinions & Rebuttal Reasons</p> <p>8 + 9. Disagreeing</p> <p>10 + 11. Collaborative Problem Solving</p> <p>12. Final Debate</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook. An English-English dictionary & an A4 or B4 sized folder or binder are required		30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Assignment	

06年度(春) 03~05年度(春)	Debate I Debate I a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語発話能力の養成を目的とした言語教育活動には現在多くの方法があるが、4技能(聞く、話す、読む、書く)のみならず「考える」という第5の技能を磨くディベートこそ英語発話能力向上の最も効果的な学習方法のひとつといえる。ディベート実践に不可欠な一連の作業を通じて、英語発話能力を向上させていくことを目標とする。</p> <p>前期の最初に、ディベートの実践に必要な技術と評価の為のバロットの書き方を学ぶ。その後、グループに別れて、リサーチやブレインストーミングの段階を経て、ディベートの実践を行う。ディベートの命題としては社会的または政治的な問題を取り扱う予定である。ディベートの準備と実践を通して英語発信能力を、そして他グループの実践に対する評価をする事によって、聴き、理解し、更に発信するコミュニケーション能力を高めることができる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Orientation: What is Argument and What is Debate? 2. Analysis and Structure of Argument 3. Evidence as Support 4. Warrant 5. Refutation 6. How to Research a Topic 7. Case Construction 8. Structural and Language Considerations 9. 1st Debate I 10. 1st Debate II 11. 1st Debate III 12. Review of the First Debate and Reflections 	
テキスト、参考文献		評価方法	
松本茂『頭を鍛えるディベート入門：発想と表現の技法』講談社ブルーバックス		総合的な評価はディベートのパフォーマンス(60%)、バロット(15%)、クラス内での積極的な参加度(15%)、出席(10%)、そして必要ならば、期末テストの成績を含めて総合的に判断する。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	Debate II Debate I b	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に学習したディベートの技術に基づき、ディベート実践を反復する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientations 2. Preparation for the Second Debate 3. 2nd Debate I 4. 2nd Debate II 5. 2nd Debate III 6. Review of the Second Debate 7. Preparation for the Third Debate 8. Preparation for the Third Debate 9. 3rd Debate I 10. 3rd Debate II 11. 3rd Debate III 12. Course Summary 	
テキスト、参考文献		評価方法	
松本茂『頭を鍛えるディベート入門：発想と表現の技法』講談社ブルーバックス		総合的な評価はディベートのパフォーマンス(それぞれ30%一計60%)、バロット(15%)、クラス内での積極的な参加度(15%)、出席(10%)、そして必要ならば、期末テストの成績を含めて総合的に判断する。	

03～05 年度（春）	Debate II a	担当者	N.H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is designed with two basic goals in mind: 1) to help students develop their abilities to debate--to understand issues; to be able to articulate the issues; and, 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Additionally, we will watch some of the famous debates in Western history evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates. This will include presidential debates among others.</p> <p>This is a semester course, but students are encourage to take the class for the entire academic year.</p>		<p>Week 1: Class Introduction</p> <p>Week 2: Learning to debate. Expressing opinion</p> <p>Week 3: Developing Reasons; class debates</p> <p>Week 4: Supporting your opinion; class debates</p> <p>Week 5: Types of support; class debate</p> <p>Week 6: Organizing your opinions; class debate</p> <p>Week 7: Refutation; class debate</p> <p>Week 8: Types of refutation; class debate</p> <p>Week 9: Viewing actual debates; class debate</p> <p>Week 10: Class debates</p> <p>Week 11: Class debates</p> <p>Week 12: Class debates</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials for this class will be provided by the instructor.		Grades are based on class participation, attendance, and final debates/final tests.	

03～05 年度（秋）	Debate II b	担当者	N.H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Second semester is a continuation of the first semester.</p> <p>Student considering this class should keep in mind that debate is not about only winning or losing, but about understanding the different issues related to a particular topic. Debates should be fun, interesting, and most importantly intellectually rewarding.</p>		<p>Week 1: Class Introduction</p> <p>Week 2: Debate Article: 7 wonders of the world Egypt</p> <p>Week 3: Military Toys for Boys: Thailand Article</p> <p>Week 4: Class Debates</p> <p>Week 5: Class Debates</p> <p>Week 6: Class Debates</p> <p>Week 7: Class Debates</p> <p>Week 8: Class Debates</p> <p>Week 9: Class Debates</p> <p>Week 10: Class Debates</p> <p>Week 11: Class Debates</p> <p>Week 12: Class Debates</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials this class will be provided by the instructor.		Grades are based on class participation, attendance, and final debates/final tests.	

06年度(春) 03～05年度(春)	通訳 I 通訳 I a	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>L.L. 教室で英語教材を放送し、各自メモを取りながら実際に逐次通訳を行うという、実践的な訓練に徹する授業である。当然のことながら、英語を聴いたり話したりするのが好きな学生に受講してほしい。リスニング力を伸ばす訓練とメモの取り方を中心に学んでいく。各自のパフォーマンスは録音するので、家で聞くのが宿題となる。毎週、ディクテーションの宿題と単語テストを課す。</p> <p>前期は、自己嫌悪との戦いである。自分が訳し終えた時周囲の人がまだ訳しているのを聞くと、あんなに聴き取れたのかと実力の差を痛感せざるをえない。そういう意味で厳しい授業であるが、それもまた勉強である。毎週出席し続けることが、上達への近道。二週続けて欠席すると、周囲の学生について行けなくなる。</p>		<p><第1回> 【重要】定員を超えた場合、1回目の授業中に選抜するので、各自、必ず、TOEIC (TOEFL, 英検等もあれば) スコアのコピーを持参すること。時間厳守。 独力でリスニング力を伸ばす訓練方法について、私の経験に基づき具体的に詳しく説明する。次に、全員に実際に90分間その訓練を体験してもらう。メモを取るノートとカセットテープを持参して来ること。</p> <p><第2回～12回目> 毎週60分カセットテープを持参すること。易しい内容の教材から徐々にレベルを上げていきます。 さまざまな英語音声教材を用い、実践的訓練の中からメモの取り方や逐次通訳のポイントを学習する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業テキストと宿題用のテキストと二冊予定。1回目の授業で指定します。		毎週のディクテーションの宿題、毎週の単語テスト、授業中の通訳、定期試験の総合評価	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	通訳 I 通訳 I b	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続き、L.L. 教室で英語教材を放送し、各自メモを取りながら、実際に逐次通訳を行い、各自のパフォーマンスは録音する、という実践的な訓練を積み重ねる。</p> <p>前期は、ほとんどの受講生が、「英語が速くてメモを取れない」、「自分のメモの字が読めない」、「英語の内容はわかったのに訳す段になると日本語が出てこない」、と悩むものだが、後期になると、逐次通訳がそれなりに形になってくるので、クタクタになりながらも、緊張感と達成感を楽しんでいる学生が多い。自分なりのメモの取り方を確立し、シャドーイングの効果によって日本語も口をついて出るようになり、11月・12月になると、理解できた英語は、全て通訳できるようになる。だからこそ、毎週のディクテーション課題でリスニング力をつけることが肝要。</p>		<p><第1回目> 【重要】定員を超えた場合、1回目の授業中に選抜するので、各自、必ず、TOEIC (TOEFL, 英検等もあれば) スコアのコピーを持参すること。時間厳守。 独力でリスニング力を伸ばす訓練方法について、私の経験に基づき具体的に詳しく説明する。次に、全員に実際に90分間その訓練を体験してもらう。メモを取るノートとカセットテープを持参して来ること。 各自、夏休みについてスピーチをし、誰かがそのスピーチの通訳を担当する。</p> <p><第2回目～12回目> ① 逐次通訳の練習 人物伝、物語 ビジネスの場面、各種スピーチ、 外資系企業 CEO のインタビュー (抜粋)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
前期のテキストを引き続き使用する。他にプリントを配布。		毎週のディクテーションの宿題、毎週の単語テスト、授業中の通訳、定期試験の総合評価	

06年度(春) 03～05年度(春)	通訳Ⅱ 通訳Ⅱa	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「通訳Ⅱは、通訳Ⅰと比べて一段と難しいだろうとは予想していたが、実際は『二段』くらい難しかった」とよく学生に言われる。通訳Ⅱは「通訳」の advanced level である。トップレベルの学生を対象とした授業内容にしている。「通訳Ⅰ」と最も違うのは、音声教材の速さかもしれない。fast speed に慣れることを前期の目標にしてほしい。その鍵は shadowing 練習である。</p> <p>逐次通訳と同時通訳、それぞれ異なった難しさがある。異なった方針で訳す必要がある。そういう点に関する理解も深めたい。90分間集中力を要するので、疲れる授業であることを念頭に置いてほしい。</p>		<p><第1回> 【重要】定員を超えた場合、1回目の授業中に選抜するので、各自、必ず、TOEIC (TOEFL, 英検等もあれば) スコアのコピーを持参すること。時間厳守。 「通訳Ⅰ」を履修していることが望ましいが、履修要件を満たし「通訳Ⅱ」から始める学生もいるので、まず、通訳の基礎、身につけるべき能力や技術について説明する。次に、それを身につけるにはどのような訓練が必要かについて話した後、早速実践的な訓練を開始する。</p> <p><第2回～12回> ① natural speed の中でも、毎分 160words 程度の fast speed speech の教材の逐次通訳 ② 時事ニュースのシャドーイング練習 ③ 現場からのニュースレポート(fiction)の逐次・同時通訳</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業テキストと宿題用のテキストと二冊予定。1回目の授業で指定します。		毎週のディクテーションの宿題、毎週の単語テスト、授業中の通訳、定期試験の総合評価	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	通訳Ⅱ 通訳Ⅱb	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>通訳の勉強を始めて1年半が経過したこの頃になると、日本語を選びながら落ち着いた態度で訳することができる学生が多い。</p> <p>後期では、ポーズ無しに5分以上メモを取り続け、後でまとめて通訳する力を身に付けてほしい。</p> <p>しかしながら、この段階まで上達して今更ながら悟ることは、「知らない単語は聴き取れない」という厳然たる事実である。語彙増強の必要性を実感してほしい。高度な内容のインタビューの通訳では、語彙がポイントになるのだ。</p> <p>また、高度な内容の話し手は早口である場合が多い。どうすればよいかと言うと、この段階になっても、shadowing が功を奏す。まずは原稿を見ながらの Shadowing で単語や表現に慣れること、次に、何も見ずに shadowing できるようになること。そうすれば、どんなに早口の英語でも聴き取りやすくなる。</p> <p>常に意識しておいてほしいことは、通訳らしい、洗練された日本語を駆使できているかという点である。</p>		<p><第1回> 【重要】定員を超えた場合、1回目の授業中に選抜するので、各自、必ず、TOEIC (TOEFL, 英検等もあれば) スコアのコピーを持参すること。時間厳守。 「通訳Ⅰ」を履修していることが望ましいが、履修要件を満たし「通訳Ⅱ」から始める学生もいるので、まず、通訳の基礎、身につけるべき能力や技術について説明する。次に、それを身につけるにはどのような訓練が必要かについて話した後、早速実践的な訓練を開始する。 各自、夏休みについてスピーチをし、誰かがそのスピーチの通訳を担当する。</p> <p><第2回～12回> ① 資系企業 CEO のインタビュー(抜粋)逐次・同時通訳 ② 外資系企業オフィスで飛び交う会話、会議やプレゼンテーションの通訳 ③ 米大統領や国際的著名人のインタビュー(抜粋)の逐次通訳</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
前期のテキストを引き続き使用する。他にプリントを配布します。		毎週のディクテーションの宿題、毎週の単語テスト、授業中の通訳、定期試験の総合評価	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語ビジネス・コミュニケーション 英語ビジネス・コミュニケーション I a	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的・講義概要は春・秋学期共通です)</p> <p>国際化時代にあつて、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。</p> <p>しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単な英文レターさえ書けないのが現状である。簡単なビジネスレターやメールを英語で書けたらどんなに素晴らしいことでしょう。ビジネス英語に馴染みのない初心者にはビジネス英語の基本を一年間かけて分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>ただ、半期12回、通年で24回の授業回数ですので、できれば一年を通して履修する学生を対象にしたいと思っています。春学期12回の履修、或いは秋学期12回の履修では当然ながら社会に出て通用するような英語力はつきません。こういう履修の仕方をしていると全部中途半端な勉強になってしまい、大学で何を勉強したのか分からなくなってしまう。半期履修は良い面も勿論ありますが、悪い面もあります。</p> <p>次に、外資系企業、航空業界、貿易会社、(下に続く)</p>		<p>(1) Business English を学ぶにあつて</p> <p>(2) ビジネスレターの形式</p> <p>(3) 効果的なビジネスレターを書くための10のポイント</p> <p>(4) 取引の申し込み</p> <p>(5) 取引の申し込みに対する応答</p> <p>(6) 引合い</p> <p>授業の最初に「経済一口講座」と称して、その時々話題になっている経済問題を新聞(英字新聞も含む)から取り上げて、易しく解説し、経済問題に親しんでもらいたいと思っています。同時に、就職活動の一助になればと思っています。</p> <p>授業計画はあくまで通年で計画しておりますので、大体の目安と考えてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
海老沢 達郎著『Business Writing---英文ビジネスレター入門』金星堂		学期末の試験を中心にして、これにレポート及び授業への貢献度を参考にして総合的に評価する。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語ビジネス・コミュニケーション 英語ビジネス・コミュニケーション I b	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上から続く)</p> <p>メーカーの国際部、金融関係、ホテル業界、旅行代理店等で英語を使用して働きたいという学生を対象に講義を進めていきたいと思っています。将来役に立つ実践的な英語ビジネス・コミュニケーションの講義であると同時に、アカデミックな講義を目指していますので、通年での履修を希望いたします。</p> <p>具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。また、Business English を国際語である英語を使用して、ビジネスを促進させるためのビジネス・コミュニケーションとしてとらえ、効果的なビジネスレターの書き方を例を挙げて説明・指導する。また、就職活動に必要な英文履歴書とカバーレターの書き方を分かりやすく説明・指導する。</p> <p>一緒に一年間勉強しましょう。そして、英語学科の学生として、英語ビジネス・コミュニケーションの基本ぐらいは勉強して卒業してもらいたいと思っています。</p>		<p>(7) 英文履歴書とカバーレターの書き方</p> <p>(8) オファー</p> <p>(9) オファーに対する応答</p> <p>(10) 信用状</p> <p>(11) 積出し</p> <p>(12) クレーム</p> <p>授業の最初に「経済一口講座」と称して、その時々話題になっている経済問題を新聞(英字新聞も含む)から取り上げて、易しく解説し、経済問題に親しんでもらいたいと思っています。同時に、就職活動の一助になればと思っています。</p> <p>授業計画はあくまで通年で計画しておりますので、大体の目安と考えてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上に同じ		学期末の試験を中心にして、これにレポート及び授業への貢献度を参考にして総合的に評価する。	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語ビジネス・コミュニケーション(木3) 英語ビジネス・コミュニケーションIa(木3)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階におけるビジネス通信文(Business Correspondence)を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。</p> <p>具体的には、貿易取引の各段階ごとに(右記参照)、私が収集したビジネス通信文の現物(固有名詞を架空のものに変更するなど、若干の調整を加えてある)の内容を詳細に検討し、さらに下記テキストを用いて、相当する単元(春学期はUnit1~11)にける実務知識、通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)、および専門語彙(technical terms)を学ぶとともに、通信文の作成(和文英訳)と読解(英文和訳)の訓練を行います。また、毎月1回(春学期は5月、6月、7月の最初の授業時)、テキストを出題範囲とする語彙力診断テスト(vocabulary check)を実施しますので、履修者は教室外でも自主的に語彙力増強に努めなければなりません。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p>*注意: <u>このシラバスは木曜日3時限の授業のもので、私の担当するもう1つの同一名称科目とは内容が異なります。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2 「市況」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 3 「取引先の発見」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 4 「取引の申込み」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 5 「信用照会」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 6 「引合い」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 7 「引合いに対する返事」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 8 「オファー」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 9 「カウンターオファー」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 10 「注文」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 11 「注文の受諾と謝絶」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 12 春学期の授業の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
杉山晴信『ビジネス英語 21 アプローチ』(北星堂)配布プリント		出席状況、授業貢献度、語彙力診断テストの得点など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語ビジネス・コミュニケーション(木3) 英語ビジネス・コミュニケーションIb(木3)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的と進め方は春学期と同じですが、秋学期に検討するビジネス通信文は、後半の単元(Unit12~21)に相当する取引段階(右記参照)のものになります。また、秋学期の語彙力診断テストは10月、11月、および12月のそれぞれ最初の授業の冒頭を実施する予定です。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p>*注意: <u>このシラバスは木曜日3時限の授業のもので、私の担当するもう1つの同一名称科目とは内容が異なります。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2 「成約」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 3 「信用状の開設と訂正」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 4 「海上保険」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 5 「輸出手配」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 6 「船積」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 7 「輸入手配」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 8 「決済」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 9 「クレーム」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 10 「クレーム調整」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 11 「紹介・推薦・社交文」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 12 秋学期の授業の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
杉山晴信『ビジネス英語 21 アプローチ』(北星堂)配布プリント		出席状況、授業貢献度、語彙力診断テストの得点など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語ビジネス・コミュニケーション(木4) 英語ビジネス・コミュニケーションIa(木4)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、モノ・カネ・書類の流れを理解することに尽きます。この授業は、このうちの「書類」、すなわち各種の貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business Documentation)の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得することがねらいです。</p> <p>具体的には、工業製品(manufactured goods)の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。春学期は、<u>成約にいたるまでの段階に関する代表的な英文の書類として、レター・オブ・インテント(letter of intent)、一般取引条件(general terms and conditions of business)、スポット売買契約書(spot sales contract)、長期売買契約書(long-term sales contract)、取扱説明書(instruction manual)等を扱います。</u></p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p>*注意： このシラバスは<u>木曜日4時限</u>の授業のものです。私の担当するもう1つの同一名称科目とは内容が異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2 レター・オブ・インテントの意義と目的、作成上の注意点等を説明した後、実際のサンプルを検討します。 3 同上 4 所与の状況設定に基づき、レター・オブ・インテントを作成する実習を行います。 5 同上 6 スポット販売契約書(売主側作成)、スポット購買契約書(買主側作成)、および長期売買契約書(両当事者が作成)の意義と目的、作成上の注意点等を説明した後、実際のサンプルの「表面約款」を中心に検討します。 7 同上 8 一般取引条件(general terms and conditions)、すなわち「裏面約款」の意義と目的、作成上の注意点、書式の闘い(battle of forms)等を詳しく説明した後、主要な条件を中心に実際のサンプルを検討します。 9 同上 10 製品の取扱説明書を英語で作成する際の注意点を、製造物責任(Product Liability)の観点から検討します。 11 同上 12 春学期の授業の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを当方で用意します。また、必要な資料も随時配布します。		出席状況、授業貢献度、提出物の提出状況など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語ビジネス・コミュニケーション(木4) 英語ビジネス・コミュニケーションIb(木4)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的と進め方は春学期と同じです。秋学期は、<u>履行と決済の段階に関する代表的な英文の書類として、商業送り状(commercial invoice)、梱包明細書(packing list)、輸出申告書(export declaration)および輸入申告書(import declaration)、荷為替信用状(documentary letter of credit)、船荷証券(bill of lading)等を扱い、それぞれに対する作成または読解の要領を学びます。</u></p> <p>春学期と同様に、きわめて専門性の高い多くの英文文書を扱いますので、予備知識はまったく必要ありませんが、履修者にはコンスタントな出席と積極的な授業参加を強く要望いたします。</p> <p>なお、右の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p>*注意： このシラバスは<u>木曜日4時限</u>の授業のものです。私の担当するもう1つの同一名称科目とは内容が異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2 各種の船積書類(shipping documents)の意義と目的、作成上または読解上の注意点等を説明します。 3 商業送り状と梱包明細書につき、実際のサンプルを検討した後、所与の状況設定に基づいてそれらの書類を正確に作成する実習を行います。 4 同上 5 船荷証券のサンプルを検討し、記載事項を正確に読解する実習を行います。 6 通関手続(customs clearance)について詳しく講義した後、輸出申告書と輸入申告書の意義と目的、作成上の注意点等を実際のサンプルを用いて説明します。 7 所与の状況設定に基づき、輸出申告書を作成する実習を行います。 8 同上 9 所与の状況設定に基づき、輸入申告書を作成する実習を行います。 10 同上 11 荷為替信用状のサンプルを検討し、記載事項を正確に読解する実習を行います。 12 秋学期の授業の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを当方で用意します。また、必要な資料も随時配布します。		出席状況、授業貢献度、提出物の提出状況など、平常点を第一に尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06年度(春) 03~05年度(春)	英語ビジネス・コミュニケーション 英語ビジネス・コミュニケーション I a	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語(English for business)である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント(英文ビジネスコラム)の3蘇構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使っでの演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ビジネス英語の特徴 2 プリント①(英文ビジネスコラム) 3 国際取引概略 I 4 プリント② 5 国際取引概略 II 6 プリント③ 7 引合(inquiry) 8 プリント④ 9 オファー I (offer) 10 プリント⑤ 11 オファー II 12 プリント⑥ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスライターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表/リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	英語ビジネス・コミュニケーション 英語ビジネス・コミュニケーション I a	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語(English for business)である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント(英文ビジネスコラム)の3蘇構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 契約 1 (contract) 2 プリント⑦ 3 契約 II 4 プリント⑧ 5 クレーム I (claim) 6 プリント⑨ 7 クレーム II 8 プリント⑩ 9 企業内組織の英語 <p>授業と平行して、10月下旬からはなしリサーチペーパーの作成を予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスライターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表/リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。	

03～05 年度（春）	英語ビジネス・コミュニケーションⅡa	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>主に貿易取引の当事者間でやりとりされる英語のビジネス通信文を検討しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流に興味のある人、貿易商社への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易取引の全体にわたって満遍なく勉強することを狙いとしています。</p> <p>春学期には、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分して、右記のように、その前半（貿易マーケティングの段階、取引関係創設の段階、成約段階）を詳しく学習します。</p> <p>使用するテキストは英文ですが、履修者はあらかじめ所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業はテキストの内容を補助プリントで敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書（信用調査報告書、一般取引条件、注文書、売約書、インボイス、船荷証券、保険証券、輸出申告書等々）に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に文書を作成したりする実習の機会もできるだけ多くもうけるつもりです。なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の授業計画を説明するとともに、履修上の注意事項を伝達します。 2 テキスト Part 1 を読み、貿易の基本概念（比較優位、貿易関係機関、関税、貿易形態など）を学びます。 3 同上 4 テキスト Part 2 を読み、貿易実務の遂行手順を主に輸出者の視点から6つの段階に区分し、概観します。 5 テキスト Part 3 および Part 4 の第 1 章を読み、ビジネス・コミュニケーションが貿易取引の遂行と促進に果たしている役割を学びます。 6 テキスト Part 4 の第 2 章と第 3 章を読み、貿易マーケティングの段階（市場調査、販売戦略調査など）および取引関係創設の段階（取引先の発見、取引の申込み、信用調査など）について学びます。 7 同上 8 同上 9 テキスト Part 4 の第 4 章～第 6 章を読み、成約段階（一般取引条件の取決め、インコタームズの定型貿易条件、オファー、注文など）について学びます。 10 同上 11 同上 12 春学期の授業の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊東ほか『現代商業英語読本』（英潮社新社）配布プリント		出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

03～05 年度（秋）	英語ビジネス・コミュニケーションⅡb	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的と進め方は春学期と同じです。秋学期は、右記のように、輸出者の視点から時系列的に区分した貿易取引の6つのステージの後半（履行段階、決済段階、クレームおよびクレーム調整の段階）を詳しく学習します。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋学期の授業計画を説明するとともに、履修上の注意事項を伝達します。 2 テキスト Part 4 の第 7 章を読み、履行段階（船腹予約、輸出申告、輸出許可と輸出承認、各種の船積書類、船積手続きなど）について学びます。 3 同上 4 同上 5 同上 6 テキスト Part 4 の第 8 章を読み、決済段階（荷為替手形の取組み、為替リスクの回避方法など）について学びます。 7 同上 8 テキスト Part 4 の第 9 章を読み、海上貨物保険全般（保険者と被保険者、保険金と保険金額、保険料と保険料率、新旧協会貨物約款による各種の保険条件など）について学びます。 9 同上 10 テキスト Part 4 の第 10 章を読み、クレームおよびクレーム調整の段階（苦情とクレーム、クレームの種類と原因、商事仲裁など）について学びます。 11 同上 12 秋学期の授業の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊東ほか『現代商業英語読本』（英潮社新社）配布プリント		出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06年度(春) 03~05年度(春)	メディア英語 I メディア英語 I a	担当者	W.Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of the course is to develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss current events and trends in world affairs. We will look at seven major current topics over the course of a year, devoting three classes to each one. (This may change according to the importance of the topic.) Initially, we will analyze each topic through articles drawn from a range of English-language publications or video clips. Further research into the topics will be done for homework, leading to group presentations done in class. We will also look at political cartoons, the language of news and the news process. There will be occasional quizzes on current events.		1. Course outline. A look at some common media vocabulary. 2. Review of main news stories of recent months 3. Topic 1 4. Topic 1 (contd.) 5. Topic 1 (contd.) 6. Topic 2 7. Topic 2 (contd.) 8. Topic 2 (contd.) 9. Topic 3 10. Topic 3 (contd.) 11. Topic 3 (contd.) 12. Review of term's work	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopied articles provided by teacher and video		Test at end of each semester; attendance; active participation in class.	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	メディア英語 I メディア英語 I b	担当者	W.Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of the course is to develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss current events and trends in world affairs. We will look at seven major current topics over the course of a year, devoting three classes to each one. (This may change according to the importance of the topic.) Initially, we will analyze each topic through articles drawn from a range of English-language publications or video clips. Further research into the topics will be done for homework, leading to group presentations done in class. We will also look at political cartoons, the language of news and the news process. There will be occasional quizzes on current events.		1. Course outline. A look at some common media vocabulary. 2. Review of main news stories of recent months 3. Topic 1 4. Topic 1 (contd.) 5. Topic 1 (contd.) 6. Topic 2 7. Topic 2 (contd.) 8. Topic 2 (contd.) 9. Topic 3 10. Topic 3 (contd.) 11. Topic 3 (contd.) 12. Review of term's work	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopied articles provided by teacher and video		Test at end of each semester; attendance; active participation in class.	

06年度(春) 03～05年度(春)	メディア英語 I メディア英語 I a	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的・講義概要は春・秋学期共通です)</p> <p>国際化時代にあつて、国際語としての英語の重要性は極めて高いので、本講義では、「英字新聞丸かじり」と称して、「英字新聞の基本的な読み方」を指導し、これに対応する授業にしたいと思っています。</p> <p>しかし、TOEICで900点を取得しても英字新聞を読みこなすことはできません。また、大半の学生が卒業しても、英字新聞を読めないのが現状であります。英字新聞をある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。英字新聞に馴染みのない学生に英字新聞の読み方を一年間かけて分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>ただ、半期12回、通年で24回の授業回数ですので、できれば通年で履修する学生を対象にしたいと思っています。春学期12回の履修、或いは秋学期12回の履修では当然ながら社会に出て通用するような英語力はつきません。こういう履修の仕方をしてしまうと全部中途半端な勉強になってしまい、大学で何を勉強したか分からなくなってしまいます。半期履修は良い面も勿論ありますが、同様に悪い面もあります。</p> <p>次に、外資系企業、航空業界、貿易会社、(下に続く)</p>		<p>(1) 英字新聞を読む意義について</p> <p>(2) 英字新聞の特徴について</p> <p>(3) Headline (見出し) の読み方</p> <p>(4) Lead (記事の第1節) の読み方</p> <p>(5) 社会面の記事の読み方</p> <p>(6) 英字新聞でよく使用される語彙の勉強</p> <p>(ここからは、春・秋学期共通です)</p> <p>授業の最初に、「その週のトピックス」と称して、大きな問題となったトピックスを紹介して、新聞に親しんでいくと同時に、新聞特有の語彙を覚えてもらいます。同時に、就職活動の一助になればと思っています。</p> <p>授業計画はあくまで通年で計画しておりますので、大体の目安と考えて下さい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験を中心にして、これに授業への貢献度を参考にして総合的に評価する。	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	メディア英語 I メディア英語 I b	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上から続く)</p> <p>メーカーの国際部、金融関係、ホテル業界、流行代理店等で、英語を使用して働きたいという学生を対象に講義を進めていきたいと思っています。将来役に立つ実践的なメディア英語の講義であると同時に、アカデミックな講義を目指していますので、通年での履修を希望いたします。</p> <p>具体的に講義を説明いたします。本講義では、「英字新聞丸かじり」と称して、英字新聞の読み方の基本を勉強していきます。プリントを使用して、英字新聞を読む意義、英字新聞の特徴、Headline (見出し) の読み方、Lead (記事の第1節) の読み方などの基本をまず指導していきます。次に、具体的に、社会面・政治面・経済面・国際面の記事、社説の読み方、コラムの読み方、オピニオン欄の読み方などを勉強していき、英字新聞全体をある程度読みこなす力を養成していきたいと思っています。</p> <p>新聞は日本で発行されている英字新聞を中心にして、New York Times, Washington Post 紙のようなアメリカの主要な新聞も取り上げます。一緒に一年間勉強しましょう。そして、英語学科の学生として、英字新聞をある程度読みこなして卒業してもらいたいと思っています。</p>		<p>(7) 政治面の記事の読み方</p> <p>(8) 経済面の記事の読み方</p> <p>(9) 国際面の記事の読み方</p> <p>(10) 社説の読み方</p> <p>(11) コラムの読み方</p> <p>(12) オピニオン欄の読み方</p> <p>(13) 英字新聞でよく使用される語彙の勉強</p> <p>(ここからは春・秋学期共通です)</p> <p>授業の中で、「英語で何と言うの?コーナー」を設けて、英語でどう表現しているかを学びます。例えば、「談合、天下り、賞味期限の切れた、帰省客、ノロウイルス、経済格差」と言ったその時々話題となった問題を取り上げて紹介し、解説していきます。このように、本講義は、「英字新聞丸かじり」の授業です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験を中心にして、これに授業への貢献度を参考にして総合的に評価する。	

06年度(春) 03～05年度(春)	メディア英語 I メディア英語 I a	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカ国内でのテレビニュースの英語は、かなり速度が早い。使われる単語は一音節の短いものが多く、文章は短文が多用される。また、ニュースに緊張感・臨場感を持たせるために、不完全文が使われる傾向がある。</p> <p>このような英語に慣れるため、この授業ではビデオやテープを用いて、アメリカのテレビニュースを聞き取る練習をする。何度も繰り返し聞くことにより、ニュースの内容をより多く把握できるようになることがこの授業の目標である。</p> <p>また、新聞で使われる英語も一種独特であるから、これにも習熟する必要がある。新聞英語の特徴を把握し、実際に記事を読んで、その特異性に慣れるようにする。</p> <p>更に、ラジオ(FEN)や映画を活用して、ヒヤリングの上達を目指す。</p> <p>つまり、様々なメディアで使われる英語に慣れること、英語を聞き取る力を養うこと、がこの授業の目的である。</p>		<p>テキストは15課から成り立っているが、I回に1課終わらせ、春学期は8課まで進む予定。</p> <p>この他、新聞、ラジオの英語についても学んでいく。</p> <p>また、ヒヤリングの能力を向上させるため、映画のビデオも活用する計画である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>ABC World News 9</i> 金星堂</p> <p>参考書は授業において適宜指示する。</p>		<p>出席状況、予習して授業に臨んだか否か、期末の試験、などにより評価が決定される。</p>	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	メディア英語 I メディア英語 I b	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ</p>		<p>秋学期はテキストの9課から最後の課(15課)まで終わらせる予定。</p> <p>春学期同様、新聞、ラジオの英語についても学ぶ。</p> <p>また、映画のビデオも活用の予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ</p>		<p>春学期と同じ</p>	

06年度(春) 03～05年度(春)	メディア英語 I メディア英語 Ia	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 英国のBBCニュースをビデオで観て聴くことを通じて時事英語の読解力と聴解力を養います。世界の色々な話題に、生きたBBC Englishを通じて触れることで、異なる考え方、文化、社会の一端を理解出来れば幸いです。</p> <p>講義概要： 1. 時事英語の構成やルールなどを学ぶ。 (1) ヘッドラインの読み方 (2) リードの読み方 (3) 特徴のある構文等 2. 各種メディアの記事を読み、内容の要約の練習。 3. イギリス英語の代表とも言われるBBC English にビデオとCDで親しみ、理解出来るようにする。 4. それぞれ興味のある話題を選び、発表又はディスカッションをする。</p> <p>進度は皆さんの様子を見ながら、必要に応じて調整していきます。</p>		<p>1. Introduction 2-3. Unit 1. "Britishness" Test for Foreigners 4-5. Unit 2. Mozart's 250th Anniversary 6-7. Unit 3. Indonesian Volcano Erupts 8-9. Unit 4. Same-sex Marriage 10-11. Unit 5. Rebuilding Beijing 12. Examination</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：Onoda, S., Cooker, L., <i>BBC Understanding the News in English 4</i>, 2007. 金星堂</p>		<p>出席状況、授業への参加度、宿題、発表、試験などから総合的に評価します。</p>	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	メディア英語 I メディア英語 Ib	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>上記の春学期に同じ。</p>		<p>(春学期からの続き。)</p> <p>1-2. Unit 6. British Police in Germany for the World Cup 3-4. Unit 7. Are we Happy? 5-6. Unit 8. Lessons from Steiner Schools 7-8. Unit 9. Historic Holiday 9-10. Unit 10. Evidence Links Red Meat to Bowel Cancer 11. Review 12. Final Examination</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期に同じ。</p>		<p>春学期に同じ。</p>	

06年度(春) 03~05年度(春)	メディア英語 I メディア英語 I a	担当者	金子 節也
講義目的、講義概要		授業計画	
日米関係、ハイテク、日欧関係、アジア問題等の専門家・第一人者へのインタビューを中心に、日本の今後の進路と他国との協調共存を考える。テキストのほか、インターネット、英字新聞をはじめ、CNN、ABC、BBCなどの英語放送やサブテキストを使って、テキストを renewal する。		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 日米関係 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 日欧関係 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. アジア関係 11. 同上 12. 同上 	
テキスト、参考文献		評価方法	
I Too, Am a Bit of a Workaholic, but...(テキスト)、ほか		テストと出欠を含む平常点。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	メディア英語 I メディア英語 I b	担当者	金子 節也
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<ol style="list-style-type: none"> 1. 指導者たちの英語 (ブッシュ、ブレアーなど) 2. 同上 3. 同上 4. アジア英語 (シンガポール、マレーシアなど) 5. 同上 6. 同上 7. 日本人の英語 (小泉首相、長谷川滋利選手など) 8. 同上 9. 同上 10. 共通語としての英語 11. 同上 12. 同上 	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

06年度(春) 03~05年度(春)	メディア英語 II メディア英語 II a	担当者	A.R. Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. By the end of the Spring term students should be able to use POWER POINT for at least one presentation PER TERM! The use of email to submit homework is COMPULSORY. Those who cannot nor will not need not apply to this class.</p>		<p>Introduction Route 66, Weekly Current Event The American RED Cross, Weekly Current Event The Boston Ballet, Weekly Current Event Comedy, Weekly Current Event Political Protest, Weekly Current Event The Yellow Pages, Weekly Current Event The Dangers of Fast Food, Weekly Current Event The JOYS of Italian Cooking, Weekly Current Event Healthy Life Styles, Weekly Current Event Supermarkets, Weekly Current Event Apples in the US Northwest, Weekly Current Event</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be determined		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	メディア英語 II メディア英語 II b	担当者	A.R. Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. Students will use POWER POINT for at least one presentation this term. As in the Spring term, students will submit homework by email. Students will be filmed by video camera and will be responsible for one presentation this term in a group project.</p>		<p>Introduction Tennessee, Weekly Current Event The Special Olympics, Weekly Current Event Sports Shoes, Weekly Current Event Charities for Children, Weekly Current Event Health and Comedy, Weekly Current Event Broadway Musical, Weekly Current Event Country Western Singers, Weekly Current Event Space Exploration, Weekly Current Event Video Taping of Group Project Part One Video Taping of Group Project Part Two Critique of the Group Projects</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be determined		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation	

06年度(春) 03~05年度(春)	メディア英語Ⅱ メディア英語Ⅱa	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><i>ABC World News 9</i> という、ABC のニュース番組を取 めたテキストをビデオを見ながら、Listening Compre- hension と、物事を批判的に見る目線を養う。</p> <p>「メディア英語」というのが本講座のタイトルである が、どの授業でも聞いたことのあるであろう、Topic Sentence, Supporting Facts, Concluding Sentence という 文章を書く構造は、ニュース番組においても変わりはない。 まずはそのパターンを再度学び、それから実際にニュー ースに入っていきたい。</p> <p>“Yo, man, how ya doin’?” 程度の英語を話すことなどた やすいが、例えば、このテキストで扱われているフランス の若者の雇用問題を英語でディスカッションするには、 ある程度の知識、社会に対しての engagement の意識、 さらに自分の政治的な立場というものが必要とされる。つ まり、自分を politicize することが必要とされる。</p> <p>ツールとしての英語を学ぶだけでなく、偏狭な日本から 精神的に出て、cosmopolitan になりたい学生を望む。し かし同時に、普段、J-POP などという、偏狭なジャンルの 音楽を聞いて満足している学生には、自分を politicize す る良いチャンスだとも思って授業に参加して欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Helping Hands 3. ditto 4. Global Warming 5 ditto 6. Pand School 7. ditto 8. Ukraine: Chernobyl Anniversary 9. ditto 10. Tired Teens 11. ditto 12. The Housing Bubble: Boom or Bust? 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>ABC World News 9</i> (金星堂)		テスト、および授業への participation。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	メディア英語Ⅱ メディア英語Ⅱb	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>引き続き、同じテキストを読む。自分を politicize する 作業は続く。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期テストの返却と講評 2. The Good Doctor 3. ditto 4. War Radio 5. ditto 6. A Closer Look: Living Longer 7.ditto 8. Paris Protests 9. ditto 10. China Inc. 11. ditto 12. Smoking Ban 	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		テスト、および授業への participation。	

06年度(春) 03～05年度(春)	シネマ英語 シネマ英語 a	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>百年前の映画も、ビデオで日常的に観ることができる世の中となった。こういう時代に生きて、「映画」を放っておくことはないと思う。芸術、教養として、また、娯楽として、映画をもう一度考え直してみることが必要ではないだろうか。この授業では、映画に関する様々なことを学んでいく。そして、映画の歴史について学ぶことにより、アメリカ文化についての理解を深めるのが、この授業の目標の一つである。</p> <p>授業では、テキストの精読だけでなく、他の参考書(抜粋のプリント)もできる限り用いる予定。英語を読む力を培うのがこの授業のもう一つの大きな目標である。</p> <p>また、出来るだけビデオを利用して、映画について様々なことを学んで行く予定。少なくとも、映画が嫌いでない、できれば、映画が好き、という人に受講してもらいたい。</p>		<p>(初期の映写機; 映画の誕生; 特殊効果はどのようにして生まれたか; 最初のスタジオ; トーキーの出現; 初期のハリウッド; 30年代に活躍した俳優たち) などについて学ぶ計画。</p> <p>また、過去の名画を数本鑑賞の予定である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『楽しい映画文化史』 成美堂		出席回数、予習をして授業に臨んだか否か、試験、などによって総合的に評価する。	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	シネマ英語 シネマ英語 b	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期と同じ。</p>		<p>(ハリウッドとスター・システム; 検閲とヘイズコード; カラー映画の出現; アニメ映画の製作; セルの活用; ディズニー映画) などについて学んで行く予定。</p> <p>前期同様、過去の名画を鑑賞する計画である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『楽しい映画文化史』 成美堂		出席回数、予習をして授業に臨んだか否か、試験、などによって総合的に評価する。	

06年度(春) 03~05年度(春)	シネマ英語 シネマ英語 a	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今までは1学期に1本の映画を通して観ていましたが、今回からは春学期、秋学期にそれぞれ複数の映画を扱います。(もちろん、春、秋のみの受講も可能です。)進め方ですが、受講生に各自、事前に、図書館、語研 AV ライブラリー、あるいはビデオ・DVD のレンタル・ショップなどを利用して、映画を鑑賞して、ストーリーを頭に入れてもらい、教室では抜粋したセグメントを使って、大切な場面の聞き取り練習をします。また、火曜日5限を利用した鑑賞会を予定しているので、そちらも利用してください。(下欄左側に続く)</p> <p>(春学期予定作品)</p> <p>『卒業』(<i>The Graduate</i>) 1967</p> <p>『明日に向かって撃て』(<i>Butch Cassidy and the Sundance Kid</i>) 1969</p>		<p>春学期ですが60年代後半の「アメリカン・ニュー・シネマ」といわれるジャンルから選びました。ヴェトナム反戦や学生運動を背景に若者たちのカウンター・カルチャー(対抗文化)が炸裂した時代です。「30を過ぎた大人は信用するな」が合言葉でした。ディランが「時代は変わる」を歌っていました。取り上げるのは、サイモンとガーファングルの音楽と、ダスティン・ホフマンが彼女を花嫁衣裳ごとさらってくる最終場面が心に残る『卒業』と、古臭い西部劇に全く新しい若者の感性を持ち込んだ『明日に向かって撃て』の予定です。</p> <p><u>*なお、教材の入手が不可能な場合、作品変更の可能性がある点を了解ください。</u></p> <p>*TOEIC等のレベルによる既修条件に注意してください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストのダウンロード方法は初回の授業で説明します。初日の5限に『卒業』の上映会をします(会場は掲示します、終了は6時半頃予定)。来られない人は他の方法で観ておくこと。映画を観ていない人は2回目からの授業に参加できません。</p>		<p>予習・復習を含む平常点、小テストと小レポート、学期末レポートの総合による。</p>	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	シネマ英語 シネマ英語 b	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上欄左側より)しかし、字幕なしの映画を教材にした授業はなかなか難しいものです。日常会話のスピードについていくことや、クセや訛りのある英語を聞き取る難しさは想像できると思いますが、聞き取りは耳の問題だけではないのです。使われている単語や構文を知らない限り、いくら音を理解したところで意味は取れません。したがってこの授業には、十分な基礎英語力とたゆまぬ努力が必要になります。内容は楽しくても、決してラクな授業ではないので、覚悟して来てください。なお、私は英語が母語とする者ではありませんが、教室内では出来るだけ日本語を使わないで授業をすすめたいと考えていきます。春・秋学期に共通していることですが、セリフの聞き取りを中心とした「英語力」強化に加えて、作品の背後に隠されている「時代の精神」や「社会問題」についても考えることが要求されます。「アメリカ英語」を学習して「アメリカ文化」を読み解く授業です。</p>		<p>秋学期には、やはりアメリカを題材とした「ロード・ムービー」といわれるジャンルから、代表作3本を取り上げます。『イージー・ライダー』『パリ、テキサス』『テルマとルイズ』です。春学期に較べると、内容的には社会的にも、また人生論としても複雑なテーマを扱っている作品で、考えさせられるところも大きいのですが、それだけにクラスでは大人のディスカッションが期待できそうです。</p> <p>(秋学期予定作品)</p> <p>『イージー・ライダー』(<i>Easy Rider</i>) 1969</p> <p>『パリ、テキサス』(<i>Paris, Texas</i>) 1984</p> <p>『テルマとルイズ』(<i>Thehlna and Louise</i>) 1991</p> <p><u>*なお、教材の入手が不可能な場合、作品変更の可能性ある点を了解ください。</u></p> <p>*TOEIC等のレベルによる既習条件に注意してください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストのダウンロード方法は初回の授業で説明します。初日の5限に『イージー・ライダー』の上映会をします(会場は掲示します、終了は6時半頃予定)。来られない人は他の方法で観ておくこと。映画を観ていない人は2回目からの授業に参加できません。</p>		<p>予習・復習を含む平常点、小テストと小レポート、学期末レポートの総合による。</p>	

02年度以前(春)	ドイツ語ⅢB(文章表現法)	担当者	永岡 敦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は平易なテキストを媒介にして、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文法知識の徹底と強化、 2. 将来に通じる読解力、訳出力の養成 <p>を図ります。併せてドイツ語検定2級合格を視野に入れて、種々の注意を喚起します(従って、すでに2級を取得している人は初回の講義の様子を見て履修するかどうか決めて下さい)。</p> <p>春semesterにおいては上述の1.に重きを置きます。すなわち典型的と目される文例を選択し、これを対象に冠飾句の付け替え、語順の入れ替え、そして時制、態の変換等を反復的に徹底演習します。これらは、たいてい直接の指名によって口頭(ないしは板書)での解答を求めることとなりますから、受講者の皆さんは突然の指名にも応えられるよう常に緊張感をもって出席して下さい。</p>		<p>受講者の人数と、前年度までの文法知識の集積度に左右されるため、シラバスの執筆段階でペースを定めることはできません。</p> <p>数回、経験則に基づく標準的な進捗で講義を行い、受講者の「レベル」を把握した上で改めて講義時に告知します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントにて配布。 独和辞典及び文法の資料(手持ちの参考書等)必携。</p>		<p>出席重視。最終講義時にペーパーテスト実施。正当な理由無く、連続して3回以上欠席した場合は名簿から削除することがあるので注意。</p>	

02年度以前(秋)	ドイツ語ⅢB(文章表現法)	担当者	永岡 敦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋semesterでは引き続き文法上の演習を繰り返しつつも、重点は上述の2.に移行させます。というのも、テキストの概要を把握すること自体は可能でも、これを「もともと日本語で書かれていた。」かのように他人に理解してもらうのは、なかなか容易なことではありません。個々の文と文との論理関係を的確に訳文に反映させることが必要です。授業ではこの点を重視して、単なる「逐語訳の堆積」からの脱却を図ります。</p>		<p>春semester中の受講者の有りよう(=受講態度や、私の発した設問に対する正答率)、また春semester終了時に実施したペーパーテストの結果を踏まえ、適切に対処します。受講者の希望を聴取した上で、配布するテキストの難度を上げる場合もあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春semesterに同じ。</p>		<p>春semesterに同じ。</p>	

02年度以前(春)	フランス語Ⅲ	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「国境なき医師団 (MSF)」の活動理念や活動事例が書かれたテキストを講読する予定である。毎時間、学生各自が予習したものを発表する形をとる。学生のレベルを見ながら、適宜文法説明を交えて進めていく。また学生の興味の対象についても話し合い、テキストを再考する場合もある。</p> <p>世界で何が起り、人々がそれにどのように対応しているかに目を向けるきっかけにしたい。</p>		<p>1. はじめに 2. ～12: 左記による。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Rony Brauman/Sachiko Sakurai: “MSF, un combat humanitaire”, Editions ASAHI (ロニー・ブローマン/櫻井幸子: ボランティアとその体験から (朝日出版))</p>		出席・試験 (原則として出席が 1/3 以下の学生には受験を認めない)	

02年度以前(秋)	フランス語Ⅲ	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
同 上		<p>1. はじめに 2. ～12: 同 上</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同 上		出席・試験 (原則として出席が 1/3 以下の学生には受験を認めない)	

02年度以前(春)	スペイン語Ⅲ	担当者	北岸 団
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅰ・Ⅱを一通り終了した者を対象とした授業です。</p> <p>授業では、スペインで発行されているスペイン語学習者向け短編小説、「探偵ペペ・レイ」シリーズを読んできます。初級文法で得られた知識で十分楽しみながら読んでいけるレベルのものです。ただ、日本人向けに編集されている物ではないので、一部初級文法では対応できない箇所(命令形、接続法など)がでてきますが、こうした点については必要に応じて文法的解説を加えていきます。</p> <p>初回授業でプリントを配布します。</p> <p>履修者は、次回授業までに下調べをし、授業時に発表(読み、訳出)することになります。</p>		<p>第1回 授業の進め方、プリント配布</p> <p>第2回以降 同プリント購読</p> <p>最終回 試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：プリント		試験と出席・発表状況(授業回数3分の1以上欠席で不可)を加味して評価する。	

02年度以前(秋)	スペイン語Ⅲ	担当者	北岸 団
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅰ・Ⅱを一通り終了した者を対象とした授業です。</p> <p>メキシコで発行されている教科書を使い、メキシコと他のラテンアメリカ地域の歴史を読み、スペイン語で知識を得ることを目標とします。</p> <p>購読対象が歴史であるため、過去形(点過去、線過去、大過去など)が中心となります。</p> <p>必要に応じて、文法的解説と内容の解説を行う予定です。</p> <p>初回授業でプリントを配布します。</p> <p>受講者は、次回授業までに特定された範囲まで下調べをし、授業時に発表(読み、訳出)することになります。</p>		<p>第1回 授業の進め方、プリント配布</p> <p>第2回以降 同プリント購読</p> <p>最終回 試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：プリント		試験と出席・発表状況(授業回数3分の1以上欠席で不可)を加味	

02年度以前(春)	フランス語会話 I	担当者	H. ドリエップ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>初級レベルで学んだ事柄を基礎にして、フランス人の教師を相手に、実際にフランス語で会話をしながら、基礎的な表現力を身につけ、発音やイントネーションをより完全なものにするためのクラスです。</p> <p>新たな言語学ぶ場合、基礎文法の理解が何よりも大切になりますが、覚えた文法事項を実際に使うこと、つまり、ヒアリングやスピーキングといった実践を並行して行うことで、より確実な語学習得が可能となります。</p> <p>この授業では、基本的な日常表現からはじめて、ゆっくりと、しかし確実に、フランス語の口頭表現能力を体得出来るようにします。具体的には、簡単な表現の反復練習、教師との対話練習、聞き取り練習を通じて、発音矯正、即答能力の向上、正確な聞き取りによる文法事項の再確認を行います。授業での積極的な参加が必要となります。</p> <p>確実にフランス語が上達します。</p>		教科書の基に沿って、授業を進めます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時指示します。		試験と平常点をもとに総合的に評価します。	

02年度以前(秋)	フランス語会話 I	担当者	H. ドリエップ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>同じ教師が担当する後期のフランス語Ⅲbでは、前期授業内容をさらに発展させた授業を行います。</p>		教科書の基に沿って、授業を進めます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時指示します。		試験と平常点をもとに総合的に評価します。	

02年度以前(春)	スペイン語会話 I	担当者	J. フェレーラス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語にないスペイン語の独特な「音」を一人一人にくりかえさせて、スペイン語らしい発音ができるようにするとともに聞き取り能力を養成する。</p> <p>スペイン語とともにボディーラングエジになれること。</p> <p>ビデオを用いながら会話、文化（世界遺産、生活、習慣など）を紹介。</p>		<p>季節ごとのスペイン語圏の国々の祝日、記念日、行事、慣習（イースター、学生の日、死者の日、など）をビデオや写真によって学ぶこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
本を使わず、その都度担当者が作成。		出席、授業への積極的な参加、小テストによる。	

02年度以前(秋)	スペイン語会話 I	担当者	J. フェレーラス
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

06年度(春)	英語学の世界	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、言語学の最近の発展から得られた知見を利用し、英語の特質を探り当てて英語そのものの理解を深め、英語についての知識を増やすことにあります。したがって、高校時代に習ってきた表現が「なぜそう言えるのに、こうは言えないの?」という素朴な疑問に対して、それなりに「なるほど!」と納得のいく理由のあることを説明していきます。</p> <p>この授業を受けると、例えば日本語で「ジョンに行くように説得したけれど、行かなかった」と言っても、“*I persuaded John to go, but he didn't go.”と言えない理由や、“I'm standing () the street.”のカッコに in と on が入るけど、意味が違うことも分かるようになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 機能的統語論 (情報構造、受身文、再帰代名詞) 2. ” 3. ” 4. 意味論 (語・句・節の意味、意味関係、前提と断定、) 5. ” 6. 認知意味論 (カテゴリー化、メタファー、メトニミー、イメージスキーマ、文法化、意味変化) 7. ” 8. ” 9. 語用論 (ダイクシス、発話行為、会話の含意、ポライトネス) 10. ” 11. 関連性理論 (コミュニケーションと解釈原則、表意と推意、概念的コード化と手続き的コード化) 12. ” 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリント (随時配布) を使います。参考書は随時紹介します。</p>		<p>試験と課題によります。(下を参照)</p>	

06年度(秋)	英語学の世界	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義内容は春学期と同じです。</p> <p>もう少し、この授業を受けると分かるようになる例を挙げておきます。</p> <p>(1) 沸くのは「やかん」ではなく「お湯」なのに、英語も日本語も「やかんが沸く」と言う。</p> <p>a. The kettle is boiling.</p> <p>b. ヤカンが煮えくり返っている。</p> <p>(2) 'write Mary a letter' と 'write a letter to Mary' は同じ意味だと習ったのに、bは言えない。</p> <p>a. John wrote a letter to Mary, but later he tore it up.</p> <p>b.*John wrote Mary a letter, but later he tore it up.</p>		<p>授業計画は春学期と同じです。</p> <p>言うまでもなく出席は大事です。参考資料として、昨年度秋学期の定期試験結果の評価を挙げておきますが、Fを取った受講生は欠席が多かったものと思われま。</p> <p>成績 AA: 9名 A: 21名 B: 29名 C: 18名 F: 24名</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリント (随時配布) を使います。参考書は随時紹介します。</p>		<p>試験と任意課題によります。</p>	

06年度以前(春)	言語情報処理 I a	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的]</p> <p>この授業では、言語が機械(コンピューター)可読の資料になったとき、それらをどのような方法で分析し、その結果をどのようなことに生かせるのかについて知り、考えることを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <p>コンピューター・データベース化された大量の言語資料を「コーパス」といい、近年では数多くの辞書や文法書、外国語学習書にその分析結果が生かされている。コンピューターを利用することにより、人間の目あるいは直感では知りえないことがわかっていくということがある。たとえば「男女の発話の違いをもっとも特徴付ける単語を5つ上げるとすると何か」とか、「日本の高校で使われている単語は、英字新聞の何%をカバーしているのか」といったことである。</p> <p>授業は、さまざまなジャンル、モード、発話者から集められたコーパスを、専用のソフトウェアを用いて分析する演習を中心に進められる。</p> <p>※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. コーパスとは何か：その特徴、種類、サンプル 3. コンピューターの基本操作(1)：テキストエディタ 4. コンピューターの基本操作(2)：MS Excel 5. コンピューターを利用した語彙分析 6. Readability の計算方法 7. British National Corpus (BNC) の紹介 8. 英語母語話者のコーパス分析(1)：英 vs. 米 9. 英語母語話者のコーパス分析(2)：男 vs. 女 10. 英語母語話者のコーパス分析(3)：書 vs. 話 11. 英語母語話者のコーパス分析(4)：古 vs. 新 12. 最終レポートの準備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

06年度以前(秋)	言語情報処理 I b	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的]</p> <p>春学期に引き続き、コーパス分析を行うが、今学期は受講生が自らの英語学習あるいは英語分析に必要なと思われるコーパスを作ること、それをより洗練された方法で分析する知識と方法を身につけることを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <p>WWW を中心とした膨大な電子データが身近にある昨今、それらはわれわれ英語学習者にとっての非常に有効な reference となり得る。本学期の前半は、受講生個々人が自分専用の参照資料となり得るようなミニ・コーパスの構築を行っていく。コーパスファイルを形成するにあたっての注意点、著作権への留意点を合わせて扱う。</p> <p>後半は、英語を母語としない人たちの発話(書き言葉を含む)を集めた、いわゆる「学習者コーパス」の分析を行う。そこで、日本人に特徴的な誤りや、中学生→高校生→大学生と学年が上がるにつれて見られる「発達の指標」などについて取り扱っていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. コーパスファイルの特徴 3. 自作コーパス(1) 4. 自作コーパス(2) 5. 自作コーパスの分析(1) 6. 自作コーパスの分析(2) → レポート 7. 学習者コーパスとは 8. 母語の異なる学習者コーパスの分析(1) 9. 母語の異なる学習者コーパスの分析(2) 10. 学年の異なる学習者コーパスの分析(1) 11. 学年の異なる学習者コーパスの分析(2) 12. 最終レポートの準備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

06年度以前(春)	言語情報処理 I a	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は英文データベース(以下コーパス)の構築(テキスト処理の方法、データの蓄積、検索、および統計的処理)とその分析を通じて、基本的な情報処理の概念を学ぶことを目的とする。英語とコンピュータの両方に関心があり、その関係を学んでみようとする学生向けの講義である。</p> <p>年間の講義の前半(言語情報処理 I a)は、Microsoft Excel(以下 Excel)の基本的機能および関数を中心とした利用方法を学ぶ。後期に Excel を使って言語処理を行うための準備である。コーパスの分析には専用のソフトウェアがいくつか開発されている。それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性がなく、また自由な発想からの分析には向いていない。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使う。その理由は各自の創造力でより自由な処理、研究が可能となるからである。同時に if 関数などをネストした関数式を考えることは、論理的な思考力を養う。さらに Excel の汎用性は言語処理に限るわけではないので、様々な場面で活用できるであろう。</p>		<p>1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か</p> <p>2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り</p> <p>3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等)</p> <p>4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に)</p> <p>5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に)</p> <p>6 Excel 関数(論理関数を中心に)</p> <p>7 Excel 関数のネスト</p> <p>8 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索)</p> <p>9 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル)</p> <p>10 データベース上のデータの蓄積方法</p> <p>11 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など</p> <p>12 演習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

06年度以前(秋)	言語情報処理 I b	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は英文データベース(以下コーパス)の構築(テキスト処理の方法、データの蓄積、検索、および統計的処理)とその分析を通じて、基本的な情報処理の概念を学ぶことを目的とする。</p> <p>本講義の前半(言語情報処理 I b)は、前期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作る。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を得る。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法を学ぶ。本講義の後半は、コーパス以外の言語分析を学ぶ。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析しながら学んでいく。</p> <p>本講義はいくつかのケース・スタディを紹介し、コンピュータから見た英語の特徴を様々な角度から探っていく。最後に各自で作ったコーパスや集めた言語資料を使って、各自リサーチ課題を設定し、レポートにまとめる。本講義で構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できる貴重な情報源となるだろう。</p>		<p>1 講義のガイダンス：コーパスとその応用</p> <p>2 Access 上にデータを格納</p> <p>3 Access のデータを引き出して Excel で分析</p> <p>4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。</p> <p>5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。</p> <p>6 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。</p> <p>7 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。</p> <p>8 最先端のコーパスの現状：体験アクセス</p> <p>9 「文体」をどうとらえるか。一文の長さ</p> <p>10 文の長さが意味するもの—標準偏差・変動係数</p> <p>11 語彙密度・K 特性値</p> <p>12 まとめと演習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

06年度以前(春)	言語情報処理Ⅱa	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、言語情報処理Ⅰよりもやや高度な情報処理技術および言語処理への応用を扱う。言語情報処理Ⅰで学んだ Excel とそれを利用した言語分析をさらに発展させていく。英語とコンピュータの両方に関心があり、深く学んでみようと考える学生向けの講義である。</p> <p>具体的には、Excel のマクロ言語である VBA(Visual Basic for Applications)を使ってプログラミングの基本をまず学習し、その後、その知識を使って言語分析ツールや e-ラーニング、また実用システムを構築できることを目指す。特に言語情報処理Ⅱa では VBA の基礎学習が主となるが、これは言語情報処理Ⅱb の準備でもある。特に英語の分析・教育・学習への応用を念頭に置いた講義内容とするが、修得したプログラミング技術は、自分のアイディア次第で様々な場面で応用ができるだろう。その意味で VBA の修得は講義終了後も貴重な知識として役立つだろう。</p> <p>*言語情報処理Ⅱは言語情報処理Ⅰを履修済みであるか、Excel の基本が理解できていることが必要である。</p>		<p>1 講義のガイダンス・言語情報処理の基本概念と本講義の概要</p> <p>2 自動記録によるマクロの作成と実行</p> <p>3 VBE(Visual Basic Editor)の使い方と簡単なマクロ作成</p> <p>4 VBA の基本概念</p> <p>5 変数の使い方と計算</p> <p>6 セルの扱い方(選択・絶対参照・相対参照)</p> <p>7 条件による分岐(1) : If...Then...Else...End If ステートメント</p> <p>8 条件による分岐(2) : With ステートメント</p> <p>9 条件による分岐(3) : 複数の条件による分岐</p> <p>10 条件による分岐(4) : 条件が多い時の分岐 Select Case ステートメント</p> <p>11 処理の繰り返し(1) : Do While...Loop</p> <p>12 処理の繰り返し(2) : Do ...Loop と Exit Do ステートメント</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>若山芳三郎著『学生のための Excel VBA』東京電機大学出版局 2004 年 本講義用サイト(http://www.yuchan.com/~gengojoho/)</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートを加味して行う。</p>	

06年度以前(秋)	言語情報処理Ⅱb	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、言語情報処理Ⅰよりもやや高度な情報処理技術および言語処理への応用を扱う。言語情報処理Ⅰで学んだ Excel とそれを利用した言語分析をさらに発展させていく。</p> <p>具体的には、Excel のマクロ言語である VBA(Visual Basic for Applications)を使ってプログラミングの基本をまず学習するが、特にⅡb では、始めにⅡa に引き続き VBA のプログラミング技法の修得に焦点を当てる。その後、言語に関連したマクロを作ってみる。たとえば言語分析ツールや e-ラーニング等、各自のアイディアでオリジナルのマクロを作ってみる。</p> <p>言語情報処理Ⅱでは、コンピュータと言語との関わりを言語情報処理Ⅰよりもやや広い視野で捉えることとする。言語情報処理Ⅰでは主に言語分析のためにコンピュータを利用することを考えたが、言語情報処理Ⅱでは、それだけでなく英語教育への応用や文書作成支援、教育支援などをコンピュータで実現する方法を考える。</p> <p>本講義の最終的な目的は、言語をコンピュータで情報処理するという「視点」を持つことである。</p>		<p>1 講義のガイダンス : Ⅱa で学んだことの復習</p> <p>2 処理の繰り返し(3) : For...Next ステートメント</p> <p>3 イベントプロシージャと Sub プロシージャ</p> <p>4 配列</p> <p>5 ユーザーインターフェース(1) : メッセージボックスの表示</p> <p>6 ユーザーインターフェース(2) : ユーザーフォームの作成(その1)</p> <p>7 ユーザーインターフェース(2) : ユーザーフォームの作成(その2)</p> <p>8 関数の利用</p> <p>9 ピボットテーブルによる集計・データベース</p> <p>10 プログラミング演習(1) : e-ラーニング・マクロを作ろう</p> <p>11 プログラミング演習(2) : 語彙リスト作成マクロを作ろう</p> <p>12 プログラミング演習(3) : 言語分析マクロを作ろう</p> <p>まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>若山芳三郎著『学生のための Excel VBA』東京電機大学出版局 2004 年 本講義用サイト(http://www.yuchan.com/~gengojoho/)</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートを加味して行う。</p>	

06年度(春) 03～05年度(春)	英語発音教授法 スピーチ・クリニック	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語教育に関心のある2年生以上を対象とする半期完結科目。免許課程登録者でなくても履修可。</p> <p>受講希望者は、英語音声学の基礎知識があること、発音記号を少なくとも読めることが必要である。</p> <p>コミュニケーション重視の教育の中で、発音指導は欠かせないものになっており、英語習得の初期段階でしっかりと発音指導をしておかなければならない。</p> <p>理論と実践を通して、子音、母音はもちろんであるが、より重要な、音の同化、弱形、連接、強勢とリズム、抑揚などについての教授法を学ぶ。</p> <p>下記のテキストと併せて中学校の教科書を教材として使い、実際に教授法を工夫し、発表する。毎回課題を出し、次の時間に presentation をしてもらう。</p> <p>定員は25名。受講希望者は最初の授業に必ず出席すること。受講希望者が定員を超えた場合は、その場で抽選を行う。<u>無断登録は認めない。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. 英語の母音の特徴 3. " (Presentation) 4. 英語の子音の特徴 5. " (Presentation) 6. まとめ(対話を用いた練習) 7. 英語の強勢とリズム 8. " (Presentation) 9. 英語のイントネーション 10. " (Presentation) 11. 英語の音変化 12. まとめ(対話を用いた練習) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『英語音声学の基礎—音変化とプロソディーを中心に—』研究社</p> <p>参考書：P. Avery and S. Ehrlich, <i>Teaching American English Pronunciation</i>, OUP.</p>		日常点(出席状況、授業への参加度など)、Quiz、Presentation、期末試験(音声提出)による。	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	英語発音教授法 スピーチ・クリニック	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		春学期と同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

06年度(春) 03～05年度(春)	シンタクス a 統語論 a	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>皆さんは free という形容詞を中学で習っただろうから、“They are free people of all ages.”という文の解釈に困ることはないだろう。では、“This policy will free people of their loans.”はどうだろうか。free people of の部分は同じように見えるが、助動詞 will の直後に free があるから違う種類（これを品詞という）と考えなくてはいけない。さらにその品詞での free の用法を辞書で調べてみると、最初の文とは異なり of と people は直接的につながることが分かるだろう。このように英語（であれどの言語であれ）の文は単語が単に一列に並んだものではなく、語と語が固まりを成し、同じ単語の羅列であっても異なった構造をしばしば持つ。文の構造（これをシンタクスという）を意識することは英語を読んだり書いたりする際に役に立つのはもちろんのこと、英語（や外国語として日本語）を教える際には必要不可欠である。また、文の構造を詳しく分析することにより、それを自由に使いこなすことのできる私たちの能力の素晴らしさにも気づかされるのではと思う。</p> <p>授業の前半は講義形式で行い、後半は講義内容に関する英語のデータを受講者に分析してもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義概要 2 統語論の研究対象 3 句構造 4 句構造 5 X-bar Syntax（一般句構造理論） 6 X-bar Syntax（一般句構造理論） 7 主要部による語彙選択 8 節の内部構造 9 主語と助動詞の倒置 10 本動詞・助動詞と時制辞の分布 11 Wh 疑問文 12 質問 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストなし。参考文献はTransformational Syntax (A. Radford, CUP) Introduction to Government and Binding Theory (L. Haegeman, Blackwell). 『生成文法の基礎』（中村捷他、研究社）『言語の脳科学』（酒井邦嘉、中公新書）</p>		<p>定期試験による。授業での課題は評価対象としないが、講義を理解する上で非常に重要である。定期試験は授業の課題に沿って出題される。</p>	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	シンタクス 統語論 b	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期定期試験の解説 2 機能範疇と語彙範疇 3 persuade と expect の統語的差異 4 likely と eager の統語的差異 5 名詞句の分布と格理論 6 格理論と名詞句移動 7 格理論と名詞句移動 8 himself などの再帰形と先行詞の構造的関係 9 himself などの再帰形と先行詞の構造的関係 10 名詞句移動の局所性 11 he などの代名詞と先行詞との構造的関係 12 質問 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

06年度以前(春)	意味論 a	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コミュニケーションの本質は、ことば（あるいはその代用となるもの、例えばジェスチャーや手話など）によって媒介される意味を通してわれわれの周りにいる人たちが状況に働きかけることにあります。この授業ではその日常の言語生活での意味のやり取りというわれわれの営みを理解するためには、どういう視点でそれを捉えればよいかという、いわば考え方の枠組について解説します。</p> <p>この授業を受講すると、たとえば see と look と watch の使い分けや、rob の後に He robbed the rich of all their money と「人」が来るのに steal の場合は He stole money from the rich. と「物」が来るのはなぜかと、どうして I'm going to be twenty next month. の be going to に動詞の go(行く)が使われているのか、などといったことがわかるようになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活の中の「意味論」 2. ことばと意味 3. " 4. ことばの意味と辞書 5. " 6. 語彙の中の意味関係 7. " 8. 文法と意味 9. " 10. " 11. 意味とコンテキスト 12. " 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・池上嘉彦 編『英語の意味』大修館書店 ¥1600 ・プリント（随時配布） 		定期試験とふだんの努力によります。	

06年度以前(秋)	意味論 b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業を受講すると、次のようなことがどうしてそうなのかがわかるようになります。</p> <p>(1) 用紙に「記入する」のに fill in と fill out も言える。</p> <p>(2) I hit the stick against the fence. と I hit the fence with the stick. の意味の違い。</p> <p>(3) He's in the train. と He's on the train. とも言うが、駅で彼を待っているときには He's in the next train. と言うのはおかしい。</p> <p>(4) 「雨に降られた」と言うときに It rained on me. と on が使われる。</p> <p>(5) 同じ「ニンジン」のはずなのに、I bought carrots. では複数に、There's carrot in this bread. では冠詞も s も付かない。</p> <p>(6) アガサ・クリスティの小説 <i>AND THEN THERE WERE NONE</i> が be 動詞を使って静止状態を表すのに、日本語では『そして誰もいなくなった』と状態変化の過程として描写する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 空はなぜ青いのか？ 2. ものの見方と意味 3. プロトタイプ 4. 抽象化したスキーマ 5. イメージ・スキーマ 6. 意味のネットワーク 7. " 8. メタファー 9. メトニミー 10. 「色」とことば 11. ことば、文化、普遍性 12. " 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・谷口一美『学びのエクササイズ 認知言語学』ひつじ書房 ¥1200 ・プリント（随時配布） 		定期試験とふだんの努力によります。	

06年度以前（春）	音声・音韻論 a	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：音声言語の研究には、実際の音声を正確に観察、記述、機構を解明する分野と、言語体系に占める役割、機能、音構造を解明する分野がある。言語研究の中では、前者は音声学、後者は音韻論と分けてはいるが、両者とも研究対象は言語音である。本講義でも音声学と、音韻論とに分けて扱う。</p> <p>概要：春学期は調音音声学、音響音声学、聴覚音声学の各分野からの研究を解説する。</p>		<p>Basic component of speech Phonation and articulation Source-filter theory Neuromuscular phase International phonetic alphabet Consonants Two types of co-articulation Vowels I Vowels II Prosodic features Stress Intonation, duration</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>P. Lieberman & S.E. Blumstein: Speech physiology, speech perception, and acoustic phonetics P. Ladefoged: Elements of Acoustic Phonetics. J.C. Catford: A Practical Introduction to Phonetics.</p>		<p>期末のテストの得点</p>	

06年度以前（秋）	音声・音韻論 b	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：音声言語の研究には、実際の音声を正確に観察、記述、機構を解明する分野と、言語体系に占める役割、機能、音構造を解明する分野がある。言語研究の中では、前者は音声学、後者は音韻論と分けてはいるが、両者とも研究対象は言語音である。本講義でも音声学と、音韻論とに分けて扱う。</p> <p>概要：秋学期は生成音韻論を主に、分節音、音節、韻律などを講義する。</p>		<p>Phoneme Distinctive features Redundancy Phonological representation Phonological process Naturalness and strength Formalisation and ordering Linear rule ordering Abandoning extrinsic ordering The abstractness of underlying representations Syllables and moras Representing tone</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>F. Katamba: An introduction to Phonology M. Davenport & S.J. Hannahs: Introducing Phonetics and Phonology C. Gussenhoven & H.Jacobs: Understanding Phonology</p>		<p>期末のテストの得点</p>	

04年度以前(春)	英語史 a	担当者	毛利 秀高
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アングロ・サクソン人がイングランドに登場したのは5世紀半ばのことである。それから今日まで、すなわち千五百年以上もの間、英語はどのように変化・発達したのであるか。英語史はこのテーマで授業が進められる。授業ではできるだけ多くのビデオを使用してわかり易く興味ある講義にするつもりである。古英語(c450~1100)の章では、英語の最古の詩とされる「キャドモンの賛歌」(Caedmon's Hymn)をそのエピソードと共に紹介したい。</p>		<p>I. 英語が属している語族</p> <p>(1) インド・ヨーロッパ語族</p> <p>(2) ゲルマン諸語の特徴</p> <p>II. 古英語(c450~1100)</p> <p>(1) ゲルマン人のブリテン島への侵入</p> <p>(2) キリスト教の伝来</p> <p>(3) 古英語の発音と文法</p> <p>(4) ヴァイキングの来襲とその影響</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>フェルナン・モセ著『英語史概説』 (開文社)</p>		出席、試験	

04年度以前(秋)	英語史 b	担当者	毛利 秀高
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中英語(1100~1500)の章では「カッコウの歌」(Cuckoo Song)とチョーサーの『カンタベリー物語』の一節を鑑賞する。</p> <p>近代英語(1500~現在)の章では近代英語の初期の代表作シェイクスピアの作品を断片的に読む。そして当時のスペリングや発音を学ぶ。さらにこの時代に進行中であった大母音推移の説明をする。また英語の新大陸への進出がある。近代英語期は語彙の増大が特徴的であった。後期はこのような事柄を取り扱う。</p>		<p>III. 中英語(1100~1500)</p> <p>(1) ノルマン人によるイングランド征服・その影響</p> <p>(2) 中英語の発音と文法</p> <p>(3) Cuckoo Song</p> <p>(4) Chaucer, <i>Canterbury Tales</i> の一節</p> <p>IV 近代英語(1500~現代)</p> <p>(1) シェイクスピアの英語</p> <p>(2) 大母音推移</p> <p>(3) 英語の新大陸への進出</p> <p>(4) 語彙の増大</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

06年度以前（春）	英語学特殊講義 a	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>認知意味論の考え方と生態心理学の観点を取り入れた言語研究の方法を学ぶことを目的とする。授業では、下記のテキストの第6章「空間と時間の意味論」と第7章「日本語と英語における自己の表現」の前半部分の内容を中心に講義する。（必要に応じてその他の章も参照することになる。）</p> <p>ここでは、認知意味論や生態心理学に関する知識を蓄えることよりも、そのような考え方を身につけ、実際に言語分析ができるようになることを目指したい。</p> <p>なお、分析の対象となる言語は日本語と英語である。多くのものにとっての母語である日本語を見直すとともに、間違いのない英語だけでなく、英語らしい英語を身につけることも目標としたい。</p>		<p>1回の授業あたり、B4サイズで1枚から2枚のハンドアウトを用意し、講義形式で進めてゆく。受講生の数が少ない場合には、学期の後半は演習形式で行ないたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>本多啓（2005）『アフォーダンスの認知意味論—生態心理学から見た文法現象』東京：東京大学出版会。</p>		<p>出席状況、授業態度、試験、レポート課題などにより総合的に評価する。なお、単位認定にあたっては、授業回数$\frac{3}{2}$以上の出席が求められる。</p>	

06年度以前（秋）	英語学特殊講義 b	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>認知意味論の考え方と生態心理学の観点を取り入れた言語研究の方法を学ぶことを目的とする。授業では、下記のテキストの第7章「日本語と英語における自己の表現」の後半部分と第8章「その他の諸現象」の内容を中心に講義する。（必要に応じてその他の章も参照することになる。）</p> <p>ここでは、認知意味論や生態心理学に関する知識を蓄えることよりも、そのような考え方を身につけ、実際に言語分析ができるようになることを目指したい。</p> <p>なお、分析の対象となる言語は日本語と英語である。多くのものにとっての母語である日本語を見直すとともに、間違いのない英語だけでなく、英語らしい英語を身につけることも目標としたい。</p>		<p>1回の授業あたり、B4サイズで1枚から2枚のハンドアウトを用意し、講義形式で進めてゆく。受講生の数が少ない場合には、学期の後半は演習形式で行ないたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>本多啓（2005）『アフォーダンスの認知意味論—生態心理学から見た文法現象』東京：東京大学出版会。</p>		<p>出席状況、授業態度、試験、レポート課題などにより総合的に評価する。なお、単位認定にあたっては、授業回数$\frac{3}{2}$以上の出席が求められる。</p>	

05年度以前(春)	英語学文献研究 a	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 英語の文構造が基本的に述語動詞によって決定されると考えると、動詞の特徴は文構造を考える上で重要であるので、英語の動詞がどのように用いられるかという問題を、自動詞・他動詞の交替、目的語の省略、前置詞の省略に関わる「交替」という現象を中心に検討する。</p> <p>講義概要: <i>English Verb Classes and Alternations</i>のIntroductionとPart One “Alternations” (pp.1-109)を使用して、先ず、「交替」という現象を母語話者の語彙知識と捉え、この現象にはどのようなものがあるかを、場所表現交替・他動性交替・中間態交替・動能交替・使役交替・起動交替を中心に概観する。次に、これを踏まえて、多くの例と簡潔な所見を参考にして、多種多様な交替形を検討する。さらに、一般的でない要素(例えば、時間・道具・場所・起点などを表す要素)が主語になっている構文や受動構文や存在文に生ずる動詞も考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Lexical knowledge – locative alternation 2. Lexical knowledge – transitivity alternation 3. Lexical knowledge – middle (transitivity) alternation 4. Lexical knowledge – conative alternation 5. Lexical knowledge – causative/inchoative alternation 6. Middle, causative, causative/inchoative alternations 7. Conative & Preposition-drop alternations 8. Dative, benefactive, locative & creation alternations 9. Reciprocal & fulfilling alternations 10. “Oblique” (time, natural force, instrument, locative, source) subject & reflexive diathesis alternations 11. Passive and <i>there</i> existential constructions 12. Cognate object, reaction object, <i>X’s way</i> & resultative constructions 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: Levin (1993) <i>English Verb Classes and Alternations</i>. University of Chicago Press. 参考書: 鈴木英一(1990)『統語論』(開拓社).</p>		<p>出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	

05年度以前(秋)	英語学文献研究 b	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 英語の動詞がどのように用いられるかという問題を、自動詞・他動詞の交替、目的語の省略、前置詞の省略に関わる「交替」という現象を中心に検討し、具体的に多くの動詞を挙げながら、交替という尺度で英語の動詞を分類し、それぞれの種類の動詞の統語的特徴を考察する。</p> <p>講義概要: <i>English Verb Classes and Alternations</i>のPart Two “Verb Classes” (pp.111-276)を使用して、先ず、「交替」現象に基づく動詞の特徴付けを行い、実際に広範囲な動詞が交替現象に基づく動詞型のいずれかに分類され、どのような特徴を持つかという問題が検討される。例えば、配置動詞、除去動詞、送付・運搬動詞、所有変更動詞、保持動詞、接触動詞、結合・付加動詞、分離動詞、創造・変換動詞、心理動詞、探索動詞、伝達動詞、身体関係動詞、状態変更動詞、存在動詞、出現動詞、出現動詞、移動動詞、計測動詞、相動詞などを取り上げ、英語の動詞をほとんど網羅する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. put, funnel, pour, coil, spray/load, fill, butter, pocket 類の動詞 2. remove 類の動詞(remove, banish, clear, wipe, steal, cheat 類) 3. send & carry 類の動詞(send, slide, bring, take, carry, drive 類) 4. push/pull, give, contribute, offer, provide, obtain 類の動詞 5. learn, hold, keep, hide, throw, hit, poke, touch, cut 類の動詞 6. mix, shake, tape, separate, split, differ, color, inscribe 類の動詞 7. build, grow, prepare, create, turn, endanger, calve 類の動詞 8. 目的格補語をとる動詞, 知覚動詞, 心理動詞, 判断動詞 9. assess, search, investigate, correspond, marry, meet, ask, tell, whisper, cable, talk, say, complain, advise 類の動詞 10. bark, eat, gobble, devour, dine, gorge, feed 類の動詞 11. 身体に関わる動詞(hiccup 等), 身嗜みの動詞(dress 等), kill 類の動詞, 放出動詞(spark, squeak 等), destroy 類の動詞 12. 状態変化動詞, 存在の動詞, 出現・消失の動詞, 所在の動詞(lie 等), 移動動詞(go 等), 計測動詞(weigh 等), 相動詞(begin, complete 等) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: Levin (1993) <i>English Verb Classes and Alternations</i>. University of Chicago Press. 参考書: 鈴木英一・安井泉(1994)『動詞』(研究社).</p>		<p>出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	

06年度(春)	英語圏の文学・文化	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語圏の文学・文化からいくつかの重要なモーメントを抜き出して考察し、社会的な変化や思想史的な流れを辿りたい。</p> <p>学期末のレポートはジョーゼフ・コンラッドの中篇小説『闇の奥』(1899)とフランシス・ Coppolaの映画『地獄の黙示録』(1979)について、「小説の Coastal (Outer) Station, Central Station, Inner Station は映画ではどのように描写されているか、比較した上であなたの考えを述べよ。(2000~2500字)」である。前者は中野好夫による訳が岩波文庫に収められているが、1958年の出版で日本語が難解な上に、解説にも若干の誤りがあるので余り薦められない。2006年に出版された藤永茂の新訳をDUOに発注しているので、やや値がはるが、こちらを読んで欲しい。9回目の授業までに必ず読んでおくこと。英語で読む場合は Norton Critical Edition を薦める。象徴的な小説であり、やや難解と感じる学生もいるかもしれないので、早めに読み始めて欲しい。また、藤永茂の『「闇の奥」の奥—コンラッド・植民地主義・アフリカの重荷』(三交社、2006)及び同氏によるブログを参考文献としておく。</p> <p>映画の方は図書館の視聴覚室で観ることができるし、レンタルビデオ・DVD店にも大抵は置いてある。こちらも9回目の授業までに観ておくことが前提になる。但し、現在DVDで出回っているのは後に編集された「特別完全版」であり、図書館所蔵の「劇場公開版」の方が小説とは比較しやすい。映画関連の参考文献には立花隆『解説「地獄の黙示録」』(文春文庫、2004)と Peter Cowie, <i>The Apocalypse Now Book</i> (Da Capo Press, 2001)を挙げておく。</p>		<p>①変わりゆく英語の世界</p> <p>②前回の続き</p> <p>③キリスト教の宇宙観と英語圏の文学・文化</p> <p>④宗教改革から理性の時代へ</p> <p>⑤前回の続き</p> <p>⑥視点を変えて(閑話休題)</p> <p>⑦西欧白人異性愛男性主義の周縁から</p> <p>⑧前回の続き</p> <p>⑨ <i>The Waste Land, Heart of Darkness, and Apocalypse Now</i></p> <p>⑩前回の続き</p> <p>⑪ポストモダニズムとポストコロニアリズム</p> <p>⑫ Catch up & Wrap up</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記以外のテキスト、参考文献は原則として授業支援ポータル・サイトからダウンロードしてもらおう。指示にしたがって予習、また教室への持参をお願いする。		小レポート(5点x10)、学期末レポートが50点。	

(秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

06年度以前（春）	英語圏の小説 a	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ジェーン・オースティンは19世紀初期のイギリスの小説家です。代表作『自負と偏見』の映画化されたものが近年上映され評判を呼んだことから分かるように、欧米で広く親しまれている作家です。彼女の作品は風俗小説と呼ばれていますが、風俗小説は19世紀20世紀のイギリス小説の主流であって、その中心的位置を占めているのがオースティンとあってよいでしょう。日本では広く愛読されているとはいえませんが、アメリカとイギリスでは高く評価され、数多く映画化されてきました。</p> <p>講義で扱う作品は『高慢と偏見』『マンスフィールド・パーク』を予定しています。人間とか人間性に興味がある人、語学力向上に熱意を傾ける人を望みます。</p> <p>今年はテキストに『小説の勃興』を使います。この本の原本はほぼ50年前に出版されましたが、イギリス近代の文化と文学を学際的に考察しつつ小説の勃興を論じて右に出るものはありません。内容は文学に限らず心理学・哲学・美術・経済に及びます。魅力的な古典的教養書の見本のような書物ですが、決して易しくはありません。読書する能力、思考力を磨く訓練に最適の本とあってよいでしょう。</p>		<p>最初の授業で、テキストの説明を含めてこの講義の全体的な解説と説明をします。世界各地で昔から使われてきたとはいえ、テキストは易しくはないので工夫を凝らして授業を進めます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『小説の勃興』および手作りのプリント 参考文献は授業中に指定する。		感想文、レポートなど	

06年度以前（秋）	英語圏の小説 b	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>20世紀前半のヨーロッパやアメリカでは、第一次世界大戦によって、それまでの近代文明への信頼が徹底的に打ち砕かれました。そのような中で、文学者たちは新しい価値を創造しようと試みました。その文学は「モダニズム文学」と呼ばれ、今日なお読み継がれる作品が数多く残されています。</p> <p>本講義では、そんなモダニズム文学者の一人、ヴァージニア・ウルフを取り上げます。ウルフはイギリス人の小説家で、病がちであったために、イギリスから出ることはほとんどありませんでした。それでも彼女はそれまでの文学伝統に学び、同時代の他のモダニズム作家から影響を受けながら、まったく独自の世界を切り開いたと言われています。</p> <p>モダニズム文学が具体的にどのようなもので、ウルフのどこがどのように独特なのか。その背景にあった20世紀前半という時代とは、そしてウルフを生んだイギリス社会とは、どのようなものだったのか。本講義ではウルフの小説や評論の抜粋を手がかりに、このような問いについて考えます。</p>		<p>ウルフの小説や評論の抜粋をあらかじめ読んで来てもらいます。毎回の授業では抜粋を出発点として、ウルフの読みどころを解説し、同時代の文学や社会背景について話を進める予定です。</p> <p>第一回目の授業で、抜粋の読み方と、毎回のスケジュールと、評価方法について説明します。受講を希望する学生はかならず出席してください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布		3回の小レポートと定期試験	

06年度以前(春)	英語圏の詩a(アメリカ詩入門)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ポップスの歌詞などを導入にして、英語の詩への入門をした後、年代を追ってアメリカ詩の素描をしていく。選ばれている詩人は、それぞれの時代をある程度代表する詩人であるよう心がけた。17世紀の植民地時代からポー(E.A.Poe)の頃までは、ヨーロッパのエピゴーネン(亜流)といった面は拭えないが、ホイットマン(W.Whitman)に到ってアメリカここにありという独自性が顕れる。一言でいえば自由詩であり、散文詩へ向かう流れであった。それはサンドバーグ(C.Sandburg)らへ受け継がれたが、またディッキンソン(E.Dickinson)やフロスト(R.Frost)のような個性的な詩人たちも一方にはいた。更にはパウンド、エリオット(E.Pound, T.S.Eliot)に到って、ヨーロッパへの回帰、ひいてはモダニズムの盛期へと向かう。それに逆らうアメリカ土着の詩人ウィリアムズ(C.Williams)。そして最後は、20世紀の女流を代表して、特異な詩人プラス(S.Plath)を扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 詩形について 2. ポップスー詩と曲とー 3. Ann Bradstreet (1612-72)ーアメリカ詩の原点ー 4. Edgar Allan Poe(1809-49) 5. Walt Whitman(1819-92) 6. Emily Dickinson(1830-86) 7. Robert Frost(1874-1963) 8. Carl Sandburg(1878-1967) 9. William Carlos Williams(1883-1963) 10. Ezra Pound(1885-1972) 11. T.S.Eliot(1888-1965) 12. Sylvia Plath(1932-63) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> 1. テキスト：プリント 2. 参考文献：亀井俊介他編 『アメリカ名詩選』岩波書店、1993年 		期末テストと平常点による。	

06年度以前(秋)	英語圏の詩b(イギリス詩入門)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的 ワーズワース(W.Wordsworth 1770-1850)の『水仙』などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギリス詩である。</p> <p>講義概要 初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェークスピアの代表的な詩について管見する。なるべく video などの視聴覚教材を利用する。</p> <p>参考文献 新井明著 『英詩鑑賞入門』 研究社 1987</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 詩形について 2. <マザーグース> I 3. <マザーグース> II (video 鑑賞) 4. <現代英詩アラカルト> T.Hughes(1992-1985), Seamus Heaney(1939-)など 5. <ロマン派の曙> W.Blake(1757-1827), video 鑑賞(字幕なし、以下同じ) 6. <ロマン派の詩> I ワーズワース、video 鑑賞 7. <ロマン派の詩> II S.T.Coleridge(1772-1834)と G.G. Byron(1788-1824) 8. <ロマン派の詩> III P. B. Shelley(1792-1822)と J. Keats(1795-1821) 9. <ロマン派の詩> 総括 解説と video 鑑賞 10. Thomas Gray(1716-1771), "Elegy Written in a Country Churchyard"(1751)を読む。 Video 鑑賞 11. John Milton(1608-74) <i>Paradise Lost</i>(1667)のさわり、ソネット23. Video 鑑賞 12. William Shakespeare(1564-1616), 解説と video 鑑賞 	
テキスト		評価方法	
薬師川虹一他 編注 『マザーグースと美しい英詩』北星堂 1987		テストを課す。数回の video は、字幕なしなので、100%の理解は求めないが、リスニング・テストとして努力具合を見、平常点とする。	

06年度以前（春）	英語圏の演劇 a	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふう に演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキ スト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台上でしゃ べって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用 意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォー マンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室で も舞台の雰囲気を出したいと思います。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。ま た、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、 歌舞伎なども取りあげます。実際に劇場に観に行つて、芝 居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知つて下 さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありま せん。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則とし て、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読む戯曲(抜粋)は、実際の上演舞台が観られる作 品を選んでいきますから、上演のスケジュールに合わせて講 義を進めていきます。</p> <p>レポートに関する詳細は、履修登録が済んだ頃に説明し ます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>観劇レポート（800字）2編で70%。授業で30%。学期 末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位 を認めません。</p>	

06年度以前（秋）	英語圏の演劇 b	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふう に演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキ スト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台上でしゃ べって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用 意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォー マンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室で も舞台の雰囲気を出したいと思います。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。ま た、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、 歌舞伎なども取りあげます。実際に劇場に観に行つて、芝 居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知つて下 さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありま せん。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則とし て、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読む戯曲(抜粋)は、実際の上演舞台が観られる作 品を選んでいきますから、上演のスケジュールに合わせて講 義を進めていきます。</p> <p>レポートに関する詳細は、履修登録が済んだ頃に説明し ます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>観劇レポート（800字）2編で70%。授業で30%。学期 末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位 を認めません</p>	

06年度以前（春）	英語圏の社会と思想 a	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アングロ＝サクソンの文化がキリスト教化されていく過程の在り方を述べる。</p> <p>なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(1)父性神と母性神 (2)ヘレニズムとヘブライズム 2. ローマン＝ブリテン：ケルト人とキリスト教 3. ローマ帝国のキリスト教化の過程：ドナティスト論争 4. イングランドのキリスト教化 5. デーン人とアルフレッド大王 6. カロリング王朝とイングランドのキリスト教 7. グレゴリウス7世の教会改革 8. イングランドの教会改革 9. 中世の異端 10. 地獄落ちへの恐怖 11. 黒死病と農民一揆 12. 教皇権の栄光と下降 13. 中世末期：唯名論論争とイングランド宗教改革前史 <p>以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはない。参考文献は必要とあれば授業中に示す。</p>		<p>出席の少ない者は不合格とする。 更に、出席合格者は試験の結果で評価する。</p>	

06年度以前（秋）	英語圏の社会と思想 b	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に準じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ルター：我ここに立つ 2. ジュネーブの人カルヴァンとイングランド人 3. イングランドの宗教改革：ヘンリー8世 4. エドワード王のプロテスタント化とメアリー女王のカトリック教皇主義復興 5. エリザベス1世の宗教改革 6. ピューリタンの反撃と英国国教会の樹立 7. スチュワート王朝の国教会 8. 国王の処刑とピューリタニズム 9. ピルグリム＝ファーザーズ 10. 王政復古から名誉革命以降 11. 啓蒙主義時代から現代まで <p>以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ。</p>		<p>春学期に準じる。</p>	

06年度以前(春)	英語圏の歴史 a	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際情勢の中で、中東がかつてなかった程重みを増す今日、中東政策はアメリカ外交の大きな柱となっている。その米中東政策に力をふるっているのが、ユダヤ・ロビーである。</p> <p>春学期の授業ではこのユダヤ・ロビーを中心に同盟関係にあるキリスト教右派等に焦点をずえることで、これまで見えてこなかったアメリカ政治史の特質を解明する。</p> <p>「ユダヤの視点でみるアメリカ政治史」が春学期のテーマである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. NHK 特派員報告「強い少数派」の映像解説 －72年と04年の大統領選挙の比較－ 2. イラク戦争と在米ユダヤ人の苦悩 3. 検証「最強のユダヤ・ロビー」AIPAC 4. 同床異夢の同盟；キリスト教右派とユダヤ・ロビー 5. 連邦議会における代理人；ユダヤ人議員団の実像 6. ユダヤ・マネーの仕組；二大政党の政治資金 7. 歴代政権と在米ユダヤ人社会；FDRよりニクソン再選まで 8. 歴代政権と在米ユダヤ人社会Ⅱ；第二次ブッシュ政権まで 9. 予想2008年大統領選挙 10. アメリカ史の特質 11. 英領北米植民地の建設 12. 英領北米植民地の発展 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤唯行著『アメリカはなぜイスラエルを偏愛するのか』（2006年 ダイヤモンド社）1600円		評価はクイズ形式による筆記試験（5択20問）によるのみ決定する。試験はテキストの持込可。出席はとらない。	

06年度以前(秋)	英語圏の歴史 b	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>独立革命期から現代にいたるアメリカ合衆国史を通史的に展望する。政治史、経済史、社会史の研究成果をとり入れて講義を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ独立革命 2. ジェファソン政権の発足から1812年戦争 3. ジャクソニアン・デモクラシーと「明白な運命」 4. 奴隷解放と南北戦争 5. 金ピカ時代、再建の時代 6. フロンティアの消滅とメガロポリスの形成 7. 革新主義の時代 8. 世界帝国への道 －米西戦争とキューバ・フィリピン支配－ 9. 第一次世界大戦とアメリカ 10. 1920年代の繁栄 11. 大恐慌の到来とニューディール政策 12. 第二次世界大戦とアメリカ、冷戦の始まり 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回完全に文章化されたレジュメを配布する。		試験はノート、授業レジュメ一切持ち込み不可で行う。	

06年度以前(春)	英語圏のエリア・スタディーズ a	担当者	前沢 浩子 他
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ：英語圏の多様性—政治/宗教/文学</p> <p>「英語圏」は多様化し、複雑化している。世界地図の中で英語が使われている地域の歴史的な経緯、地理的な広がり理解するだけでなく、それぞれの地域における言語をとりまくダイナミックな動きをとらえることを、本講義の目的とする。社会、文化、教育、言語政策、メディア等についての地域や時代の特殊性と英語の関連、あるいは文学作品の成立や受容とそれを取りまく政治的、宗教的状况など、様々な視点から英語圏の多様性について考える。</p> <p>第1回目の講義は概説、第2回目以降の講義はオムニバス形式の各論となる。各授業で論じられたテーマを、断片的知識の集積にするのではなく、各自、自分の頭の中にある英語分布地図を、毎回、書き改めながら、複雑に広がり変貌しつつある英語圏への理解を深めてもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 4/11 前沢浩子「英語圏の多様性—政治/宗教/文学」(概説) 4/18 前沢浩子「シェイクスピア—16世紀から21世紀まで」 4/25 高橋雄一郎「Performing the Nation (1)」 5/2 高橋雄一郎「Performing the Nation (2)」 5/9 佐藤唯行「近代日本におけるユダヤ人問題」 5/16 佐藤唯行「近代における黒人認識の歴史の変遷」 5/23 浅岡千利世「アジアの視点で英語を考える 1」 5/30 浅岡千利世「アジアの視点で英語を考える 2」 6/6 片山亜紀「アメリカ社会と妊娠中絶問題—果てしない論争」 6/13 片山亜紀「もうひとつのアメリカ—中絶論争を越えて」 6/20 白鳥正孝「イギリス17世紀の世界観—革新と伝統と—」 6/27 白鳥正孝「ヒューマニズムとピューリタニズム—ミルトンを中心に—」 	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当者からおって指示する。		平常点：40点(講義で指示される3つのキーワードを使い、毎回の講義のポイントを授業時間の最後5分間で短くまとめる。) 学期末試験：60点 4回以上の欠席があった場合は単位の取得を認めない。	

06年度以前(秋)	英語圏のエリア・スタディーズ b	担当者	前沢 浩子 他
講義目的、講義概要		授業計画	
上に同じ		<ol style="list-style-type: none"> 9/26 児島一男「アイルランド演劇の文化背景1」 10/3 児島一男「アイルランド演劇の文化背景2」 10/10 町田喜義「メルティング・ポットとモザイク」 10/17 町田喜義「日、加、韓の若者意識の比較」 10/24 工藤和宏「過熱する留学ビジネスの裏側—もうひとつの日豪関係」 10/31 工藤和宏「日本の国際大学にみる『日本人』のアンビヴァレンス」 11/7 藤田永祐「近代社会とイギリス19世紀の小説」I 11/14 藤田永祐「近代社会とイギリス19世紀の小説」II 11/28 佐野康子「多様なアフリカ(1)—植民地政策と多様性の否定—」 12/5 佐野康子「多様なアフリカ(2)—多民族国家としてのエチオピア—」 12/12 金子芳樹「アジア準英語圏の文化と社会」 12/19 上野直子「Changing Britannia – Is talking Black Cool?」 	
テキスト、参考文献		評価方法	
上に同じ		上に同じ	

05 年度以前 (春)	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第二次世界大戦後、旧植民地からの大量の移民の到来によって、いやおうなく多人種・多文化社会となっていたイギリスの変化を、文化・文学表現を通じて学ぶ。もちろん、政治・経済の背景にもふれる予定である。</p> <p>イギリスの変化を追うといっても、歴史を生きる個人に注意を向けたいと思う。差別と偏見のなかで、サバイブし続けた移民たち。一口に移民といっても、男性と女性では抱える問題も違うだろう。また、かつてない状況にとまどう白人たちの不安も考察しよう。異なる文化、異なる歴史を生きる個人の暮らしと場所のあり方を想像する練習をしてほしい。そして想像力（共感する力）を養うには、知ることがいかに重要であるかも理解してほしい。</p>		<p>< Changing Britannia ></p> <p>1. London Is My Place. / Sorry, No Coloured! — 「母国」にきた移民たち</p> <p>2. イギリスは 3 番目に大きなカリブの島か?</p> <p>3. Black British の歴史</p> <p>4.~6 “Go Back to Jungle!” vs “We are here to stay!” — 差別と抵抗、提携と場の形成</p> <p>7~8. Extravagant Strangers — 文化表現における「よそ者」たちの活躍</p> <p>9~10. Black British とカルチュラル・アイデンティティー</p> <p>11~12. This Is Our London, Our Venue. — 新しいイギリス?</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを用意します。参考文献は授業時に紹介します。		コメントペーパー、小テスト、レポートを総合的に評価します。	

05 年度以前 (秋)	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ：イギリスの俳優たち</p> <p>イギリスには演劇の長い伝統があり、シェイクスピア劇からハリウッド映画まで幅広く活躍する、素晴らしい俳優たちが、数多く登場してきた。この授業では 20 世紀のイギリス演劇界を代表する俳優たちと、21 世紀の現在、まさに活躍中の俳優たちから、下記の 10 名を選び、彼らの出演した戯曲、映画を取り上げて論じていく。それぞれの役者の個性とともに、時代による演劇の変化、舞台と映画の関係、イギリス俳優とアメリカ映画の関係などへの理解を深めることを目的とする。</p> <p>主に扱う俳優たち Claire Bloom, Kenneth Branagh, Judi Dench Ralph Fiennes, John Gielgud, Ian McKellen Lawrence Olivier, Vanessa Redgrave Maggie Smith, Emma Thompson</p> <p>(注意事項：授業中に指示された映画や戯曲をあらかじめ見たり、読んだりしておくことが望ましい。)</p>		<p>1. イギリス演劇とアメリカ映画 (概説)</p> <p>2. Vanessa Redgrave : ロサリンドと『ミッション・インポッシブル』</p> <p>3. Lawrence Olivier : オセローと『リトル・ロマンス』</p> <p>4. Claire Bloom : ジュリエットと『ライムライト』</p> <p>5. John Gielgud : ハムレットと『プロスペローの本』</p> <p>6. Maggie Smith : デズデモーナと『ハリー・ポッター』</p> <p>7. Ian McKellen : リチャード三世と『ロード・オブ・ザ・リング』</p> <p>8. Judi Dench : オフィーリアと『007』</p> <p>9. Kenneth Branagh : ヘンリー五世と『フランケンシュタイン』</p> <p>10. Emma Thompson : ベアトリスと『ラブ・アクチュアリー』</p> <p>11. Ralph Fiennes : リチャード二世と『イングリッシュ・ペイシエント』</p> <p>12. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。		平常点と学期末レポート。 欠席が 3 回を超えた場合は成績評価の対象としない。	

05 年度以前 (春)	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(文化と旅と観光)</p> <p>講義目的 旅が、人間の根源的な欲求に基づく行動であり、文化現象であることを理解する。又、旅や観光を、語源、歴史的背景等々多面的に学習することにより、文化や文明との関わりを、より深く考察する。</p> <p>講義概要 21 世紀は「人類大移動の時代」と称せられようになり、観光は、産業としてのみならず文化的にも現代社会の重要な要素の一つになっている。旅や観光に関する英語、日本語の語源に触れながら、旅と観光の持つ意義を文化、文明史的に考察する。 併せて、グローバル化の進む今日的課題である異文化理解を、日本の観光立国の視点から学習することにより、文化と観光を身近な問題として把握する。 又、時々刻々変化する現代社会の流れ等々観光文化関連報道記事を、適宜取り上げたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 旅の語源学 ①・漢字における旅の語源 3. 旅の語源学 ②・大和ことばにおける旅の語源 4. 旅の語源学 ③・英語におけるたびの語源 5. 旅と観光 ①・観光の語源 ②・観光とツアー 6. 旅と観光 ③・観光と宗教 7. ビジネス旅行と純粋観光 <ol style="list-style-type: none"> ①・ビジネスとしての旅 ②・フィクションとして旅 8. ③・海外旅行と価値の相対化 9. 旅と文明 ①・グランドツアーからトーマスクック 10. 旅と文明 ②・旅と文明・文化の関係 11. PAX TURISTICA 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する</p> <p>参考文献：適宜指示する</p>		試験結果、レポート、授業への参加度を総合的に判断する	

05 年度以前 (秋)	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 観光の諸現象が文化と深く関連し、又、文化も、観光行為により変容していく様を、観光人類学見地より考察し、観光の多様性を理解する。</p> <p>講義概要 近年、文化人類学の研究対象にもなっている観光現象を、文化の視点から検証し、観光と文化、観光人類学の定義、課題等、基本的なことを学習する。 観光を、擬似イベント、イメージ、メディアの視点からも考察し、観光現象を多面的に理解する。 また、食文化を含む生活文化や民族、宗教の多様性が、どのように観光の研究対象となっているのかを把握する。併せて、観光開発の光と影にも触れ、文化の変容についても考える。 又、時々刻々変化する現代社会の流れ等々観光文化関連報道記事を、適宜取り上げたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 観光と文化 ①・文化現象としての観光 3. 観光と文化 ②・文化のグローバル化と商品化 4. 観光と文化 ③・文化観光と観光文化 5. 観光と文化 ④・模型文化と観光芸術 6. 観光と文化 ⑤・文化政策としての観光 7. 観光の誕生 擬似イベントとしての観光 8. 観光の仕掛け ①・イメージとしての観光 9. 観光の仕掛け ②・メディアと観光 10. 観光と環境 ①・観光開発・リゾート開発の光と影 11. 観光と環境 ②・マスツーリズムとエコツーリズム 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する</p> <p>参考文献：適宜指示する</p>		試験結果、レポート、授業への参加度を総合的に判断する	

05 年度以前 (春)	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(パフォーマンス研究入門)</p> <p>パフォーマンス研究は近年欧米で注目を集めている学際的で、インター・カルチュラルな研究領域であり、個人や集団により反復される行為 (パフォーマンス) が、文化の組成やアイデンティティの構築にかかわっているとの認識の下に、権力の所在を顕在化し、支配の構造にメスを入れようとする。研究対象は、舞台芸術に限らず、日常生活や儀礼、スポーツなどのイベント、国家によって執り行われる儀式など幅広い。</p> <p>この授業ではまず参加者にパフォーマンス研究に興味を持ってもらうことを第一の狙いとし、既に興味のある人には、さらに深い研究のための指針を提供したい。</p> <p>テキストはこの分野の第一人者である Richard Schechner による <i>Performance Studies: An Introduction: 2nd edition</i> (Routledge, 2006) を用いる。</p> <p>なお、昨年度秋学期の授業とは重複する部分が多いので、昨年度、高橋による英語圏の文学・文化特殊講義 b で単位を取得した学生の履修は認められない。</p>		<p>春学期はテキストの第 2 章、”What is Performance” と第 3 章”Ritual” を扱う。</p> <p>テキストの原本は図書館の指定図書にしてあるので、各自 Chapter 2 の全体をコピーし、最初の授業のために、28、29 ページを予習してくる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記の他、高橋雄一郎『身体化する知』(せりか書房-Duo に発注済) を是非読んで欲しい。その他の参考文献は図書館の指定図書にあるか、授業中に配布する。		平常点、学期中の小テスト、小レポート、学期末レポートの総合による。	

05 年度以前 (秋)	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(パフォーマンス研究入門—続き)</p> <p>パフォーマンス研究は近年欧米で注目を集めている学際的で、インター・カルチュラルな研究領域であり、個人や集団により反復される行為 (パフォーマンス) が、文化の組成やアイデンティティの構築にかかわっているとの認識の下に、権力の所在を顕在化し、支配の構造にメスを入れようとする。研究対象は、舞台芸術に限らず、日常生活や儀礼、スポーツなどのイベント、国家によって執り行われる儀式など幅広い。</p> <p>この授業では参加者にパフォーマンス研究に興味を持ってもらうことを第一の狙いとし、既に興味のある人には、さらに深い研究のための指針を提供したい。</p> <p>テキストはこの分野の第一人者である Richard Schechner による <i>Performance Studies: An Introduction: 2nd edition</i> (Routledge, 2006) を用いる。</p>		<p>秋学期は主にテキストの第 4 章、”Play” と第 8 章”Global and Intercultural Performances” を扱う。</p> <p>テキストの原本は図書館の指定図書にしてあるので、最初の授業の前に、各自 Chapter 4 をコピーし、89 ページから 91 ページの最後のパラグラフまでを予習してくる。</p> <p>秋学期のみの受講も可能だが、受講者は春学期で扱うテキストの内容について、十分な理解を持っていることが前提になる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記の他、高橋雄一郎『身体化する知』(せりか書房-Duo に発注済) を是非読んで欲しい。その他の参考文献は図書館の指定図書にあるか、授業中に配布する。		平常点、学期中の小テスト、小レポート、学期末レポートの総合による。	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

05年度以前(秋)	英語圏の文学・文化文献研究 b	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(ポストコロニアル理論を読む)</p> <p>「ポストコロニアリズム」について聞いたことがある、どこかの授業で習ったことがある。だからもう少し勉強してみたい、という人にオススメです。</p> <p>「ポストコロニアル」を文字通り読めば「植民地以降」の意味になります。第2次世界大戦以降、植民地は次々に独立を果たし、現在では数えるばかりしか残っていません。しかし植民地支配を支えてきた権力の構造は、植民地が「なくなった」からといって、「なくなって」はいないのです。拡大する南北の経済格差や、女性、あるいは言語、エスニシティ、宗教、性的指向などをもとに少数派に対し今も振るわれ続ける暴力を考えれば、「コロニアル」を過去の問題として片づけてしまえないことが、理解できると思います。</p> <p>「ポストコロニアリズム」は、非白人＝他者の支配により覇権を確立していった西欧近代の「知」と「権力」の関係にメスを入れる、「過去」に向かった作業を通じて、「現在」の世界への介入の実践を模索します。</p>		<p>ポストコロニアリズムの代表的な理論家として知られるエドワード・サイード、ガヤトリ・スピヴァック、ホミ・バーバによる、今も強い影響力を持つ『オリエンタリズム』、『サバルタンは語るができるか』、『文化の場所』を取り上げ、その抜粋を英語の原文で読みます。</p> <p>どの作品も難解ではあるのですが、翻訳(図書館指定書にあり、書店で購入することも可)も参照しながら、受講生の皆さんに「批評理論」の名作と格闘してもらい、教室を、「ポストコロニアル」な時代に生きる私たちに与えられた課題を議論するための、熱い空間に変容させます。</p> <p>DUOに、本橋哲也『ポストコロニアリズム』(岩波新書)を入れておきます。入門・解説として、とてもよく書かれていますので、初回の授業までに読了していることが受講の条件になります。</p> <p>初回、2回目は『オリエンタリズム』の序文を読みます。テキストは講義支援システムにアップロードしておきますから、各自、予習をしておいてください。</p> <p>大学院への進学を考えている人や、卒論の執筆を考えている人は勿論、文学・文化について「より深い思考」をしてみたい人には必須の授業です。なお、英語に全く自信のない方はご遠慮下さい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは講義支援システムにより配信します。本橋哲也『ポストコロニアリズム』は各自で購入のこと。その他、参考文献があれば授業中に指示します。</p>		<p>毎回の予習復習、授業中の小テストが中心になります。学期末に簡単なレポートを書いてもらう予定です。</p>	

06年度以前(春)	異文化間コミュニケーション論 a	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化時代を生きる私たちにとって、「異文化間コミュニケーション」は不可避な現象であると広く捉えられているようです。しかし、異文化間コミュニケーションとは一体何を意味するのでしょうか。異なる文化間のコミュニケーションという字面通りのことなのでしょうか。あるいは、異文化間コミュニケーションという何か特別な知的・身体的営為なのでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何でしょうか。文化や異文化とは何でしょうか。学問としての異文化間コミュニケーション論が目指すものは何でしょうか。大学生が異文化間コミュニケーション論を学ぶことの意義はどこにあるのでしょうか。本講義では、講義担当者や受講生による語り、異文化〔疑似〕体験、異文化間コミュニケーション論の解体と再構築という作業を通して、これらの問いについての考察を進めると共に、受講生の問題意識を触発してみたいと思います。</p> <p>講義中に意見を求めますので、英文テキストの指定箇所を事前に読み、疑問点を明らかにしてから毎回の講義に出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 「異文化間コミュニケーション論」の落とし穴 3. Introduction: Defining concepts (pp. 2-5) 4. Identity: People like me (pp. 6-10) 5. Identity: Artefacts of culture (pp. 10-15) 6. Identity card (pp. 16-20) 7. Otherisation: Communication is about not presuming (pp. 21-25) 8. Otherisation: Cultural dealing (pp. 25-30) 9. Otherisation: Power and discourse (pp. 30-35) 10. Representation: Cultural refugee (pp. 36-41) 11. Representation: Complex images (pp. 41-47) and Disciplines for intercultural communication (pp. 48-49) 12. まとめ <p><参考書> 稲賀繁美(2000)『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会。 異文化間教育学会(2005)『異文化間教育22—特集 異文化間教育研究と「日本人性」』アカデミア出版会。 戴エイカ(1999)『多文化主義とディアスポラ—Voices from San Francisco』明石書店。 本橋哲也(2002)『カルチュラル・スタディーズへの招待』大修館書店。 *その他の文献は授業中に紹介します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Holliday, A., Hyde M., & Kullman, J. (2004). <i>Intercultural communication: An advanced resource book</i> . London: Routledge. (コピーを配布します。)		多数の受講者が見込まれるので、英語による学期末試験のみにて評価します。	

06年度以前(秋)	異文化間コミュニケーション論 b	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化時代を生きる私たちにとって、「異文化間コミュニケーション」は不可避な現象であると広く捉えられているようです。しかし、異文化間コミュニケーションとは一体何を意味するのでしょうか。異なる文化間のコミュニケーションという字面通りのことなのでしょうか。あるいは、異文化間コミュニケーションという何か特別な知的・身体的営為なのでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何でしょうか。文化や異文化とは何でしょうか。学問としての異文化間コミュニケーション論が目指すものは何でしょうか。大学生が異文化間コミュニケーション論を学ぶことの意義はどこにあるのでしょうか。本講義では、講義担当者や受講生による語り、異文化〔疑似〕体験、異文化間コミュニケーション論の解体と再構築という作業を通して、これらの問いについての考察を進めると共に、受講生の問題意識を触発してみたいと思います。</p> <p>講義中に意見を求めますので、英文テキストの指定箇所を事前に読み、疑問点を明らかにしてから毎回の講義に出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 「異文化間コミュニケーション論」の落とし穴 3. Introduction: Defining concepts (pp. 2-5) 4. Identity: People like me (pp. 6-10) 5. Identity: Artefacts of culture (pp. 10-15) 6. Identity card (pp. 16-20) 7. Otherisation: Communication is about not presuming (pp. 21-25) 8. Otherisation: Cultural dealing (pp. 25-30) 9. Otherisation: Power and discourse (pp. 30-35) 10. Representation: Cultural refugee (pp. 36-41) 11. Representation: Complex images (pp. 41-47) and Disciplines for intercultural communication (pp. 48-49) 12. まとめ <p><参考書> 稲賀繁美(2000)『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会。 異文化間教育学会(2005)『異文化間教育22—特集 異文化間教育研究と「日本人性」』アカデミア出版会。 戴エイカ(1999)『多文化主義とディアスポラ—Voices from San Francisco』明石書店。 本橋哲也(2002)『カルチュラル・スタディーズへの招待』大修館書店。 *その他の文献は授業中に紹介します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Holliday, A., Hyde M., & Kullman, J. (2004). <i>Intercultural communication: An advanced resource book</i> . London: Routledge. (コピーを配布します。)		多数の受講者が見込まれるので、英語による学期末試験のみにて評価します。	

06年度以前（春）	異文化間コミュニケーション論 a	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
異文化間コミュニケーション研究の重要性を理解していくことが当講座の目的。このため文化とコミュニケーションを広範囲な視点から見ていきたい。その大まかな内容は、文化と価値観、文化と言語行動、文化と非言語行動のかかわりについてである。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 異文化コミュニケーションから何を学ぶか 2. 異文化コミュニケーションと心理世界 3. 異文化コミュニケーションの難しさ 4. 異文化コミュニケーションの歴史 5. 異文化コミュニケーションの重要性 6. 異文化コミュニケーション研究のスタート 7. 異文化コミュニケーションの背景 8. 異文化コミュニケーションの現状 9. 異文化コミュニケーションの体験 10. 異文化コミュニケーションと国際英語の時代 11. 文化とグローバル化 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『異文化コミュニケーション入門』丸善ライブラリー		毎回の授業内容に関するターム・ペーパーによるので、欠席すると大変不利	

06年度以前（秋）	異文化間コミュニケーション論 b	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
『異文化コミュニケーション入門』丸善ライブラリー		毎回の授業内容に関するターム・ペーパーによるので、欠席すると大変不利	

06年度(春) 03~05年度(春)	メディア・コミュニケーション論 a マス・コミュニケーション論 a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 本講義の主目的は、多様なメディアが溢れ出る現代社会を理解する為に必要な理論とその歴史的考察を進めていく。メディアと現代社会の関係を考える際に注意しなければならないのは、コミュニケーションを単純にメッセージの送受信の過程や効果、もしくは伝達の技術装置として捉えてはいけない点にある。 メディアはマイノリティを排除したり、規範を自然のこととして受け入れさせる力を持つと考えられることが多い。しかし、現代のメディア研究では、文化規範に抑圧的な力が備わっていると仮定することは出来ないことは常識である。 したがって、メディア研究には、文化に批判的に介入する為の理論と歴史的研究の理解が肝心となる。メディアを1つのコミュニケーション実践としてとらえ、そこに見いだされる文化を批判的に読み解く必要がある。我々が日々接している情報や媒体を自明視させる文化の成り立ちに注目することで、文化を構成するコミュニケーションの書き換えの為の実践を学んでいく。		1. コース概要/メディアとは何か(第1章) 2. メディアの時代 メディアの理論(第2章) 3. マス・コミュニケーション理論の展開とその限界(第4章) 4. メディア革命と知覚の近代(第5章) 5. カルチュラル・スタディーズの介入(第6章) 6. カルチュラル・スタディーズの介入(第6章) 7. 新聞と近代ジャーナリズム(第7章) 8. 誰が映画を誕生させたのか(第9章) 9. テレビが家にやって来た(第11章) 10. 電話が誕生したのはいつだったのか(第8章)/ケータイが変える都市の風景(第11章) 11. パソコンとネットワーク化する市民社会(第13章)/グローバル・メディアとは何か(第14章) 12. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
吉見俊哉『メディア文化論』有斐閣 2004年。		評価は定期試験又はレポート、不定期に課す課題、及び授業への参加度等による総合評価。	

06年度(秋) 03~05年度(秋)	メディア・コミュニケーション論 b マス・コミュニケーション論 b	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
前期の講義を踏まえて、メディアを限定した上で、多様な分析の理論と手法を学ぶ。		1. コース・オリエンテーション 2~12. 映像資料や文献を使用した具体的なメディアの分析と分析の為の理論の学習	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示する。		評価は定期試験又はレポート、不定期に課す課題、及び授業への参加度等による総合評価。	

06年度以前(春)	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>①目的：このクラスでは、「文化とは作るものだ」という認識を深めるためのスピーチ・コミュニケーション論を学びます。</p> <p>②内容：グループ活動が中心となるので、活動に参加できる学生を対象としています。</p> <p>③活動：音楽や映像を使った「文化活動」としての英語プレゼンテーションについても学びます。(例えば、英語CM制作など)</p> <p>④定義：スピーチ・コミュニケーションとは単なる音声表現のことではありません。スピーチ・コミュニケーションとは、スピーチという発話を社会的な人間関係の中に投じることによってさらに次の発話の可能性が生み出されていく「生きたプロセス」すなわち「発話の公共的連鎖」です。発話としてのスピーチとは、政治演説や祝辞のようなものから、メディアで表現されたメッセージ、あるいは何気ない一言や会議での発言、意味ありげな仕草や沈黙さえも発話として機能しますので、これらもスピーチの一種と定義できます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 概略説明 2. 英語プレゼンテーションについて (1) 3. 英語プレゼンテーションについて (2) 4. 英語プレゼンテーションについて (3) 5. 英語プレゼンテーションについて (4) 6. 実例の分析 7. 理論の確認 8. 英語プレゼンテーションの実践と審査 (1) 9. 英語プレゼンテーションの実践と審査 (2) 10. 英語プレゼンテーションの実践と審査 (3) 11. 英語プレゼンテーションの実践と審査 (4) 12. まとめ <p>(研究グループ数によっては変更の可能性もあります)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントおよびオンライン資料を使用する予定		①クイズ (不定期1回、20%)、②グループ・プレゼンテーション (発表と審査 80%)	

06年度以前(秋)	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>①目的：このクラスでは、公共的なメッセージを批判的に分析することで、思慮深い判断のできるようになることを目指します。私たちが発話(スピーチ)をする際に常に立ち回らざる社会的制約や条件づけ。私たちは人に影響を与えたいと思ひ必死に発話の技術(スキル)を磨こうとします。しかし同時に、私たちは社会的制約の影響下にあるため、むしろ思考は影響され、条件づけられてしまっています。この状態をどのように見抜けばいいのでしょうか？ この講義では、こうした社会的制約や条件づけの作用のメカニズムを暴き、皆さんがそれに立ち向かえるきっかけ作りをしたいと思ひます。</p> <p>②内容：グループ活動が中心となるので、活動に参加できる学生を対象としています。</p> <p>③活動：様々なメディアを使った「文化批評」としてのプレゼンテーションを研究グループ単位で行っていただきます。</p> <p>④定義：基本概念・定義については、上記「a」の記述を参照ください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 概略説明：スピーチは「作品」ではない、という主張の意味について考えよう。 2. 文化とコミュニケーションの相関関係からスピーチ(発話)を考える。 3. 上手・下手の枠組みからの脱却：研究する自分の位置を見直そう。 4. 個人から主体へ、そして…。自分たちの行為主体性を取り戻そう。 5. 第2波フェミニズムとバックラッシュ以降のジェンダー理論を考える。 6. 公共性と発話分析：パブリック・スピーキングの「パブリック」とは？ 7. 実例の批判的分析：SMAP「世界に1つだけの花」などを例に。 8. 理論の確認 9. グループ発表と審査 10. グループ発表と審査 11. グループ発表と審査 12. グループ発表と審査 <p>(研究グループ数によっては変更の可能性もあります)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントおよびオンライン資料を使用する予定		①クイズ (不定期1回、20%)、②グループ・プレゼンテーション (発表と審査 80%)	

06年度以前（春）	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 現代のコミュニケーション論の様々な方向性を概観する。権力概念を中心としたコミュニケーション論を基に、文化テクニクスを解説することを学ぶ。</p> <p>講義概要 取り上げられるトピックは我々のコミュニケーションを規定している権力の磁場を構成している。現代コミュニケーションの問題の中心は権力関係にある。そこで、メディアやレトリック等のスピーチ・コミュニケーション研究にとって重要な理論的概念を『現代コミュニケーション学』（有斐閣）を通じて講義する。コミュニケーションの分析にとって重要な権力概念を、<今>に生きる自らの問題として把握し批評する視点を学習する。</p>		<p>1 オリエンテーション：スピーチ・コミュニケーション研究の視点</p> <p>2 時計時間の支配</p> <p>3 空間と権力</p> <p>4 アイデンティティの問い</p> <p>5 レトリックと権力</p> <p>6 家庭内コミュニケーション</p> <p>7 ジェンダーとコミュニケーション</p> <p>8 テクノロジーとコミュニケーション</p> <p>9 メディアのレトリック</p> <p>10 多文化主義とコミュニケーション</p> <p>11 グローバル化と日本社会</p> <p>12 前期総括</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
池田理知子編『現代コミュニケーション学』有斐閣、2006		評価は定期試験又はレポート、不定期に課す課題、及び授業への参加度等による総合評価。	

06年度以前（秋）	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 講義の目的は諸レトリック理論家の思想を学生が理解／実践できるようになることである。講義における学生の目標は以下の2点である。第一に口承、文学、さらには電子メディアを媒介した表象のレトリックを分析する為の多種多様な学術的前提を理解すること。第二にそれら前提に基づいた特定の理論を批評実践に応用できるようになることである。</p> <p>講義概要 本講義は様々なレトリック分析と批評理論を理解するための専門科目である。スピーチ・コミュニケーション論 bでは、20世紀のレトリック批評への諸アプローチを紹介する。これらの批評理論研究を通じて、現代のレトリックが実践される複雑な社会・文化状況を改めて識別することが促される。スピーチ・コミュニケーション論 aと継続性のある講義なので、すべての学生がスピーチ・コミュニケーション論 aの講義で学習したことを既に理解していることを前提に講義を進めていく。</p>		<p>1 オリエンテーション／フェルディナン・ド・ソシュールと記号論</p> <p>2 フェルディナン・ド・ソシュールと記号論</p> <p>3 ルードリッヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム／J. L. オースティンと発話行為理論</p> <p>4 ケネス・パークとレトリック</p> <p>5 ケネス・パークとレトリック</p> <p>6 ミシェル・フーコーと表象</p> <p>7 ミシェル・フーコーと表象</p> <p>8 ミシェル・フーコーと表象</p> <p>9 ミシェル・フーコーと表象</p> <p>10 エドワード・サイードとオリエンタリズム</p> <p>11 エドワード・サイードとオリエンタリズム</p> <p>12 エドワード・サイードとオリエンタリズム</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
立川健二・山田広昭『現代言語論—ソシュール フロイト ヴィトゲンシュタイン』新曜社 土田土則・神郡悦子・伊藤直哉『現代文学理論—テキスト・読み・世界』新曜社		評価は定期試験又はレポート、不定期に課す課題、及び授業への参加度等による総合評価。	

05年度以前(春)	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義の目的】 コミュニケーションと変容に関わる要因を理解し、関連する用語や概念を学び、かつそれらの用語や概念を使って実際のコミュニケーション現象を分析できるようにすることを目的とする。</p> <p>【講義概要】 最初に、コミュニケーションに関わる基本的な諸要因について学ぶ。その次の段階では、コミュニケーションと変容に関わる様々なモデルについて学ぶ。そして、最後の段階では、それまでに学んだことを応用しながら、日常のコミュニケーションや、教師・学習者コミュニケーションなど、実際のコミュニケーションを分析していく。</p> <p>【その他】 コミュニケーションの実践力も養うため、ディスカッションを取り入れたり、各自による3分程度のスピーチを課したりする予定。</p>		<p><前期>コミュニケーションと変容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 効果的なスピーチとは 3. コミュニケーションと変容に関するモデル① 4. コミュニケーションと変容に関するモデル② 5. コミュニケーションと変容に関するモデル③ 6. 日常のコミュニケーションにおける態度変容① 7. 日常のコミュニケーションにおける態度変容② 8. 日常のコミュニケーションにおける態度変容③ 9. 教師・学習者コミュニケーション① 10. 教師・学習者コミュニケーション② 11. 教師・学習者コミュニケーション③ 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント配布予定 参考文献：McQuail(1992). <i>Communication Models</i>, (2nd ed.)他</p>		<p>授業参加、スピーチ、期末試験の総合評価を行う予定。</p>	

05年度以前(秋)	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義の目的】 マスメディアには必ず送り手が存在し、その送り手は何らかの意図を持っている。この授業では、マスメディアの光と影に注目しながら、マスメディアの意図を読み解き、メディアメッセージをより深く分析できるようになることを目的とする。</p> <p>【講義概要】 最初に、マスメディアがイノベーションを普及させる上でどのような働きをしているかを学ぶ。その次の段階では、より身近に存在するようになったメディアによって無意識のうちに我々が影響されていることを、虚偽情報や有害情報などの具体例を通して学ぶ。そして、最後の段階では、賢いマスメディアの使い手になるためのメディアリテラシーについて、具体例を通して学んでいく。</p> <p>【その他】 コミュニケーションの実践力も養うため、ディスカッションを取り入れたり、グループによるプレゼンテーションを課したりする予定。</p>		<p><後期>マス・コミュニケーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. マスメディアとイノベーションの普及① 3. マスメディアとイノベーションの普及② 4. マスメディアとイノベーションの普及③ 5. メディアを読み解く力とは？ 6. マスメディアの有害情報① 7. マスメディアの有害情報② 8. ユビキタス社会① 9. ユビキタス社会② 10. メディアリテラシー教育① 11. メディアリテラシー教育② 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント配布予定 鈴木みどり著『STUDY GUIDE メディア・リテラシー(入門編)』リベルタ出版、他</p>		<p>授業参加、プレゼンテーション、期末試験の総合評価を行う予定</p>	

05年度以前(春)	コミュニケーション論文献研究 a	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：カナダ文化・社会に関連する学際的な評論集の中から下記の文献を読む。併せて、筆者達が我が国のどの様な側面に関心を抱いているかを知る。</p> <p>講義概要：オンタリオ州北ヨーク市教育委員会とヨーク大学が開発した高校生向けの異文化間コミュニケーションの授業概要を理解し、特に我が国の社会・文化（言語、ビジネス、歴史、地理）がどの様に捉えられているかを知る。 ※ 英語教師を目指している学生にはシラバス作成上参考になるであろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ① 概要説明 ② Rationale for the Cross-Cultural Communication through Japanese Program ③ Unique features of the CCCJ Program ④ Cross-cultural objectives ⑤ Approaches for achieving cross-cultural objectives I ⑥ Theoretical framework of cross-cultural studies ⑦ General framework ⑧ The Particularity of Japan ⑨ Four modules and major issues ⑩ Area of interest defined by the four subject modules ⑪ Conclusion ⑫ Appendix 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ota, Norio(1995) <i>Cross-Cultural Communication Through Japanese</i> , Concordia Univ. Press (コピーを使用する)		個人プレゼンテーション、グループ・プレゼンテーション、出欠席、レポートによる。	

05年度以前(秋)	コミュニケーション論文献研究 b	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：多くのコミュニケーション・モデルの中から抜粋してその特徴やコミュニケーション論の分野で使用されている概念を理解し、現代社会の変動に関心を持つ。</p> <p>講義概要：コミュニケーション・モデルを導入として勉強しながら、イノベーションの普及という分野を基礎にして異文化間コミュニケーションの側面を理解する。最終的には春学期同様、日本の社会・文化に関心を持つこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ① 概要説明 ② Scope and purpose ③ The uses and misuses of models ④ Definitions and terms ⑤ Early communication models and mass communication research ⑥ Elaboration of the basic mathematical model ⑦ From communication to mass communication ⑧ Developments in communication models and communication research ⑨ Rogers and Shoemaker' model of innovation diffusion ⑩ News diffusion : The 'normal' diffusion curve ⑪ News diffusion : The J-curve model ⑫ まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
McQuail, Denis & Windahl, Sven(1993) <i>Communication Models</i> , Longman からの抜粋コピー		個人プレゼンテーション、グループ・プレゼンテーション、出欠席、レポートによる。	

06年度(春) 03～05年度(春)	グローバル社会論 a 国際社会論 a	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の国際社会を理解するために、理論・モデル・基本概念の解説を行います。国際問題を「料理」に例えれば、食材(国際問題)をどのように料理(分析)するかが鍵となります。同じ食材でも西洋料理、中華料理、日本料理では味覚が異なります。分析方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。</p> <p>「国際社会を見る眼」を養うこと——これが授業の目標です。国際社会の変化に着目し、歴史を現代に引き寄せます。情報のフローと共にストックを重視し、表面的な現象に振り回されるのではなく、その下に潜む「構造」に関心を払います。</p> <p>毎回、授業の前半では、CNNやBBCの海外ニュースをリアルタイムで紹介し、説明を行います。その日の世界ニュースに触れることができます。後半は、テキストを解説します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 国際情報ツールの説明 2. 国際社会を見る眼——木・林・森 3. 国際政治の基本システム(15) リアリズムとリベラリズム(6) 登録確認 4. 利害調整、状況・制度・組織(21～27) 権力+正統性=権威(47～48) 5. 国内政治と国際政治の相違(49～50) 6. 同上、中間テスト 7. 検証ヨーロッパ(10～11、19～20) 8. 国際社会論(52～53) ＜ホブズ、カント、グロチウス＞ 9. 同上 10. リアリズム・相互依存・従属論(59) 11. 従属論(158～161) 12. 多国間主義(171～172)、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『グローバル社会論資料集』		中間テストと期末テスト等の実施を予定。	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	グローバル社会論 b 国際社会論 b	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化の進展とともに国際社会で起こる問題も複雑・多様化し、かつ変化の速度が速まっています。本講義では、国際社会における様々な問題に注目し、それらの背景と構造を理解することを通して、自らの「国際政治を見る眼」を養うことを目的とします。</p> <p>そのために、国際政治の基礎的な知識と分析枠組みの習得のみならず、他の学問分野(経済学、社会学、歴史学など)にも視野を広め、国際関係のダイナミクスを包括的に把握する力を育成します。</p> <p>講義では、現在、世界各地域で起きている代表的な問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説し、国際関係の基礎的理論の解説を織り交ぜながら国際関係の包括的理解を促します。事例としては、近年、変化の激しい中東、ヨーロッパ、東アジアの国際政治・経済をそれぞれシリーズとして取り上げ、各々の特徴を浮き彫りにします。</p> <p>なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 概論：グローバル社会の捉え方 2. 中東の国際関係(1) 宗教と民族 3. 中東の国際関係(2) イスラムと政治 4. 中東の国際関係(3) パレスチナ問題 5. 中東の国際関係(4) テロとイスラム 6. 中東の国際関係(5) 石油をめぐる国際関係 7. ヨーロッパの国際関係(1) 自由主義と社会主義 8. ヨーロッパの国際関係(2) 社会主義体制とその崩壊 9. ヨーロッパの国際関係(3) EUの展開 10. 東アジアの国際関係(1) 核をめぐる国際関係 11. 東アジアの国際関係(2) 北朝鮮の政治体制 12. 東アジアの国際関係(3) 中国の発展と地域の安定 (テーマについては若干の変更があり得る。また、国際政治情勢の変化が起こった場合は適宜取り上げる) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：長谷川雄一・高杉忠明編著『新版 現代の国際政治』(ミネルヴァ書房、2002年)ほか、適宜指摘します。		学期末試験の成績を中心に評価を行います。	

06年度(春) 03～05年度(春)	グローバル社会論 a 国際社会論 a	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、現実の国際政治を理解するうえで不可欠な、「国際政治を見る眼」を養うことを目指している。具体的には、国際政治の三つの分析枠組み、主要なアプローチ(視点)、国際政治の秩序と規範の問題などを解説していく。したがって、本講義は時事問題の解説ではないことを理解したうえで出席して欲しい。</p> <p>とはいうものの、こうした種類の講義は、学生諸君にとってとっつきにくくなってしまいがちなので、できるだけ現実の問題に当てはめて説明したり、映像資料などを積極的に利用したりして、いろいろと工夫を試みたい。</p> <p>なお、本講義はパワーポイントを利用するが、スライド資料(レジメ)は配布しない。担当教員による講義とスクリーンに投影されるスライドを自分なりに理解して、ノートに書き込んでもらうことになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション (第1～2週) ～国際政治の理論とは何か? 2. 国際政治の「三つの分析枠組み」 (第3～4週) ～国際関係、国家、個人 3. 国際政治のアプローチ①リアリズム (第5～6週) ～ビデオ放映と講義 4. 国際政治のアプローチ②理想主義 (第8～9週) ～ビデオ放映と講義 5. 国際政治のアプローチ③コンストラクティビズム (第10～11週) ～ビデオ放映と講義 6. 国際政治における秩序と規範 (第12週) ～英国学派の国際関係論 <p>*第7週に中間試験を行う予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しない。参考文献は、第一回目の授業で紹介する。		中間試験と期末試験による評価。出欠はとらない。	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	グローバル社会論 b 国際社会論 b	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の国際社会を理解するために、理論・モデル・基本概念の解説を行います。国際問題を「料理」に例えれば、食材(国際問題)をどのように料理(分析)するかが鍵となります。同じ食材でも西洋料理、中華料理、日本料理では味覚が異なります。分析方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。</p> <p>「国際社会を見る眼」を養うこと——これが授業の目標です。国際社会の変化に着目し、歴史を現代に引き寄せます。情報のフローと共にストックを重視し、表面的な現象に振り回されるのではなく、その下に潜む「構造」に関心を払います。</p> <p>毎回、授業の前半では、CNNやBBCの海外ニュースをリアルタイムで紹介し、説明を行います。その日の世界ニュースに触れることができます。後半は、テキストを解説します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 国際情報ツールの説明 2. 国際社会を見る眼——木・林・森 3. 国際政治の基本システム(15) リアリズムとリベラリズム(6) 登録確認 4. 利害調整、状況・制度・組織(21～27) 権力+正統性=権威(47～48) 5. 国内政治と国際政治の相違(49～50) 6. 同上、中間テスト 7. 検証ヨーロッパ(10～11、19～20) 8. 国際社会論(52～53) <ホッブス、カント、グロチウス> 9. 同上 10. リアリズム・相互依存・従属論(59) 11. 従属論(158～161) 12. 多国間主義(171～172)、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『グローバル社会論資料集』		中間テストと期末テスト等の実施を予定。	

06 年度 (春) 03～05 年度 (春)	英語圏の国際関係 a 国際関係史 a	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、20 世紀国際政治の歴史の全体像を把握し、それを 21 世紀国際政治の理解に役立てることである。国際政治の現象の理解に必要なのは、理論 (的枠組み) と歴史 (的背景) である。「グローバル社会論」が前者を提供し、本講義「英語圏の国際関係」が後者を学生諸君に提供することになる。</p> <p>本講義では、第二次世界大戦後の歴史を主として冷戦という観点から振り返っていくが、時間の許す限り、「ナショナリズムの勃興と脱植民地化」、「核兵器」、「経済的繁栄と政治」、「冷戦と日本の戦後」などのテーマ別に約 50 年間の歴史を捉えなおしてみたい。</p> <p>なお、本講義はパワーポイントを利用するが、授業に集中してもらうために、スライド資料は配布しない。スクリーンに投影されるスライドと講義内容を自分なりに理解して、各自ノートにメモをしてもらうことになる。</p> <p>本講義では、受講者に戦後国際政治史に関する基礎知識があることを前提としていないが、毎回の授業の理解度を深めるためには、予習と復習を怠らないようにして欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション (第 1～3 週) ～第二次世界大戦前後の国際関係の変化 2. 冷戦① (第 4～5 週) ～冷戦とは何であったのか? 3. 冷戦② (第 6～7 週) ～冷戦の開始 4. 冷戦③ (第 8～10 週) ～冷戦の展開 5. 冷戦④ (第 11～12 週) ～ベトナム戦争 <p>* 第 7～8 週に中間試験を行う予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第一回目の授業時に紹介する。		中間試験と学期末の試験による評価。出欠はとらない。	

06 年度 (秋) 03～05 年度 (秋)	英語圏の国際関係 b 国際関係史 b	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本が 21 世紀においてアジア太平洋地域の平和と安定のために積極的に関わろうとするとき、日本とオーストラリアの連携 (日豪連携) はとりわけ重要である。</p> <p>それは、両国が自由主義的民主主義、そして市場経済という政治的、経済的基本理念、またアジア太平洋地域の平和と安定の実現という戦略的価値観を共有しながら、同時にアジアの歴史と伝統のなかで生きているというアイデンティティをも共有しているからである。日本とオーストラリアは、ともに信頼できるパートナーとして、国際社会において共同行動をとっていきけるし、とっていかねばならないであろう。</p> <p>こうした問題意識のもと、本講義では、第二次世界大戦後のアジア・太平洋地域の国際関係の歴史を振り返りながら、それをオーストラリアの視点から学んでいく。とかくカンガルー、コアラ、美しい珊瑚礁などでイメージされがちなオーストラリアを、国際関係という視点から見つめることで、日本外交の重要なパートナーであるオーストラリア理解を深めたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション (第 1 週) ～アジア太平洋における日本の重要なパートナーである「オーストラリア」を学ぶ意義 2. 20 世紀初頭の戦争とオーストラリア (第 2～5 週) ～日本とオーストラリアの「戦争の記憶」 3. 対日脅威の高まりとアジア国際関係への関心 (第 6～9 週) ～日本のアジア進出と英豪対立・対米接近 4. 第二次世界大戦後のオーストラリアとアジアの安全保障 (第 10～12 週) ～大国依存の安全保障から、自立した対アジア安全保障コミットメントへ <p>* 第 7～8 週に中間試験を行う予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
森健ほか編『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年 (6 月刊行予定)。		中間試験と学期末の試験による評価。出欠はとらない。	

06年度(春) 03～05年度(春)	国際協力論 国際開発協力論b(春学期開講)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>発展途上国の問題を9・11テロ事件が発生する以前と、それ以後に分類して考えます。</p> <p>9・11テロ事件以前では、内戦、地域紛争、国連PKOと和平構築、難民や移民への対応、地域協力などが、先進国と途上国の関係で大きな問題でした。授業計画の前半ではオーストラリアの対アジア関係を手掛かりに、途上国問題を国際協力の視点から考えます。</p> <p>授業計画の後半では、9・11テロ事件に象徴される国際テロ問題を扱います。テロは先進国と途上国の双方で起きますが、ここでは途上国との関連で取り上げます。とりわけ国際テロ組織アルカイダに着目。オサマ・ビンラディンの家庭環境、テロリストへの変貌、聖戦「ジハード」の論理——これらの疑問を解いていきます。</p> <p>毎回、授業の前半では、CNN、BBC、CNAの海外ニュースをリアルタイムで紹介し、説明を行います。その日の世界ニュースに触れることができます。後半は、テキストを解説します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 国際情報ツールの解説 <p><9・11同時テロ以前></p> <ol style="list-style-type: none"> 2. ミドルパワーの役割(序、1章)登録確認 3. アジア太平洋の地域協力 APEC ケアンズ・グループ(6章3節) 4. 東チモール内戦・和平プロセス(6章4) 5. カンボジア内戦とエバンス提案(6章3) 6. ベトナム難民(6章2) 7. アジア系移民(6章2～3) <p><9・11同時テロ以後></p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 国際テロの時代と「アルカイダ」(序、1章) 9. 変化するアルカイダ(1章) 10. 聖戦「ジハード」の分類学(1章) 11. 東南アジアへの進出と活用法(2章) 12. 拠点のグローバル化(2章) (秋学期「国際関係特殊講義b」にリンクします。) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
竹田いさみ『物語オーストラリアの歴史』(中公新書、2000年)、同『国際テロネットワーク』(講談社現代新書、2006年)の2冊。		中間テストと期末レポートを実施します。	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	国際開発論 国際開発協力論a(秋学期開講)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、開発途上国における貧困と開発の実態を明らかにしたうえで、開発途上国に対する国際協力や援助の現状を考察し、課題を検討することを目的とします。</p> <p>講義は4つのシリーズから構成されます。第1の「開発途上国における貧困の現状と要因」では、貧困の実態を紹介するとともにその要因を多面的に捉え、第2の「開発途上国の開発」では、開発途上諸国が独立以来歩んできた発展の過程を後付けるとともに、グローバリゼーションが開発途上国に与えている影響についても検討します。第3の「日本の開発援助」では、日本のODAを具体例としながら先進国による開発援助の歴史と実態、さらにその問題点を検討し、最後の「開発協力の新展開」では、グローバル化時代の新たなトレンドを探りつつ、近年注目されるNGOと開発との関係について考えます。</p> <p>なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：開発と国際協力とは？ <開発途上国における貧困の現状と要因> 2. 貧困の現状／歴史的要因：植民地支配の影響 3. 政治的要因：政治的不安定と開発独裁 4. 社会・文化的要因：ケーススタディ <開発途上国の開発> 5. 経済開発の方法とパターン 6. 開発途上国とグローバリゼーション <日本の開発援助とその課題> 7. ODAの仕組みとトレンド 8. 日本のODAの歴史的展開と特徴 9. 新たなテーマと課題 <開発援助の新展開> 10. グローバル化時代の国際協力：環境と開発 11. NGOの機能と役割 12. 開発とNGO：ケーススタディ (初回の授業でより詳細な授業計画を配布する) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。		学期末試験の成績を中心に評価を行います。	

06年度(春)	国際交流論	担当者	小松 諄悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、国際文化交流の全容を概観し、その実践と政策、目的を理解することを目的とする。</p> <p>講義では、日本の文化交流の歴史と団体全体を把握するとともに、芸術、日本語教育、知的交流などの諸分野ごとに、その実践を詳説する。さらに、アメリカ、アジア、中東など、地域ごとの歴史・文化的特徴を把握した上で、文化交流の方法の違いが認識できるように講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の文化交流の歴史① 2. 日本の文化交流の歴史② 3. 日本の文化交流概観 4. 芸術交流 5. 日本語教育 6. 日本研究 7. 知的交流 8. 文化協力 9. アジアとの交流 10. アメリカとの交流 11. 中東との交流 12. 文化交流の目的・政策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『戦後日本の国際文化交流』戦後日本国際文化交流研究会 勁草書房 2005年 『国際交流基金 30年のあゆみ』 国際交流基金		評価方法：レポート（テーマは授業で発表）	

(秋)		担当者	
(秋)			
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

06年度(秋)	国際 Tourismus 論	担当者	千葉 隆一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 第二次世界大戦で当初原爆投下候補だった京都に原子爆弾が落とされなかったのはなぜか？世界の人々の国境を越えた往来は現在 7 億人、2020 年には 16 億人になると予測されています。航空・情報通信の技術革新により、国際間の観光交流、人と人との出会いの機会の拡大は異なる文化や価値観をもつ民族間相互の理解を深め、地域振興や経済の活性化だけではなく世界平和にも大きく貢献します。Tourism 産業は 21 世紀のリーディング産業と言われるほどポテンシャルが大きく、日本政府は国家戦略として国を挙げての「観光立国」への取り組みを行っています。この講義では、国際 Tourism を楽しく学ぶことで、国家戦略としての Tourism 産業を担う人材の育成に繋がることがを願っています。</p> <p>講義概要 旅の歴史から Tourism の新しい潮流まで、現在の我が国における Tourism 産業のすがた、観光立国、国際 Tourism が抱える諸問題などを考察します。特に Tourism 関連産業（航空をはじめホテルなど）の現状と展望を日本航空など具体的な企業事例に基づき講義します。 キーワード ホスピタリティー</p>		<p>(授業で扱うテーマ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 今なぜ国際 Tourism か ▪ Tourism (旅) の歴史 ▪ Tourism の現状と日本 ▪ Tourism 産業 <ul style="list-style-type: none"> －航空と Tourism －鉄道・船/ホテル/その他 ▪ Tourism とホスピタリティー ▪ Tourism 政策と行政 <ul style="list-style-type: none"> －観光立国への取り組み －日本の魅力 ▪ 事例研究 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特にテキストは使用しません。必要に応じて講義資料を配布します。		出席、受講態度、講義中に実施する小テスト、学期末のレポートで総合評価します。	

06年度(春)	国際NGO・ボランティア論	担当者	石川 幸子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的) “グローバル化”する現代社会において、NGOが国際協力において果たす役割は益々大きくなると共に、その活動内容も多様化している。本講義では、国際協力に関与するNGOの現状と課題を理解し、健全で効果的な国際協力に貢献するNGOのあり方を考えることを目的とする。</p> <p>(講義概要) 総論として国際的に活動するNGOの変遷、今日的課題等、NGOの全体像を把握した後、“国際協力とNGO”をテーマとした各論を学ぶ。特に、国際社会の現状を反映した「人間の安全保障」の概念とNGO活動との関連に焦点を当て、平和構築分野での日本のNGO活動を中心に考察する。 講師は、国際協力実務者としての立場から、なるべく現場の状況を反映した講義になるよう工夫したい。</p> <p>(受講生への要望) 国際協力に関心のある学生の履修が望ましい。NGO活動のみならず、国際機関やODA(政府開発援助)に関心を持つ者の受講も有益であろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義全般の説明。NGO活動とは何か 2. 世界情勢の変化とNGO 3. NGO活動の歴史と変遷 4. 国際協力におけるNGOの役割 5. 他のアクターとNGO(1)国際機関 6. 他のアクターとNGO(2)政府機関・企業 7. 「人間の安全保障」・平和構築とNGO活動 8. 緊急人道支援活動とNGO 9. NGO活動の具体例(国境なき医師団) 10. カンボジアの事例を考える 11. NGOの基盤強化 12. まとめー国際協力NGOのあり方 	
テキスト、参考文献		受講条件・評価方法	
<p>今田克司・原田勝広編著『国際協力 NGO』(2004年、日本評論社)、西川潤・佐藤幸男編著『NPO/NGOと国際協力』(2002年、ミネルヴァ書房)。その他、授業で適宜紹介</p>		レポート、及び期末定期試験	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		受講条件・評価方法	

06年度(春) 03～05年度(春)	国際関係特殊講義 a 国際関係論特殊講義 a	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(国際観光と観光市場)</p> <p>講義目的 国際関係の分野で重要な役割を果たすソフトパワーとしての観光の力を認識し、国際的規模での観光動向に関する基礎知識を習得する。又、韓国、中国、台湾、米国等の訪日旅行有力市場特性を理解する。</p> <p>講義概要 わが国の観光立国政策を理解し、国際観光は、国際収支改善、雇用促進、地域開発などの経済的側面のみならず社会、文化、教育、環境など非常に広範囲な分野に強い影響力を及ぼしていることを学習する。日本における国際観光の意義、国際観光の歴史的経緯を学びながら、経済的、文化的、社会的側面を考察し、その重要性を認識する。ことに、日本人の海外旅行者数と訪日外国人旅行者数のアンバランスは重大問題として学習する。訪日外国人旅行者の動向、日本の観光魅力、主要国の国際観光の状況と日本との交流、国際観光マーケティングについても理解を深める。 又、流動的な旅行業界や航空業界の動き等々観光関連報道記事を、適宜取り上げたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 国際観光の概況 3. 国際関係に見るソフトパワーとしての観光 4. 日本のソフトパワーと国家の観光魅力 5. 日本の海外旅行市場の動向 6. 日本の海外旅行業務の実態 7. 訪日外国人旅行市場の動向 8. 訪日外国人旅行実務の実態 9. 観光立国とビジットジャパンキャンペーン 10. 主要訪日市場の概況 (中国・韓国・香港・台湾) 11. 主要訪日市場の概況 (アメリカ・ヨーロッパ・オセアニア) 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する 参考文献：適宜指示する</p>		試験結果、レポート、授業への参加度を総合的に判断する	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(国際観光とエコツーリズム)</p> <p>講義目的 地球温暖化防止に対する、国連を初めとする国際機関の取り組みを学習し、持続可能なツーリズムとしての新しい概念であるエコツーリズムを理解する。併せて、環境と観光に関する国際機関の役割を考察する。</p> <p>講義概要 今、われわれはマストツーリズムの恩恵を享受しているが、地球温暖化等々環境問題は、観光分野にも大きな影を落としている。エコツーリズムは、単なる新しい観光形態ではなく、従来の観光の概念とまったく違う新しい考え方に基づき、自然・文化環境の保全と、経済的プラスを両立させる新しい観光概念である。エコ・ツーリズムについて、その概念、定義、歴史、ガイドラインを学習し、自然を守り、観光資源に負荷を与えずに、地域への理解を深める手段としてのエコ・ツーリズムを深く理解する。併せて、国連や国際観光関連機関の取り組みと役割、並びに、世界各国と日本のエコ・ツーリズムへの取り組み、地域、旅行業界との関連等を学習する。 又、流動的な旅行業界や航空業界の動き等々観光関連報道記事を、適宜取り上げたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. エコツーリズムの沿革 ①・エコツーリズムとは 3. エコツーリズムの沿革 ②・環境・観光・開発との関わり 4. 環境問題とサステイナブルツーリズムの概念 92 地球サミットと持続可能な開発 5. 国際観光関連機関とエコツーリズム ①・WTO OECD ②・ESCAP PATA 6. エコツーリズムと旅行関連業界 ①・旅行業界 7. エコツーリズムと旅行関連業界 ②・宿泊・航空業界 8. 世界各国のエコツーリズムへの取り組み ①・欧州 9. 世界各国のエコツーリズムへの取り組み ②・アジア オセアニア 10. 世界各国のエコツーリズムへの取り組み ③・アメリカ・中南米 11. 世界各国のエコツーリズムへの取り組み ④・日本 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する 参考文献：適宜指示する</p>		試験結果、レポート、授業への参加度を総合的に判断する	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	石川 幸子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的) 冷戦終焉後、90年代から世界の紛争は多様化・複雑化し、「人間の安全保障」概念を基盤とした平和構築のあり方が模索されて来た。本講義では、「人間の安全保障」の概念を理解した上で、平和構築支援のあり方を考えることを目的とする。</p> <p>(講義概要) 総論として平和構築論の変遷、及び「人間の安全保障」の理論を把握した後、各論として、様々なアクターによって現実に行なわれている平和構築活動について学び、その現状と課題を理解する。特に、日本の国際平和協力、政府開発援助、NGO活動による平和構築支援について詳しい考察を加える。 講師は、国際協力実務者としての立場から、なるべく現場の状況を反映した講義になるよう工夫したい。</p> <p>(受講生への要望) 国際協力全般に関心のある学生の受講が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義全体の説明。世界情勢の変化と平和構築 2. 「人間の安全保障」概念 3. 平和構築論の変遷 4. 日本の国際平和協力 5. 平和構築支援と政府開発援助 6. 平和構築支援と NGO 7. ジャパン・プラットフォームの活動 8. 国連における平和構築活動 9. 緊急人道支援から開発援助への移行 10. カンボジアの事例を考える 11. 東チモールおよびミンダナオの事例を考える 12. まとめー平和構築の展望 	
テキスト、参考文献		受講条件・評価方法	
人間の安全保障委員会報告書『安全保障の今日的課題』(2003年、朝日新聞社)、山田満ほか『新しい平和構築論』(2005年、明石書店)。その他、授業で適宜紹介		レポート、及び期末定期試験	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化の進展は、さまざまな国や地域で暮らす人々の文化や社会のあり方、そして国際関係に変化を及ぼしています。日本で韓流ブームが起こり、上海でF1グランプリが開催され、“Pokemon”や“Harajuku Fashion”が日本の新しいイメージとして世界に広がっています。クロスカルチャーの時代、各国の文化や社会が相互に浸透し、影響を及ぼし合う時代といえます。</p> <p>このような傾向は、近年のグローバル化によって大きく促進されましたが、決して新しい現象ではありません。特に東西文化の結節点であるアジア太平洋地域においては、中世以来、世界のさまざまな文化のフュージョン（融合）が起こっていました。戦争もまた、それを促す大きな要因でした。そして、1980年代以降の同地域における高度経済成長は、文化的クロスオーバーをいっそう促進するとともに、その分野の産業化を促しました。</p> <p>本講義では、このような点に着目し、アジア地域の文化、社会、産業および国際関係とその変化を、3つのシリーズ（歴史、文化と社会、産業と社会）に分け、クロスカルチャー、マルチエスニックといった観点から分析・解説します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：文化・社会・産業・国際関係<歴史> 2. アジアにおける植民統治と西洋化 3. 植民地統治 - 台湾、朝鮮半島、中国 4. 太平洋戦争とアジア 5. 日本軍政とナショナリズム <文化と社会> <ol style="list-style-type: none"> 6. マルチエスニック社会の形成と構造 7. イスラム・ネットワーク 8. 華人・華僑ネットワーク 9. ポップカルチャーのアジア環流 <経済と産業> <ol style="list-style-type: none"> 10. 中国の経済発展と国際政治経済 11. 日系企業の海外進出 - 実情と問題点 12. グローバル化の中のツーリズム産業 (初回の授業でより詳細な授業計画を配布する) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。		学期末試験の成績を中心に評価を行います。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	小松 諄悦
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、近年の文化外交について、パブリックディプロマシー、ソフト・パワー、人間の安全保障を中心に検証し、その目的と可能性を理解することを目的とする。講義では、文化外交の全容について把握し、特に近年注目を浴びているパブリックディプロマシー、ソフト・パワーなど文化外交の各種手法について、それぞれ目的、実践を把握し、意義と可能性を検証した上で、文化外交における効果的な手法について理解できるように講義する。		1. 文化外交概観(1) 2. 文化外交概観(2) 3. 文化外交の伝統的な手法と成果(1) 4. 文化外交の伝統的な手法と成果(2) 5. 英米独のパブリックディプロマシーの背景と意図 6. パブリックディプロマシーの可能性 7. ソフト・パワー論(ジョセフ・ナイ教授)の背景と意図 8. ソフト・パワー論の意義と可能性 9. 「人間の安全保障」 10. 文化外交としての「人間の安全保障」の可能性 11. その他の文化外交の意義と可能性 12. 文化外交の政策と目的	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ソフト・パワー：21世紀国際政治を制する見えざる力』 ジョセフ・ナイ著 日本経済新聞社 『イギリスにおけるパブリックディプロマシー』 国際交流基金		評価方法：レポート(テーマは授業で発表)	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

06年度(秋) 03～05年度(秋)	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界を見渡すと、実にさまざまなイスラム過激派やテロ組織が存在することに驚かされます。「アルカイダ」と呼ばれるテロ組織を取り上げて、国際的なネットワークを解明します。</p> <p>春学期の「国際協力論」で扱ったテロ問題をさらに掘り下げ、テロ組織の実態を解明していきます。</p> <p>授業ではアルカイダと並んで、東南アジアのテロ組織にも注目します。テロリストは航空機で自由に移動し、ホテルやマンションに住み、テロ計画を立案するなど、豊富な資金に支えられてきました。資金源と資金ルートの実態に迫ります。</p> <p>毎回、授業の前半では、CNN、BBC、CNAの海外ニュースをリアルタイムで紹介し、説明を行います。その日の世界ニュースに触れることができます。後半は、テキストを解説します。</p> <p>2年生も受講できます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 国際情報ツールの説明 2. 国際テロ組織「アルカイダ」 (1章1～3) 3. テロの資金源 (4章1～3) 4. テロの資金源、登録確認 5. テロ資金の管理 (4章4) ——金・ダイヤモンド・ハワラ 6. 金・ダイヤモンド・ハワラ 7. ビンラディンの「聖戦」(1章4～5) 8. 東南アジア活用法(2章) 9. アルカイダ系テロ組織(3章1) 「ジェマー・イスラミア」(3章2) 10. 東南アジアのテロ組織(3章3～5) 11. 国際テロと向き合う(終章) 12. まとめ (春学期の「国際協力論」とリンクしています。授業で海洋安全保障を扱うことも検討中。) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
竹田いさみ『国際テロネットワーク』 (講談社現代新書、2006年)。		中間テストと期末レポートを実施します。	

03～05 年度（春）	国際関係論文献研究 a	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、以下の3つの目標が設定されています。</p> <p>第1の目標は、英語圏の国際関係を、国際テロ組織アルカイダが関与したテロ問題に注目して討論することです。</p> <p>第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。</p> <p>第3の目標は、受講生が積極的に発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。</p> <p>テキストは、国際テロ問題に関して米国の特別調査委員会が作成した委員会レポートを扱う予定です。</p> <p>毎回の授業は、基本的にすべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。</p> <p>出席した受講生のみが、評価の対象となります。</p>		<p>受講生の人数が確定した段階で、プレゼンテーションのテーマを決め、発表者を順次決めていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 テーマごとのプレゼンテーションと討論 3 同上 4 同上 5 同上 6 同上 7 同上 8 同上 9 同上 10 同上 11 同上 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>The National Commission on Terrorist Attacks upon the United States, <i>The 9/11 Commission Report, Authorized Edition</i>, NY: W.W. Norton, 2004.</p>		<p>出席状況、授業への貢献度、プレゼンテーションの準備などで評価します。</p>	

03～05 年度（秋）	国際関係論文献研究 b	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、以下の3つの目標が設定されています。</p> <p>第1の目標は、英語圏の国際関係を、国際テロ組織アルカイダが関与したテロ問題に注目して討論することです。</p> <p>第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。</p> <p>第3の目標は、受講生が積極的に発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。</p> <p>テキストは、国際テロ問題に関して米国の特別調査委員会が作成した委員会レポートを扱う予定です。</p> <p>毎回の授業は、基本的にすべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。</p> <p>出席した受講生のみが、評価の対象となります。</p>		<p>受講生の人数が確定した段階で、プレゼンテーションのテーマを決め、発表者を順次決めていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 テーマごとのプレゼンテーションと討論 3 同上 4 同上 5 同上 6 同上 7 同上 8 同上 9 同上 10 同上 11 同上 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>The National Commission on Terrorist Attacks upon the United States, <i>The 9/11 Commission Report, Authorized Edition</i>, NY: W.W. Norton, 2004.</p>		<p>出席状況、授業への貢献度、プレゼンテーションの準備などで評価します。</p>	

06 年度以前 (春)	特別セミナー (CAEL)	担当者	高木 亜希子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ぎゅっと e というコンピュータープログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力の向上を目指します。</p> <p>受講対象者： 短期間で TOEIC スコアを向上させたい学習者を対象とします。集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上したい方だけ、受講してください。</p> <p>受講条件： ・ TOEIC スコアが 350～600 点 (プログラムの性質上、350 点以下、または 600 点以上の学習者には適していません。) ・ 初回の授業に必ず出席すること</p> <p>本授業で求められる事項： ・ 20 時間以上のぎゅっと e の学習 ・ 学習プランの作成と学習記録 ・ 学習自己評価 ・ 実力診断テストの受験 ・ 小テスト(4 回程度)</p>		<p>Week:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスとプログラムの説明 2. 実力診断テスト・学習プランの作成 3. 自主学習 4. 自主学習 5. 小テスト 6. 自主学習 7. 小テスト 8. 自主学習 9. 小テスト 10. 自主学習 11. 小テスト 12. 実力診断テスト (変更する場合があります) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ぎゅっと e プログラムを使用します。 テキストは必要ありません。 ぎゅっと e ホームページ(体験版あり)http://gyuto-e.jp/</p>		<p>出席 20% 学習プランと記録 30% 小テスト 40% 学習自己評価 5% 実力診断テスト 5%</p>	

06 年度以前 (秋)	特別セミナー (CAEL)	担当者	高木 亜希子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ぎゅっと e というコンピュータープログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力の向上を目指します。</p> <p>受講対象者： 短期間で TOEIC スコアを向上させたい学習者を対象とします。集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上したい方だけ、受講してください。</p> <p>受講条件： ・ TOEIC スコアが 350～600 点 (プログラムの性質上、350 点以下、または 600 点以上の学習者には適していません。) ・ 初回の授業に必ず出席すること</p> <p>本授業で求められる事項： ・ 20 時間以上のぎゅっと e の学習 ・ 学習プランの作成と学習記録 ・ 学習自己評価 ・ 実力診断テストの受験 ・ 小テスト(4 回程度)</p>		<p>Week:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスとプログラムの説明 2. 実力診断テスト・学習プランの作成 3. 自主学習 4. 自主学習 5. 小テスト 6. 自主学習 7. 小テスト 8. 自主学習 9. 小テスト 10. 自主学習 11. 小テスト 12. 実力診断テスト (変更する場合があります) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ぎゅっと e プログラムを使用します。 テキストは必要ありません。 ぎゅっと e ホームページ(体験版あり)http://gyuto-e.jp/</p>		<p>出席 20% 学習プランと記録 30% 小テスト 40% 学習自己評価 5% 実力診断テスト 5%</p>	

2007年度

外国語学部共通科目シラバス

(2003年度以降入学生用)

【2002年度以前入学生用】の外国語学部共通科目は
『全学共通授業科目シラバス』に掲載します

学則別表（2003年度以降入学者）

科目群	科目	単位
外国語学部共通科目	総合講座	2
	情報科学概論a	2
	情報科学概論b	2
	情報科学各論	2
	経済原論a	2
	経済原論b	2
	社会心理学a	2
	社会心理学b	2

○本表は、2003年度入学者から適用する。

外国語学部共通科目（2003年度以降入学生用）

ほとんどの科目はオンライン抽選が行われます。
各学科の「授業時間割表」で抽選方法や定員などを確認してください。

目次

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜日 時限	単位数	開始 学年	履修不可の 学部・(学科)	ページ
07690	総合講座	上野 直子	春	水3	2	1	養 経 法	1
07691	総合講座	上野 直子	秋	水3	2	1	養 経 法	1
00220	情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養 経 法	2
	情報科学概論b	休講						
	情報科学各論(入門)	各担当教員			2	1	養 経 法	3
00058		金子 憲一	春	月4				
00074		田中 雅英	春	火1				
00093		田中 雅英	春	火2				
00208		内田 俊郎	春	木4				
00253		松山 恵美子	春	金2				
00138		長崎 等	春	金3				
13304		内田 俊郎	秋	木2				
	情報科学各論(初級—表計算入門)	各担当教員			2	1	養 経 法	4
00044		金子 憲一	春	月3				
00109		田中 雅英	春	火3				
09037		二宮 哲	春	水2				
00019		内田 俊郎	春	木2				
00255		松山 恵美子	春	金3				
00076		田中 雅英	秋	火1				
13306		内田 俊郎	秋	木3				
00231		松山 恵美子	秋	金2				
00141		長崎 等	秋	金3				
	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	各担当教員			2	1	養 経 法	5
13162		金子 憲一	春	月5				
00201		金井 満	春	火2				
13164		金子 憲一	秋	月5				
00202		金井 満	秋	火2				
	情報科学各論(初級—HTML入門)	各担当教員			2	1	養 経 法	6
00195		内田 俊郎	春	木3				
00060		金子 憲一	秋	月4				
00096		田中 雅英	秋	火2				
00131		二宮 哲	秋	水2				
00210		内田 俊郎	秋	木4				
09305	情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	春	金4	2	1	養 経 法	7
00239	情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	秋	金3	2	1	養 経 法	7
09308	情報科学各論(中級—表計算応用2)	松山 恵美子	秋	金4	2	1	養 経 法	8
00048	情報科学各論(中級—HTML応用1)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養	9
00111	情報科学各論(中級—HTML応用1)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養	10
00156	情報科学各論(中級—データベース1)	長崎 等	春	金4	2	1	養	11
00158	情報科学各論(中級—データベース2)	長崎 等	秋	金4	2	1	養	11
00172	情報科学各論(中級—プログラミング論1)	呉 浩東	春	水2	2	2	養(言)	12
00191	情報科学各論(中級—プログラミング論2)	呉 浩東	秋	水2	2	2	養(言)	12
00087	経済原論a	野村 容康	春	火1	2	1	養 経 法	13
00088	経済原論b	野村 容康	秋	火1	2	1	養 経 法	13
	社会心理学a	休講						
	社会心理学b	休講						

03 年度以降	総合講座 変わる境界	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期は、わたしたちが暮らす社会とわたしたち個人の成り立ちにかかわるさまざまな「境界」とその変化について考えてみます。</p> <p>たとえば次のような境界をとりあげます。国と国との境。ジェンダーの境。肌の色や民族の間の壁。あるいは有機物（人間）と無機物（機械）との境界線。ここに挙げたさまざまな境界は、(500 年の)グローバル化と資本主義化の歴史のなかでどのように変化してきているのでしょうか。境界が形成される際、それが変化する際にはどのような問題が生じるのでしょうか。そして、かつてないスピードで境界の引き直しが進行し、「越境」がたやすくなった「いま」はどんな姿をしているのでしょうか。</p> <p>「境界」があれば必ず「越境」があり、そして「越境」の先には「混濁」があります。異なった文化、人種、言語が出会い、衝突と摩擦をともしないながら、多くの問題と可能性をもった新しい何かが生まれてきます。この点についても考察していく予定です。</p> <p>やや抽象的な話になりましたが、講義では担当者が具体的なトピックをとりあげ、受講生のみなさんが、自分自身の現在、自分自身が暮らす場所について考える材料を提供していきます。</p>		<p>(1)上野直子（外国語学部・英語学科）イントロダクション (2)佐藤寛治（国際教養学部・言語文化学科） ボーダーランド：ふたつのアメリカが別れるところ （ティファナを中心に） (3)平田由紀江（国際教養学部・言語文化学科） 朝鮮半島分断を「観光する」ということ (4)片山亜紀（外国語学部・英語学科） 「女は産む機械」発言の何が問題か (5)上野直子 封印された植物 （帝国とジェンダーをめぐるエピソード） (6)毛利嘉孝（東京芸術大学） ロンドンの移民都市文化 (7)浅岡千利世（外国語学部・英語学科） 多言語社会と国境を越える教育 (8)柿田秀樹（外国語学部・英語学科）メディアの越境 (9)小谷真理（評論家・作家）（仮）女性とSF (10)前沢浩子（外国語学部・英語学科） 少年俳優の演じる女—シェイクスピア劇のヒロインたち (11)陳天璽(国立民族学博物館) 無国籍であること、いくつものわたし、いくつもの言葉 (12)高橋雄一郎（外国語学部・英語学科） ゴメス・ペーニャのボーダー・パフォーマンス</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ハンドアウトを用意します。参考文献は担当講師が紹介します。</p>		<p>コメントカードと期末試験を総合的に評価します。評価方法に変更がある場合は開講時に説明します。</p>	

03 年度以降	総合講座 「場」をつくる	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は「場」をキーワードとして進めます。</p> <p>個人や社会は、さまざまな「境界」によって守られ、規定され、安定を与えられています。しかし、さまざまな理由で「境界」を越えざるをえなかった人々、「境界」からはじき出された人々、「境界」ゆえに苦しみを抱え込まれている人々が存在することも事実です。</p> <p>さまざまな事情で国境を越えた人々、超えさせられた人々（その代表が西アフリカから新世界へと運ばれた黒人奴隷でしょう）。あるいは女と男との定められた「境界」の内側には安寧の場所がない人々。「境界」を越えざるをえず、安住の「場」を得がたい個人が、どのようにして自分の人生の支えとなる「場」をつくっていくのかを考えてみましょう。</p> <p>秋学期にとりあげる「場」は、具体的な場所の場合もあれば、言葉、音楽、食文化というような具体的な場には限定されないもの場合もあるでしょう。またこのような「場」が、「境界」に与える影響についても考察してみるつもりです。</p>		<p>秋学期の予定については、秋学期登録に先立ち、掲示板に掲示するとともに、講義支援システムにも掲載します（なお、講義支援システムへの掲載ができない場合は、その旨を掲示します）。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ハンドアウトを用意します。参考文献は担当講師が紹介します。</p>		<p>コメントカードと期末試験を総合的に評価します。評価方法に変更がある場合は開講時に説明します。</p>	

03 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組み、および、複数の言語を活用するための言語資源(辞書、シソーラス、コーパス、WEB)の使い方について学びます。さらに、実習を通じて、自動翻訳システムや質問応答システムの活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要と目標、多言語情報処理の目的 2 コンピュータの世代論と情報処理 3 コンピュータの構成 4 ソフトウェアの役割、体系と種類 5 オペレーティングシステム (OS) OSの基礎概念、OSの役割と原理 6 コンピュータ言語 コンピュータ言語の分類と目的 7 コンピュータによる日本語・英語の情報処理 8 多言語処理のための言語資源—辞書、類語辞書、コーパス、WEB 9 多言語間自動翻訳の仕組み 10 質問応答システムと自動翻訳ソフトの演習 11 オンライン多言語学習の演習 12 インターネット上の多言語処理技術 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかはすでに履修済みの場合、本科目は履修してはならない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作 2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション、日本語入力とタイピング 3 コンピュータ・ネットワーク 4 インターネットの仕組み 5 インターネットブラウザ・メール・検索 6 情報倫理とセキュリティ 7 文書の作成1—文章の作成、書式の設定 8 文書の作成2—表の作成、グラフの作成 9 文書の作成3—画像とオブジェクトの利用 10 レポートの作成—文章校正、長文作成 11 情報技術の応用 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用 I』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかはすでに履修済みの場合、本科目は履修してはならない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作 2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション、日本語入力とタイピング 3 コンピュータ・ネットワーク 4 インターネットの仕組み 5 インターネットブラウザ・メール・検索 6 情報倫理とセキュリティ 7 文書の作成1—文章の作成、書式の設定 8 文書の作成2—表の作成、グラフの作成 9 文書の作成3—画像とオブジェクトの利用 10 レポートの作成—文章校正、長文作成 11 情報技術の応用 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用 I』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、表の編集 3 計算式の利用、セルの参照方法 4 グラフの作成、装飾、印刷 5 関数の利用 (1) 6 関数の利用 (2) 7 関数の利用 (3) 8 データベース機能とデータの処理 9 プレゼンテーション(1)―作成(MS-POWERPOINTとは) 10 プレゼンテーション(2)―作成(データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション(3)―発表 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、表の編集 3 計算式の利用、セルの参照方法 4 グラフの作成、装飾、印刷 5 関数の利用 (1) 6 関数の利用 (2) 7 関数の利用 (3) 8 データベース機能とデータの処理 9 プレゼンテーション(1)―作成(MS-POWERPOINTとは) 10 プレゼンテーション(2)―作成(データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション(3)―発表 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降	情報科学各論（プレゼンテーション）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアであるPowerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. 効果的なスライドとは 6. プレゼンテーションの注意点 7. プレゼンテーションの練習 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03 年度以降	情報科学各論（プレゼンテーション）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアであるPowerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. 効果的なスライドとは 6. プレゼンテーションの注意点 7. プレゼンテーションの練習 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03 年度以降	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW とホームページの基礎知識 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』、各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW とホームページの基礎知識 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』、各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降	情報科学各論（中級－表計算応用 1）	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel の機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程において、同じ一連の操作を繰り返す場合、大変便利な機能である。ここでは、毎回行う一連の操作手順を記録・登録させておく「記録マクロ」を中心に学習していく。</p> <p>簡単な「記録マクロ」の作成から、そのマクロ機能で自動作成される VBA(Visual Basic for Application)プログラミングの基礎を理解することを目標とする。これまで習得してきた Excel 利活用基礎能力を基に、より実践的なマクロ機能を利用しながら、自分自身で Excel を利用していく Excel 利活用応用能力を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、Excel 基本操作の復習 2 マクロ機能と VBA とは 3 記録マクロの作成と実 4 オブジェクトボタンからの記録マクロの利用 5 マクロのコード入力 6 第 1 回目課題提出 7 簡単なゲームの作成（1） 8 簡単なゲームの作成（2）および第 2 回目課題提出 9 記録マクロと VBA の利用（1） 10 記録マクロと VBA の利用（2） 11 記録マクロと VBA の利用（3） 12 確認テストおよび最終課題提出 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献『学生のための Excel VBA』東京電機大学出版局		平常点 50%（出席および課題提出）、確認テスト 50%で総合評価を行う。	

03 年度以降	情報科学各論（中級－表計算応用 1）	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同様。		春学期と同様。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同様。		春学期と同様。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	情報科学各論（中級－表計算応用 2）	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、情報科学各論（中級－表計算応用 1）の単位を修得した学生を対象として行うものとする。</p> <p>情報科学各論（中級－表計算応用 1）で学んだ記録マクロを、応用性のあるものへと発展させていく。</p> <p>ユーザフォームの作成および利用を通して、VBA(Visual Basic for Application)プログラミングの基礎をさらに理解しつつ、それらを作成する VBE(Visual Basic Editor)の利用についても理解することを目標とする。</p> <p>また、フローチャートおよびアルゴリズムを学習することで、論理的な思考を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスおよび記録マクロの復習 2 VBA と VBE 3 変数の利用 4 条件による分岐の利用 5 処理の繰り返しの利用 6 配列の利用および第 1 回目課題提出 7 ユーザフォームとは 8 簡単なユーザフォームの作成（1） 9 簡単なユーザフォームの作成（2） 10 項目の選択を利用したユーザフォームの作成（1） 11 項目の選択を利用したユーザフォームの作成（2） 12 確認テストおよび最終課題提出 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献『学生のための Excel VBA』東京電機大学出版局		平常点 50%（出席および課題提出）、確認テスト 50%で総合評価を行う。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	情報科学各論（中級－HTML 応用 1）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「<u>HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象</u>」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>講義の概要</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習（1） 3 HTML と FTP の復習（2） 4 インタラクティブなページ（HTML と CGI） 5 プログラミングの基礎知識 6 JavaScript（1） 7 JavaScript（2） 8 JavaScript（3） 9 JavaScript（4） 10 CGI の利用（1） 11 CGI の利用（2） 12 鑑賞・報告会 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示、紹介する。 プリントの配布（Web 上も含む）も行う。		授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、失格等とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報科学各論（中級—HTML応用1）	担当者	田中 雅英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は情報科学各論(初級)「HTML入門」に続く中級コースである。HTML入門を受講済み、あるいは同等の知識を有する学生を対象に、単にHTML言語の更なる発展を目指すのではなく、CGIやJavaScriptにまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目指とするのではなく、その過程においてコンピュータやネットワークの理解を含め、その積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブな双方向のコミュニケーションを図ることにより、情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。</p> <p>なお、この授業計画はあくまで一つの目安であり、途中での変更も十分にありえる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと復習 2. プログラミングの考え方 3. Webページのネットへのアップロード等 4. JavaScript 1 5. JavaScript 2 6. JavaScript 3 7. JavaScript 4 8. CGI 9. ホームページのブラッシュアップ 10. 情報の収集 11. 応用 12. その他 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜指示する。		授業中に指示する課題と平常点で評価する。	

03 年度以降	情報科学各論（中級－データベース 1）	担当者	長崎 等
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は表計算ソフトウェア（Excel）の基礎をマスターした学生を対象として、Excel を利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する。</p> <p>高度情報化社会といわれる現代においては、昔と違い膨大な量の情報がうずまいている。そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である。その方法論的な答えの一つとしてデータベースがある。データベースの基本的な考え方や利用の仕方について、比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い、学習するのが本講義の目的である。</p> <p><受講者への要望> 情報科学各論（初級一表計算入門）を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。遅刻は厳禁とします。また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習 2 表計算の復習（1） 3 表計算の復習（2）及びデータベースの基本概念について 4 並べ替え 5 集計 6 レコードの抽出 7 条件検索 1 8 条件検索 2 9 データベース関数 10 クロス集計とピボットテーブル 11 まとめ 12 実習試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
1 回目の授業で指示します。		出席及びレポート課題、さらに実習試験によって評価します。	

03 年度以降	情報科学各論（中級－データベース 2）	担当者	長崎 等
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「データベース 1」を履修済みの学生を対象として、Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、データベースをデザインし実際に作成をおこなってもらう。そういった演習を通じてデータベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p><受講者への要望> 情報科学各論（中級）「データベース 1」を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 データベースの概念と機能 2 Access の基本操作 3 テーブル 4 テーブルと結合 5 クエリ（1） 6 クエリ（2） 7 テーブル設計 1 （ハイレベルエンティティ分析） 8 テーブル設計 2 （関係データ分析） 9 テーブル設計 3 （テーブル作成） 10 クエリ設計 1 （外部スキーマの設計） 11 クエリ設計 1 （クエリの作成） 12 プレゼンテーション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『30H で理解できるアクセス 2003』， 実教出版 『図解雑学データベース』， ナツメ出版		出席及びレポート課題によって評価します。	

03 年度以降	情報科学各論(中級-プログラミング論 1)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼ぶ。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにする。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指す。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic.NET を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつかのプログラムの設計について講義および実習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2 プログラミング言語の発展史 3 開発ツールとしての Visual Basic.NET の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 4 Visual Basic の基本操作 フォーム、コントロール、プロパティ設定 5 簡単なプログラムの作成 基本的なプログラミングの手順、プログラムの動作の確認 6 イベント駆動型プログラム 7 文字の表示と計算プログラム 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方 8 選択構造をもつプログラム (1) 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 9 選択構造をもつプログラム (2) 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 10 繰り返しあるプログラムの作成 (1) 回数指定による繰り返し、For~Next 文 11 繰り返しあるプログラムの作成 (2) 条件指定による繰り返し 12 総合練習 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 最初の講義で指示する。 (2) 随時必要な資料を指示する。 		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03 年度以降	情報科学各論(中級-プログラミング論 2)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、上記「プログラミング論 1」既習または基礎的なプログラムの作成知識を理解していることが前提にし、より発展的なプログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り返してプログラミングの技能を身に付けることを目的とする。</p> <p>ここでは、Visual Basic.NET というプログラミング言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラムの作成の考え方を始め、文系の方に役立つ文字列の処理、図形・画像の処理、ファイル操作などに学ぶ。さらに、問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用的なプログラムの設計法まで述べる。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 プログラムの構造化 Sub プロシージャ、Function プロシージャ 2 配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方 3 文字列の処理プログラム (1) 簡単な翻訳プログラムの作成 4 文字列の処理プログラム (2) 文字列の照合と置き換え 5 図形の描画 さまざまな図形を描画するプログラムの作成 6 文字列の表示 7 画像の描画 画像の呼び出し方、画像の移動とコピー 8 ファイル操作 (1) シーケンシャルアクセス：データの読み書き 9 ファイル操作 (2) ランダムファイルとランダムアクセス 10 応用的なテクニック アルゴリズム：探索とソート 11 再帰というプログラミング手法 12 総合練習 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時必要な資料を指示する。		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(マイクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 不完全競争の理論 9. 市場の理論① 10. 市場の理論② 11. 厚生経済学の基本定理 12. 市場の失敗 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

03年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(マイクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. IS-LM 分析 9. インフレとデフレ 10. 財政赤字と日本経済 11. 開放マクロ経済 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

シラバス 英語学科

2007年4月1日発行

獨協大学教務部

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1664

※この冊子は、再生紙を使用しています。



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	